

鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報
15

平成11年度

鹿児島大学埋蔵文化財調査室

2001年3月

例言

1. 本年報は鹿児島大学構内において、鹿児島大学埋蔵文化財調査室が平成11年度に行った調査活動の成果をまとめたものである。なお、郡元団地 M~T-7~10区（運動場）における発掘調査報告を付編として掲載した。
2. 本書に掲載している発掘調査及び立会調査は、鹿児島大学埋蔵文化財調査室が担当した。個々の調査の担当者は各章の調査報告に記述した。調査における図面・写真の担当は以下のとおりである。
2：大西智和、付編：中村直子・峰山いづみ・池口洋人・陣内高志
3. 本書の作成にあたっては、埋蔵文化財調査室が行った。遺物の実測の担当は以下の通りである。
2：新里貴之、付編：中村直子・峰山いづみ・鮎川章子
製図は中村・新里・新原和子が担当した。写真撮影は中村・新里が行った。
執筆は1：中村、2：新里、3：中村、付編：中村が行った。編集は中村が行った。
4. 付編掲載の出土遺物に関しては、中村和美氏（鹿児島県立埋蔵文化財センター）、中園聡氏（鹿児島国際大学）、成尾英仁氏（鹿児島県立博物館）、大塚裕之氏・橋本達也氏・本田道輝氏・渡辺芳郎氏（鹿児島大学）のご教授を賜った。
5. 発掘調査による遺物の保管は、埋蔵文化財調査室の管理の下、各学部、部局に収蔵している。また、図面・写真などの資料は埋蔵文化財調査室に保管している。

凡例

- 1 昭和60年6月1日の埋蔵文化財調査室の設置を機として、鹿児島大学構内におけるこれからの埋蔵文化財調査に便であるように鹿児島大学構内座標を郡元団地と桜ヶ丘団地（旧宇宿団地）とに設定した。その設置基準は以下のようである。
(1) 郡元団地では、国土座標第2座標系（ $X=-158.200$, $Y=-42.400$ ）を基点として一辺50mの方形地区割りを行った（Fig.3参照）。
(2) 桜ヶ丘団地では、国土座標第2座標系（ $X=-161.600$, $Y=-44.400$ ）を基点として一辺50mの方形地区割りを行った。
- 2 本年報において報告を行った調査地点については、Fig.3にその位置を記している。
- 3 本年報におけるレベル高はすべて海拔を表し、方位は真北方向を示す。
- 4 本書で使用した遺構の表示記号は以下の通りである。
SK：土壙状遺構 SD：溝状遺構 P：ピット
- 5 2・付編で使用した土層の色調は『新版標準土色帖』（農林水産技術会議事務局監修）を使用した。
- 6 遺物については観察表を作成した。その表記、表現については以下の通りである。
色調：『新版標準土色帖』（農林水産技術会議事務局監修）を使用し、この色調に当てはまらないものについては、「~に類似」と表記した。
胎土：砂粒の種類については、特定できないものはその色調で表記した。R:赤色粒, W:白色粒, B:黒色粒, Q:石英, H:角閃石, S:礫である。それぞれの粒子ごとに大きさや多さを示した。粒子の大きさはA:礫（~3mm）, B:粗砂粒, C:砂粒, D:細砂粒に分けた。胎土中の砂粒の多さについては、以下のとおり、面積率によって便宜的に1~5の5段階に分けた。
5：15%以上, 4:10%前後, 3：5%前後, 2：1%前後, 1：1%以下とした。
法量：復原による法量は、（ ）をつけた。
- 7 本文中の遺物番号は、挿図、図版、遺物観察表と一致させた。

本文目次

1	平成11年度調査の概要	1
1.1	鹿児島大学構内遺跡の立地と環境	1
1.2	調査概要	1
2	郡元団地J-10区（理工学研究棟建設予定地）における試掘調査	5
2.1	調査にいたる経過	5
2.2	調査の体制	5
2.3	調査の経過	5
2.4	層位	5
2.5	遺物	6
2.6	まとめ	7
3	立会調査	8
	鹿児島大学埋蔵文化財調査室要項	10
	受贈図書一覧	12
付編	郡元団地M～T-7～10区（運動場）発掘調査報告	19
1	調査に至る経過	19
2	調査体制	19
3	調査の経過	19
4	各トレンチの説明	19
5	まとめ	98

1 平成11年度調査の概要

1.1 鹿児島大学構内遺跡の立地と環境

鹿児島大学構内遺跡が所在する鹿児島市は、薩摩半島の北東部に位置する。東側には鹿児島湾(錦江湾)が広がり、他の三方は始良カルデラに由来するシラス台地に囲まれている。

本書に掲載する調査地点は、鹿児島大学構内の郡元団地で、鹿児島大学構内遺跡郡元団地と呼んでいる。郡元団地は沖積平野の南端部付近に位置し、標高約7mを測る。従来から周知の遺跡として知られており、校舎などの建設に伴う事前の発掘調査も多く行われている。昭和59年までは字名などが遺跡の名称として用いられており、県立医大遺跡、附属中学校敷地内遺跡、釘田遺跡、水町遺跡も郡元団地内の遺跡である¹⁾。付近には弥生時代の住居跡が確認された一ノ宮遺跡がある。

郡元団地では古墳時代の住居跡群が多く発見されている。現在三つの住居群が把握できている。一つは郡元キャンパスのほぼ中央部、もう一つは南西部で、いずれも微高地上に形成されている。中央に位置する住居群のすぐ北側には河川が確認されている。河川の中からは弥生時代から古墳時代にかけての木製品や木杭が出土している。平成9年度の工学部における調査では、弥生時代の水田跡が検出されている。古墳時代の水田跡は現在のところ、構内ではまだ発見されていないが、古墳時代の包含層中には多量のイネ・プラント・オパー

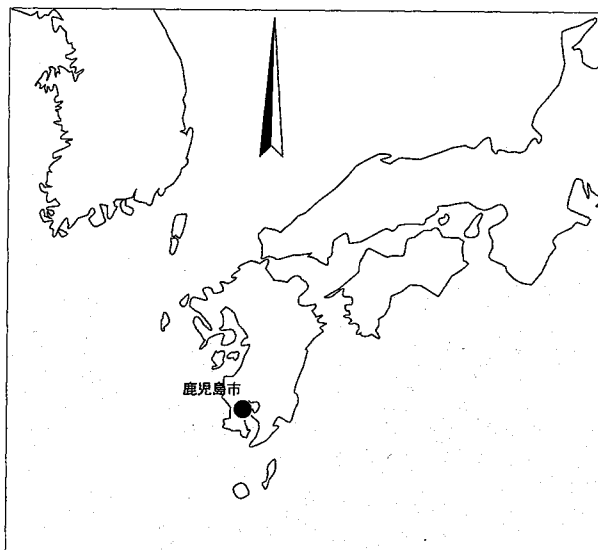


Fig. 1 鹿児島市の位置

ルが含まれており²⁾、稲作が継続的に行われていたことがわかる。

1.2 調査概要 (Tab. 1)

平成11年度に行った調査は本調査1件、試掘調査1件、立会調査6件を行っている。本調査の99-1では、古墳時代の住居群が確認された釘田第一地点³⁾の南に隣接しており、同様な遺構が多く存在することが予想される。平成11年度内の調査では、3層上面において中世の畑跡とみられる数百条からなる畝状遺構が検出された。また、古墳時代遺物

Tab. 1 平成11年度調査一覧表

種類	調査コード	地区	調査・工事	調査期間	調査面積
本調査	99-1	郡元団地J・K-4区	総合研究棟建設に伴う発掘調査	平成11年12月20日～平成12年8月18日	1300m ²
試掘調査	99-2	郡元団地J・K-10区	理工学研究棟建設予定地の試掘調査	平成12年3月22日～3月29日	4m ²
立会調査	99-A	郡元団地J・K-10・11区	工学部校舎新営その他機械設備工事	平成11年4月2日～28日	
	99-B	郡元団地P・Q-4～7区・伊敷町養護学校	基幹整備(太陽光発電設備)工事	平成11年4月5・6日	
	99-C	郡元団地I-9区	郡元団地他機関整備(給水等)工事	平成11年6月15・21日	
	99-D	郡元団地H-5区	工学部校舎新営その他電気設備工事	平成11年9月21～23日	
	99-E	郡元団地I-10区	中央変電所高圧保護継電器改修その他電気設備工事	平成11年11月16日	
	99-F	郡元団地C-8, D・E-6, J・K-4・5区	総合研究棟建設に伴う樹木移植工事	平成12年2月3日	

包含層の上面からは、多量の遺物がゆるやかな塚状に集積しているのが、配管埋設跡の断面観察によって確認されている。これらの遺物群は、古墳時代後期のものがほとんどである。

註

- (1) 松永幸男 (1986). 第II章 鹿児島大学構内遺跡の位置と環境. 鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報, 1. 鹿児島大学埋蔵文化財調査室.
- (2) 郡元団地L-6区 (中央図書館: 未報告) におけるブ

ラント・オパール定量分析の分析結果などによる。

- (3) 鹿児島大学埋蔵文化財調査室 (1992). 付編 釘田第一地点 (鹿児島大学教養部) 遺跡発掘調査報告-遺構および遺構出土遺物編- (昭和50年度鹿児島県教育委員会文化課調査), 南九州地域における原始・古代文化の諸様相に関する総合的研究 平成3年度教育研究学内特別経費研究成果報告書 鹿児島大学埋蔵文化財調査室. 鹿児島大学法文学部.



Fig. 2 鹿児島大学の位置

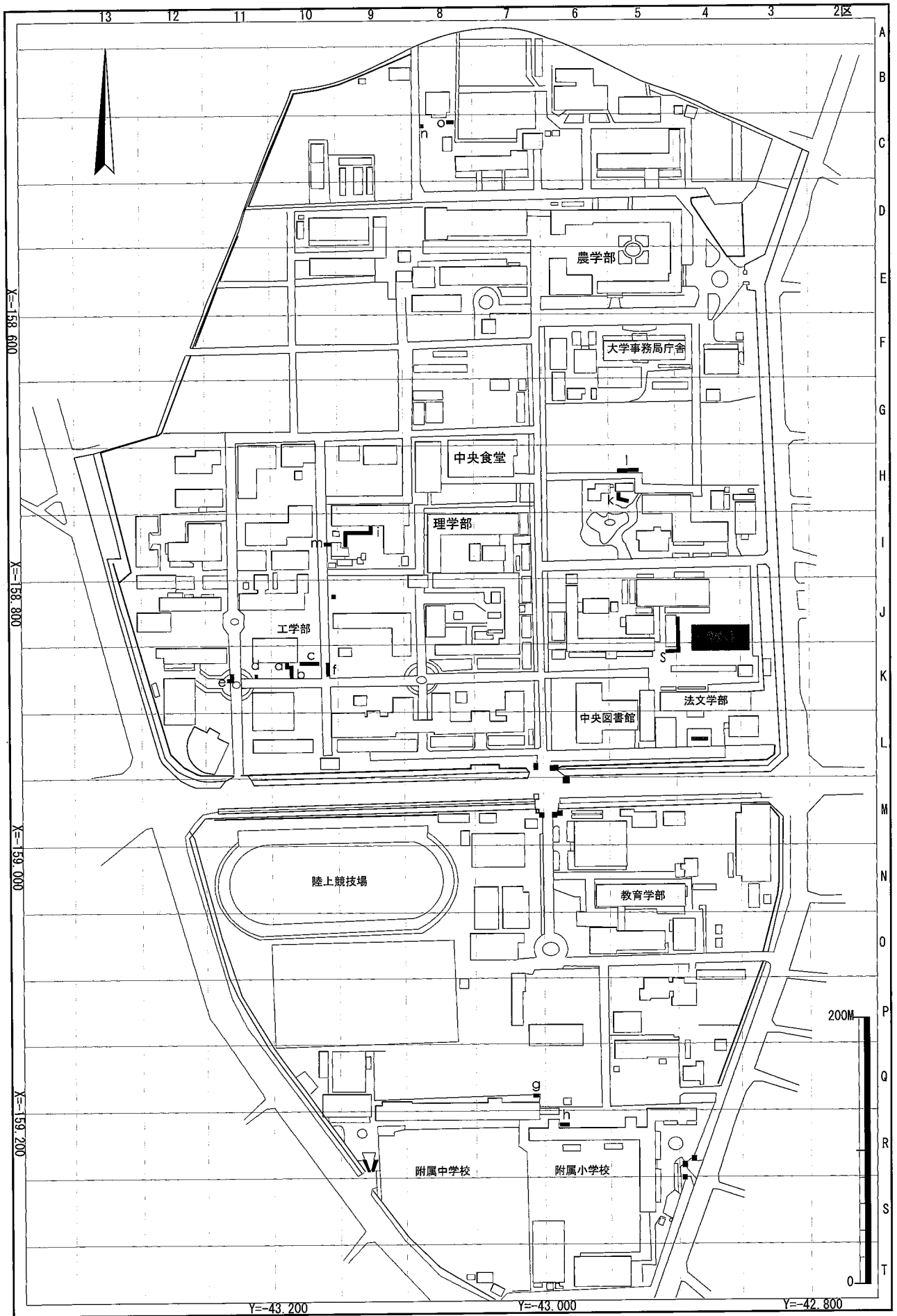


Fig. 3 鹿児島大学郡元団地構内図 S=1/4000

2 郡元団地 J-10 区（理工学研究棟建設予定地）における試掘調査

2.1 調査にいたる経過

鹿児島大学では、郡元団地内に理工学研究棟施設の建設が計画され、郡元団地中央西よりの化学工学科棟の東側駐車場が予定地とされた(Fig.4)。これまで行われた本地点の付近の調査から、東側の I・J-9・10 区（理学部 3 号館「理学部 1 号館増築地」）では、古墳時代の多数の住居跡群が検出されており¹⁾²⁾、そのほかにも北側では弥生時代～古墳時代の河川跡などが検出されている³⁾⁴⁾。南西部の J-10・11 区（工学部校舎建設に伴う発掘調査）では、平成5年に発掘調査が行われ、弥生時代の水田跡が検出されている。また、中近世の遺構や河川跡も本地点の南北側で認められる⁵⁾⁶⁾⁷⁾。これらのことから、本地点における埋蔵文化財の包蔵が推定された。そこで、埋蔵文化財調査室では、本地点における遺構および遺物包含層の有無を確認するため、試掘調査を行うことになった。

2.2 調査の体制

調査主体者 鹿児島大学埋蔵文化財調査室長
上村俊雄
調査担当 鹿児島大学埋蔵文化財調査室
大西智和
発掘調査作業員 巖谷ミエ子, 坂口ミエ子, 名越ヒデ子, 増満ミエ子, 盛満アイ子

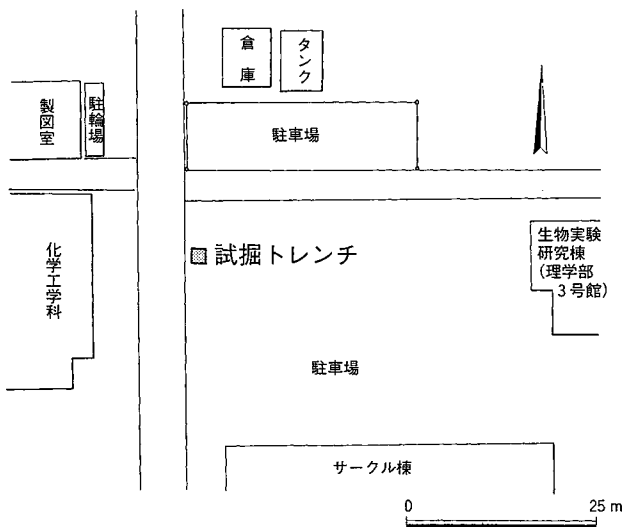
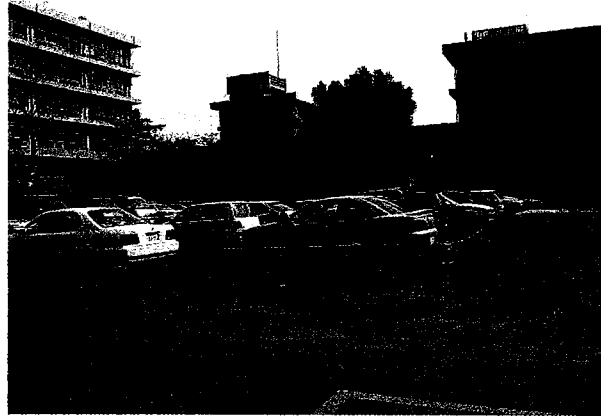


Fig.4 調査位置図 S=1/1000



PL.1 調査地点

西側から撮影

発掘調査補助員 鮫島伸吾, 松元一浩 (鹿児島大学大学院2年), 稲丸雅文 (鹿児島大学大学院1年生), 小倉浩明 (鹿児島大学2年生)

2.3 調査の経過

試掘調査は、平成12年3月22日～3月29日にかけて実施した。理工学研究棟建設予定地内、化学工学科棟の東側の駐車場に、2×2mのトレンチを設定した (Fig.4)。

地表下約1.6mまで掘り下げ、一部は、約2.3mまで掘り下げたが、遺構は検出されていない。それ以下は、無遺物層であろうと判断し、調査を中止した。層位断面図を作成し、埋め戻して調査を終了した。

2.4 層位 (Fig.5)

- 1層 表土, 砂利, 砂など。遺物少量あり。
- 2層 客土, 填圧されていて堅い。
- 3層 灰黄褐色シルト層 (10YR5/2)。やや粘性があり, 1cm大程度までのパミスを含む。遺物の出土多し。
- 4層 におい灰黄褐色シルト層 (10YR4/3)。やや粘性があり, 1cm大程度までのパミスを含む。
- 5層 灰黄褐色シルト層 (10YR5/2)。マンガンの浸透が著しい。やや粘性を帯び, 1cm大程度までのパミスを含む。下半部は, やや暗い色調を呈する (5-2層)。遺物の出土僅かにあり。
- 6層 褐色シルト層 (7.5YR6/1)。マンガンの浸

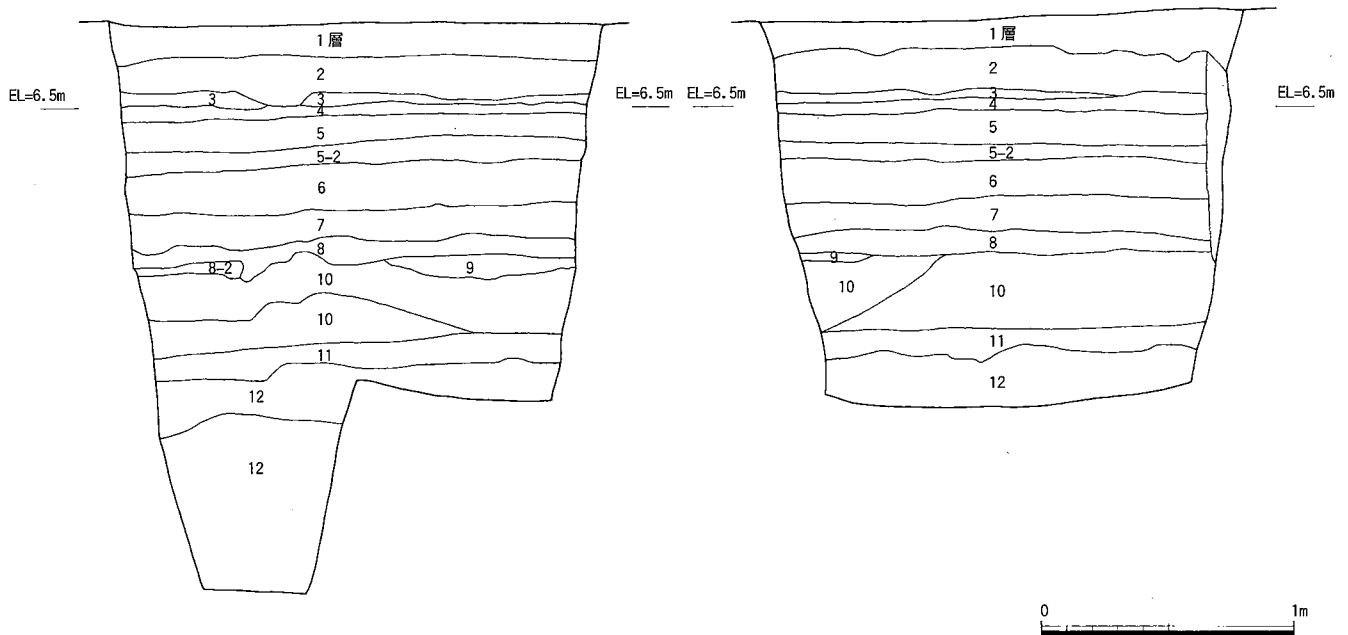


Fig.5 層位断面図 S=1/30

透が著しい。粘性がややあり、1cm大程度のパミス（まれに5cm大までのパミス）を含む。遺物出土多し。

7層 褐灰色（10YR5/1）と灰黄褐色（10YR4/2）を呈するシルト混土層。粘性がややあり、2cm大程度までのパミスを含む。マンガンの浸透が見られ、5～30cm大の範囲で、粗砂・細砂をブロックで含んでいる。どのように形成されたのかは不明確。遺物出土多し。

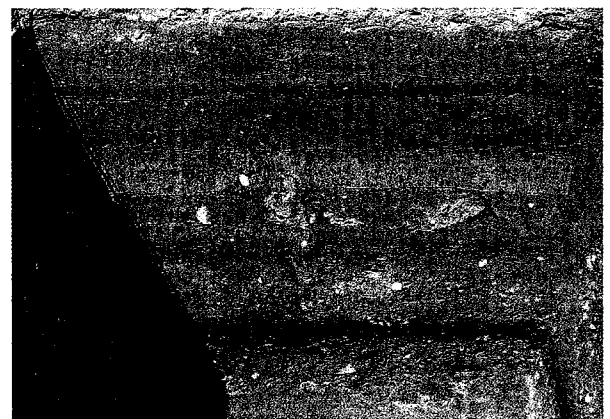
8層 灰黄褐色（10YR5/2-10YR4/2）を呈するシルト質層。粘性を帯び、堅い。マンガンの浸透が見られ、2cm大程度までのパミス少量含む。下部にやや暗い色調を呈する場所有り（8-2層）。遺物の出土僅かにあり。

9層 黒褐色シルト及び細砂層（10YR3/2-10YR2/2）。やや粘性を帯び、マンガンの浸透が見られる。2cm大の程度までのパミス少量含む。

10層 粗砂層。0.5～5cm大程度までのパミスを多量に含む。洪水によってもたらされたものと考えられる。細砂部分の上部にはマンガンの浸透が見られる。

11層 黒褐色シルト及び細砂土混じり（10YR2/2）。粘性があり、1cm大程度までのパミスを含む。

12層 地山、粗砂層。5cm大程度までのパミスを含む。上方は黄色だが、下方は灰色を呈する。



PL.2 北壁

2.5 遺物 (Fig.6)

出土量の多寡はあるものの、1～8層までの各層にわたって、古墳時代の土器片が多量に出土した。ほかに、陶磁器、薩摩焼、石、詳細不明鉄製品などが出土している。

以下に、実測可能な遺物の所見を記す。

1は、古墳時代の成川式と考えられる胴部破片で、絡状突帯がつく。著しくローリングを受けている。器色は浅黄橙色10YR8/3である。胎土には無色・黒色の石英粒（0.5mm前後）、不透明な黒色粒（0.5mm前後）が多く、稀に灰黒色粒（2～3mm前後）が混じる。7層出土。

2は、成川式の脚部と思われ、著しくローリングを受けている。器色は橙色2.5YR6/6である。胎土には乳白色のチャート（0.5mm前後）、不透明な黒

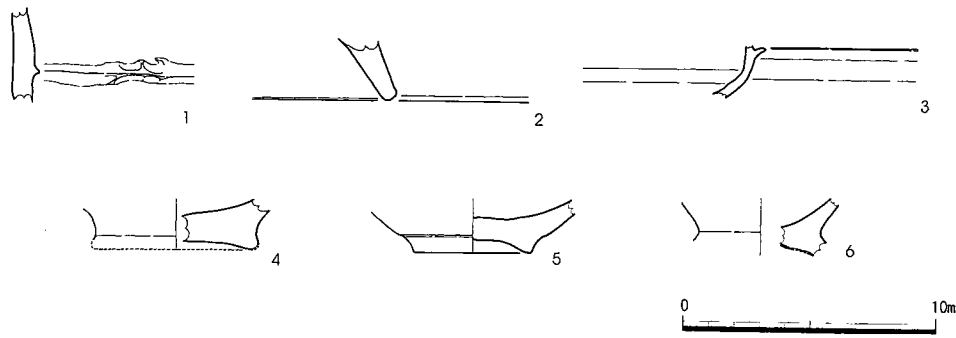


Fig. 6 出土遺物 S=1/3

色粒 (0.5mm 前後) が少量混じる。7層出土。

3は、須恵器の杯身の小破片であり、その特徴から、6世紀後半に属するものと思われる。灰色 (Hue N 5/0) を呈する。7層出土。

4～6は、古代の土師器の底部である。高台は高くない。全てローリングを受けている。4は、底径6.6cmを計る。器色はにぶい黄橙色10YR7/3。乳白・灰色のチャート (0.5～1mm) が多い。5は、底径4.6cmで、外面が明黄褐色10YR7/6、内面が浅黄橙色10YR8/4を呈する。乳白・灰色のチャート (0.5～1mm) が多く、稀に0.5mm大の赤色粒が所領混じっている。6は、内外面がにぶい黄橙色10YR7/3、肉が褐灰色10YR5/1を呈する。0.3mm大の風化した白色粒が多量に混じる。4～6は、全て6層出土である。

ほかにも黒曜石片や薩摩焼、磁器などが認められたが、小破片のため、詳細は不明確であった。

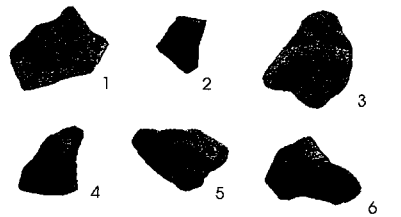
2.6 まとめ

調査結果、本試掘部では、明確な遺構は検出なかったが、6・7層は比較的多く土器が出土し、3層にも比較的遺物は多かった。そのほとんどが古墳時代の土器であり、郡元キャンパスに広く存在する同時期の遺物包含層であろう。土器はほとんど小破片で、ローリングを受けており、堆積までにかんがりの遺物の動きがあったことが窺い知れる。

しかしながら、古墳時代の遺物包含層は、攪乱を受けることなく安定して水平堆積しており、残存状況が良好であるといえる。したがって、本地点において現状の変更が行われる場合は、事前に埋蔵文化財発掘調査が必要と考えられる。

註

1) 松永幸男・坪根伸也 1986「第四章1 郡元団地I・



PL. 3 出土遺物

J-9・10区 (理学部1号館増築地) の発掘調査報告『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報I』鹿児島大学埋蔵文化財調査室

2) 松永幸男 1987「第II部第2章 鹿児島大学郡元団地J-9区における発掘調査報告」『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報II』鹿児島大学埋蔵文化財調査室

3) 大西智和 1998「付編 郡元団地H-11区 (地域共同研究センター建設地) における発掘調査」『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報12』鹿児島大学埋蔵文化財調査室

大西智和・鮎川章子1999「付編1 郡元団地H-11区における発掘調査出土木製遺物の紹介」『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報13』鹿児島大学埋蔵文化財調査室

4) 松永幸男・中村直子・黒木綾子・有馬孝一 1992「付編II 郡元団地H-11・12区 (工学部情報工学科校舎建設予定地)」『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報VII』鹿児島大学埋蔵文化財調査室

中村直子・黒木綾子1993「付編I 鹿児島大学構内遺跡郡元団地H-11・12区工学部情報工学科建設地発掘調査河2出土遺物の紹介」『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報VIII』鹿児島大学埋蔵文化財調査室

5) 松永幸男 1988「第2章 鹿児島大学郡元団地G・H-9・10区 (電子計算機室増築地) における発掘調査報告」『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報III』鹿児島大学埋蔵文化財調査室

6) 4) に同じ

7) 大西智和編 1994『鹿児島大学構内遺跡郡元団地L-11・12区-鹿児島大学稲盛会館建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書-』鹿児島大学埋蔵文化財調査室

3 立会調査

99-A 郡元団地J・K-10・11区 工学部校舎新営その他機械設備工事

調査日 平成11年4月2日～28日

校舎新営工事に伴う立会調査で、Fig. 3a～f地点の調査を行なった。

a地点

幅80cm, 地表下85cmまで掘削を行った。層位は次のとおりである。

1層：暗灰褐色2.5Y5/2やわらかく、ブロックなどを含む。層厚35cm。2層：暗灰褐色2.5Y5/2砂質シルト。3層：黄褐色2.5Y5/4シルト質砂，鉄分浸透，1cm大の軽石を含む，層厚12cm。4層：灰黄褐色10YR6/2シルト質砂，鉄分・マンガン浸透，1cm大の軽石を含む，層厚13cm。

b地点

幅80cm, 地表下115cmまで掘削を行った。層位は次のとおりである。1層：暗灰褐色2.5Y5/2やわらかく，ブロックなどを含む。層厚35cm。2層：2.5Y6/1シルト，かたい，層厚16cm。3層：灰黄褐色10YR6/2シルト質砂，鉄分・マンガン浸透，1cm大の軽石を含む，層厚27cm。4層：5YR4/1，砂質シルト，13cm。5層：2.5Y7/6粗砂層，17cm。

c地点

幅60cm, 地表下1.3mの深さまで掘削を行った。ほとんどが既掘部であったが，南端のみプライマリーな層が残存していた。また1～4層は，a地点の1～4層と同一層であった。

1層：層厚35cm。2層：層厚20cm。3層：26cm。4層：32cm。5層：黄灰色2.5Y6/1シルト，1cm大の軽石を含む，層厚24cm。6層：暗灰色N3/1シルト，層厚10cm。7層：黄灰色2.5Y5/1シルト，マンガンを含む，層厚7cm。8層：灰色N6/1，マンガンを含む，層厚3cm。

d地点

地表下132cmまで掘削を行った。1層：暗灰褐色2.5Y5/2やわらかく，ブロックなどを含む，層厚42cm。2層：暗灰褐色2.5Y5/2砂質シルト，層厚25cm。3層：黄褐色2.5Y5/4シルト質砂，鉄分浸透，1cm大の軽石を含む，層厚22cm。4層：暗灰褐色シルト，下部粗砂混じりシルト，層厚35cm。砂，マンガン浸透，層厚8cm。

e地点

地表下65cmの深さまで掘削を行った。既掘部で，埋蔵文化財には影響はなかった。

f地点

地表下90cmまで掘削を行った。b地点と同じであった。

99-B 郡元団地P・Q-4～7区・伊敷町養護学校 基幹整備（太陽光発電設備）工事に伴う立会調査

調査日 平成11年4月5・6日

教育学部附属小学校・中学校・幼稚園と鹿児島市伊敷町に所在する養護学校の基幹整備事業に伴う立会調査で、Fig. 3g～i地点の調査を行った。

g・h地点

プライマリーな層は確認できなかった。h地点の廃土中より土師器片が出土した。

i地点

幅80cm, 地表下160cmまで掘削を行った。5層は古墳時代の包含層だが，今回の掘削では遺物は出土しなかった。

1層：表土，層厚50cm。2層：シラス客土，層厚20cm。3層：灰褐色シルト，水田層と考えられる，層厚20cm。4層：黄褐色シルト，層厚15cm。5層：黒褐色シルト，層厚55cm。

99-C 郡元団地I-9区 郡元団地他機関整備（給水等）工事

調査日 平成11年6月15・20・21日

工学部電気・電子工学科棟南側の給水配管工事に伴う立会調査で、Fig. 3j地点の調査を行った。

j地点

地表下80cmの深さまで掘削を行った。1層：茶褐色シルト質砂，層厚55cm。2層：灰白色10YR7/1砂層，鉄分浸透，層厚25cm。

99-D 郡元団地H-5区 工学部校舎新営その他電気設備工事

調査日 平成11年9月21～23日

大学会館西側の木造家屋南側を電気配線工事に

伴う立会調査を行った。Fig. 3k・l 地点である。

どちらとも、地表下60cmの掘削を行ったが、既掘部であった。

99-E 郡元団地 I-10 区 中央変電所高圧保護 継電器改修その他電気設備工事

調査日 平成11年11月16日

工学部電気電子工学科棟南側の倉庫の西を電気配管工事に伴う立会調査を行った。Fig. 3m 地点である。

倉庫北側を道路を横断するように掘削した。地表下85cmまで掘削を行い、2・3層は水田層であると推定できる。

1層：表土、層厚45cm。2層：にぶい黄褐色10YR5/3砂質シルト、粘性やや帯びる、層厚20cm。3層：にぶい黄橙色、砂質シルト、粘性がややあり、マンガン浸透、層厚20cm。

99-F 郡元団地 C-8・D・E-6 区・J・K-4・5 区 総合研究棟建設に伴う樹木移植等工事

平成12年2月3日

総合研究棟建設予定地内の樹木移植工事と、周辺配管工事に伴う立会調査を、農学部と総合研究棟周辺で行った。Fig. 3n～s 地点である。

n 地点

樹木移植先として、1.8m四方を地表下80cmまで掘削したが、既掘部で埋蔵文化財に対する影響はなかった。

o 地点

樹木移植先として、1.8m×1.5mのトレンチを地表下80cmの深さまで、8箇所掘削した。掘削されたのは1層のみで、埋蔵文化財への影響はなかった。

p 地点

1層：層厚85cm。2層：にぶい黄褐色10YR4/3、シルト、5mm大の軽石を含む、層厚20cm。3層：灰黄褐色10YR5/2砂質シルト、5mm大のパミスを含む、層厚15cm。4層：黄灰色2.5Y6/1砂質シルトを基調とし、鉄分浸透、層厚19cm。5層：褐灰色10YR4/1砂質シルト、マンガン浸透、層厚6cm。

q 地点

樹木移植先として、地表下190cmまで掘削を行った。1層：表土、層厚60cm。2層：にぶい黄褐色10YR4/

3シルト、1cm大の軽石を含む、マンガンが浸透、層厚30cm。3層：にぶい黄褐色10YR4/3砂質シルト、少し粘質、層厚9cm。4層：：灰黄褐色10YR5/2砂質シルト、5mm大のパミスを含む、層厚20cm。5層：にぶい黄褐色10YR4/3シルト質砂を基調として鉄分を浸透、5mm大の軽石を含む、層厚6cm。6層：黄灰色2.5Y6/1砂質シルトを基調とし、鉄分浸透、層厚12cm。7層：黒褐色10YR3/1シルト、粘質やや強い、層厚13cm。8層：にぶい黄褐色10YR3/1シルト、層厚12cm。9層：黒褐色10YR3/2シルト、層厚4cm。10層：にぶい黄褐色10YR5/3、シルト、層厚7cm。

r 地点

p 地点と同じ。

s 地点

共通教育棟校舎から南側をL字状に掘削を行った。南北方向の溝は、掘削深度が65cm、東西方向の溝は掘削深度が90cmに及んだ。4層は水田層、5層は古墳時代の遺物包含層である。遺構・遺物などは検出されなかった。

1層：表土、層厚27cm。2層：2.5Y3/2シルト質砂、層厚19cm。3層：明褐色7.5YR5/8シルト質砂、層厚16cm。4層：褐灰色10YR4/1シルト質砂、層厚20cm。5層：黒褐色10YR2/2シルト、層厚8cm。

埋蔵文化財調査室要項

鹿児島大学埋蔵文化財対策委員会規則

(設置)

第 1 条 本学に、鹿児島大学埋蔵文化財対策委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(審議)

第 2 条 委員会は、本学の施設計画を円滑に行うため埋蔵文化財に関する次の事項を審議する。

(1) 基本計画の策定に関すること。

(2) 調査結果に基づく対策に関すること。

(組織)

第 3 条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

(1) 学長

(2) 各学部長、附属図書館長、医学部附属病院長および歯学部附属病院長

(3) 事務局長

(4) 学生部長

(委員長)

第 4 条 委員会に委員長を置き、学長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

(議事)

第 5 条 委員会は、委員の 3 分の 2 以上の出席をもって成立し、議事は出席委員の 3 分の 2 以上をもって決する。

(委員以外の者の出席)

第 6 条 委員会が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、意見を聴くことができる。

(調査委員会)

第 7 条 委員会は、本学の埋蔵文化財の調査を行なうため、埋蔵文化財調査委員会(以下「調査委員会」という。)を置く。

第 8 条 調査委員会は次の事項を審議する。

(1) 調査実施計画に関すること。

(2) 第 13 条に規定する調査室の室長等の選任に関すること。

(3) 第 13 条に規定する調査室の予算に関すること。

(4) その他埋蔵文化財及び第 13 条に規定する調査室の業務に関すること。

第 9 条 調査委員会は、次に掲げる委員をもって組織し、学長が任命する。

(1) 各学部の教授、助教授、講師の中から選任された者各 1 名

(2) 第 15 条 2 項に規定する調査室長

2 前項第 1 号の委員の任期は 2 年とし、委員に欠員が生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

第 10 条 調査委員会に委員長を置き、前項第 1 項第 1 号の委員の中から互選により選出する。

2 委員長は委員会を招集し、その議長となる。

第 11 条 調査委員会は、委員の過半数の出席をもって成立し、議事は、出席委員の過半数をもって決する。

第 12 条 調査委員会が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、意見を聴くことができる。

(調査室)

第 13 条 調査委員会に、本学の埋蔵文化財の調査に関する業務を行うための埋蔵文化財調査室(以下「調査室」という。)を置く。

第 14 条 調査室は、次の業務を行なう。

(1) 調査実施計画の立案

(2) 発掘調査、分布調査及び確認調査

(3) 調査報告書の作成

(4) その他必要な事項

第 15 条 調査室に、室長、主任及びその他必要な職員を置く。

2 室長は、本学の考古学に関する教官の中から委員会が推薦し、学長が任命する。

3 室長は、調査委員会の定める方針に基づき調査室の業務を掌理する。

4 室長の任期は 2 年とする。ただし、再任を妨げない。

5 主任は、調査室の職員の中から、特に埋蔵文化財に関する専門知識を有する者を調査委員会が推薦し、学長が任命する。

6 主任は、室長の命を受けて調査室の業務を処理する。

7 職員は、調査室の業務に従事する。

(その他)

第 16 条 埋蔵文化財に関する事務は、事務局施設部において行なう。

付 則

1 この規則は、昭和 60 年 4 月 18 日から施行する。

2 この規則の施行後最初に任命される委員及び室長の任期は、第 9 条第 2 項及び第 15 条第 4 項の規定に

かわらず、昭和 62 年 3 月 31 日までとする。

3 鹿児島大学埋蔵文化財対策委員会規則(昭和 51 年 1 月 22 日制定)は、廃止する。

付則

この規則は、平成 9 年 4 月 1 日から施行する。

・鹿児島大学埋蔵文化財対策委員会(平成 11 年 4 月 1 日現在)

委員長 田中弘允(鹿児島大学学長)

委員 石田忠彦(法文学部長)

坂尾 隆(教育学部長)

堀田 満(理学部長)

佐伯 武(医学部長)

宮田昌明(医学部付属病院長)

笠原泰夫(歯学部長)

井上昌一(歯学部付属病院長)

赤坂 裕(工学部長)

堀口 毅(農学部長)

市川英雄(水産学部長)

宮内信文(連合農学研究科長)

山口建太郎(事務局長)

野崎 勉(学生部長)

山下 智(附属図書館長)

・鹿児島大学埋蔵文化財調査委員会委員(平成 11 年 4 月 1 日現在)

委員長 古川純康(工学部教授)

委員 本田道輝(法文学部助教授)

日隈正守(教育学部助教授)

秋山伸一(医学部教授)

小椋 正(歯学部教授)

小柴洋一(理学部教授)

松元光春(農学部助教授)

西 隆昭(水産学部講師)

上村俊雄(調査室長併任 法文学部教授)

鹿児島大学埋蔵文化財調査室

室長(併) 法文学部教授 新田栄治

主任(併) 法文学部助手 中村直子

(併) 法文学部助手 大西智和

技術補佐員 新原和子(平成 11 年 7 月 31 日まで)

寒川朋枝(平成 11 年 8 月 1 日から)

技術補佐員 新里貴之

受贈図書目録

(1999年4月1日～2000年3月31日まで)

書名	発行所	書名	発行所
逐次刊行物		調査報告書	
財団法人君津郡市文化財センター広報誌 きみざらづ 第14.15号	財団法人君津郡市文化財センター	釧路市幣舞遺跡調査報告書IV	北海道釧路市埋蔵文化財調査センター
千葉県立房総風土記の丘だより 第36・37号	千葉県立房総風土記の丘	ボンナヨロ4遺跡発掘調査概要報告書 虎杖浜2・ボンアヨロ4遺跡	白老町教育委員会 白老町教育委員会
加止里 第5号	香取郡市文化財センター	宮城県古川市文化財調査報告書第17集 留沼遺跡	古川市教育委員会 古川市建設部都市計画課
復刻版博物館ノート N0. 51-100	大田区立郷土博物館	宮城県古川市文化財調査報告書第18集 小寺遺跡	古川市教育委員会 古川市産業部農村整備課
東京都埋蔵文化財センター 研究論集XVII	東京都埋蔵文化財センター	宮城県古川市文化財調査報告書第19集 国指定史跡 名生館官が遺跡XV	古川市教育委員会
青山史学第17号	青山学院大学文学部史学研究室	宮城県古川市文化財調査報告書第20集 鴻ノ巢館跡	古川市教育委員会 古川市産業部農村整備課
人類誌集報1999	東京都立大学人類誌調査グループ	宮城県古川市文化財調査報告書第21集 国指定史跡 名生館官が遺跡XVI	古川市教育委員会
研究ノート8号	財団法人茨城県教育財団	宮城県古川市文化財調査報告書第25集 留沼遺跡	古川市教育委員会 東日本旅客鉄道株式会社
名古屋博物館だより127-132	名古屋博物館	柳生台畑遺跡	仙台市教育委員会
研究所報No.79. 80	財団法人静岡埋蔵文化財調査研究所	後河原遺跡	仙台市教育委員会
自然と人の文化No.15	多治見市文化財保護センター	山形県酒田市 史跡城輪櫓跡	酒田市教育委員会
かかみがはらの埋文 各務原市埋蔵文化財センターだより第7号	各務原市埋蔵文化財センター	木工台遺跡2	財団法人茨城県教育財団
滋賀埋蔵文化財ニュース 第227-232号	滋賀県埋蔵文化財センター	古峯A遺跡・古峯B遺跡・高土台塚群 内宿井戸作城跡・木工台遺跡3	財団法人茨城県教育財団
坂田郡文化財ニュース 佐加太第10号	坂田郡社会教育研究会文化財部会	中根十三塚遺跡	財団法人茨城県教育財団
三重県埋文センター通信 みえNo.28	三重県埋蔵文化財センター	中原遺跡1	財団法人茨城県教育財団
京都府埋蔵文化財情報 第72-74号	財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター	実穀寺子西遺跡	財団法人茨城県教育財団
大阪府立近つ飛鳥 館報4	近つ飛鳥博物館	孫目A遺跡・孫目古墳群	財団法人茨城県教育財団
大阪市文化財情報 葦火79-84号	財団法人大阪市文化財協会	中原遺跡2	財団法人茨城県教育財団
博物館だよりアスカディア・古墳の森 vol.10.11	大阪府立近つ飛鳥博物館	六十目遺跡	財団法人茨城県教育財団
枚方文化財だより 第38・39号	財団法人枚方市文化財研究調査会	沢田遺跡	財団法人茨城県教育財団
兵庫県文化財情報 32-34号 ひょうごの遺跡	兵庫県教育委員会	ニガサワ遺跡	財団法人茨城県教育財団
歴風 第23.24号	広島県立歴史民俗資料館	下郷古墳群	財団法人茨城県教育財団
いぶきNo.24.25	広島県教育委員会事務局生涯学習部文化課中世遺跡調査研究室	熊の山遺跡	財団法人茨城県教育財団
所報吉備 第26.27号	岡山県立歴史民俗資料館	西平遺跡・五安遺跡	財団法人茨城県教育財団
自然科学研究所 研究報告 第24号	岡山理科大学	石原遺跡	財団法人茨城県教育財団
岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第22号	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター	明石遺跡・明石北原遺跡・上白畑遺跡	財団法人茨城県教育財団
島根県の埋蔵文化財情報誌 ドキ土器まいぶんNo.5-8	島根県埋蔵文化財調査センター	長峰古墳群・屋代B遺跡IV	財団法人茨城県教育財団
古代文化研究 1999 N0.7	島根県古代文化センター	仲丸遺跡・久保塚群・五万堀古道・向原遺跡・向原塚群・前原塚・仲丸塚	財団法人茨城県教育財団
出雲国風土記とその周辺	島根県古代文化センター	平成7年度 市市川考古博物館研究調査報告第7冊 向台貝塚資料図譜	市市川考古博物館
研究所報 No.81.82.83	財団法人島根県埋蔵文化財調査研究所	財団法人君津郡市文化財センター発掘調査報告書第149集 林遺跡III	財団法人君津郡市文化財センター 社会福祉法人みづき会
あやらぎ	下関市立考古博物館	財団法人君津郡市文化財センター発掘調査報告書第150集 豆作台遺跡I	財団法人君津郡市文化財センター 東京都福祉局
まいぶんえひめNo.26	愛媛県埋蔵文化財調査センター	財団法人君津郡市文化財センター発掘調査報告書第151集 椿古墳群II	財団法人君津郡市文化財センター 有限会社芝崎
大野城市の文化財第31集 大野城市の民具①	大野城市教育委員会	財団法人君津郡市文化財センター発掘調査報告書第152集 鼓戸古墳	財団法人君津郡市文化財センター 富津市
おおいた歴博No.3-5	大分県歴史博物館	財団法人君津郡市文化財センター発掘調査報告書第153集 夷隅線鉄塔建設用地内埋蔵文化財発掘調査報告書	財団法人君津郡市文化財センター 東京電力株式会社
別府大学附属博物館だより 42号	別府大学附属博物館	財団法人君津郡市文化財センター発掘調査報告書第154集 高砂遺跡II	財団法人君津郡市文化財センター 重城克彦・株式会社尾張屋
大分市歴史資料館ニュースNo.44-46	大分市歴史資料館	山谷遺跡	財団法人君津郡市文化財センター
歴史人類 第27号	筑波大学歴史・人類学系	西久保下遺跡	財団法人君津郡市文化財センター
南日本文化第32号	鹿児島短期大学附属南日本文化研究所	赤坂台遺跡	財団法人君津郡市文化財センター
薩琉文化 第66.67号,第68.69合併号	鹿児島短期大学附属南日本文化研究所		財団法人君津郡市文化財センター
人類史研究 第11号	人類史研究会		財団法人君津郡市文化財センター
琉球大学考古学研究集録 創刊号	琉球大学文学部考古学研究室		財団法人君津郡市文化財センター
大湾・古壑の民話	読谷村教育委員会・歴史民俗資料館		財団法人君津郡市文化財センター

書名	発行所	書名	発行所
雷塚遺跡	財団法人君津都市文化財センター	四谷内谷津遺跡	香取郡市文化財センター
椿古墳群III	財団法人君津都市文化財センター	向仲野遺跡	香取郡市文化財センター
北笹塚遺跡	財団法人君津都市文化財センター	中里西口遺跡	香取郡市文化財センター
金井崎遺跡発掘調査報告書	財団法人君津都市文化財センター	かのへ塚・寺ノ上遺跡	香取郡市文化財センター
今郡カチ内遺跡	香取郡市文化財センター	窪野谷大家戸遺跡	香取郡市文化財センター
青馬新西塚遺跡	香取郡市文化財センター	キサキ遺跡	香取郡市文化財センター
地藏原鳳凰遺跡	香取郡市文化財センター	堀川館跡	東総文化財センター
中ノ台遺跡A地区	香取郡市文化財センター	多摩ニュータウン遺跡-No. 446遺跡-	東京都埋蔵文化財センター
仲ノ台遺跡	香取郡市文化財センター	多摩ニュータウン遺跡-No. 46遺跡-	東京都埋蔵文化財センター
古屋敷遺跡	香取郡市文化財センター	多摩ニュータウン遺跡 No.72・795・796	東京都埋蔵文化財センター
西大須賀コモ田古墳群	香取郡市文化財センター	多摩ニュータウン遺跡- No.450・451・452遺跡-	東京都埋蔵文化財センター
長部山遺跡	香取郡市文化財センター	東京都埋蔵文化財センター調査報告 第50集 多摩ニュータウン遺跡	東京都埋蔵文化財センター
後田遺跡	香取郡市文化財センター	東京都埋蔵文化財センター調査報告 第59集 多摩ニュータウン遺跡	東京都埋蔵文化財センター
伊地山遺跡	香取郡市文化財センター	東京都埋蔵文化財センター調査報告 第64集 多摩ニュータウン遺跡	東京都埋蔵文化財センター
浅間1号墳・植房宮作遺跡	香取郡市文化財センター	東京都埋蔵文化財センター調査報告 第65集 多摩ニュータウン遺跡 先行調査報告12	宮崎県都城市教育委員会
杉内遺跡	香取郡市文化財センター	東京都埋蔵文化財センター調査報告 第66集	東京都埋蔵文化財センター
村田居山遺跡	香取郡市文化財センター	東京都埋蔵文化財センター調査報告 第67集	東京都埋蔵文化財センター
中ノ台遺跡C地区	香取郡市文化財センター	東京都埋蔵文化財センター調査報告 第69集 多摩ニュータウン遺跡 先行調査報告14	東京都埋蔵文化財センター 東京都教育委員会
高岡清水遺跡	香取郡市文化財センター	東京都埋蔵文化財調査報告書第70集 尾張藩上屋敷跡遺跡IV	東京都埋蔵文化財センター
大六天遺跡	香取郡市文化財センター	東京都埋蔵文化財センター調査報告 第71集 多摩ニュータウン遺跡 - N0113・115遺跡-	東京都埋蔵文化財センター
多古台遺跡群No. 8地点II	香取郡市文化財センター	尾張藩上屋敷跡発掘調査概要VII	東京都埋蔵文化財センター
織幡妙見堂遺跡II	香取郡市文化財センター	汐留遺跡 -旧汐留貨物駅跡地内遺跡 発掘調査概要V-	東京都埋蔵文化財センター (財)東京都教育文化財団 東京都教育委員会 東京都埋蔵 文化財センター
谷津遺跡	香取郡市文化財センター	多摩ニュータウン遺跡 先行調査報 告13	東京都埋蔵文化財センター
小見川城跡	香取郡市文化財センター	多摩ニュータウン遺跡No.753遺跡	東京都埋蔵文化財センター
事業報告Ⅶ-平成9年度-	香取郡市文化財センター	姥久保遺跡II	東京都南部住宅建設事務所
窪野谷大屋戸II遺跡	香取郡市文化財センター	武蔵台遺跡	東京都埋蔵文化財センター
城山4号墳	香取郡市文化財センター	武蔵野市井の頭池遺跡群	武蔵野市教育委員会
五十塚古墳群	香取郡市文化財センター	No.160遺跡発掘調査報告書	伊勢原市No.160遺跡発掘調査 報告書
台阿らく遺跡	香取郡市文化財センター	愛名宮地遺跡	愛名宮地遺跡調査団
大鯉遺跡	香取郡市文化財センター	かながわ考古学財団調査報告52 上 粕屋・小山遺跡 三の宮・下御領原 遺跡 上粕屋・ノ引東遺跡 上粕 屋・ノ引南遺跡	財団法人かながわ考古学財団
名号戸遺跡	香取郡市文化財センター	かながわ考古学財団調査報告53 下 大槻峯遺跡 (N0. 30) III	財団法人かながわ考古学財団
城山3号墳	香取郡市文化財センター	かながわ考古学財団調査報告54 矛 ノ木遺跡 (N0. 27)	財団法人かながわ考古学財団
小野女台遺跡	香取郡市文化財センター	かながわ考古学財団調査報告55 三 ノ宮・下谷戸遺跡 (N0. 14) I	財団法人かながわ考古学財団
反鋸遺跡	香取郡市文化財センター	かながわ考古学財団調査報告56 上 粕屋・上尾崎遺跡 上粕屋・ノ引北 遺跡	財団法人かながわ考古学財団
桜之宮1号墳	香取郡市文化財センター	かながわ考古学財団調査報告57 神 戸・上宿遺跡	財団法人かながわ考古学財団
桜田野馬土手跡	香取郡市文化財センター	かながわ考古学財団調査報告63 釜 利谷東6丁目西地区やぐら群・谷津町 北地区横穴墓	財団法人かながわ考古学財団
月輪神社遺跡	香取郡市文化財センター	かながわ考古学財団調査報告64 尾 籾谷やぐら群	財団法人かながわ考古学財団
青馬大明神遺跡	香取郡市文化財センター		
館山遺跡	香取郡市文化財センター		
下男山遺跡	香取郡市文化財センター		
岩部遺跡	香取郡市文化財センター		
西塚南古墳群	香取郡市文化財センター		
乞喰堆遺跡	香取郡市文化財センター		
御座ノ内遺跡	香取郡市文化財センター		
香取新福寺遺跡	香取郡市文化財センター		
鴫崎天神台遺跡	香取郡市文化財センター		
織幡カジ山遺跡群	香取郡市文化財センター		
神代夏方遺跡・稲荷入砦跡・稲荷入1 号墳・2号墳	香取郡市文化財センター		
四角山遺跡	香取郡市文化財センター		
津宮毘沙門遺跡	香取郡市文化財センター		

書名	発行所	書名	発行所
池子遺跡群 総集編 池子米軍家族住宅建設に伴う発掘調査記録	財団法人かながわ考古学財団	埋蔵文化財調査概要-平成10年度-	財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所
白久保遺跡	財団法人かながわ考古学財団	福井県美浜町教育委員会埋蔵文化財調査報告書 興道寺遺跡	美浜町教育委員会
吉岡遺跡群V	財団法人かながわ考古学財団	三重県埋蔵文化財調査報告115-10 六大B遺跡発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター
福泉遺跡(No. 342)所在やぐら群	財団法人かながわ考古学財団	三重県埋蔵文化財調査報告115-12 位田遺跡発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター
長勝寺跡(No. 88)所在やぐら群	財団法人かながわ考古学財団	三重県埋蔵文化財調査報告146-10 城之越遺跡・鷲ヶ尾古墳群	三重県埋蔵文化財センター
極楽寺やぐら群(No. 128)	財団法人かながわ考古学財団	三重県埋蔵文化財調査報告166-2 琵琶垣内遺跡(第2次)発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター
一升樹遺跡(No. 293)所在やぐら群	財団法人かながわ考古学財団	三重県埋蔵文化財調査報告166-3 笹遺跡発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター
鎌倉城(No. 87)所在やぐら群	財団法人かながわ考古学財団	三重県埋蔵文化財調査報告166-4 九七屋敷遺跡・日向長通り遺跡	三重県埋蔵文化財センター
歌舞島やぐら群・げんじが谷横穴墓群及びやぐら群・高山横穴墓・堂地谷やぐら群	財団法人かながわ考古学財団	三重県埋蔵文化財調査報告171 縁通庵・アカリ遺跡発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター
新宮台横穴墓	財団法人かながわ考古学財団	三重県埋蔵文化財調査報告172 菰野城跡発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター
松輪坪井横穴墓群	財団法人かながわ考古学財団	三重県埋蔵文化財調査報告175 前田町屋遺跡 第2次調査	三重県埋蔵文化財センター
神奈川県埋蔵文化財調査報告41 登呂の弥生人	神奈川県教育委員会 静岡市立登呂博物館	三重県埋蔵文化財調査報告176 小野江甚目遺跡・小野江甚目古墳群発掘調査報告書	三重県埋蔵文化財センター
北ノ入A遺跡	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所	三重県埋蔵文化財調査報告178 宮ノ腰遺跡発掘調査豊国II	三重県埋蔵文化財センター
方吹遺跡	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所	三重県埋蔵文化財調査報告179 田村西瀬古遺跡	三重県埋蔵文化財センター
瀬名川遺跡	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所	三重県埋蔵文化財調査報告181 コドノ遺跡・コドノB遺跡発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター
押出シ遺跡(遺構編)	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所	三重県埋蔵文化財調査報告186-2 官山遺跡	三重県埋蔵文化財センター
山の神遺跡	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所	三重県埋蔵文化財調査報告187 香良州西山遺跡発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター
箕輪遺跡	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所	三重県埋蔵文化財調査報告189 大川上遺跡発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター
川合遺跡 八反田地区I	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所	三重県埋蔵文化財調査報告188 金剛坂遺跡(第4次)・辰の口古墳群(第2次)	三重県埋蔵文化財センター
池ヶ谷遺跡I 遺構編	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所	三重県埋蔵文化財調査報告190 立梅遺跡発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター
池ヶ谷遺跡III 遺物編	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所	三重県埋蔵文化財調査報告191 安場氏館跡発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター
上土遺跡I 遺構編	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所	三重県埋蔵文化財調査報告192 馬田遺跡発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター
上土遺跡II 遺物編	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所	三重県埋蔵文化財調査報告193 神戸遺跡発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター
財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター調査報告第21集 上品野蟹川遺跡II 名古屋大学加速器質量分析計業績報告書(X)	財団法人 瀬戸市埋蔵文化財センター 名古屋大学年代測定資料研究センター	三重県埋蔵文化財調査報告194 横地西ノ垣内遺跡発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター
西ヶ洞遺跡・西ヶ洞古墳群	財団法人岐阜県文化財保護センター	三重県埋蔵文化財調査報告195 はい川西出B遺跡(第2次)発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター
岐阜県文化財保護センター調査報告書第2集 上開田村平遺跡	水資源開発公団 財団法人岐阜県文化財保護センター	三重県埋蔵文化財調査報告196 南山の奥6号墳	三重県埋蔵文化財センター
岐阜県文化財保護センター調査報告書第26集 荒尾南遺跡	財団法人岐阜県文化財保護センター	三重県埋蔵文化財調査報告197 奥ホリ遺跡発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター
岐阜県文化財保護センター調査報告書 第36集 上原遺跡I	水資源開発公団 財団法人岐阜県文化財保護センター	近畿自動車道 名古屋神戸線(第2名神)埋蔵文化財発掘調査概報I	三重県埋蔵文化財センター
岐阜県文化財保護センター調査報告書第39集 牧野小山遺跡C地点	財団法人岐阜県文化財保護センター	近畿自動車道 名古屋神戸線(第2名神)埋蔵文化財発掘調査概報II	三重県埋蔵文化財センター
岐阜県文化財保護センター調査報告書第44集 牛垣内遺跡	財団法人岐阜県文化財保護センター	一般国道475号東海環状自動車道埋蔵文化財発掘調査概報V	三重県埋蔵文化財センター
岐阜県文化財保護センター調査報告書第45集 丸山遺跡	財団法人岐阜県文化財保護センター	一般国道23号 中勢道路 埋蔵文化財発掘調査概報XI	三重県埋蔵文化財センター
岐阜県文化財保護センター調査報告書第48集 諸洞遺跡・大坪遺跡	財団法人岐阜県文化財保護センター	天花寺北瀬古遺跡(第1次)薬師寺北裏遺跡発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター
岐阜県文化財保護センター調査報告書第49集 ホヤノ木古墳	財団法人岐阜県文化財保護センター	東海道遺跡(第2次)発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター
岐阜県文化財保護センター調査報告書第50集 土岐口西山古竊跡	住宅都市整備公団 財団法人岐阜県文化財保護センター	高井A遺跡発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター
岐阜県文化財保護センター調査報告書第53集 細野遺跡・梨子谷遺跡・千日遺跡・宮上遺跡	岐阜県・財団法人 岐阜県文化財保護センター	鴻ノ木遺跡	三重県埋蔵文化財センター
檀ノ木洞遺跡	財団法人岐阜県文化財保護センター		
冬頭城跡・冬頭山崎1号古墳・冬頭山崎2号古墳・冬頭山崎1号横穴	財団法人岐阜県文化財保護センター		
南整理遺跡	財団法人岐阜県文化財保護センター		
顔戸南遺跡	財団法人岐阜県文化財保護センター		
酒井ヶ峯1・2号竊発掘調査報告書	多治見市教育委員会		

書名	発行所	書名	発行所
笹遺跡(第3次)発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター	美乃利遺跡	兵庫県教育委員会
前ヶ谷遺跡発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター	本州四国連絡道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ(中原遺跡他)	兵庫県教育委員会
蔵田遺跡発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター	宮協遺跡発掘調査報告	兵庫県教育委員会
西相野遺跡・ツヅミ遺跡発掘調査報告書	安濃町教育委員会・安濃町遺跡調査会	南本町遺跡	兵庫県教育委員会
大城遺跡発掘調査報告書-内多東工業団地造成事業に伴う発掘調査報告書-	安濃町教育委員会 安濃町遺跡調査会	高畑町遺跡(Ⅰ)	兵庫県教育委員会
京都府埋蔵文化財情報第71号	財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター	清水遺跡	兵庫県教育委員会
仰木遺跡発掘調査概報Ⅰ(遺構編)	立命館大学文学部学芸員課程	高畑町遺跡(Ⅰ)	兵庫県教育委員会
武貝塚	奈良大学文学部考古学研究室	本州四国連絡道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告Ⅳ	兵庫県教育委員会
秋篠・山陵遺跡	奈良大学文学部考古学研究室	塩淵3号墳	兵庫県教育委員会
大阪市福島区堂島蔵屋敷跡	財団法人大阪市文化財協会	安倉南遺跡	兵庫県教育委員会
大阪市平野区長原遺跡東部地区発掘調査報告Ⅱ	財団法人大阪市文化財協会	屋敷町遺跡	兵庫県教育委員会
古墳時代首長系譜変動パターンとの比較研究	大阪大学文学部	有鼻遺跡	兵庫県教育委員会
水走・鬼虎川遺跡発掘調査報告	東大阪市教育委員会	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告136	
鬼虎川遺跡第35-2・3次発掘調査報告書	財団法人東大阪市文化財協会	且山遺跡・惣台遺跡・野辺張遺跡・先且山遺跡・且山古墳群・奥田古墳・水神ヶさこ遺跡	岡山県教育委員会
宮の下遺跡第8次発掘調査報告書	財団法人東大阪市文化財協会	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告137	岡山県教育委員会
鬼虎川遺跡第35-2・3次発掘調査報告書	財団法人東大阪市文化財協会	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告138	日本道路公団中国支社津山工事事務所 岡山県教育委員会
宮の下遺跡第10次発掘調査報告書	財団法人東大阪市文化財協会	加茂政所遺跡・高松原古才遺跡・立田遺跡	
出雲井遺跡第1次発掘調査報告書	財団法人東大阪市文化財協会	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告139	岡山県教育委員会
山畑遺跡第15次発掘調査概要	財団法人東大阪市文化財協会	原尾島遺跡(藤原光町3丁目地区)	
岩滝山遺跡第4次発掘調査報告書	財団法人東大阪市文化財協会	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告140	岡山県教育委員会
岩滝山遺跡第5次発掘調査報告書	財団法人東大阪市文化財協会	田益田中(笹ヶ瀬川調節池)遺跡	岡山県教育委員会
客坊山遺跡第2次発掘調査報告	財団法人東大阪市文化財協会	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告141	岡山県教育委員会
埋蔵文化財発掘調査概報集-1998年度	財団法人東大阪市文化財協会	田益田中(国立岡山病院)遺跡	岡山県教育委員会
埋蔵文化財発掘調査概報集(2)-1998年度	財団法人東大阪市文化財協会	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告142	岡山県教育委員会
東大阪市文化財協会概報集-1997年度	財団法人東大阪市文化財協会	津寺三本木遺跡 津寺一軒屋遺跡	岡山県教育委員会
瓜生堂遺跡試掘調査報告書	財団法人東大阪市文化財協会	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告143	岡山県教育委員会
上小坂遺跡第3次発掘調査報告書	財団法人東大阪市文化財協会	立田遺跡2・高松原古才遺跡2・加茂政所遺跡2・津寺遺跡6	岡山県教育委員会
若江遺跡第70次・第75次発掘調査報告	財団法人東大阪市文化財協会	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告144	岡山県教育委員会
長原・瓜破遺跡発掘調査報告?	財団法人大阪市文化財協会	大成山たたら遺跡群	岡山県教育委員会
大阪市埋蔵文化財発掘調査報告書1996年度	財団法人大阪市文化財協会	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告145	広島県高等裁判所・岡山県教育委員会
大阪市埋蔵文化財発掘調査報告1997年度	財団法人大阪市文化財協会	津島遺跡	岡山県教育委員会
長原遺跡発掘調査報告ⅤⅡ	財団法人大阪市文化財協会	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告146	岡山県教育委員会
崇禪寺移籍発掘調査報告Ⅰ	財団法人大阪市文化財協会	小松遺跡ほか	
山之内遺跡発掘調査報告Ⅱ	財団法人大阪市文化財協会	倉敷埋蔵文化財発掘調査報告第8集	倉敷埋蔵文化財センター
大阪市平野区 長原・瓜破遺跡発掘調査報告ⅩⅢ	財団法人大阪市文化財協会	船倉貝塚	
大阪市天王寺区 細工谷遺跡発掘調査報告Ⅰ	財団法人大阪市文化財協会	道面遺跡・塚地古墳	岡山県教育委員会
大阪市阿倍野区 阿倍野筋遺跡発掘調査報告	財団法人大阪市文化財協会	府中市内遺跡4	府中市教育委員会
大阪城跡Ⅳ	財団法人大阪市文化財協会	万徳院跡	千代田町教育委員会
平成10年度財団法人八尾市文化財調査研究会事業報告	財団法人大阪市文化財協会	研究所要覧-平成11年度-	財団法人高根県埋蔵文化財調査研究所
世界文化遺産姫路城発掘調査報告書 播磨極楽寺瓦経 特別史跡姫路城跡内堀出土	姫路市教育委員会	下関市埋蔵文化財調査報告書68 田中遺跡	下関市教育委員会
北青木遺跡発掘調査報告書-第3次調査-	神戸市教育委員会	平尾墳墓群	香川県綾歌郡綾歌町教育委員会・岡山理科大学人類学研究室
白水遺跡 第4次-神戸国際空港都建設事業神戸市白水特定土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書-	神戸市教育委員会	乃万の裏遺跡 2次調査	松山市教育委員会・財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター
		小野川流域の遺跡Ⅱ	松山市教育委員会・財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター
		松山大学構内遺跡Ⅲ	松山市教育委員会・財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター
		瀬戸風峠遺跡	松山市教育委員会・財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター
		船ヶ谷遺跡	松山市教育委員会・財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター
		船ヶ谷遺跡	松山市教育委員会・財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター
		藤山健康文化公園建設に係る大西町と宮脇地区との協議要録	大西町・宮脇部落
		藤山歴史資料館ホームページ全記録	

書名	発行所	書名	発行所
鹿の子古墳群・新谷森の前遺跡	財団法人 愛媛県埋蔵文化財センター	前遺跡群Ⅰ 那珂川町文化財調査報告書第43集	那珂川町教育委員会
上井遺跡	財団法人 愛媛県埋蔵文化財センター	竹木場丹ノ木遺跡 県営畑地帯総合土地改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査唐津市内遺跡確認調査(15) 土地開発に伴う市内遺跡確認調査報告書	唐津市教育委員会
旭方Ⅰ遺跡・旭方1号箱式石棺・柳内遺跡・宮ノ谷遺跡・大川遺跡・正法寺遺跡	財団法人 愛媛県埋蔵文化財センター	菅牟田西山遺跡(2)	唐津市教育委員会
馬島亀ヶ浦遺跡・馬島ハゼヶ浦遺跡	財団法人 愛媛県埋蔵文化財センター	菜畑内田遺跡(2)	唐津市教育委員会
井門Ⅰ遺跡・井門Ⅱ遺跡	愛媛県埋蔵文化財調査センター	上和泉遺跡11区・13区	佐賀市教育委員会
小郡市文化財調査報告第120集 寺福童内畑下道東遺跡	小郡市教育委員会	東洲遺跡1区	佐賀市教育委員会
小郡市文化財調査報告第121集 埋蔵文化財調査報告書3	小郡市教育委員会	江頭遺跡-9区の調査-森田遺跡-1区の調査-	佐賀市教育委員会
小郡市文化財調査報告第122集 井上廃寺Ⅰ	小郡市教育委員会	ウー屋敷遺跡	佐賀市教育委員会
小郡市文化財調査報告第123集 大崎中ノ前遺跡2	小郡市教育委員会	牟田寄遺跡Ⅶ-10?14区の調査-	佐賀市教育委員会
小郡市文化財調査報告第124集 勝負坂遺跡M地点	小郡市教育委員会	長瀬一本杉遺跡1区・高木城跡1区	佐賀市教育委員会
小郡市文化財調査報告第125集 三沢権道2遺跡	小郡市教育委員会	江頭遺跡-1?8区の調査-	佐賀市教育委員会
小郡市文化財調査報告第126集 力武前畑遺跡	小郡市教育委員会	坪の上遺跡Ⅱ	佐賀市教育委員会
小郡市文化財調査報告第127集	小郡市教育委員会	徳永遺跡9区	佐賀市教育委員会
小郡市文化財調査報告第128集 小郡官衛周辺遺跡Ⅰ	小郡市教育委員会	上和泉遺跡6区	佐賀市教育委員会
小郡市文化財調査報告第129集 小坂井ぐうてさん遺跡	小郡市教育委員会	肥前古陶磁窯跡	佐賀県肥前古陶磁窯跡保存対策連絡会事務局 郷ノ浦町教育委員会
小郡市文化財調査報告第130集	小郡市教育委員会	山中遺跡	
福岡割畑遺跡 福岡町文化財調査報告書第14集	福岡町教育委員会	美津島町文化財調査報告書第8集 水崎遺跡	長崎県美津島町教育委員会
手光古墳群Ⅱ 手光北6号墳 福岡町文化財調査報告書第15集	福岡町教育委員会	小値賀町文化財調査報告書第9集 県営畑総事業に伴う確認調査概報・1	小値賀町教育委員会
筑後国府跡・国分寺跡 -平成10年度発掘調査概要- 久留米市文化財調査報告書第149集	久留米市教育委員会	小値賀町文化財調査報告書第10	小値賀町教育委員会
野中前遺跡 -第2次調査- 久留米市文化財調査報告書 第146集	久留米市教育委員会	小値賀町文化財調査報告書第11集	小値賀町教育委員会
白口経塚遺跡 -第4・5・6次調査- 久留米市文化財調査報告書第147集	久留米市教育委員会	大村市文化財調査報告 第21集 富の原遺跡大村館墓地・下荒瀬山下墓地	長崎県大村市教育委員会
山川南本村遺跡 -第1?4次調査- 久留米市文化財調査報告書第148集	久留米市教育委員会	大村市文化財調査報告 第22集 坂口館跡	長崎県大村市教育委員会
二本木遺跡 -第14?15次調査- 久留米市文化財調査報告書第143集	久留米市教育委員会	帯取遺跡	大村市文化財保護協会
一の左右遺跡・荒木今宮脇遺跡 久留米市文化財調査報告書 第144集	久留米市教育委員会	穴井迫第2遺跡・穴井迫第3遺跡	竹田市教育委員会
上津・藤光遺跡群Ⅱ 久留米市文化財調査報告書145集	久留米市教育委員会	戸上遺跡・穴井迫第2遺跡	竹田市教育委員会
へボノ木遺跡 久留米市文化財調査報告書第151集	久留米市教育委員会	竹田地区南部遺跡群Ⅶ・史跡岡城跡周辺遺跡群Ⅱ	竹田市教育委員会
筑後国府跡 -第159次調査報告- 久留米市文化財調査報告書第152集	久留米市教育委員会	岡藩城下町遺跡群・竹田地区南部遺跡群Ⅴ	竹田市教育委員会
筑後国府跡 -第152次調査報告- 久留米市文化財調査報告書第141集	久留米市教育委員会	平成7年度史跡岡城跡保存修理事業報告書 史跡岡城跡ⅩⅠ	竹田市教育委員会
筑後国府跡 -第155次調査報告- 久留米市文化財調査報告書第142集	久留米市教育委員会	平成8年度史跡岡城跡保存修理事業報告書 史跡岡城跡ⅩⅡ	竹田市教育委員会
平成10年度 久留米市内遺跡群・櫛原侍屋敷遺跡・大園遺跡・高良山食堂跡・持田古墳群・東野亭焼窯跡・念仏塚遺跡	久留米市教育委員会	平成9年度史跡岡城跡保存修理事業報告書 史跡岡城跡ⅩⅢ	竹田市教育委員会
中・寺尾遺跡Ⅲ	大野城市教育委員会	平成9年度史跡岡城跡管路埋設事業報告書 史跡岡城跡	竹田市教育委員会
森園遺跡Ⅱ	大野城市教育委員会	平成9年度史跡岡城跡保存修理事業報告書 史跡岡城跡ⅩⅣ	竹田市教育委員会
石勺遺跡Ⅳ- J地点の調査-	大野城市教育委員会	中川午之助屋敷群・稲荷谷近世墓地群	竹田市教育委員会
萩の原遺跡群・古屋敷遺跡群 那珂川町文化財調査報告書第46集	那珂川町教育委員会	中川午之助屋敷群・野殿家屋敷跡	竹田市教育委員会
仲遺跡群Ⅲ 那珂川町文化財調査報告書第45集	那珂川町教育委員会	四山社製糸工場跡発掘調査報告書	竹田市教育委員会
前田遺跡群Ⅱ 那珂川町文化財調査報告書第44集	那珂川町教育委員会	城下町遺跡・立花屋敷	竹田市教育委員会
		竹田地区遺跡群・史跡岡城跡周辺遺跡群Ⅲ	竹田市教育委員会
		竹田地区遺跡群平田地区・城下町遺跡群Ⅱ	竹田市教育委員会
		一般国道57号竹田拡幅埋蔵文化財発掘調査報告書	竹田市教育委員会
		岡藩銭座跡発掘調査報告書	竹田市教育委員会
		福島遺跡(Ⅳ) 東入垣地区・停留遺跡Ⅳ反ガソウ地区	中津市教育委員会

書名	発行所	書名	発行所
板切遺跡群(第I?V)・小原田遺跡	大分県久住町教育委員会	鹿屋市埋蔵文化財発掘調査報告書(56)大橋田平・山之頭	鹿児島県鹿屋市教育委員会
東田室遺跡	大分市教育委員会	追・松尾遺跡	
豊後国分寺跡	大分市教育委員会	鹿屋市埋蔵文化財発掘調査報告書(57)谷平(Ⅷ)・鹿屋城跡(Ⅲ)	鹿屋市教育委員会
城南遺跡	大分市教育委員会	鹿屋市埋蔵文化財発掘調査報告書(58)暮小牧遺跡・山の上B遺跡	鹿屋市教育委員会
羽田遺跡	大分市教育委員会	鹿屋市埋蔵文化財発掘調査報告書(59)老神遺跡	鹿屋市教育委員会
羽田遺跡Ⅱ	大分市教育委員会	鹿屋市埋蔵文化財は靴調査報告書(60)鋤先遺跡	鹿屋市教育委員会
亀塚古墳	大分市教育委員会	鹿屋市埋蔵文化財発掘調査報告書(61)小野原遺跡	鹿屋市教育委員会
亀塚古墳	大分市教育委員会	鹿屋市埋蔵文化財発掘調査報告書(62)中岡街道付星塚遺跡	鹿屋市教育委員会
曲遺跡	大分市教育委員会	1999年川内市平佐窯跡群分布調査・覚え書き	
猪野遺跡	大分市教育委員会	えびの市埋蔵文化財調査報告書第23集	宮崎県えびの市教育委員会
大分市の文化財第30集	大分市教育委員会	始良町埋蔵文化財発掘調査報告書第7集	鹿児島県始良町教育委員会
木ノ上地区重要遺跡確認調査報告書	大分市教育委員会	鹿児島市埋蔵文化財発掘調査報告書(24)	鹿児島市教育委員会
大分元町石仏	大分市教育委員会	鹿児島市埋蔵文化財発掘調査報告書(25)	鹿児島市教育委員会
妙ヶ野遺跡 耶馬溪町文化財調査報告書第1集	大分県下毛郡耶馬溪町教育委員会	宇検村文化財調査報告書第2集	宇検村教育委員会
塚原平古墳	熊本県不知火町教育委員会	鹿児島県大島郡宇検村 倉木崎海底遺跡発掘調査報告書	
史跡 人吉城跡 IX	人吉市教育委員会	大口市教育委員会埋蔵文化財調査報告書(14)郡山遺跡	鹿児島県大口市教育委員会
史跡 人吉城跡X	人吉市教育委員会	大口市教育委員会埋蔵文化財調査報告書(20)新平田遺跡 辻町B遺跡	鹿児島県大口市教育委員会
東九州自動車道関係埋蔵文化財発掘調査概要報告書Ⅲ	宮崎県埋蔵文化財センター	大口市教育委員会埋蔵文化財調査報告書(21)小原野遺跡	鹿児島県大口市教育委員会
牧の原第2遺跡	宮崎県埋蔵文化財センター	銘苅古墓群(Ⅱ)	那覇市教育委員会
上の原第3遺跡	宮崎県埋蔵文化財センター	真栄里貝塚	糸満市教育委員会
内屋敷遺跡	宮崎県埋蔵文化財センター	当山東原遺跡速報	浦添市教育委員会
鶴野内中水流遺跡	宮崎県埋蔵文化財センター	内間西原古墳群Ⅱ	浦添市教育委員会
上牧第2遺跡・母智丘原第2遺跡	宮崎県埋蔵文化財センター	中間西原古墳群	浦添市教育委員会
都城市文化財調査報告書第23集天神原遺跡	宮崎県都城市教育委員会	伊祖の入れ御拝領墓	浦添市教育委員会
都城市文化財調査報告書第25集久玉遺跡第5次発掘調査・油田遺跡・正坂原遺跡	都城市教育委員会	真久原遺跡	浦添市教育委員会
都城市文化財調査報告書第35集加治屋遺跡2	宮崎県都城市教育委員会	伊祖の入れ御拝領墓の厨子甕と被葬者	浦添市教育委員会
都城市文化財調査報告書第37集 大浦遺跡	宮崎県都城市教育委員会	名護松尾原南遺跡	那覇市教育委員会
都城市文化財調査報告書第38集 田谷・尻枝遺跡	宮崎県都城市教育委員会	真嘉比・古島古墓群	那覇市教育委員会
都城市文化財調査報告書第41集 都城市中央東部地区史跡・旧街路等調査報告書	宮崎県都城市教育委員会		
都城市文化財調査報告書第47集 脇穴遺跡	宮崎県都城市教育委員会		
古代遺跡出土骨からみたわが国のイノシシとブタの起源ならびに飼育に関する研究	鹿児島大学農学部獣医学科	年報	
帖地遺跡	喜入町教育委員会	調査年報11	財団法人北海道埋蔵文化財センター
志風頭遺跡・奥名野遺跡	加世田市教育委員会	東北大学埋蔵文化財調査年報11.12	東北大学埋蔵文化財調査研究センター
後ヶ追A遺跡	垂水市教育委員会	年報18	財団法人茨城県教育財団
終原貝塚	垂水市教育委員会	東総文化財センター年報4	東総文化財センター
串良町埋蔵文化財発掘調査報告書(8) 上小牧遺跡・岡崎15号古墳	肝属郡串良町教育委員会	千葉県立房総風土記の丘年報21 -平成9・10年度-	千葉県立房総風土記の丘
塔原遺跡(2)	天城町教育委員会	君津郡市文化財センター 年報N0.16 -平成9年度-	財団法人君津郡市文化財センター
松尾城跡-松尾団地造成計画に伴う発掘調査報告書-	出水市教育委員会	年報No.17	財団法人君津郡市文化財センター
古代遺跡出土骨から見た我が国のイノシシとブタの起源ならびに飼育に関する研究 平成8年度?10年度文部省科学研究費補助金	研究代表者 西中川駿(鹿児島大学農学部教授)	平成7年度 市立市川考古博物館年報 第24-26号	市立市川考古博物館
七つ谷遺跡・石打遺跡	吉松町教育委員会	東京大学構内遺跡調査研究年報2 別冊 東京大学構内遺跡出土陶磁器・土器の分類(1)	東京大学埋蔵文化財調査室
出水麓遺跡(2)	出水市教育委員会	東京大学構内遺跡調査研究年報2	東京大学埋蔵文化財調査室
下郡山・新村B遺跡 荘貝塚	出水市教育委員会	東京都埋蔵文化財センター年報19	東京都埋蔵文化財センター
加計呂麻島ノロ祭祀調査報告	南日本文化研究所	年報6	財団法人かながわ考古学財団

付編 郡元団地M～T-7～10区（運動場）発掘調査報告

1 調査に至る経過

鹿児島大学では、郡元団地の運動場・球技場・附属中学校の校庭に、22か所の照明灯の設置を予定した。その範囲は郡元団地南東部に位置し、郡元団地の約1/4の面積を占める。調査区範囲内では、過去に7か所の調査を行なっている。昭和38年に河口貞徳が教育学部附属中学校敷地内遺跡として発掘調査を行った¹⁾のをはじめ、附属中学校プール (Fig.7 89-4)³⁾ や附属小学校プール (Fig.7 90-4)⁴⁾ の調査において古墳時代の住居跡群が発見されている。そのため、照明灯設置地点のほとんどに古墳時代を中心とする埋蔵文化財が含まれていることが予想され、発掘調査を行うことになった。

2 調査体制

調査は以下の体制で行った。

調査主体 鹿児島大学埋蔵文化財調査室

室長 上村俊雄

調査担当 鹿児島大学埋蔵文化財調査室

室長 上村俊雄

室員 中村直子・峰山いずみ

発掘調査作業員 有馬美恵子・池口洋人・池島美智子・上野純子・植原ひろみ・上原文代・北方耕三・川畑文夫・坂元裕子・佐々木智子・陣内高志・瀬戸口諭・永里幸子・中野裕子・中村いつ子・新原和子・西庄司・西之蘭ツヤ子・寝占美保子・馬場千寿子・矢住純子・柳田緑・吉永幸子

3 調査の経過

発掘調査は、平成6年1月10日～4月19日にかけて実施した。照明灯基礎部分が調査区となったため、照明灯を設置する22か所をそれぞれトレンチとして設定し、南側から1トレンチ～22トレンチと呼称した (Fig. 7)。

調査は、南側のトレンチから作業を行ったが、いずれのトレンチも地山である砂層までの調査を行った。調査対象地域が広範囲であったことから、トレンチごとに層位が異なったため、トレンチごとに層名を付した。各トレンチの層位の関係は、5節にまとめている。遺物は、トレンチの層や遺構ごとに取り上げたが、型式・器種・部位などがわ

かる破片は通し番号を付して出土地点を測量した後、取り上げた。

3・4トレンチは、地山の砂層まで現代の掘削が及んでいた。1トレンチからは、古代の土壌状遺構を、8・15・16トレンチからは古墳時代の住居跡を確認した。なお、2・7・17トレンチからは住居跡に伴うと考えられるピット群が検出された。

15・16トレンチでは複数の住居跡が切りあっていいたため、新旧関係を確認後、新しいものから先に掘り下げを行ったが、埋土が類似しているため、埋土の違いが確認できなかったものについては、埋土観察用のベルトを残し、床面検出まで同時に掘り下げを行った。ほとんどの住居跡に張り床が認められたので、それらの切り合いによって住居跡の範囲や新旧関係を判断した。

各トレンチとも、掘削作業終了の後、層位断面図を作成して調査を終了した。

4 各トレンチの説明

4.1 1トレンチ

附属中学校校庭の南西隅に位置する。鉄棒の近くで、調査区東側一角はその基礎が地山の深さに及んでいた。約3m四方の大きさである。

4.1.1 層位 (Fig.8)

基本層位は1～3層までを確認したが、地山である砂層まで現代の掘削が及んでいて遺物包含層が残っているのはわずかであった。遺構は3層上面および4層上面から検出した。

2層からは古代の土師器が出土した。

4.1.2 遺構と遺物

3層上面および4層上面から土壌状遺構6基、ピット7基が検出された (Fig.9)。

SK1

トレンチ北側に位置する。SK5を切っている。平面形は円形で底面は平坦である。遺物は、古墳時代の土器片や土師器片・須恵器片など19点が出土している。いずれも埋土中から出土し、底面より浮いて出土している。出土遺物のうち、型式がわかるのを見ると (Fig.10-1) 中津野式と考えられる甕の口縁部1点のみである。土師器片や須恵器が出土していること、また、切りあい関係にある

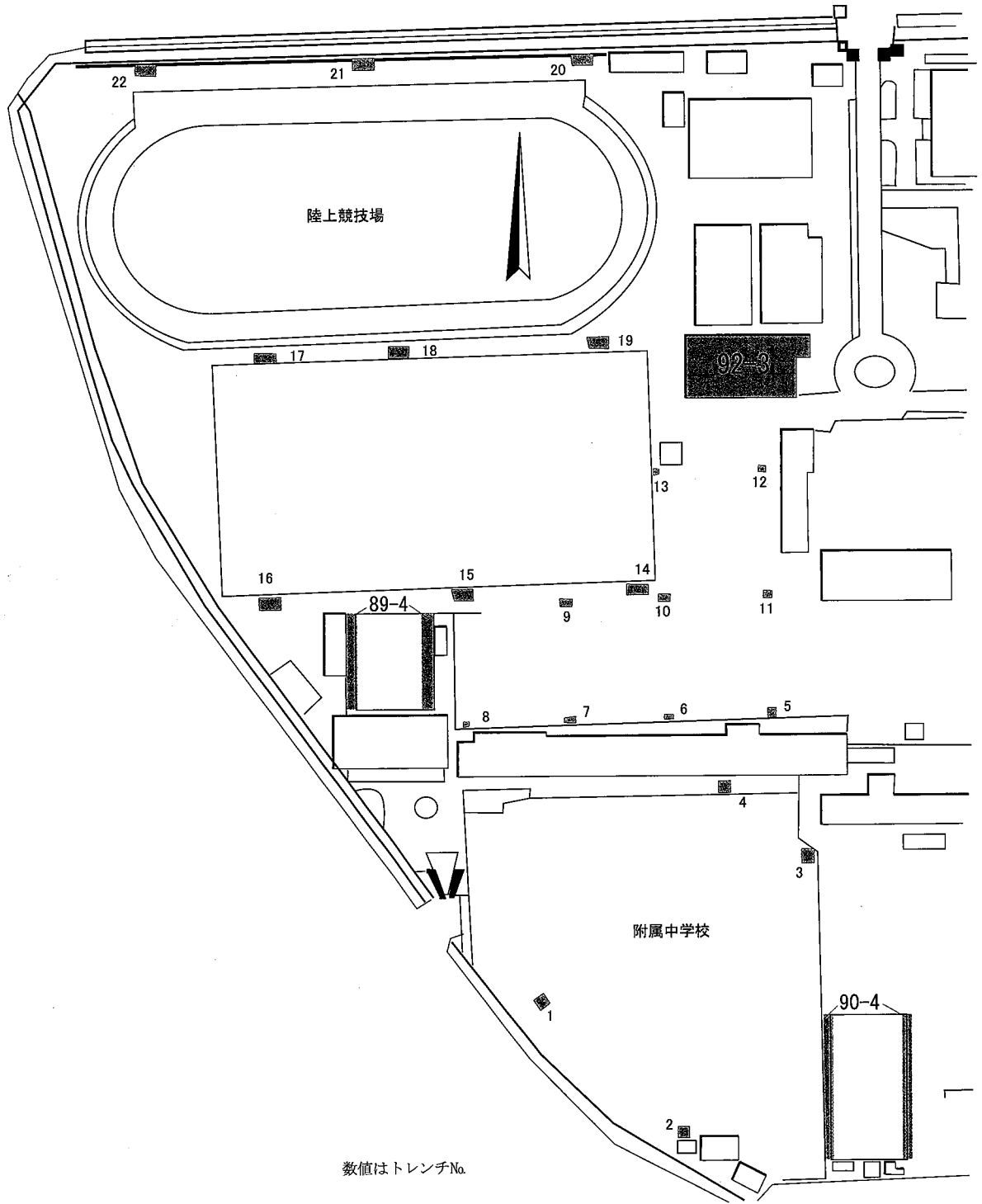


Fig.7 トレンチ位置図 S=1/2000

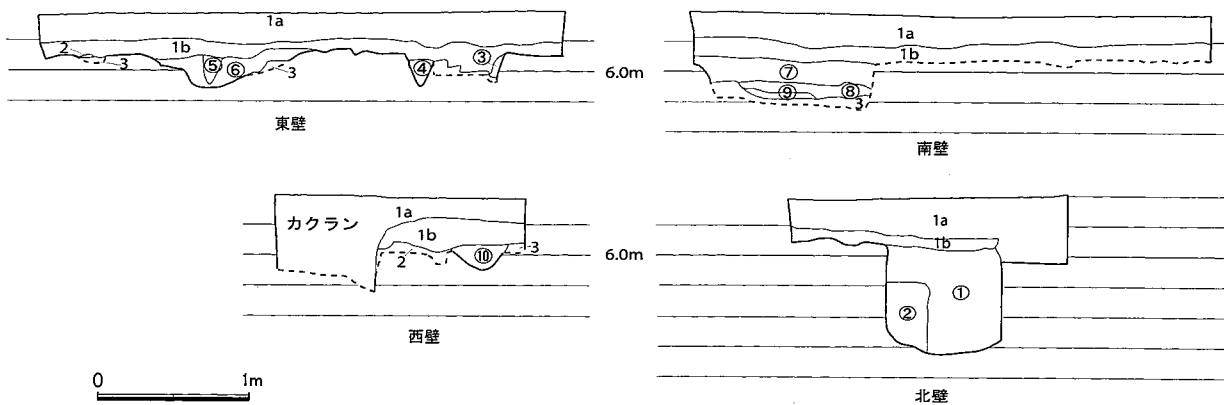
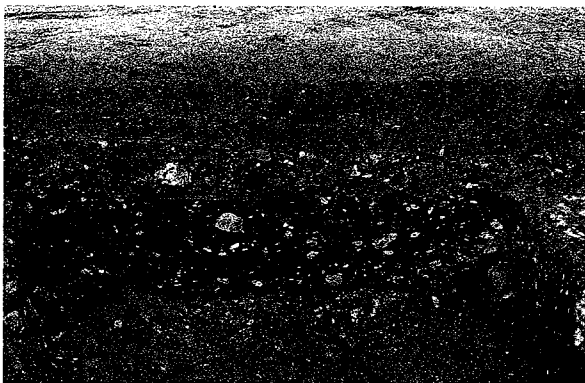


Fig. 8 1 トレンチ層位断面図 S=1/40



PL. 4 1 トレンチ北壁層位



PL. 5 2 層上面遺構検出状況 調査区北側付近

Tab. 2 1 トレンチ層位一覧表

層名	色調・土質	備考
1a	暗灰黄色(2.5Y2/4)シルト質砂を基調. 軽石や粗砂, コンクリートブロック等を含む.	現代
1b	灰黄褐色(10YR2/4)シルト質砂を基調. 2層土(黒色土)や3層土をブロックで含む.	現代
2	黒褐色(10YR3/2)砂混じりシルト.	古代
3	黒褐色(10YR6/5)粗砂. 軽石を含む.	
①	黒褐色(10YR2/2)砂混じりシルト. 1~5cm 大の軽石の礫を含む.	SK5埋土
②	黄褐色(2.5Y3/5)シルト混じり粗砂.	SK5埋土.
③	黒褐色(10YR1/3)シルト.	P3埋土.
④	黒褐色(10YR1/3)シルト.	SK11埋土.
⑤	黒褐色(10YR3/2)シルト質砂. 軽石を含む.	SK11埋土.
⑥	におい黄褐色(10YR3/4)シルト混じり砂. 軽石を多く含む.	SK4埋土.
⑦	黒褐色(10YR2/2)シルト.	SK4埋土.
⑧	黒色. 炭と⑦・⑧との混土.	SK4埋土.
⑨	黒褐色(10YR2/2)砂混じりシルト.	P7埋土.

SK5の出土遺物が古代の土師器が多くあることなどから, 古代以降の遺構であると考えられる。

SK 2

トレンチ中央付近に位置する。鉄棒の基礎部分の攪乱によって東側は切られている。不定形を呈し, 底面も狭い。遺物は1点も出土していない。S

Tab. 3 1 トレンチ層・遺構別遺物出土数

層	縄文	弥生	古墳	須恵器	土師器	土器	陶磁器	レガ	ガ	石	その	計
1			3		8	46	5					62
2					1							1
SK1			3	1	6	9						19
SK3					12	14						26
SK4					7	13						20
SK5			1	1	14	39						55
P2					1	2						3
計			7	2	49	123	5					186

K 3・4を切ることから, 時期は古代以降と考えられる。

SK 3

SK 2の北側に位置し, SK 2に切られている。平面形は楕円形で, 底面は広く, 平坦である。遺物は, 土器片や土師器片が26点出土している。実測できる遺物を見ると (Fig. 10-2~7), 中津野式・古代の土師器の破片が出土している。土師器から, 古代の遺構であると考えられる。

SK 4

調査区南隅に位置し, SK 2に切られる。東側は, 調査区外に広がっている。平面形は楕円形で,

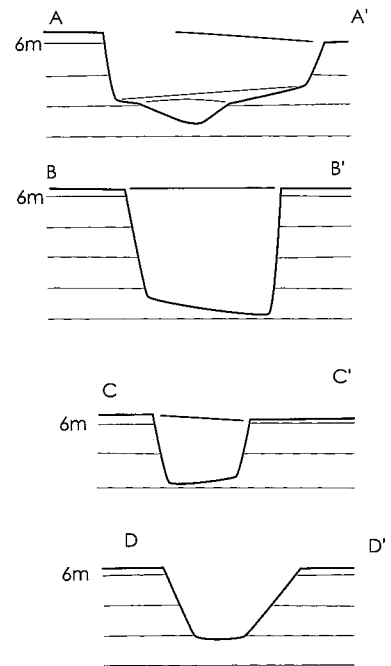
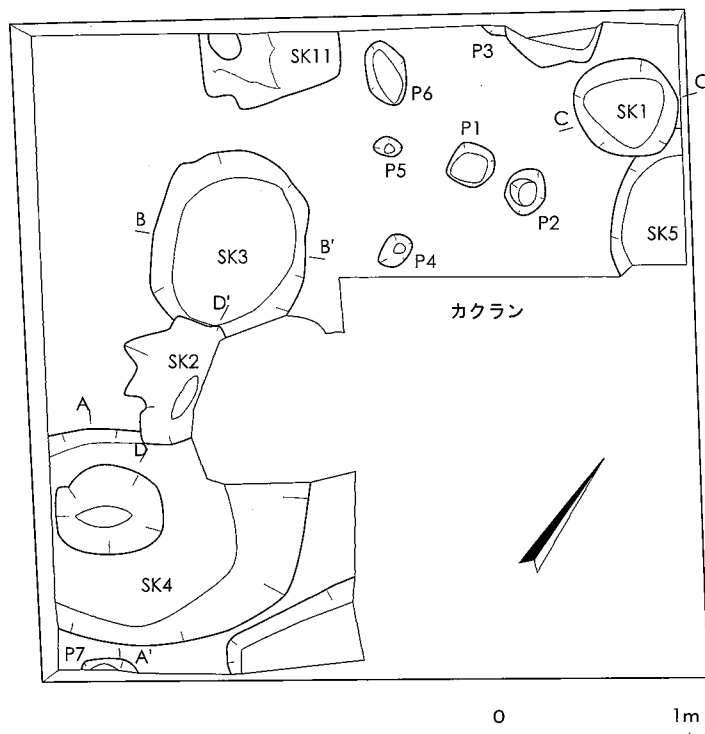
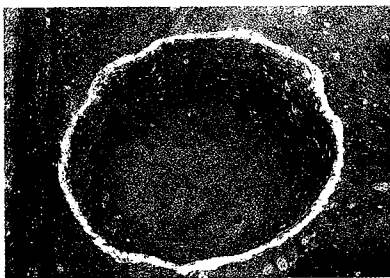
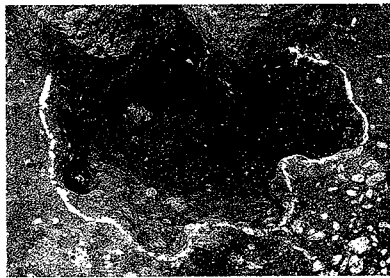


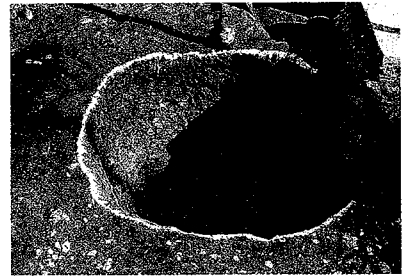
Fig.9 1 トレンチ遺構図 S=1/40



PL.6 SK1



PL.7 SK2



PL.8 SK3

Tab.4 1 トレンチ遺構一覧表

遺構名	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	埋土	備考
SK1	56.4	52.8		黒褐色(10YR3/2)砂混じりシルト.	—○SK5
SK2	76.4	48.0+α		暗褐色(10YR3/3)シルト	—○SK3・4
SK3	98	82.4		2層土を基調として, SK2埋土をブロックで含む.	—●SK2
SK4	136.8+α	116		層位断面図⑦・⑧・⑨	—●SK2
SK5	78.0+α	40.0+α		層位断面図①・②	—●SK1
SK11	74.8	39.6+α		層位断面図⑤・⑥	
P1	27.2	27.2	22.2	黒褐色7.5YR3/2シルトを基調として3層土をブロックで含む, 0.5cm大の炭を含む	
P2	27.6	22.8	17.3	黒褐色7.5YR3/2シルトを基調として3層土をブロックで含む, 0.5cm大の炭を含む	
P3	14.4	7.6+α	-	黒褐色7.5YR3/2シルト	
P4	22.6	14	11.2	黒褐色7.5YR3/2シルト	
P5	17.2	13.6	16.8	黒褐色7.5YR3/2シルト	
P6	38	22.8	8.1	黒褐色7.5YR3/2シルト	
P7	32	8.4+α	13.1	黒褐色7.5YR3/2シルト	

—○ 切る, —● 切られる

断面は底面に段を有する。埋土は3つに分層できるが、レンズ状に堆積するのではなく、水平に埋まっている。また、最下の埋土には、炭が多量に含まれており、SK4は、人為的に埋められたものと考えられる。

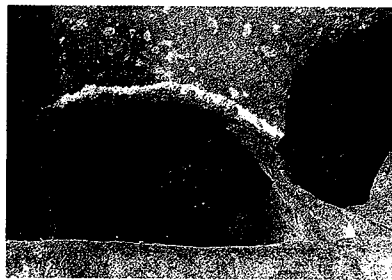
遺物は、土器片と土師器片が20点出土しているが、実測できるもの(Fig.10-8~12)をみると、いずれも土師器で古代のものと考えられる。器種は甕と杯がみられるが、いずれも破片で埋める際に、混入したものと考えられる。

SK5

調査区北東隅に位置する。南側は攪乱によって切られ、北側はSK1に切られている。東側は調査区外に広がっており、全形は不明



PL.9 SK4



PL.10 SK5



PL.11 SK6

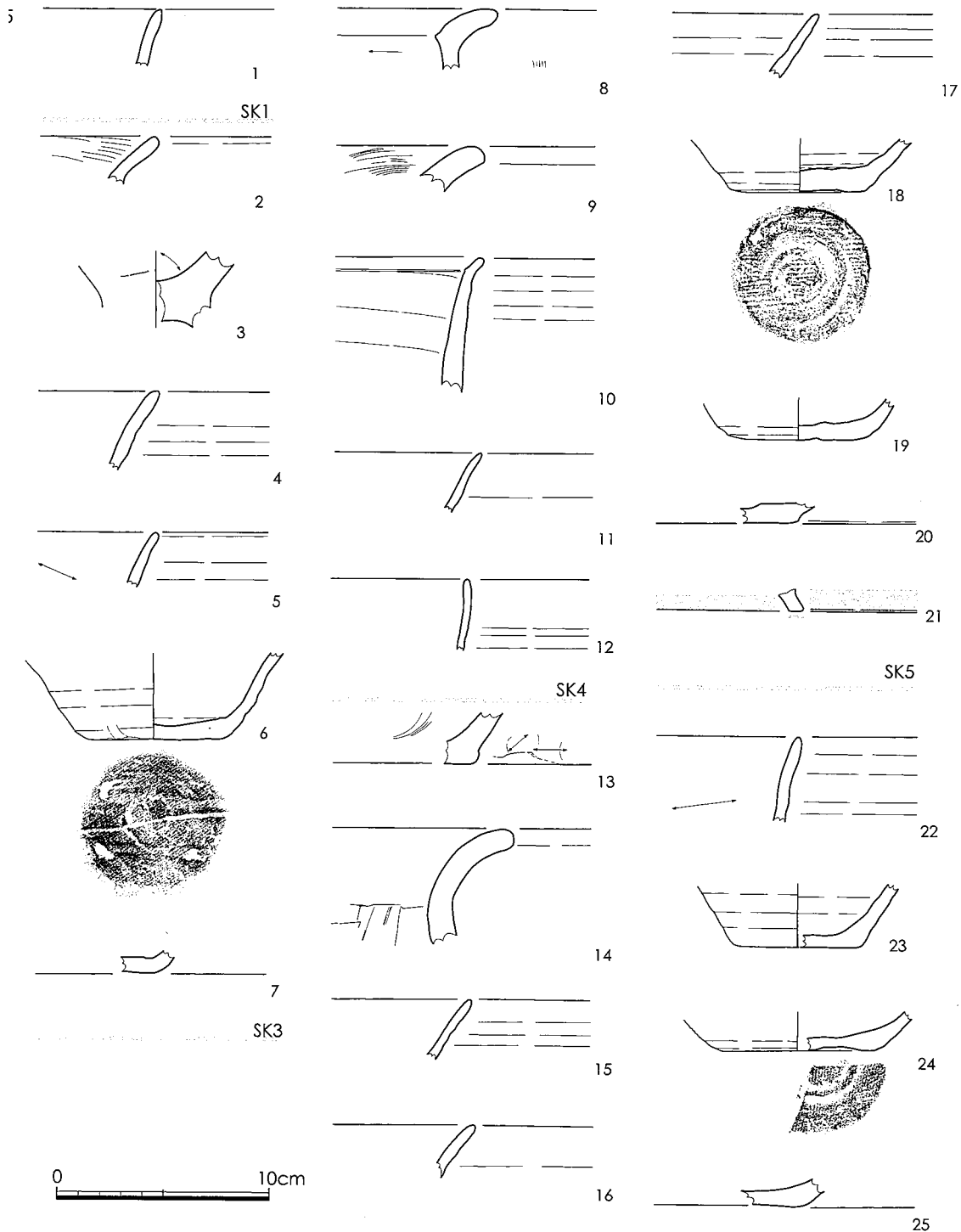
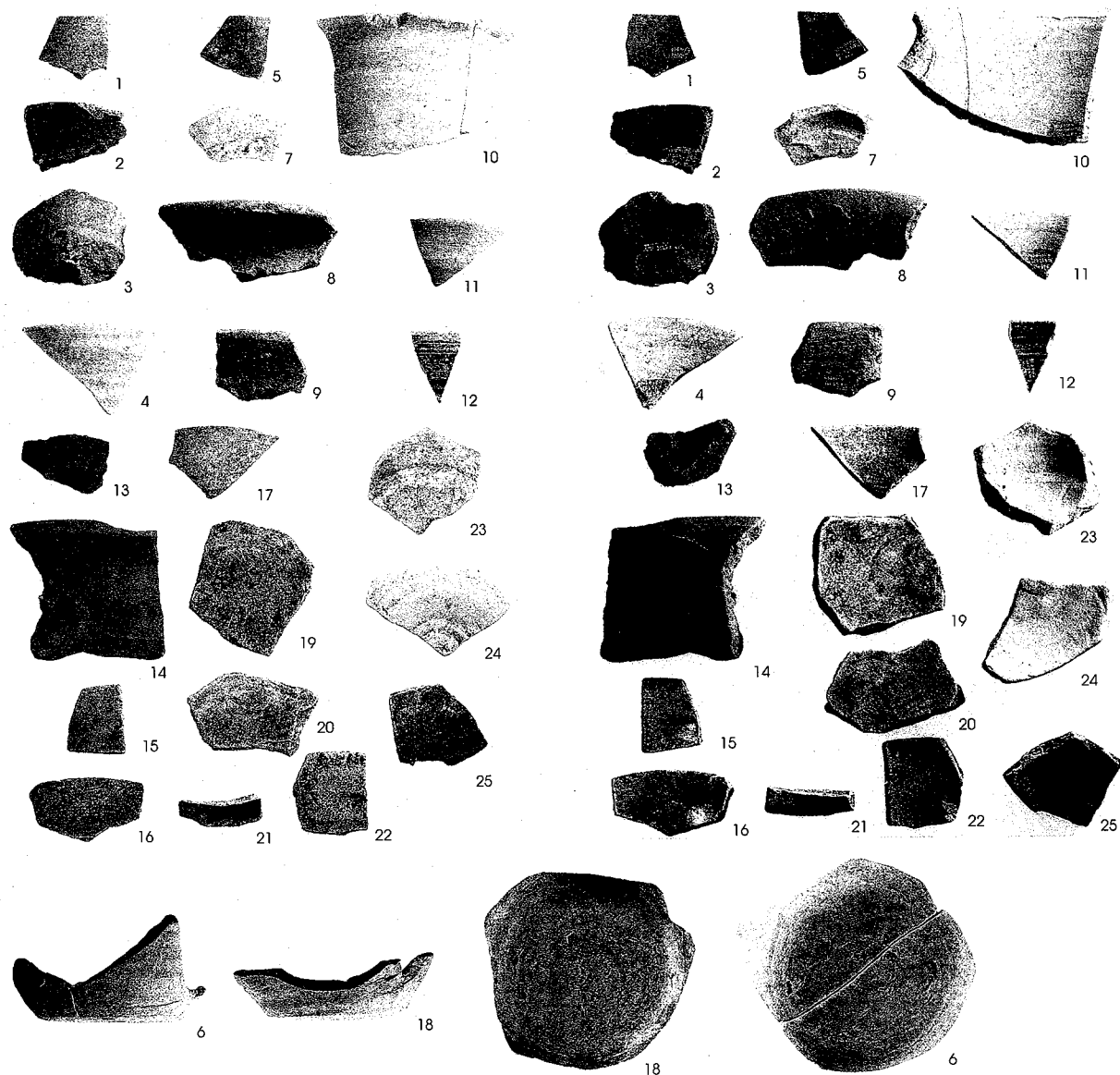


Fig.10 1 トレンチ出土遺物 S=1/3



PL.12 1トレンチ出土遺物 左：表、右：裏 下段左：側面、中・右：底面

である。遺物は、土器・土師器・古墳時代の土器・須恵器・弥生土器など55点が出土している。実測可能なもの (Fig. 10-13~21) をみると、古墳時代の壺底部1点のほかは、古代の土師器である。甕と杯、それから高台状の杯の底部片 (21) があるが、これは底面まで赤色顔料を添付している。

SK11

調査区北西壁際に位置する。西側は調査区外に広がっており、全形は不明である。断面はゆるやかに段を有しながら立ち上がる形態を呈する。遺物は出土していない。

包含層出土遺物

いずれも1層から出土している。土師器の杯の破片である。遺構から出土した土師器片と同類のものである。

4.2 2トレンチ

附属中学校校庭の南隅に位置する。2.6m四方の大きさである。

4.2.1 層位

基本層位は、1~5層までを確認した。層位は整合的に堆積しているが、5層上面が北側に傾斜している。2層までは近現代の遺物も出土しているが、3・4層は古代・古墳・弥生時代の遺物が出土しており、古代の層であると考えられる。また、5層

Tab.5 1 トレンチ出土遺物観察表

No	層・遺構	種類	器種	部位	色調	調整	胎土						備考		
							R	W	B	Q	H	S			
1	SK1	土師器	杯	口縁部	外面：赤褐～橙色5YR4/8～6/6。 内面：橙色7.5YR6/6.	内外面：回転ナデ.	2	2	2						回転ナデによる凸凹がみられる・外面の赤褐色は赤色顔料の可能性あり・内面上部にも少し残存している・ただし、境界ははっきりしない。
2	SK3	弥生土器 (後期?)	甕	口縁部	外面：スス付着のため黒色。内面：橙色5YR6/6。器肉：灰黄褐色10YR5/2.	外面：ナデ。内面：ハケのちナデ.				BCD		B	B		くの字状に屈曲する口縁部形態を呈する。屈曲部で欠損。
3	SK3	土器	甕	胴部	外面・脚台内面：橙色7.5YR6/6。内面：灰黄褐色10YR5/2.	外面：ハケのちナデ。内面、脚見込：ナデ.	ABC	ABCD		CD	C	A		脚台上部の破片である。外面は、二次加鉄を受け赤変している。	
4	SK3	土師器	杯	口縁部	内外面：浅黄褐色10YR8/4。外面上部ナデ調整痕の凹部：橙色5YR6/6(赤色顔料か?)。	内外面：回転ナデ.	2		2	BC		D		外面口縁部付近にわずかに赤色顔料らしい付着物あり。ナデ痕の凹部に残る。残存率1/4.	
5	SK3	土師器	杯	口縁部	内外面：黄灰色2.5YR4/1.	内外面：回転ナデ。内面：斜め方向のナデあり。	2	2		BCD	BCD				
6	SK3	土師器	杯	底部	底面・内面見込：赤褐色10R6/6。他：にぶい橙色7.5YR7/4.	内外面：回転ナデ。底面：ヘラ切りのちナデ。体部への立ち上がり部に一部、ユビによってなで上げた跡あり。	2	2	2	C	D	D		底径6.2cm。底面付近が内外面とも赤変している。二次的過熱か?	
7	SK3	土師器	杯	底部	内外面：浅黄褐色10YR8/3.	外面：ナデ。内面：回転ナデ。底面：ヘラ切りのちナデ.			2			CD		摩滅している。	
8	SK4	土師器	甕	口縁部	内外面：赤褐色5YR4/6.	外面：ハケ?のちナデ。口縁部上面：ヨコナデ。内面：左方向のナデ.	2	2	2	D	D	CD	2	外面：部分的にスス付着。丁寧な作り。軽石	
9	SK4	土器	甕	口縁部	外面：スス付着のため黒色。内面：明赤褐色2.5YR5/6.	口縁部端部・外面：ヨコナデ。内面：ハケのちナデ.	ABC	ABC	CD			ABC		外面：スス付着。器壁が分厚い。	
10	SK4	土師器	甕	口縁部	内外面：橙色7.5YR6/6。口唇部と外面の一部：橙色2.5YR6/6(赤色顔料か?)。	内外面：回転ナデ.	2			D				外面：赤色顔料付着?	
11	SK4	土師器	杯	口縁部	内外面：にぶい黄褐色10YR6/3.	内外面：回転ナデ.	2			D				丁寧な作り。	
12	SK4	磁器	碗	口縁部	磁胎：灰白色。釉調：オリーブ褐色2.5Y4/4を貴重とする半透明釉・綿状の濃淡。	内外面：回転ナデ.	1	1		D	D				
13	SK5	土器	壺	底部	内外面：にぶい赤褐色5YR5/4。器肉：黄灰色2.5Y4/1.	外面：ナデ。内面：ハケのちナデ.	CD	D		BCD	CD	A		底面立ち上がり部の一部が粘土がめくり上がっている。	
14	SK5	土師器	甕?	口縁部	内外面：橙色7.5YR6/6.	外面～口縁部内面：ヨコナデ。内面胴部：ケズリのちナデ.	2	2	2	D	D	D	2	少し磨滅している。	
15	SK5	土師器	杯	口縁部	内外面：浅黄褐色10YR8/3.	内外面：回転ナデ.	2	2		D	D			回転ナデ調整による器面の凹凸が明瞭	
16	SK5	土師器	杯?	口縁部	外面：スス付着のため黒色。一部浅黄褐色10YR8/3。内面：橙色5YR7/8(赤色顔料)。	内外面：回転ナデ.			2	2		CD		外面：スス付着。内面：赤色顔料付着。	
17	SK5	土師器	杯	口縁部	内外面：橙色7.5YR7/6.	内外面：回転ナデ.	2	2	2	CD	CD	ABCD			
18	SK5	土師器	杯	底部	内外面：橙色7.5YR7/6.	内外面：回転ナデ。底面：ヘラ切りのちナデ.	2	2	2	D	D	D		底径：6.3cm。外面：細かい斑点状にスス付着。	
19	SK5	土師器	杯	底部	内外面：にぶい橙色7.5YR7/4.	内外面：ナデ。底面：ハケ状のナデ?。	2	2	2	D	D			反転復元。底径：(5.1)cm。断面を含む表面に炭化物付着。	
20	SK5	土師器	杯	底部	内外面：浅黄褐色7.5YR8/4.	内外面：ナデ.			2					摩滅している。	
21	SK5	土師器	高台?	口縁部?	外面～底部：赤褐色2.5YR4/8。内面：橙色7.5YR6/8。器肉：浅黄褐色10YR8/4.	内外面：ナデ.	2	2		D	D			接合部で欠損。赤色顔料：内外面・脚端部にも着色。	
22	1	土師器	杯	口縁部	内外面：橙色7.5YR7/6.	内外面：回転ナデ。内面に斜め方向のナデあり。	2	2	2	CD	D	D		外面全面と内面・断面の口縁部側に炭化物付着。回転ナデあとの凹凸が明瞭。	
23	1	土師器	杯	胴部～底部	内外面：灰白色2.5Y8/2.	内外面：回転ナデ。底面：ナデ.	2	2	2	D	D	D		1/4残存。反転復元。底径(5.7)cm.	
24	1	土師器	杯	胴部～底部	内外面：浅黄褐色10YR8/3.	内外面：回転ナデ。底面：ヘラ切り。	2	2	2	BCD	D	D		反転復元。1/4残存。底径：(7.0)cm。ヘラ切り底。ひじょうに磨滅している。	
25	1	土師器	杯	底部	内外面：浅黄褐色10YR8/4.	内外面：ナデ?。	2	2	2	D	D	D		表面に鉄分付着のため詳細な調整等は不明。	

上面で遺構が検出された。

遺構の埋土は3層土に類似するが、出土遺物に土師器がないことから、古墳時代としてとらえておきたい。

4.2.2 遺構と遺物

遺構は、4層上面より土壇状遺構3基、ピット1基が検出された。以下、遺構ごとに説明を加える。

SK7

トレンチ南壁付近に位置し、全形は不明である。遺物は、埋土中より土器片が出土しているが、実

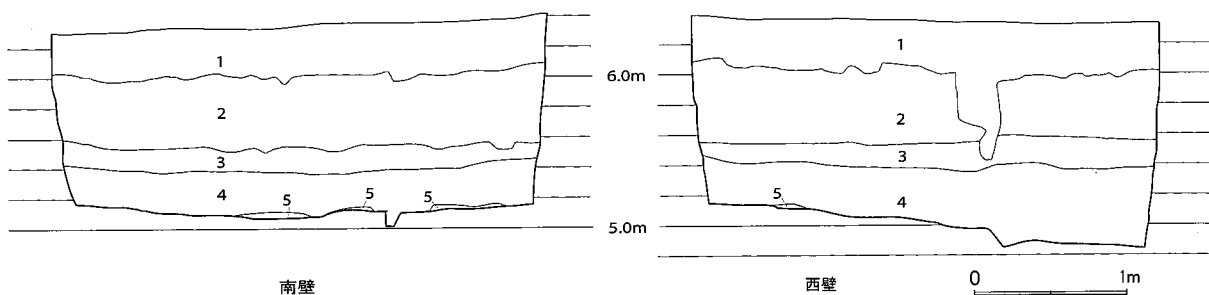
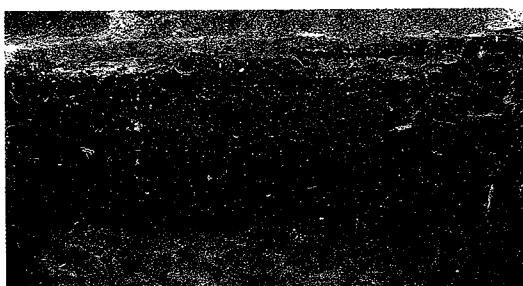


Fig.11 2トレンチ層位断面図 S=1/40



PL.13 2トレンチ南壁

Tab.6 2トレンチ層位

層名	色調・土質	備考
1	表土。黒褐色10YR1/3,シルト質砂。ブロック・	近現代 礫等多く含む。
2	灰黄褐色10YR2/4,砂質シルト。0.5cm~1cmの軽	近現代 石を含む。
3	暗灰黄褐色2.5Y2/4,砂質シルト。2層に似るが、	古代 鉄分浸透。
4	黒褐色2.5Y1/3,粗砂混じりシルト。0.5~2cm	古墳 大の軽石を含む。
5	にぶい黄色2.5Y4/6,粗砂。	

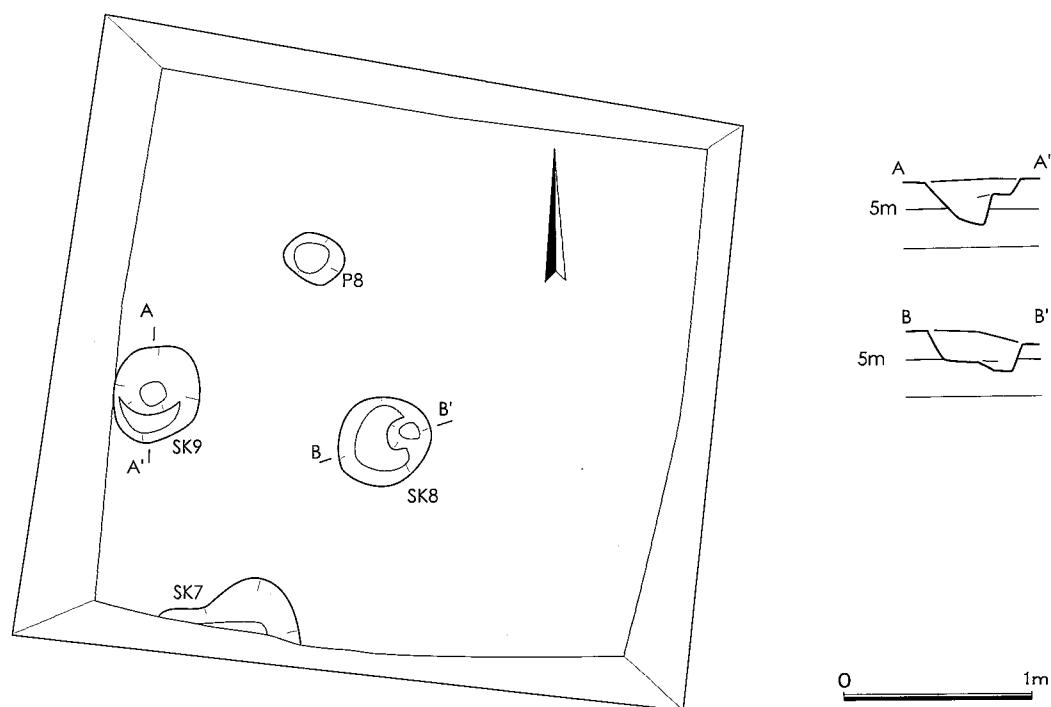
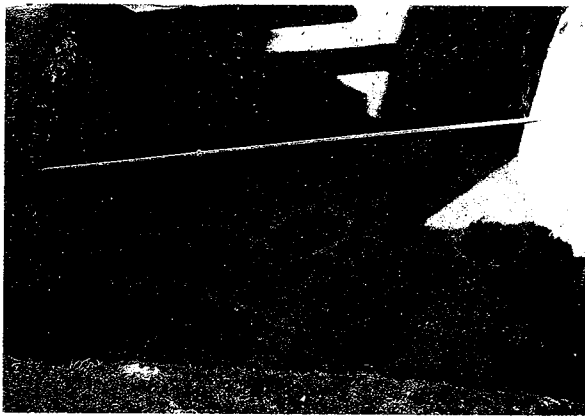


Fig.12 2トレンチ遺構図 S=1/40



PL.14 2トレンチ完掘状況

Fig.8 2トレンチ遺構一覧

遺構名	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	埋土
SK7	97.78	29.4+α	46.0	黒褐色2.5Y1/3.粗砂混じりシル ト0.5~2cm大の軽石を含む。
SK8	48.26	46.82	23.0	黒褐色2.5Y1/3.粗砂混じりシル ト0.5~2cm大の軽石を含む。
SK9	51.3	44.38	24.0	黒褐色2.5Y1/3.粗砂混じりシル ト0.5~2cm大の軽石を含む。
P8	31.62	23.7	18.0	黒褐色10YR6/8粗砂混じりシル ト.10YR6/8明黄褐色の2cm大軽 石含む。

Tab.7 2トレンチ遺物出土状況

層	縄 文	弥 生	古 墳	須 恵 器	土 師 器	土 器	陶 磁 器	レ ン ガ	ガ ラ ス 類	石 器	そ の 他	計
1			4	1	2	38	7					52
2		5	33		7	192	30		1			268
3			130	26	15	1418	73				3	1665
4			26	3	2	91						122
SK7			2			6						8
SK8						7						7
SK9			3			5						8
計		5	198	30	26	1757	110		1		3	2130

測できるものはない。

SK8

トレンチ中央部に位置する。平面形は円形で、東側が一段下がっている。埋土中より、土器片が出土しているが、実測できるものはない。

SK9

調査区西壁近くに位置する。ほぼ円形で、下場は北よりに一段下がっている。遺物は、埋土中より土器片が出土しているが、実測できるものはない。胎土などから古墳時代のものと考えられる破片が数点確認できる。

P8

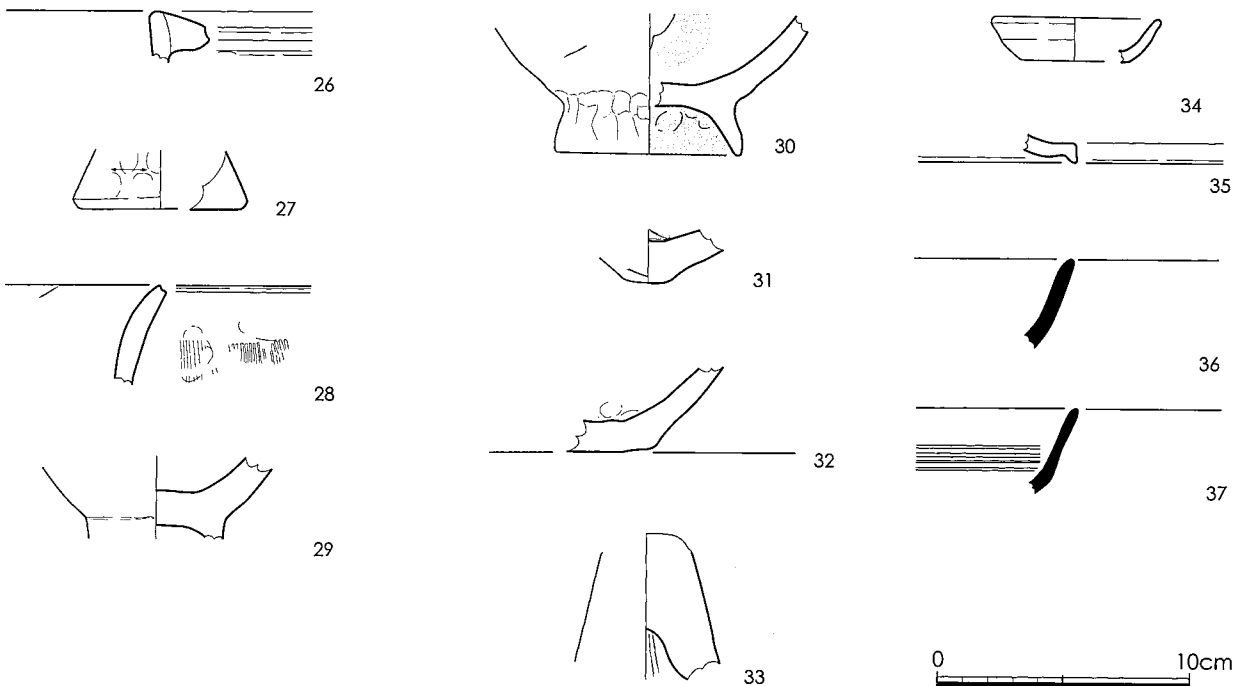
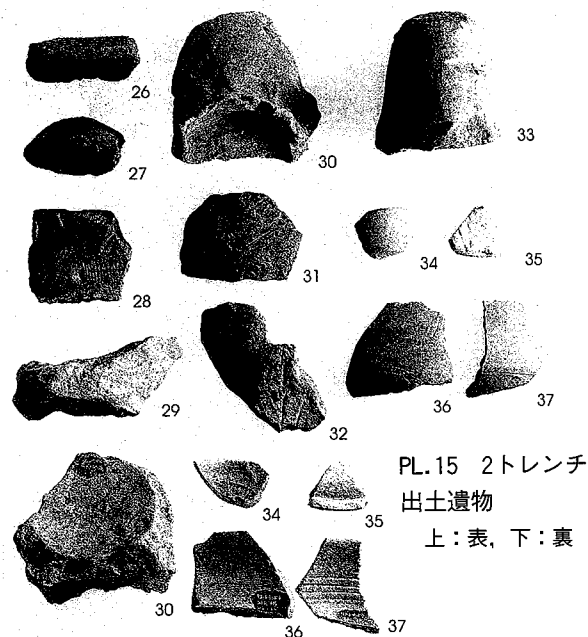


Fig.13 2トレンチ出土遺物 S=1/3

Tab.9 2 トレンチ出土遺物観察表

No	層・遺構	種類	器種	部位	色調	調整	胎土						備考		
							R	Y	B	Q	H	S			
26	2	弥生・土器	甕	口縁部	口縁部上面：赤褐色5YR4/6, 赤色顔料?。外面：にぶい橙色7.5YR6.5/4。内面：にぶい黄褐色10YR6.5/4。	外面：ヨコナデ。内面：ナデ?	4	4	5	4	4	4	4	4	入来Ⅱ式。断面に口縁部貼り付けの接合痕明瞭。摩滅している。
27	2	弥生・土器	甕	底部	外面：黄灰色2.5YR5/1, 暗黄褐色2.5YR5/2。	外面：ユビオサエのち横方向のナデ。外底面：ナデ。	3	3	3	3	3	3	3	3	約1/6残存。反転復元。底径(6.4)cm。いわゆる充実脚台。
28	2	古墳・土器	甕	口縁部	外面下部：にぶい橙色7.5YR6.5/4。外面上部～内面：にぶい黄褐色10YR7/4。	外面：ハケのちユビオサエ。内面：ユビオサエのちヨコナデ。	3	3	3	3	3	3	3	3	中津野式。くの字に屈曲する口縁部形態を呈するが、屈曲部で欠損している。わずかに端部が湾曲している。
29	3	古墳・土器	鉢?	底部	外面：浅黄褐色7.5YR8/5。外底面：淡黄色2.5Y8/3に類似。内面：灰白色2.5Y8/1.5。	内外面：ナデ?	3	3	3	3	3	3	3	3	約1/2残存。非常に摩滅している。脚台上部の破片である。
30	4	古墳・土器	甕	底部	外面：灰白色2.5Y8/2。脚台内面：明赤褐色2.5YR5/8, 赤色顔料?。内面：灰白～黄灰色2.5Y7/1～6/1。一部赤褐色2.5YR4/8, 赤色顔料?。	外面・脚台内面：ユビオサエのちナデ?。内面：ナデ?。	4	4	4	4	4	4	4	4	約1/4残存。反転復元。底径(6.95)cm。粗雑な作り。脚台外面には、粘土貼り付け痕が明瞭。内面の一部と脚台内面に赤色顔料付着。
31	2	古墳・土器	壺	底部	外面：明赤褐色5YR5/7。内面：暗灰～黒色N3/0～2/0に類似。	内外面：ハケ?内面のハケ工具打ち込み痕が深	3	3	3	3	3	3	3	3	外面：鉄分付着。底径1.7cm。摩滅している。作りも粗雑である。
32	2	古墳・土器	壺	底部	内外面：浅黄褐色10YR8/3.5。器肉：灰色N6/0に類似。	外面：ナデ?内面：ユビオサエ。	3	3	3	3	3	3	3	3	鉄分付着。摩滅している。
33	3	古墳・土器	高杯	脚部	外面：浅黄褐色～にぶい黄褐色10YR8/3～7/3。脚内面：灰黄褐色10YR6/2に類似。	外面：ミガキ?上面接合部：灰色N5/0に類似。内面：ハケ?後ナデ。	3	3	3	3	3	3	3	3	摩滅している。杯部との接合部で欠損している。
34	3	土師器	杯	口縁～底部	内外面：灰白色10YR～2.5Y8/2。	内外面：回転ナデ。	2	2	2	2	2	2	2	2	反転復元。1/6残存。口径(6.6)cm。底径(4.3)cm。器高1.7cm。
35	3	土師器	蓋	口縁部	内外面：浅黄褐色10YR8/3。	内外面：回転ナデ?	2	2	2	2	2	2	2	2	杯蓋の端部。摩滅している。
36	3	須恵器	杯?	口縁部	内外面：灰色N6/0に類似。	内外面：回転ナデ。	2	2	2	2	2	2	2	2	
37	3	須恵器	杯?	口縁部	外面：灰色N6/0に類似。内面：灰色N5/0に類似。	内外面：回転ナデ。	1	1	1	1	1	1	1	1	



調査区北西側に位置する。遺物は出土していない。

包含層出土遺物 (Fig.13)

弥生土器・中津野式・古墳時代の土器・古代の土師器・須恵器などがある。弥生土器は中期(26・27)と中津野式(28)である。いずれも小片で摩滅して

いる。

4.3 3トレンチ

附属中学校校庭東端に位置する。3m四方の大きさである。掘削の結果、地山である砂層まで現代の掘削がおよんでいて、プライマリーな層は確認できなかったが、表土層に遺物が包含されていた(Fig.14)。遺物は、陶磁器・古墳時代の土器・土師器・須恵器などがある。この中で実測可能なものは2点のみ(Fig.14・Tab.10・PL.16)であった。

4.4 4トレンチ

附属中学校校庭の北東隅に位置する。3m四方の大きさである。掘削の結果、地山である砂層まで現代の掘削が及んでおり、プライマリーな層は確認できなかった。遺物も出土しなかった。

4.5 5トレンチ

附属中学校北側のテニスコート南東隅に位置する。2.5m四方の大きさである。

4.5.1 層位 (Fig.15)

基本層位として、1～8層までを確認した。なお、

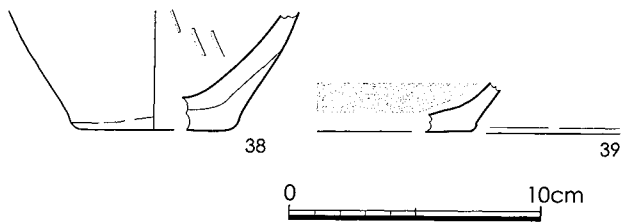
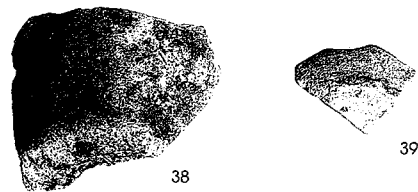


Fig. 14 3トレンチ出土遺物



PL. 16 3トレンチ出土遺物 表

Tab. 10 3トレンチ出土遺物観察表

No	層・遺構	種類	器種	部位	色調	調整	胎土						備考
							R	W	B	Q	H	S	
38	1	古墳・土器	壺	底部	外面：にぶい橙～にぶい黄橙色 7.5～10YR7/4。内面：下方から灰のちナデ。 白色2.5Y8/2, 灰色5Y6/1, 灰色N4/0。器肉：暗灰～黒色N3/0～2/0。	外面：ナデ。内面：ハケのちナデ。	3 D	3 D	3 ABC	3 ABC	3 ABC	約1/3残存, 反転復元。底径(5.8)cm。平底の底部。断面に接合痕が認められる。	
39	1	土師器	杯	底部	外面：浅黄橙～にぶい黄橙色 10YR8/4～7/4。内面：赤褐色 2.5YR4/7, 赤色顔料。	内外面：回転ナデ。底面：糸切り?。	2 D	2 D				内面に赤色顔料付着。摩滅している。	

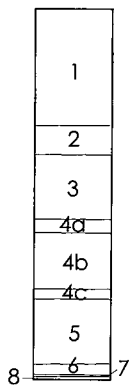


Fig. 15 5トレンチ層位柱状図



PL. 17 5トレンチ南壁

Fig. 11 5トレンチ層位

層名	色調・土質	備考
1	表土。	
2	表土。	
3	黒褐色7.5YR3/1, シルト。	
4	褐灰色10YR4/1, 粗砂混じりシルト。1～2cm大の軽石を含む。	
5	黄灰色2.5Y4/1, シルト。1cm大の軽石を含む。 鉄分浸透。	
6	褐灰色10YR3/1, シルト。0.5～1cm大の軽石を含む。	
7	黒褐色10YR3/1, シルト。0.5～1cm大の軽石を含む。	
8	黒色7.5YR1.7/1, シルト。粘質。2cm大の軽石を含む。	
9	黒色10YR2/1, 粗砂。	
10	明褐色7.5YR5/8, 粗砂。	

4層は3つに分層できた。いずれも水平に堆積していた。遺物は、4層まで出土しているが、各層とも土師器や古墳時代の土器のほか、陶磁器を含んでおり、4層までは近現代の層であると考えられる。また、5層以下は無遺物層で時期は不明である。

4.5.2 包含層出土遺物 (Fig. 16)

Fig. 12 5トレンチ遺物出土状況

層	縄文	弥生	古墳	須恵器	土師器	土器	陶磁器	レンガ	ガラス類	石器	その他	計
1						7	6		1			14
2			8	1	1	2	3					15
3			47	3	2	264	10				3	329
4			5		1	71	11	1			1	90
計			60	4	4	344	30	1	1		4	448

1～4層で出土した遺物は、陶磁器・土師器・古墳時代の土器・須恵器などである。このうち、実測できるものは11点であった。中津野式の甕・古墳時代の甕・壺・高杯・埴, 土師器の杯・蓋, 磁器皿がある。いずれも小片である。

4.6 6トレンチ

附属中学校北側のテニスコート南側に位置する。

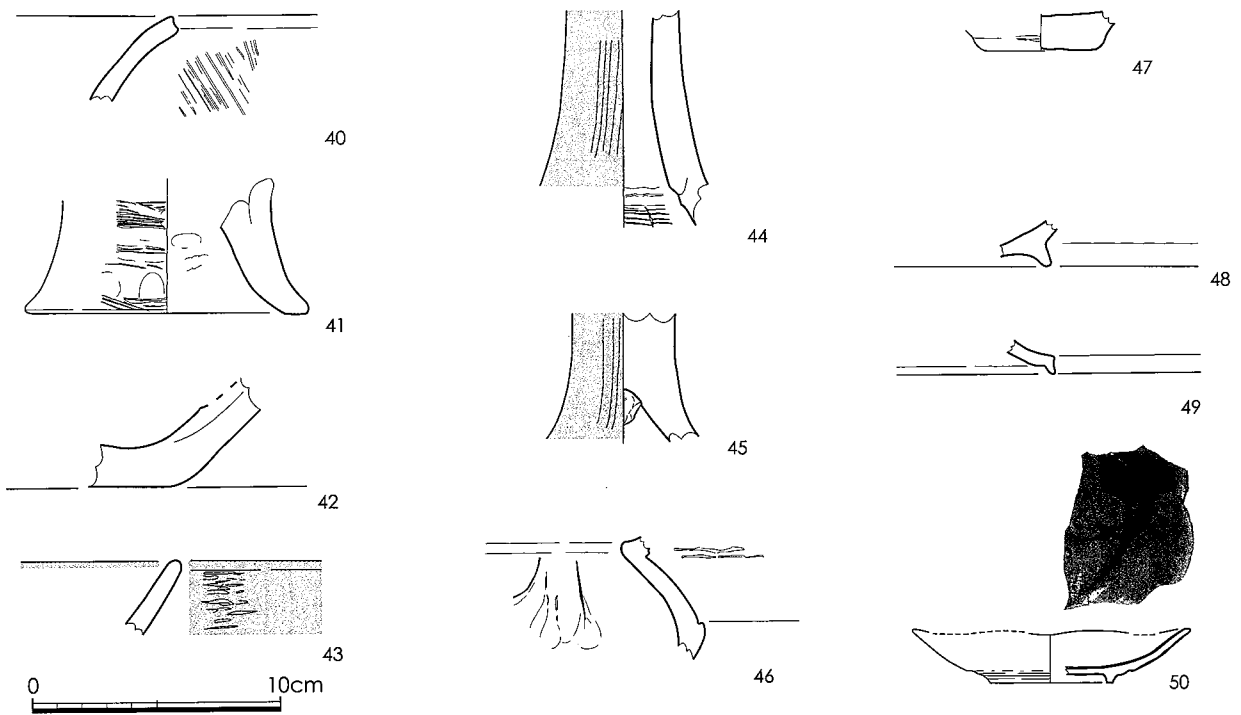
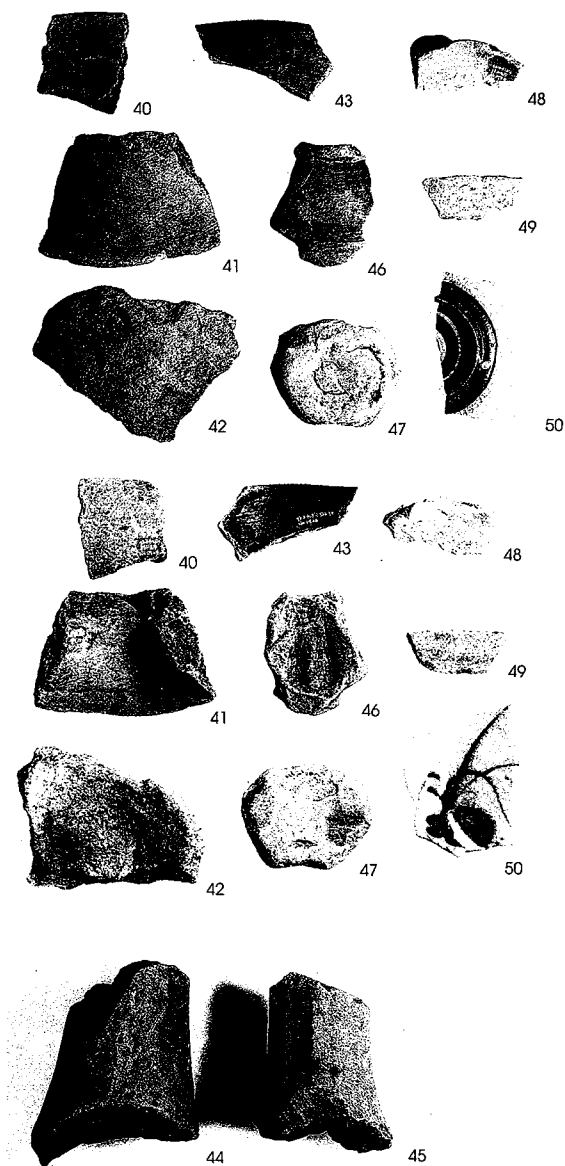


Fig. 16 5トレンチ出土遺物 S=1/3

Tab. 13 5トレンチ出土遺物観察表

No	層・遺構	種類	器種	部位	色調	調整	胎土						備考
							R	W	B	Q	H	S	
40	3	弥生終末期・土器	甕	口縁部	外面：にぶい橙色7.5YR6/4に類似。内面：にぶい赤褐～赤褐色5YR5/4～5/6。器肉：暗灰～黒色N3/0～2/0。	ヨコナデ。外面下方：斜め方向のハケ。	3	3	3	3	3	3	中津野式。くの字に屈曲する器形を呈する口縁部で、屈曲部付近で欠損している。太目のハケ跡が特徴的である。
41	3	古墳・土器	甕	脚部	外面：にぶい黄褐色10YR6.5/4。内面・器肉：にぶい橙～にぶい褐色7.5YR6/4～5/4。	ユビオサエのち横方向のハケ。	3	3	3	3	3	約1/4残存。反転復元。底径(10.9)cm。接合痕明瞭。体部との接合部で欠損している。外面ハケ調整が非常にあらい。脚端部が湾曲する器形を呈する。	
42	2	古墳・土器	壺	底部	外面：にぶい黄褐色10YR7/4に類似。内面：黄灰色2.5Y6/1に類似。	ナデ?		4	4	4	4	5	緩やかな凸面をなす平底。分厚い器壁である。断面に接合痕が認められる。摩滅している。
43	3	古墳・土器	高杯	口縁部	外面：明赤褐色2.5YR5/7、赤色顔料。内面：灰色N4/0に類似。い黄褐色10YR7/3。	外面：ミガキ。口唇部～内面：ヨコナデ。	2	2	2	2	2	2	外面～口唇部内面：赤色顔料付着。外面は細かいミガキを施すが、あらいため、器表に凹凸が認められる。
44	3	古墳・土器	高杯	脚部	外面：赤～赤褐色10R～2.5YR4/8。内面：橙色5～7.5YR7/6。上部灰色N5/0に類似。器肉：灰色N4/0に類似。	外面：縦方向のミガキ。内面：ユビオサエのちナデ。屈曲部以下：横方向のハケ。	2	2	2	2	2	2	外面：赤色顔料付着。内面屈曲部に粘土帯接合痕が認められる。
45	3	古墳・土器	高杯	脚部	外面：赤～赤褐色10R～2.5YR4/8。内面：橙色5～7.5YR7/6。上部灰色N5/0に類似。器肉：灰色N4/0に類似。	外面：ミガキ。内面：ユビオサエのちナデ? 下端部ハケ。	2	2	2	2	2	2	脚部の上部。外面に赤色顔料が付着しているが、所々剥落している。
46	2	古墳・土器	埴器	頸部～胴部	外面：橙色7.5YR7/6、赤色顔料?。内面：橙色5YR7/6。	外面：ハケのち横方向のナデ。内面：ナデ。シボリ痕明瞭。	5	2					摩滅している。胴部屈曲部に段を持つ器形を呈する。外反する口縁部を持つと推定できるが、欠損している。
47	2	土師器	杯	底部	外面：浅黄褐色10YR8/3に類似。内面：灰白色2.5YR8/2。	(摩滅のため)不明。	2	2					底径4.4cm。ヘラ切り底。平底で分厚い。摩滅している。
48	4	土師器	杯	底部	灰色5Y6/1に類似。器肉：灰白色2.5Y8/2に類似。	回転ナデ? 摩滅している。		2					白色粒は灰白色2.5Y8/2に類似。摩滅している。
49	3	土師器	蓋	口縁部	外面：浅黄褐色10YR8/3.5。内面：浅黄褐色7.5～10YR8/4。	ヨコナデ。	3		3	3	3	3	
50	2	磁器	杯	完形	釉調：明緑灰色10GY8/1、透明釉。文様：暗緑灰～緑黒色10GY3/1～2/1に類似。露胎部・高台内面：極暗赤褐色5YR2/4。高台内面：暗赤褐色5YR3/6。			1					約1/3残存。反転復元。口径(10.8)cm。底径(4.7)cm。器高1.85～2.1cm。貫入有り。口縁部花弁状。



PL.18 5トレンチ出土遺物
上段：表面、中段：裏、下段：側面

2.8m四方の大きさである。

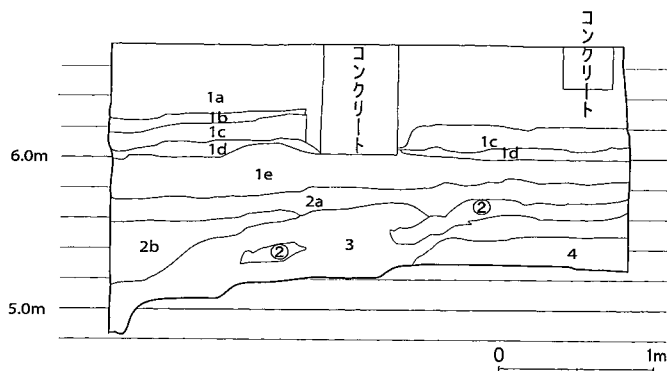
4.6.1 層位 (Fig.17)

6トレンチでは、1～4層までの基本層位を確認した。2a層まではほぼ水平に堆積しているが、2b層以下が西側に傾斜していた。また、3層上層や3層中に粗砂が含まれるなど、層位が混在しているところもみられた。出土遺物は、古墳時代の土器・土師器・陶磁器などが出土しているが、3層まで陶磁器を含んでおり、近現代の層であると考えられる。

4.6.2 包含層出土遺物 (Fig.18)

出土した遺物は古墳時代の土器・土師器・陶磁器

などであるが、実測可能なものは3点のみであった。中津野式か古墳時代前期土器と考えられる甕と高杯、それから染付け椀である。



PL.17 6トレンチ層位断面図 S=1/40

Tab.14 6トレンチ層位

層名	色調・土質	備考
1a	にぶい黄橙色10YR6/3.	現代
1b	灰オリーブ7.5Y5/2.,粗砂.	現代
1c	浅黄橙色10YR8/4.,.シラス2次堆積層.	現代
1d	灰黄色7.5YR4/2.,.シルト質砂を基調とし、1e層土をブロックで含む.	現代
1e	褐灰色7.5YR4/1,シルト質砂.軽石礫を含む.	現代
2a	褐灰色7.5YR5/1,粗砂混じりシルト質砂.1cm大の軽石を含む.	近現代
2b	2a層土と3層土の混土.黒褐色10YR3/1,シルトをブロックで含む.	近現代
3	青灰色5PB6/1,砂質シルト.	近現代
4	明褐色7.5YR5/6,粗砂.軽石礫を多く含む.	
①	灰オリーブ7.5YR5/2粗砂.	
②	黒褐色2.5Y3/2,粗砂を基調とし、3層土をブロックで含む.	



PL.19 6トレンチ南壁

Tab.15 6トレンチ遺物出土状況

層	縄文	弥生	古墳	須恵器	土師器	土器	陶磁器	レンガ	ガラス類	石器	その他	計
2			9		3	59						71
3			5			28	3			1		37
計			14		3	87	3			1		108

Tab.16 6トレンチ出土遺物観察表

No	層・遺構	種類	器種	部位	色調	調整	胎土						備考																																																					
							R	W	B	Q	H	S																																																						
51	2	古墳・土器	甕	口縁部	外面：明赤褐色2.5YR5/6に類似。内面：におい橙色5YR6/4, においナダ。橙色7.5YR7/3, 黒色N2/0。	外面：ヨコナダ。内面：	3	3	3	3	3	3	く	の	字	状	に	ゆ	り	や	か	に	外	反	す	る	器	形	を	呈	し	、	そ	の	屈	曲	部	よ	り	上	部	の	破	片	で	あ	る	と	考	え	ら	れ	ら	れ	る	。比	較	的	丁	寧	な	作	り	で	あ	る
52	3	古墳・土器	高杯	脚部	におい褐色7.5YR6/3に類似。	ナダ?	3	3	3	3	3	3	小	型	の	高	杯	脚	部	。杯	部	と	の	接	合	部	で	欠	損	。脚	部	内	面	に	は	、	粘	土	貼	り	付	け	痕	が	認	め	ら	れ	る																	
53	3	染付	碗	口縁～底部			1						約	1/8	残	存	、	反	転	復	元	。口	径	(8.4)	cm	。底	径	(3.9)	cm	。器	高	5.4	cm																													

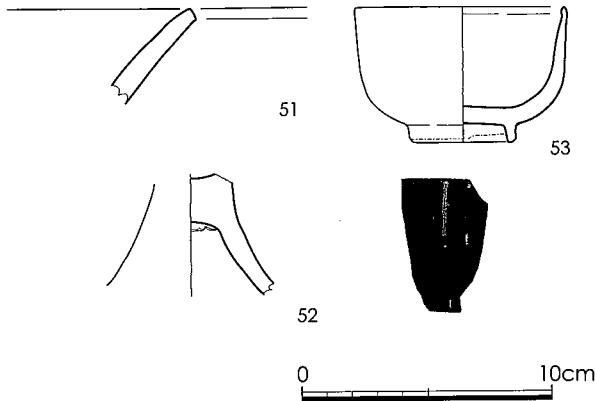
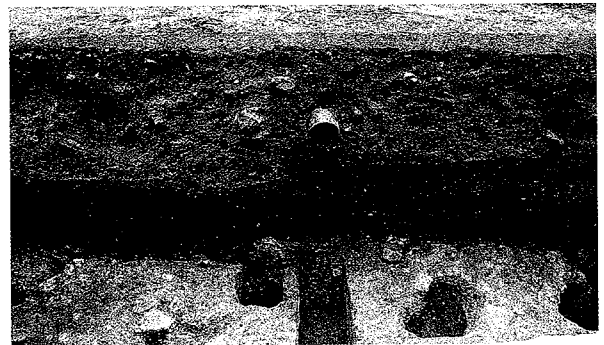
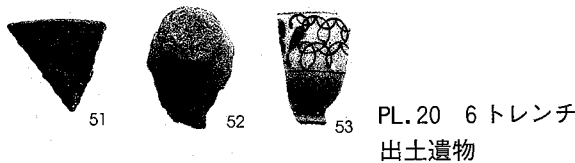


Fig.18 6トレンチ出土遺物 S=1/3



PL.21 7トレンチ北壁

Tab.17 7トレンチ層位

層名	色調・土質	備考
1	シラスの2次堆積土、盛土。	現代
2	黒色1/1.7シルト。	古墳時代
3	におい黄色2.5Y3/6, 粗砂混じりシルト。	
4	灰黄色2.5Y2/7, 粗砂。鉄分が浸透している。	
5	5cm大の軽石礫の間に4層類似の粗砂を含む。	
①	灰黄褐色10YR2/6, 細砂。	

Tab.18 7トレンチ遺物出土状況

層	縄文	弥生	古墳	須恵器	土師器	土器	陶磁器	レンガ	ガラス	石器	その他	計
1			2			23						25
2			9			70						79
4						4						4
SK26			2			7				1		10
計			13			104				1		118

4.7 7トレンチ

東西2.8m, 南北1.6mのトレンチである。

4.7.1 層位 (Fig.19)

基本層位として、1～5層までを確認した。このうち、2層までが遺物包含層である。1層は現代、2層は古墳時代の包含層である。3層上面から土壌状遺構とピット群が検出された。

4.7.2 遺構と遺物

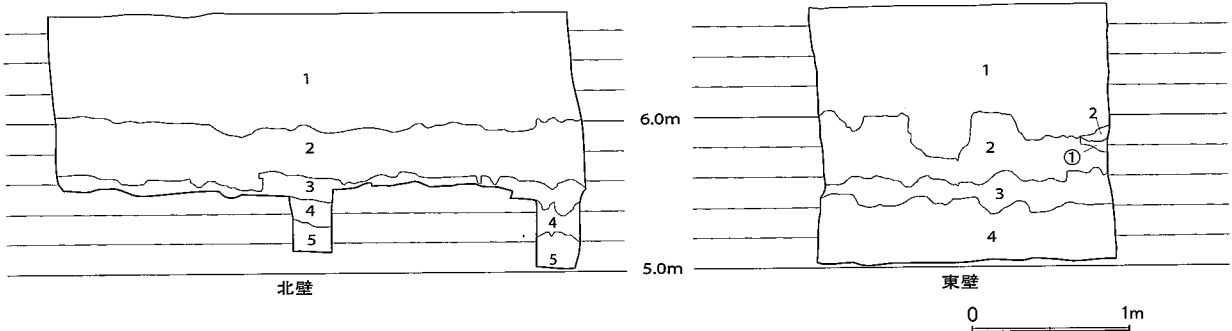


Fig.19 7トレンチ層位断面図 S=1/3

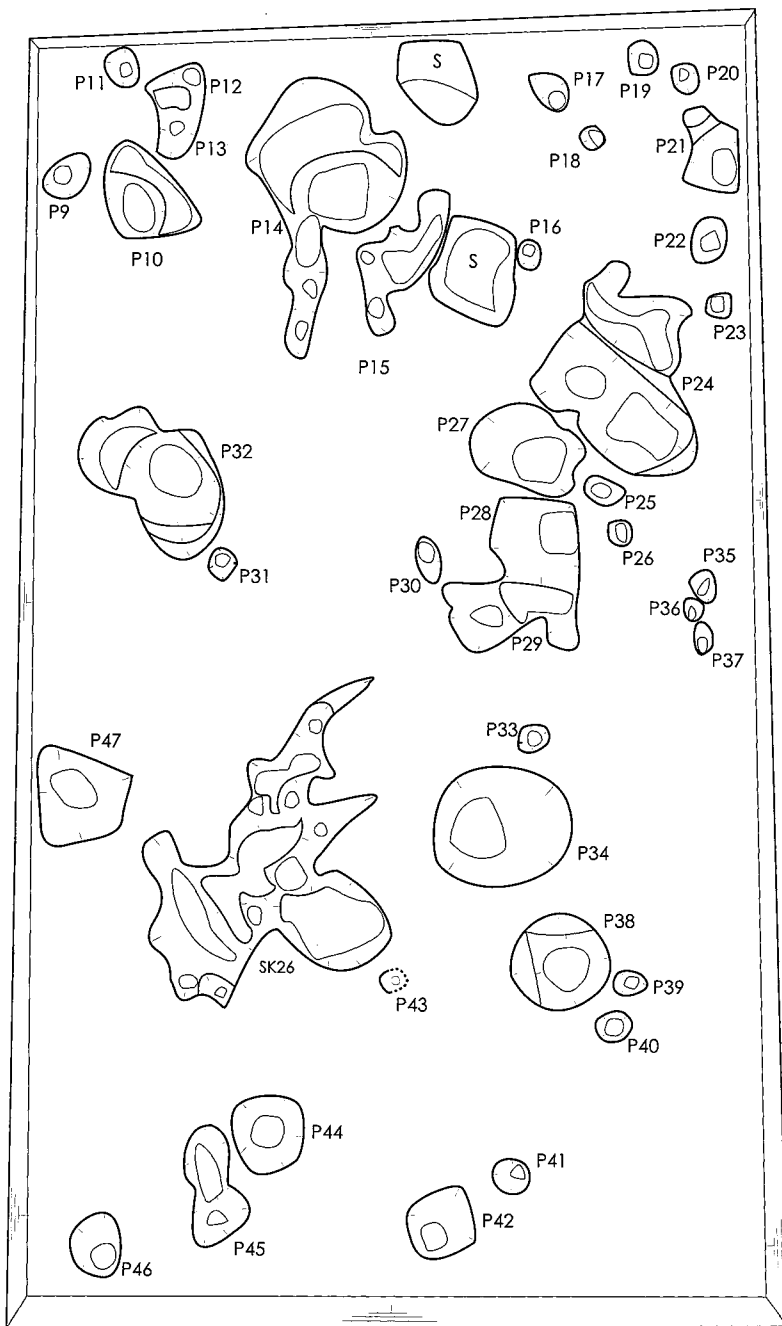
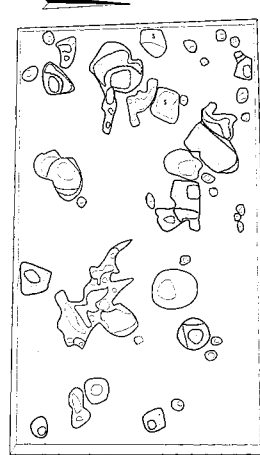
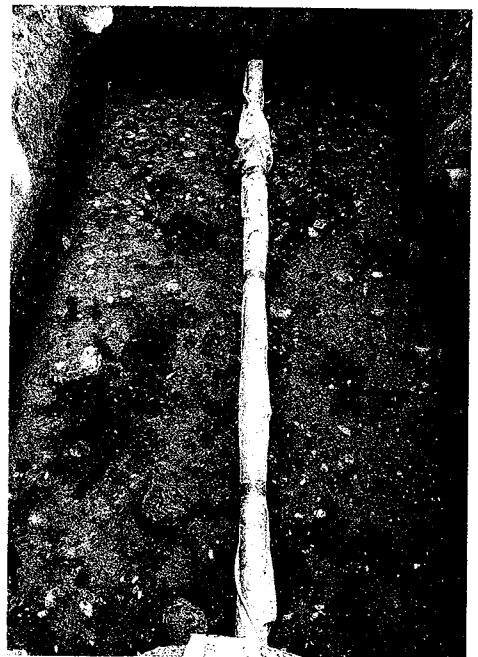


Fig. 20 7トレンチ遺構平面図 S=1/40



網掛け部分は、深さ 20cm 以上のもの。



PL. 21 7トレンチ3層上面遺構検出状況



PL. 23 7トレンチ3層上面遺構完掘状況

3層上面では、1基の土壙と38基のピットが検出された (Fig. 20)。

SK26

最長部 100.5cm, 幅 62.2cm だが、不定形で、浅いピットが重なったものと考えられる。この埋土中からは古墳時代の土器と石器が出土している。このうち、実測できるものは2点であった (Fig. 21-54・55)。

54 は甕の脚台である。脚端部が細く丸い形状と、

Tab.19 7トレンチ遺構一覧

遺構名	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	埋土
SK26	100.5	62.2	10.0	黒色1/1.7シルト
P9	13.9	8.6	7.0	黒色1/1.7シルト
P10	29.4	19.2	36.2	黒色1/1.7シルト
P11	10.3	8.1	3.1	黒色1/1.7シルト
P12	14.1	3.7	7.6	黒色1/1.7シルト
P13	13.5	9.7	33.8	黒色1/1.7シルト
P14	43.2	33.6	20.0	黒色1/1.7シルト
P15	43.3	15.7	4.1	黒色1/1.7シルト
P16	9.1	5.4	9.0	黒色1/1.7シルト
P17	13.2	7.8	5.9	黒色1/1.7シルト
P18	7.1	6.2	9.0	黒色1/1.7シルト
P19	9.0	7.8	6.7	黒色1/1.7シルト
P20	9.3	7.8	3.4	黒色1/1.7シルト
P21	25.0	16.0	32.7	黒色1/1.7シルト
P22	13.1	10.0	9.1	黒色1/1.7シルト
P23	7.0	6.1	2.7	黒色1/1.7シルト
P24	58.4	37.5	58.2	黒色1/1.7シルト
P25	10.8	7.2	9.0	黒色1/1.7シルト
P26	8.4	7.0	7.3	黒色1/1.7シルト
P27	31.6	19.3	12.9	黒色1/1.7シルト
P28	23.6	21.9	34.2	黒色1/1.7シルト
P29	8.7	6.5	6.0	黒色1/1.7シルト
P30	12.0	7.1	5.9	黒色1/1.7シルト
P31	7.6	7.6	3.3	黒色1/1.7シルト
P32	44.1	26.5	41.0	黒色1/1.7シルト
P33	9.3	8.3	7.0	黒色1/1.7シルト
P34	37.3	32.8	19.5	黒色1/1.7シルト
P35	10.1	7.6	9.0	黒色1/1.7シルト
P36	7.3	6.5	3.0	黒色1/1.7シルト
P37	9.6	5.5	0.0	黒色1/1.7シルト
P38	25.5	22.6	32.5	黒色1/1.7シルト
P39	8.6	7.9	5.6	黒色1/1.7シルト
P40	10.1	8.0	6.6	黒色1/1.7シルト
P41	9.1	8.5	4.5	黒色1/1.7シルト
P42	17.8	13.8	29.0	黒色1/1.7シルト
P43	6.2	5.9	4.9	黒色1/1.7シルト
P44	20.3	17.4	17.0	黒色1/1.7シルト
P45	32.3	11.9	9.8	黒色1/1.7シルト
P46	17.0	13.4	24.0	黒色1/1.7シルト
P47	29.4	26.5	44.5	黒色1/1.7シルト

脚台部付け根が細く脚台が三角形状を呈することから、中津野式から東原式の甕であろうと考えられる。55は磨製石器で、刃部はシャープで表面は非常に滑らかである。下面は欠損しているが、端部に擦過痕があり、段を有して下方に伸びていたことが推定される。その形状から、石戈であると推定した。

ピット群 (P9～P47)

ピットは、39基検出された。Fig. 20左に深さが20cm以上のものを網かけによって図示した。南東から北西方向にほぼ平行に、比較的深いピットが並んでいることがわかる。しかし、建物跡として認定できるものではない。2層出土遺物の残りが比較的よいことなどから、住居跡の一部である可能性も高い。

包含層出土遺物 (Fig. 21-56～59)

1・2・4層中から土器が出土している。このうち、実測できたものは4点である。これらはいずれも2層出土遺物である。56・57は甕の底部で、脚台内面の天井部がドーム状を呈し、脚端部が細く丸い。これは、SK26から出土した54とも同じ特徴で、中津野式から東原式の特徴である。58は壺の口縁部であるが、少し湾曲しながら外に開く器形を呈する。59は小形の鉢だが、低部が非常に小さく、尖り気味で、口縁部は外面にヨコナデによる段を有し、端部は尖っている。外面の下半部にはミガキ痕が認められるが、ミガキ痕の中には細かい擦過痕が認められる。59の器形・調整とも、中津野式から東原式の特徴である。

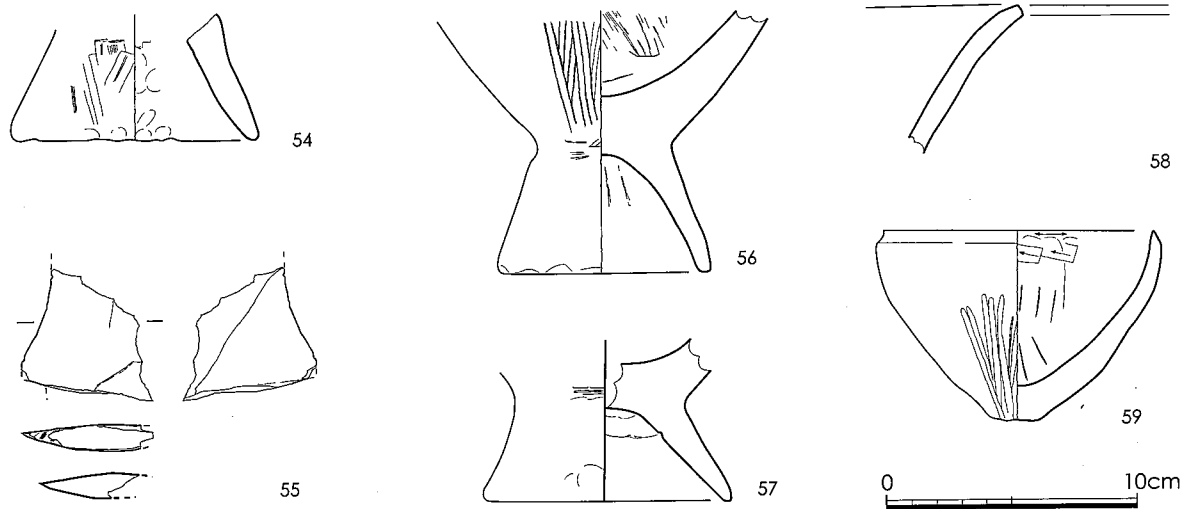
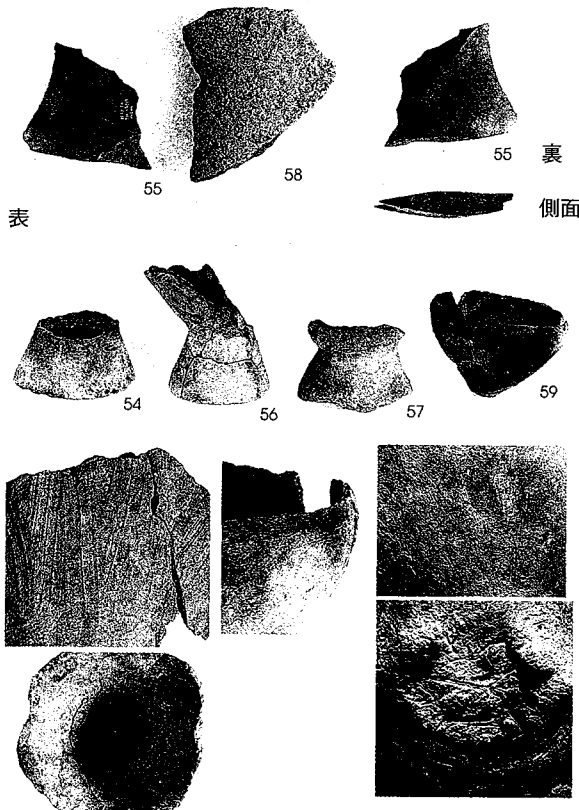


Fig.21 7トレンチ出土遺物 S=1/3

Tab. 20 7トレンチ出土遺物観察表

No	層・遺構	種類	器種	部位	色調	調整	胎土						備考
							R	W	B	Q	H	S	
54	SK26	古墳(弥生?) 土器	甕	脚部	外面：ぶい黄橙～明黄褐色10YR7/4～7/6。内面：橙褐色5YR6/6に類似。	外面：ナデ。内面：ユビオサエのちナデ。調整は粗雑でユビオサエ痕明	3	3	3	3	3	3	底径9.4cm。接合面ではずれている。内面の脚端部と外面端部の一部に白色の細かい粒子付着。
56	2	古墳・土器	甕	口縁部	外面：ぶい黄橙褐色10YR7/4に類似。脚台天井部：橙褐色2.5YR6/6に類似。内面：黒色N1.5/0に類似。	内外面：ハケのちナデ。ハケメの間に平行の細かい線条が認められる。	3	3	5		3	3	底径7.95cm。脚台内面がドーム状を呈する。
57	2	古墳・土器	甕	胴部下部～底部	外面：ぶい黄橙褐色10YR6.5/4。内面：黒色N1.5/0に類似。	内外面：ユビオサエのちナデ。	4		4		5	A	底径9.5cm。脚台内面がドーム状を呈する。脚台内面に接合痕有り。
58	2	古墳・土器	壺	口縁部	外面：ぶい橙褐色7.5YR7/4。内面：灰色N6/6に類似。ぶい黄褐色10YR7/3。	外面：ナデ?。内面：ナデ。	4	4	4	4	4	4	外面：剥落している。
59	2	古墳・土器	鉢	完形	外面：ぶい橙褐色7.5YR6.5/4・黒褐色7.5YR3/1など。内面：ぶい褐色7.5YR5/4・黒褐色10YR3/1など。	外面：ユビオサエ、繊維状の工具による調整。下部は同じ工具によるミガキ。ミガキ痕の中に線条痕あり。内面：ハケのち繊維状のこうぐによるナデ。あらいナデ痕明瞭。	3	3	3	3	3	3	口径10.55cm。底径1.75cm。器高7.55cm。内面は胴部最大径の位置から下の器表があらわれている。

No	層・遺構	種類	長径 (cm)	短径 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石材	備考
55	SK26	石戈	5.2+a	5.3+a	1.1	23.0	頁岩	刃部が非常にシャープであるが、膨らみは緩やかで稜線はほとんど見られない。下端面は途中で欠損しているが、端部を一部擦っている部分が残っており、破面から突起部があったと推定できる。表面に比べると下端面の表面はあらい。



PL. 24 7トレンチ出土遺物

左上：56外面のハケ調整

左下：57脚台内面の接合線

中：59口唇部、右上：59外面のミガキ痕、擦過痕が認められる、右下：59底面、繊維状の圧痕が認められる

SK26の遺物も含めて、これらは中津野式から東原式の遺物でほぼ同時期のものである。

4.8 8トレンチ

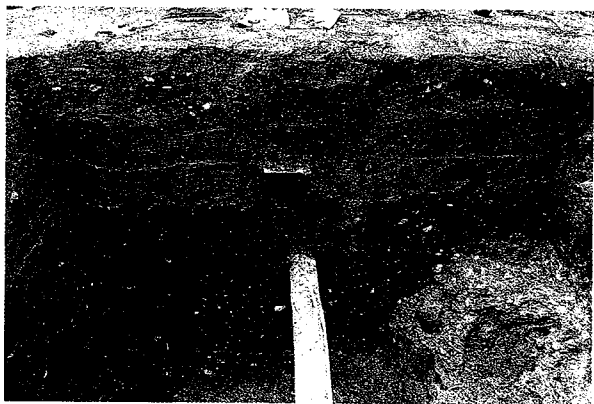
附属中学校プールの南東隅に隣接する。2 m四方の大きさである。

4.8.1 層位 (Fig. 22)

基本層位として1～5層までを確認している。このうち、1・3・4層が遺物包含層である。4層出土のものは、古墳時代の土器がほとんどだが、土師器も少し出土していることから、古代から古墳時代の包含層としたい。なお、4層上面で遺構を検出した。

4.8.2 遺構と遺物

4層上面より土壙状遺構1基、5層上面よりピット



PL. 25 8トレンチ東壁

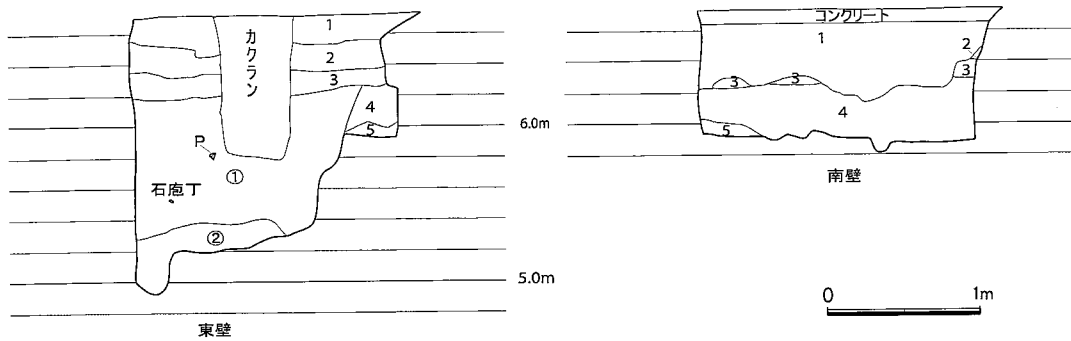


Fig. 22 8トレンチ層位断面図 S=1/40

Tab. 21 8トレンチ層位

層名	色調・土質	備考
1	表土	現代
2	褐灰色7.5YR1/6, シルト質砂. 1~2cm大の軽石を多く含む.	
3	明黄褐色2.5Y6/6, 粗砂混じりシルト質砂.	
4	赤灰色2.5YR1/4, 砂混じりシルト.	古墳
5	灰黄色2.5Y2/7, 粗砂.	
①	赤灰色2.5YR1/4, 砂混じりシルト, 若干やわらかい.	SK6埋土
②	①と5層土との混土.	SK6埋土.

Tab. 22 8トレンチ遺物出土状況

層	縄文	弥生	古墳	須恵器	土師器	土器	陶磁器	レインガス類	ガラス	石器	その他	計
1			82	2	1	149	1					235
3						1						1
4			71		3	338						412
SK6			266		2	870	2					1140
計			419	2	6	1358	3					1788

24基を検出した (Fig. 23)。

SK6

4層上面で検出した。配管によって、遺構の上部がL字状に攪乱を受けている。遺構は、平面形方形の北東角付近であると考えられる。非常に水分を含んだ土質であったため、掘削中には、明確な床面を検出できなかったが、土層断面観察によって、約20cmの厚さの張床 (層位断面図 Fig. 22-②) を有する住居跡であることがわかった。また、北東角部分の下場には幅10cm, 深さ5~10cmの細長い溝が認められる。板溝ではないかと考えられる。なお、張床除去後に底面にピットを9基確認した。このうち、B-B' に示しているように、調査区南西すみの2つのピットは深さ30cm前後で柱穴であると考えられる。他のピットは、深さ10cm前後で、浅い。

出土遺物は、1140点出土しているが、いずれも

Tab. 23 8トレンチ遺構一覧

遺構名	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	埋土
SK6	191.2+ α	173.2+ α		層位断面図①②
P51	9.6+ α	9.2	6.6	赤灰色2.5YR1/4, 砂混じりシルト.
P52	22.8+ α	15.2	7.0	赤灰色2.5YR1/4, 砂混じりシルト.
P53	8.4	9	4.8	赤灰色2.5YR1/4, 砂混じりシルト.
P54	15.6	13.2+ α	10.2	赤灰色2.5YR1/4, 砂混じりシルト.
P55	10.4	8	7.3	赤灰色2.5YR1/4, 砂混じりシルト.
P56	6.8	4.0+ α	-	赤灰色2.5YR1/4, 砂混じりシルト.
P57	8.8	6.8	5.3	赤灰色2.5YR1/4, 砂混じりシルト.
P58	8	6	7.6	赤灰色2.5YR1/4, 砂混じりシルト.
P59	12.8	11.2+ α	7.4	赤灰色2.5YR1/4, 砂混じりシルト.
P60	11.2	5.6	6.5	赤灰色2.5YR1/4, 砂混じりシルト.
P61	12.4	8.4	7.1	赤灰色2.5YR1/4, 砂混じりシルト.
P62	19.8	12.4	3.3	赤灰色2.5YR1/4, 砂混じりシルト.
P63	32	10	11.1	赤灰色2.5YR1/4, 砂混じりシルト.
P64	16.08	9.6	2.8	赤灰色2.5YR1/4, 砂混じりシルト.
P65	8	6.8	6.2	赤灰色2.5YR1/4, 砂混じりシルト.
P66	8.4	5.6	4.6	赤灰色2.5YR1/4, 砂混じりシルト.
P67	21.2	14.44	5.2	赤灰色2.5YR1/4, 砂混じりシルト.
P68	12.4	8.6	4.8	赤灰色2.5YR1/4, 砂混じりシルト.
P69	18.12	6.48	6.8	赤灰色2.5YR1/4, 砂混じりシルト.
P70	32.8	16.2	10.1	赤灰色2.5YR1/4, 砂混じりシルト.
P71	12	7.2	5.1	赤灰色2.5YR1/4, 砂混じりシルト.
P72	8.4	4.4+ α	10.6	赤灰色2.5YR1/4, 砂混じりシルト.
P73	8.8	6.88	4.8	赤灰色2.5YR1/4, 砂混じりシルト.
P74	8	6.2	4.1	赤灰色2.5YR1/4, 砂混じりシルト.

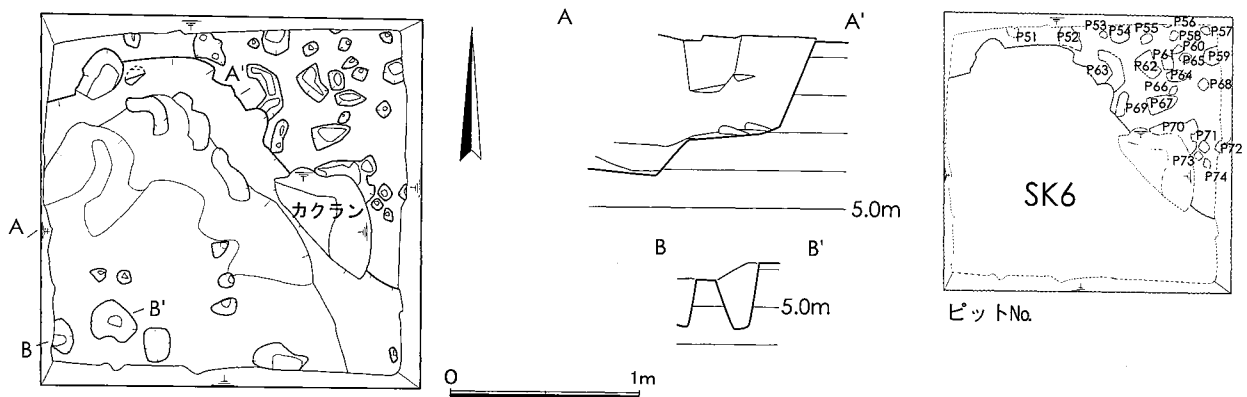
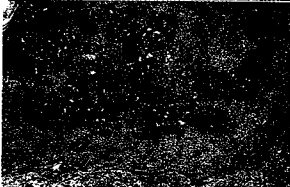
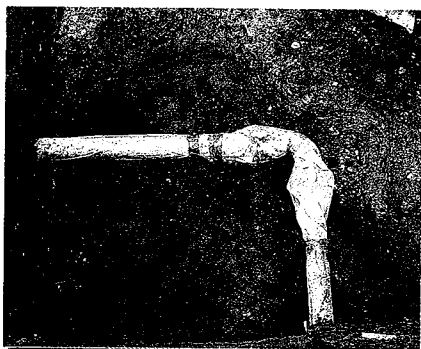


Fig.23 8トレンチ遺構図 S=1/40
赤は、張床掘削後の底面。



PL SK6 完掘状況
下: コーナー部下場の幅
5cm ほどの溝、板溝か？



PL.27 ピット完掘

埋土中に浮いた状態で出土している。また、小さい破片のものが多い。このうち実測できるものは、25点であった。古墳時代の甕8点(60~67), 壺4点(68~71), 高杯4点(72~75), 埴1点(76), 鉢2点(77・78), 手づくね土器1点(79), 須恵器杯1点(80), 壺(81)1点, 磁器1点(82), 石包丁1点(83), 軽石製品1点(84)である。

このうち、磁器は配管による攪乱の直下で出土しており、配管工事の掘削による混ざりこみである可能性が高い。

これを除去すると、ほとんど古墳時代後半のもので、笹貫式にあたると考えられる。80はTK10に比定できると考えられる。

ピット群 (P51 ~ 74)

SK8の北東に24基のピットを検出した。検出面は5層上面で、SK6に切られているものもあるため、SK6よりは古いものもあるが、その関係は不明である。ほとんどが10cm前後の小さなものである。埋土は、4層土に類似している。

包含層出土遺物 (Fig. 25)

実測できるものは、1層と4層出土遺物である。古墳時代前半の甕1点(85), 古墳時代後半の甕3点(86・88・89), 弥生時代終末期~古墳時代前期1点(87), 古墳時代後半の高杯2点(90・91), 古墳時代後半期の埴1点(92), 土師器1点(93), 石器1点(94), 青銅製品1点(95)となっている。

4.9 9トレンチ

テニスコート北西すみに位置し、東西3m, 南北1.5mの大きさである。

4.9.1 層位 (Fig. 26)

基本層位として、1~5層までを確認した。ほぼ水平に整合的に堆積しているが、5層上面が北東側に傾斜しており、4層も同様に傾斜している。遺物は、1~4層までに包含されている。3層までは陶磁器が多く含まれており、近世以降の包含層である。4層は、古墳時代の土器と土師器が1点含まれており、古墳時代から古代の包含層と考えられる。

4.9.2 包含層出土遺物 (Fig. 27)

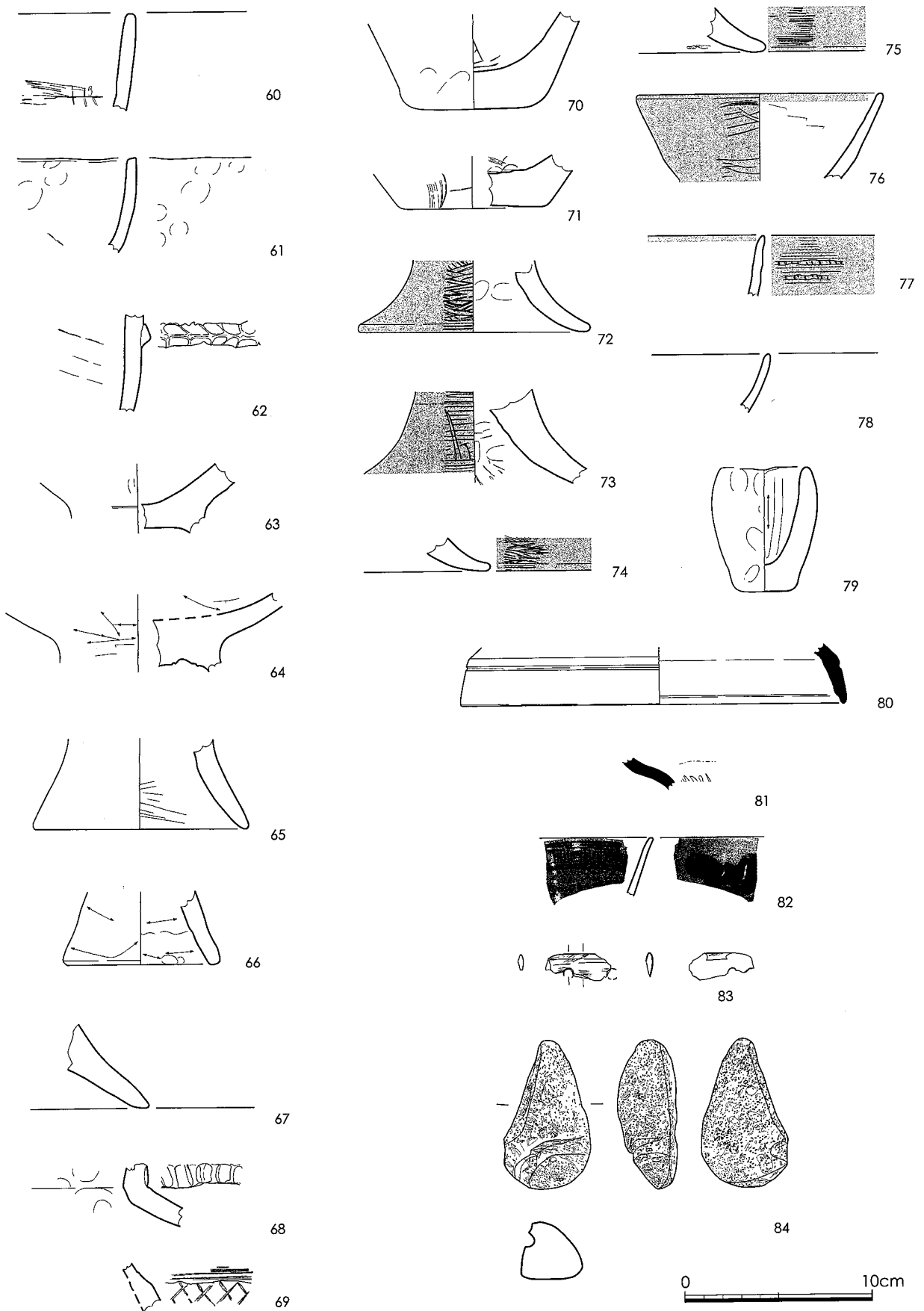
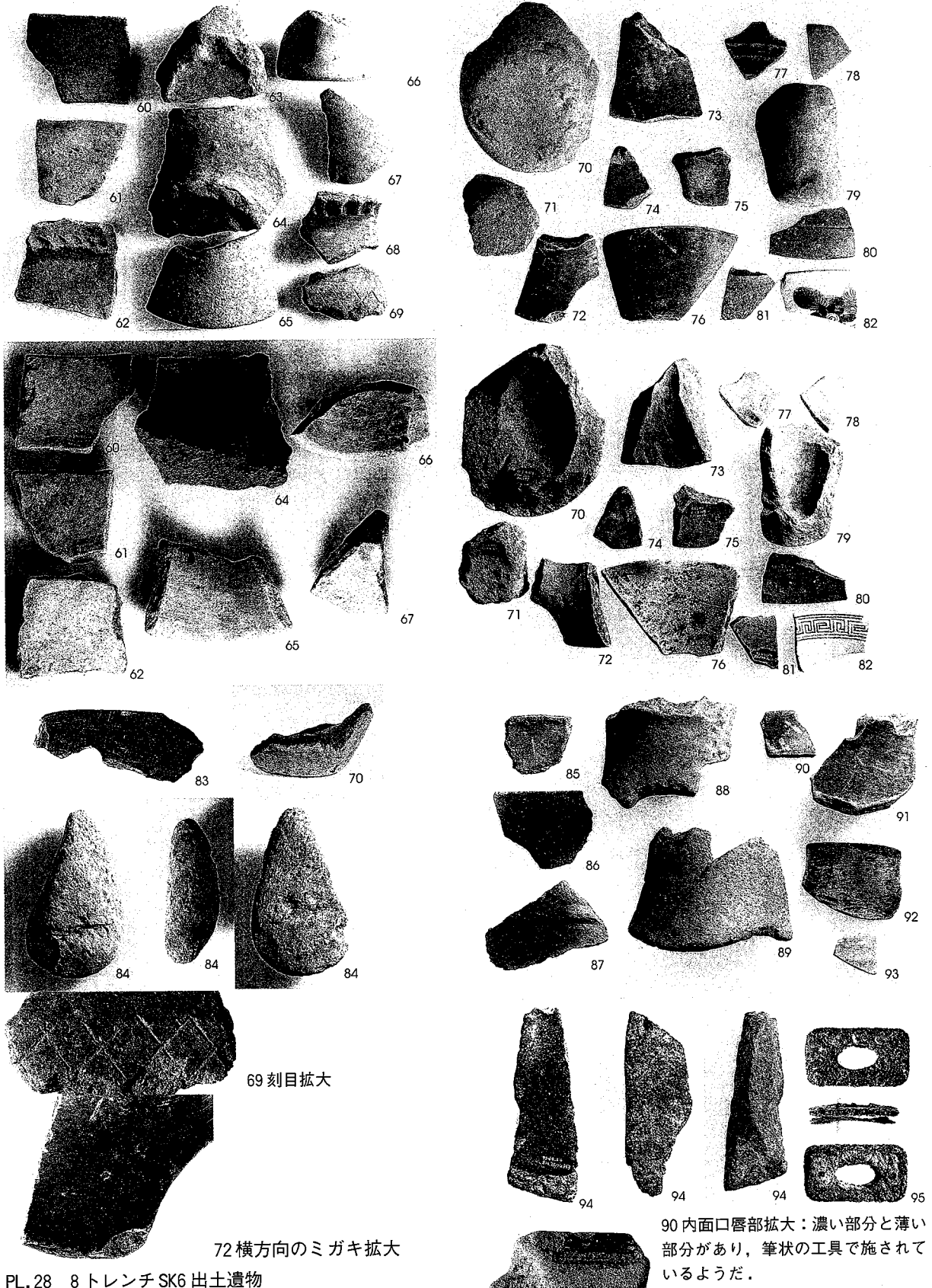


Fig. 24 8トレンチSK6出土遺物 S=1/3

Fig.25 8 トレンチ SK6 出土遺物観察表2

No	層・遺構	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石材	備考
83	SK6	石包丁	3.3+ α	1.4+ α	0.3+ α	1.57	頁岩	穿孔付近の一面だけ残存している。裏面は剥落している。表面に成形時に施された擦過痕が認められる。
84	SK6	軽石製品	8.0	4.65	3.1	18.8	軽石	下膨らみの紡錘形を呈する。ひとつの側面と裏面には平坦面を持つ。下部に横方向の凹線が認められる。



PL.28 8 トレンチ SK6 出土遺物

PL.29 8 トレンチ包含層出土遺物

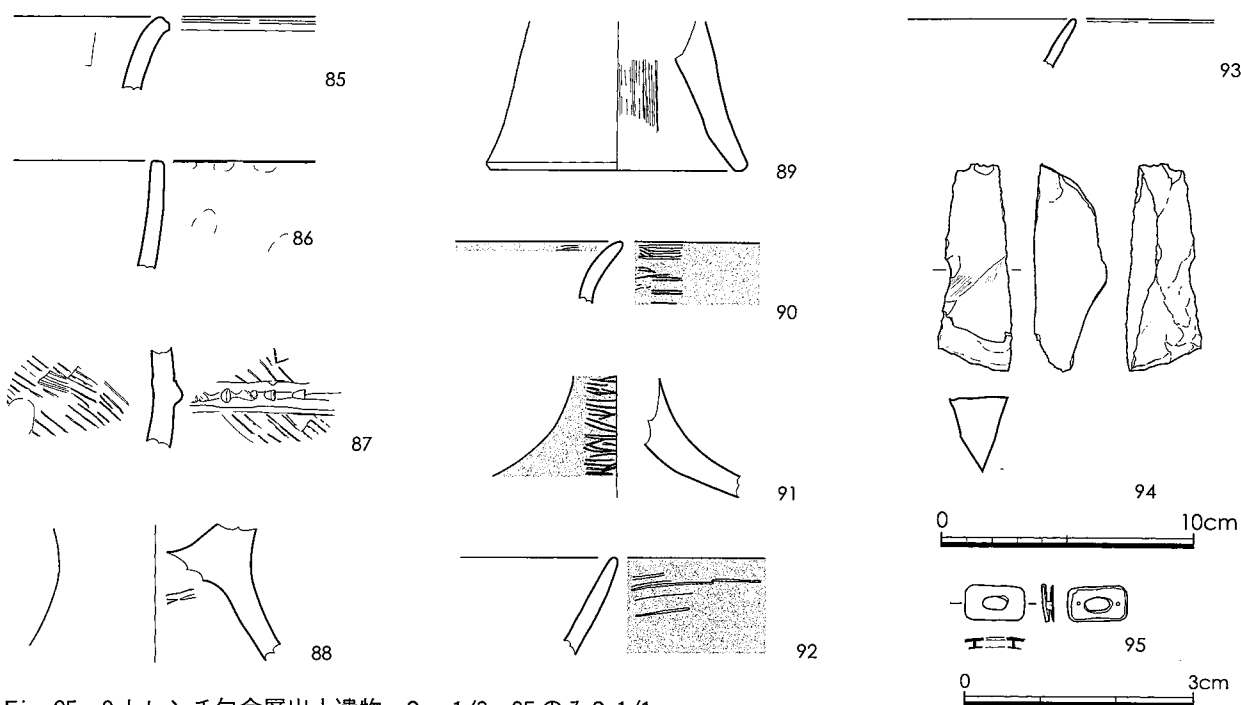


Fig. 25 8トレンチ包含層出土遺物 S=1/3, 95のみS=1/1

Tab. 26 8トレンチ包含層出土遺物観察表

No	層・遺構	種類	器種	部位	色調	調整	胎土					備考
							R	W	B	Q	S	
85	4	古墳・土甕器		口縁部	外面：にぶい赤褐色5YR5/4に類似。内面：にぶい橙～橙色7.5YR6/4～6/6.	内外面上部：ヨコナデ，外面下部；ナデ。内面下部：ハケ？のちナデ。	4	4	4	5	4	わずかに湾曲しながら外反する器形を呈する。口唇部はヨコナデによって面をもち、器壁の厚さよりわずかに拡張している。
86	4	古墳・土甕器		口縁部	外面：黒色N2/1に類似。内面上部：橙色5YR6/7，にぶい黄橙色10YR7/3，下部；黒褐色10YR3/1.	外面：ユビオサエのちナデ。内面：幅0.5cm単位のナデ工具による横方向のナデ。平行の線条痕あり。	3		3	3	3	篋貫式。内湾気味に直立する器形を呈する。外面にはススが附着している。
87	4	古墳・土壺器		胴部	外面：にぶい黄橙色10YR6/3，暗灰～黒色N3/～2/。内面：にぶい黄橙色10YR6.5/3.	内外面：ハケ。	3	3	3		3	胴部に1条の刻み目突帯を有する。刻みは浅く、小さい。
88	カクラ	古墳・土甕器		底部	外面：にぶい黄橙色10YR6.5/4。内面：褐灰～黒褐色7.5YR4/1～3/1。脚台内面：10YR8/3浅黄橙色？鉄分附着。	外面：摩滅のため不明。内面：ナデ。脚台内面：横方向のナデ。	3	3	3	3	3	約1/3残存，反転復元。脚端部を欠損している。外面は摩滅している。
89	カクラ	古墳・土甕器		脚部	外面：淡黄色2.5Y8/3に類似。内面上部：にぶい橙色5YR7/4，下部：浅黄橙色7.5～10YR8/4。器肉：にぶい橙色5YR7/4.	外面：摩滅のため不明。内面上部：タテ方向のハケ，下部：ヨコナデ。	4		5	4	4	約1/3残存，反転復元。底径(9.8)cm。脚部。接合部で欠損している。内面と器肉が二次的加熱のため赤変している。外面は摩滅している。
90	4(排土)	古墳・土高杯器		口縁部	外面～内面上部：赤色10R4/7，内面下部：にぶい橙～橙色7.5YR7/4～7/6.	外面～内面上部：横方向のミガキ。内面下部：ヨコ方向のナデ。	2	2	2			鉢の可能性もあり、くの字にきつく屈曲する器形を呈するものと推定できる。外面と内面上部に赤色顔料が附着しているが、内面は横方向に濃淡が観察でき、筆状の工具で塗られた可能性あり。
91	4	古墳・土高杯器		脚部	外面：暗赤褐色2.5YR3/6に類似。内面：褐灰～黒褐色7.5YR4/1～	外面：横方向のミガキ。内面：ナデ？。	2	2	2	2		約1/2残存，反転復元。外面：赤色顔料附着。
92	カクラ	古墳・土高杯器		口縁部	外面：暗赤褐色2.5YR3/6に類似。内面：暗灰色。	外面：横方向のミガキ。内面：摩滅している。	2	2		2		腕状の器形を呈すると考えられる。外面：赤色顔料附着。器面があれ、部分的に剥落している。
93	4	土師器	杯	口縁部	内外面：浅黄橙色10YR8/4.	内外面：回転ナデ。	2	2				器面に回転なでによる凹凸がわずかに認められる。
No	層・遺構	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石材					備考
94	3		8.15	2.85	2.85	65	頁岩					断面三角形を呈しする。下端部のみ丸い。表面には平坦面を有し、擦過痕が認められる。
95	4	不明	1.55	0.9	0.3	0.96	青銅製品					厚さ1mmと0.5mmの薄い板を幅0.7mmの細い棒で留めている。板の間には約1.5mmの間隔がある。細い棒状の部分は錆がひどく、間をつないでいる部分の大きさは不明である。少し、薄い板の方へ反っている。

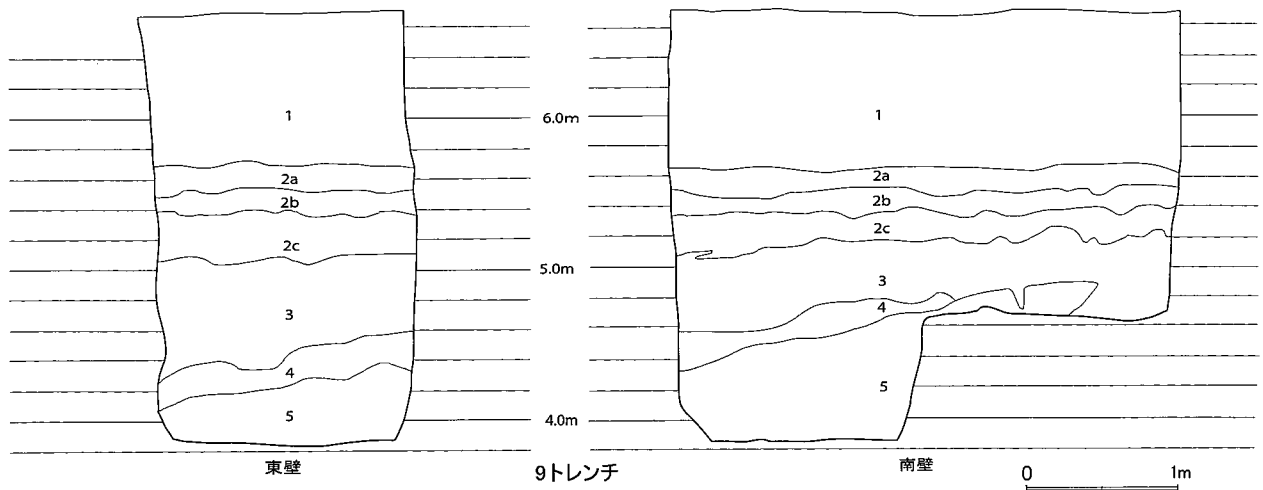


Fig. 26 9トレンチ層位断面図 S=1/40

Tab. 27 9トレンチ層位

層名	色調・土質	備考
1層	シラスの2次堆積土, 盛土.	
2a層	10YR1/4褐灰色, 砂混じりシルト. 1cm 大の軽石を含む.	
2b層	2.5Y2/4暗灰黄色, 砂混じりシルト.	
2c層	2.5Y1/4黄灰色, 砂混じりシルト.	
3層	2.5Y1/6黄灰色, 粗砂. 3層中位には細 砂と軽石と2.5Y1/4黄灰色を基調と する砂の混土が混じる.	
4層	2.5Y1/3黒褐色, 粗砂混じりシルトを 基調として軽石や5層土をブロックで 含む.	
5層	粗砂.	

Tab. 28 9トレンチ遺物出土状況

層	縄文	弥生	古墳	須恵器	土師器	土器	陶磁器	レックス	ガラス類	石器	その他	計
1			4			11	2			1		18
2			20		2	219	1		2	2		246
3			155	1	15	1609	50		2	2	4	1838
4			45		1	98				1		145
計			224	1	18	1937	53		4	3	7	2247



PL.30 9トレンチ東壁

出土遺物のうち, 実測可能なものは21点であった。古墳時代前半の甕2点 (96・97), 古墳時代後半の甕7点 (98~104), 弥生時代後期と考えられる壺1点 (106), 古墳時代の壺1点 (107), 古墳時代前期の高杯4点 (108~111), 高杯1点 (112), 古墳時代の鉢1点 (113), 土師器の甕1点 (114), 磁器碗1点 (115), 石器1点 (116) である。

4.10 10トレンチ

テニスコートの中央部に位置する。東西3m, 南北1.5mの大きさのトレンチである。

4.10.1 層位 (Fig. 28)

基本層位として, 1~8層までを確認した。いずれも水平に整合的に堆積している。遺物が包含しているのは1・2層のみで, 出土量も少ない。

4.10.2 包含層出土遺物 (Fig. 29)

1・2層より土師器, 土器, 陶磁器が出土している。このうち, 実測できるものは磁器碗 (117) と陶器碗 (118) の2点であった。

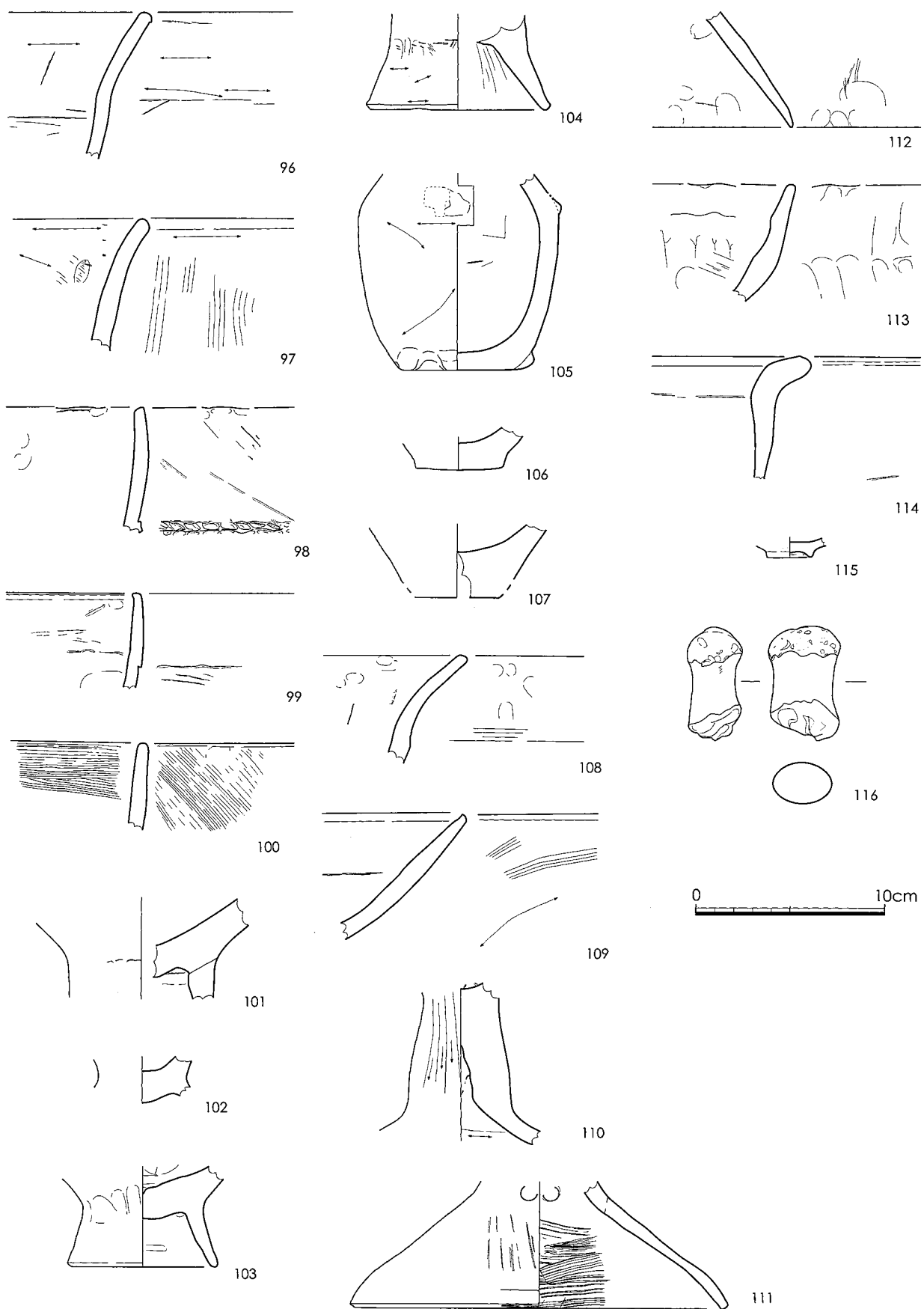


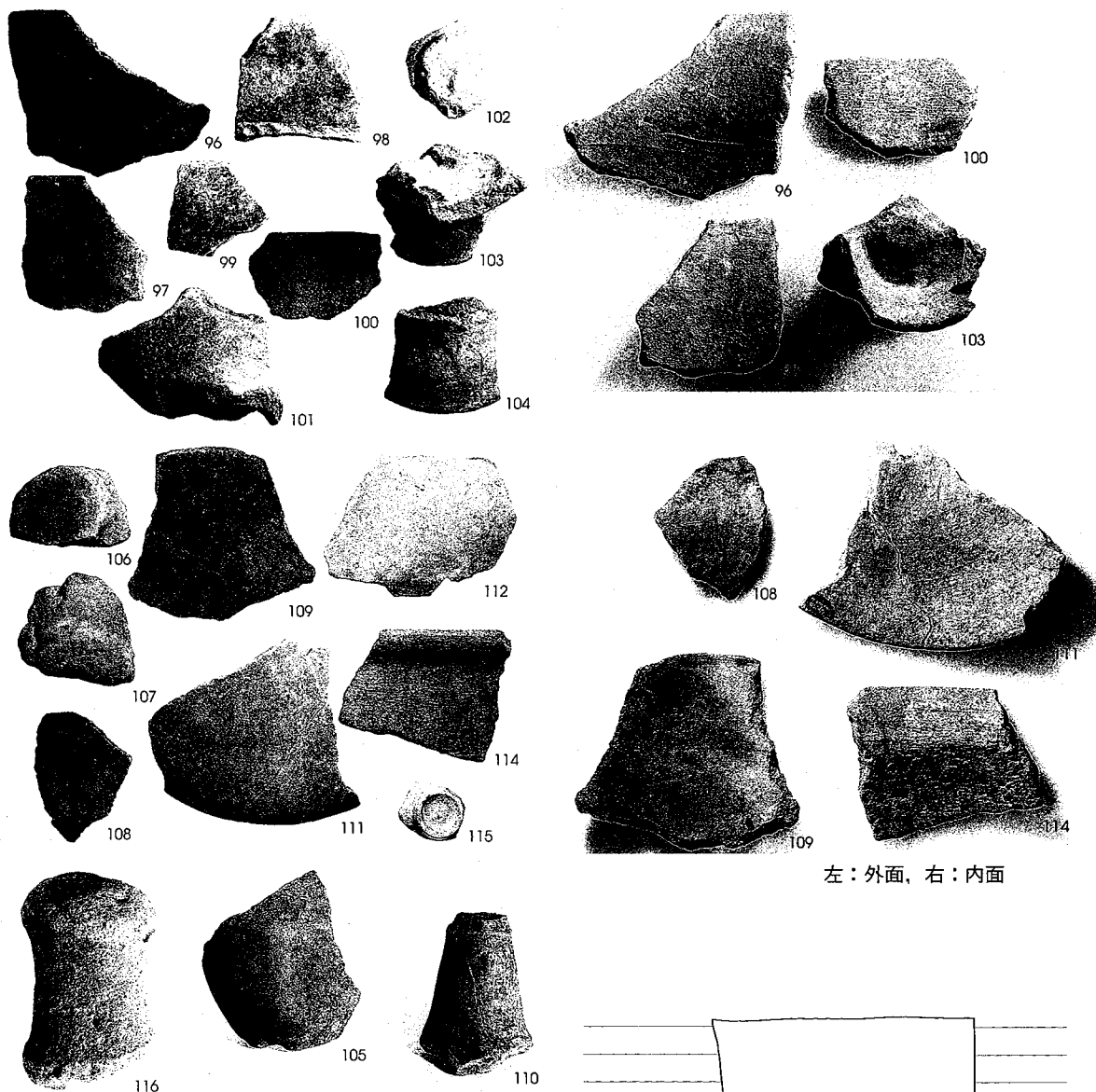
Fig. 27 9トレンチ出土遺物 S=1/3

Tab.29 9 トレンチ出土遺物観察表1

No	層・遺構	種類	器種	部位	色調	調整	胎土					備考	
							R	W	B	Q	S		
96	4	古墳・土器	甕	口縁部	外面：褐灰～黒褐色7.5YR4/1～3/1。内面：橙色7.5YR6/6?。	内外面：ハケのち横方向のナデ。	4	4	4	4	4	4	外面屈曲部には、上方向に施したハケ調整の工具打ち込み痕が横方向に並んでおり、稜線状を成す。内面鉄分付着。
97	3	古墳・土器	甕	口縁部	外面：鉄分付着、黄灰色2.5Y4/1に類似?。内面：橙色5YR6/6。	ハケのち横方向のナデ。	3	3	3	3	3	3	辻堂原式?。わずかに外側に外反する口縁部。
98	4	古墳・土器	甕	口縁部	外面：橙色5YR6/6。内面：黄灰色2.5Y5.5/1, 灰白色2.5Y8/2, 浅黄橙色7.5YR8/3。	ハケのちナデ。	4	4	4	4	4	4	篋貫式。内湾気味に直立する口縁部で絡縄突帯を1条有する。外面にスス付着。
99	4	古墳・土器	甕	口縁部	外面：灰褐色7.5YR4/2に類似。内面：黄灰色2.5Y5/1。器内：暗灰色N3/1に類似。	外面上部：ナデ。外面下部：ハケのちナデ。内面：ハケのちナデ。	3	3	3	3	3	3	篋貫式。直立する口縁部形態を呈するが、上部は粘土帯を外側に貼り付け、肥厚させている。内面鉄分付着。
100	3	古墳・土器	甕	口縁部	外面：黒褐色7.5YR3/1, 下部；橙色7.5YR7/6に類似。内面：褐色7.5YR4/3, 下部；明黄褐色10YR7/6に類似。	内外面：ハケ。	3	3	3	3	3	3	篋貫式。直立する口縁部形態を呈する。
101	4	古墳・土器	甕	底部	外面：にぶい橙色7.5YR7/4に類似。脚見込：にぶい黄橙色10YR7/2に類似。内面：灰白色10YR～2.5Y8/2。器内：褐灰色10YR4/1。	内外面：ハケのちナデ?。脚見込：ユビオサエ。	4	4	5	4	4	4	約1/3残存、反転復元。脚見込に爪痕、接合痕あり。断面にも接合痕が認められる。摩滅している。外面鉄分付着。
102	2	古墳・土器?	甕	底部	外面：浅黄橙色10YR8/3に類似。内面：褐色7.5YR4/4。器内：2.5Y4/3オリーブ褐色。	内外面：ナデ?鉄分付着。脚見込：ユビオサエ。	3	3	3	5	5	3	小型品。摩滅が著しく、鉄分も付着している。
103	2	古墳・土器	甕	底部	内外面：浅黄橙～淡黄色10YR～2.5Y8/3, 黄灰色2.5Y6/1。	外面：ユビオサエのちナデ。内面：ハケのちナデ。中央部にシボリ痕あり。脚台内面：ハケのちナデ。	3	3	3	3	3	3	約1/2残存、反転復元。底径(7.45)cm。脚台内面天井部は、中央部が下方へ突き出し、脚部との接合部はユビオサエによってくぼんでいる。
104	4	古墳・土器	甕	脚部	外面：にぶい黄橙色10YR6.5/4, 赤色10R5/8に類似。内面：黒色10YR2/1?。	内外面：ハケのちナデ。	3	3	3	3	3	3	約1/4残存、反転復元。底径(9.15)cm。内面鉄分付着。
105	4	古墳・土器	壺	胴部～底部	外面：橙色5YR6/7, 橙色2.5～5YR6/8, にぶい橙色7.5YR6.5/4, 褐灰色10YR4/1, 黒褐色10YR3/1。内面：橙色5YR6/7。	外面：ナデ。内面：ハケのちナデ。	3	3	3	3	3	3	約1/2残存、反転復元。底径(6.0)cm。肩部に突起状の粘土が付着しているが、剥落のため全形は不明。突帯になる可能性もある。底部外面には、ふたつの突起を有する。
106	4	古墳・土器	壺	底部	外面：橙色5YR6/6?。	鉄分付着で詳細不明。	3	3	3	3			約2/3残存。底径4.6cm。平底だが、底面はゆるやかな凸面を有する。
107	4	古墳・土器	壺	底部	外面：橙色5YR6/6。内面：橙色7.5YR6/6。	摩滅していて不明。	3	3	3	3	3	3	約1/2残存、反転復元。底径(4.5)cm。緩やかな凸面を持つ平底であるが、非常に摩滅・剥落している。
108	4	古墳・土器	甕	口縁部	外面：黒色10YR2/1～1.7/1に類似。内面上部：黒褐色5YR2.5/1, 下部；にぶい赤褐色5YR4/4に類似。	内外面：ハケのちナデ。ナデは横方向。	3		3	3	3	3	屈曲部から、外側に湾曲して大きく開く形態を呈する。屈曲部は低い段を持つ。鉄分付着。
109	4	古墳・土器	高杯	杯部	外面：黒色10YR2/1に類似、にぶい赤褐色2.5YR4.5/4。内面：黒褐色5YR2.5/1, 灰褐色5YR4/2に類似、明赤褐色2.5YR5/7。	内外面：ハケのちナデ。	3	3	3	3	3	5	浅い椀状の器形を呈する杯部。内面口唇部は、ヨコナデによってくぼんでいる。中程に、ハケ工具を口縁部に沿って連続して打ち込んだ跡が1条の沈線状に認められる。外面：スス付着、内面：黒く光沢のある付着物あり。
110	3	古墳・土器	高杯	脚部	内外面：灰白～灰黄色2.5Y8/2～7/2, にぶい黄橙色10YR7/3に類似。	外面：下方向のナデ。内面：上部はナデ、下部は横方向のナデ。	2	2	2				中程で屈曲して裾部が外に広がる形態を呈する。筒部はわずかに膨らんでいる。鉄分付着、摩滅している。
111	3・4	古墳・土器	高杯	脚部	外面：にぶい橙～橙色7.5YR6/4～6/6。内面：褐灰～黒褐色7.5YR4/1～3/1?。	内外面：ハケのちナデ。	2	2	2	2	2	2	約1/6残存、反転復元。底径(19.7)cm。穿孔径0.85cm。内面鉄分付着。内湾する脚部。円形の穿孔を施す。
112	3	古墳・土器	高杯?	脚部	外面：黄灰色2.5Y4/1に類似、にぶい黄橙色10YR7/4。内面：褐灰色10YR4/1, にぶい黄橙色10YR7/3。	ハケ?のちナデ。	3	3	3	3	3	3	内膨らみ気味に広がる脚部。端部はユビオサエのため少しゆがんでいる。鉄分付着。
113	4	古墳・土器	鉢	口縁部	外面：暗灰色N3/1に類似、青灰色5PB5/1に類似、黄灰色2.5Y6/1に類似、灰白色2.5Y8/1, 灰黄色2.5Y7/2, 浅黄橙～にぶい橙色7.5YR8/4～7/4。内面：にぶい黄橙色10YR7/4。器内：暗青灰色5PB4/1に類似。	外面：縦方向のユビナデ。外面：ハケのちナデ。	3	3	3	3	3	3	椀状の器形を呈する。縦方向のユビナデ痕が内外面とも明瞭に残る。内面には粘土の貼り付け跡が明瞭に残る。非常に粗雑な作りである。内面鉄分付着。
114	4	土師器	甕	口縁部	外面：にぶい褐色7.5YR5.5/3?。内面：黒褐色7.5YR3/1?。	内外面：横方向のナデ。	3	3	3	3	3	3	鉄分付着。
115	2	陶器	碗?	底部	磁胎：灰白色N7/1に類似。釉：明緑灰色7.5GY7/1半透明釉。文様：緑黒色7.5GY2/1。	高台壘付部無軸。	2	2					小型品。底径2.4cm。細かい貫入あり。

Fig.30 9トレンチ出土遺物観察表2

No	層・遺構	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石材	備考
116	4	不明	6.1	3.65	2.9	75	安山岩	断面は円形で、両端部が丸い、中心部は擦っているようである。端部も擦っているが、岩石の表面の凹凸が残っており、あまり丁寧ではない。



左：外面，右：内面

PL.31 9トレンチ出土遺物

4.11 11トレンチ

教育学部3号棟講義等の西側に位置する。1.5m四方の大きさのトレンチである。

4.11.1 層位(Fig.30)

基本層位として、1～4層までを確認した。いずれも水平に整合的に堆積している。遺物が含まれているのは3層のみで、出土量も少ない。

4.11.2 包含層出土遺物 (Fig.31)

3層より土師器と土器が出土している。このうち、実測できるものは土師器片(119)の1点のみ

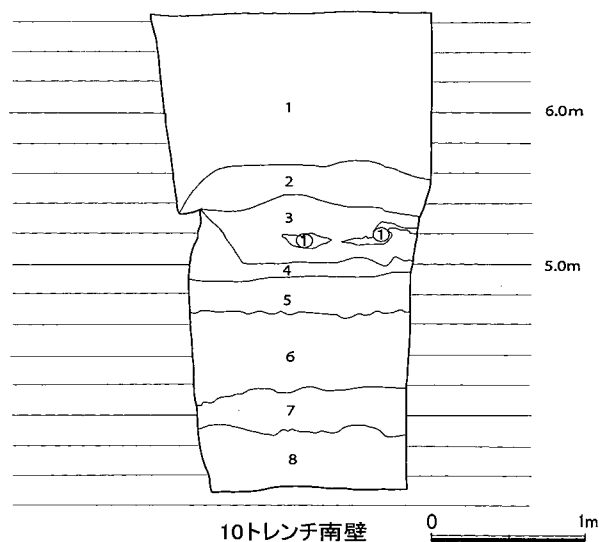


Fig.28 10トレンチ南壁



PL.32 10トレンチ南壁

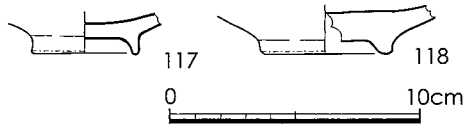


Fig.29 10トレンチ出土遺物 S=1/3

Tab.31 10トレンチ層位

層名	色調・土質	
1	表土.	現代
2	褐灰色7.5YR4/1.	近代
3	にぶい褐色7.5YR6/3, マンガン含む.	
4	褐灰色10YR6/1, シルト質砂.	
5	褐灰色10YR5/1, シルト質砂. 軽石(1~2cm大)を含む.	
6	暗青黒色5BG2/1, 泥炭層. 下部に5cm大の軽石礫含む.	
7	暗青灰色5BG4/1, シルト混じり粗砂.	
8	青灰色5BG5/1, 粗砂層.	
①	褐灰色10YR4/1, 砂層.	

Tab.32 10トレンチ遺物出土状況

層	縄文	弥生	古墳	須恵器	土師器	土器	陶磁器	レンガ	ガラス類	石器	その他	計
1						2	8					10
2				1			43			1	2	47
計				1	2	51				1	2	57



PL.33 10トレンチ出土遺物

Tab.33 10トレンチ出土遺物観察表

No	層・遺構	種類	器種	部位	色調	調整	胎土					備考	
							R	W	B	Q	H		S
117	2	染付	碗	底部	施釉部：明緑灰色10GY7/1に類似の半透明. 器内：灰白色N8/0に類似.		2	2					約1/3残存, 反転復元. 底径(4.2)cm. 高台壘付け部無釉.
118	2	陶器	碗	底部	外面：オリーブ灰色10Y4/2に類似. 内面：灰白色7.5Y8/2に類似. 器内：灰褐色5YR4/2に類似.	内面見込み蛇の目状に釉ふき取り.	5	2					約1/3残存, 反転復元. 底径(4.9)cm. 高台壘付け部~高台内無釉.

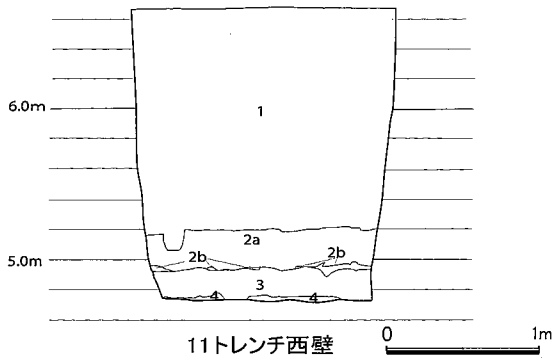
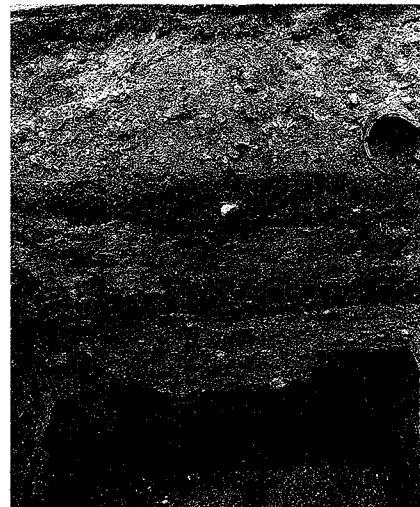


Fig.30 11トレンチ西壁



PL.34 11トレンチ西壁

Tab. 34 11 トレンチ層位

層名	色調・土質
1	地表面～地表化130cmは灰褐色土を基調として軽石やコンクリートブロックを含む。その直下に約25cmの層厚でシラスが盛られ、それ以下は暗灰褐色シルト質砂や黒色シルト質砂、暗黄褐色シルト質砂がブロック上に混ざっている。
2a	暗灰黄色2.5Y4/2,シルト質砂。
2b	黄灰色2.5Y4/1,シルト質砂。
3	褐灰色10YR4/1,シルト質砂。
4	黒褐色2.5Y3/1,シルト。

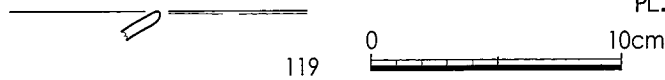


Fig. 31 11 トレンチ出土遺物 S=1/3

Tab. 35 11 トレンチ遺物出土状況

層	縄文	弥生	古墳	須恵器	土師器	土器	陶磁器	レタ	ガラス類	石器	その他	計
	3					1	3					
計					1	3						4



PL. 35 11 トレンチ出土遺物

Tab. 36 11 トレンチ出土遺物観察表

No	層・遺構	種類	器種	部位	色調	調整	胎土						備考		
							R	W	B	Q	H	S			
119	3	土師器	杯	口縁部	外面：浅黄橙色10YR8/3。内面：淡橙色5YR8/4。	内外面：回転ナデ。	2	2	2	2					
							ABC	D	D	C					

であった。

4.12 12 トレンチ

教育学部2号講義棟の西側に位置する。1.5m四方の大きさである。

4.12.1 層位 (Fig. 32)

基本層位として、1～6層までを確認した。ほぼ水平に整合的に堆積している。遺物が包含しているのは1～5層だが、出土量は少なく、遺物は小片で磨滅している。

4.12.2 包含層出土遺物 (Fig. 33)

遺物は、古墳時代の土器、土師器、土器、陶磁器が1～5層で出土している。このうち実測できるのは5点である。古墳時代の甕 (120)、土師器 (121・122)、陶器2点 (123・124) である。



PL. 35 12 トレンチ西壁

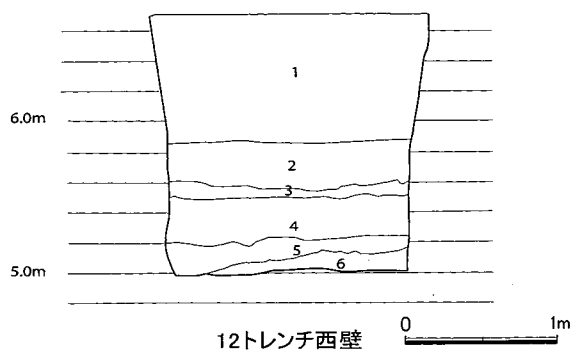


Fig. 32 12 トレンチ西壁

Tab. 37 12 トレンチ層位

層名	色調・土質	備考
1	表土。	現代
2	黄灰色2.5Y5/1, . 砂混じりシルト。	近代・近世
3	褐灰色10YR4/1, 砂混じりシルトを基調とし、明赤褐色5YR5/8, の鉄分を含む。0.5～2cm大の軽石を少し含む。	近世
4	褐灰色10YR4/1, 砂混じりシルト。0.5～2cm大の軽石を少し含む。	
5	黒褐色10YR3/1, 砂混じりシルト。0.5～2cm大の軽石を少し含む。	古墳
6	黄色2.5Y6/4, 粗砂層。	

Tab. 38 12トレンチ遺物出土状況

層	縄文	弥生	古墳	須恵器	土師器	土器	陶磁器	レンガ	ガラス類	石器	その他	計
1			2			5	1					8
2						2	3					5
3			1		12	11	1					25
5			1			2						3
計			4		12	20	5					41

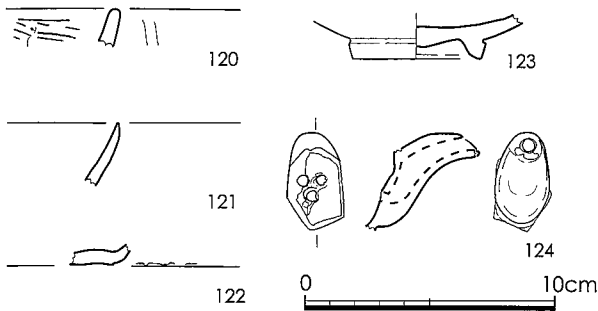
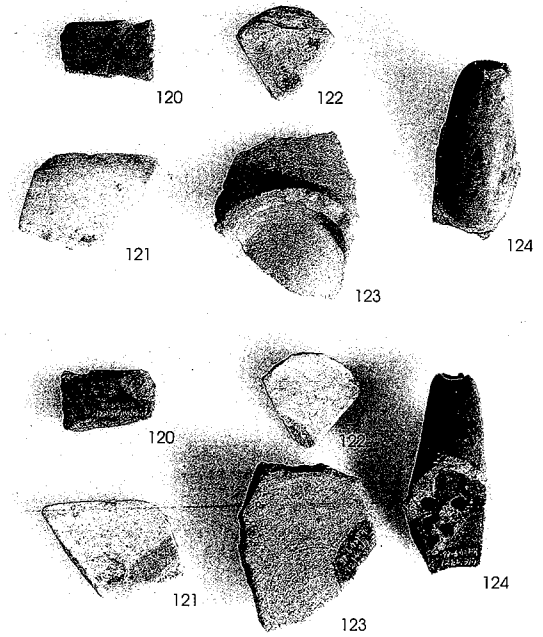


Fig. 33 12トレンチ出土遺物 S=1/3



PL. 37 12トレンチ出土遺物

Tab. 39 12トレンチ出土遺物観察表

No	層・遺構	種類	器種	部位	色調	調整	胎土						備考
							R	W	B	Q	H	S	
120	5	古墳・土器	甕?	口縁部	内外面：褐色7.5YR4/4.	ハケのちナデ.	3	3	3	5	3	直立する口縁部の端部だろうと推定される。	
121	3	土師器	杯	口縁部	外面：灰白色2.5Y8/2. 内面：肉：灰白色10YR8/2.	内外面：回転ナデ.	2	2	2			口縁端部が尖り、少し内湾気味に立ち上がる器形を呈する。	
122	3	土師器	杯	底部	外面：明黄褐色10YR7/6. 内面：浅黄褐色10YR8/3.	外面：磨滅している。内面：回転ナデ.	2	2	2			平底。磨滅し、鉄分附着。	
123	2	陶器	碗	底部	施釉部：にぶい赤褐色2.5YR4/3. 器肉：灰白色N7/0.	内外面：回転ナデ。全面施釉.	3	3				約1/3残存、反転復元。底径(5.0)cm.	
124	3	陶器	茶家	注口	外面：灰褐色5YR4/2. 内面：褐色7.5YR4/3. 器肉：灰N6/0.	全面施釉.	1	1				注口根元の穴の部分は、内側に粘土が押し出されて穴のまわりに付着している。	

4.13 13トレンチ

テニスコート北西隅に位置する。1.5m四方の大きさである。

4.13.1 層位 (Fig. 34)

基本層位として、1～6層までを確認した。いずれも水平に整合的に堆積している。遺物が包含しているのは1～5層までで、出土量は少なく、破片も小さく磨滅している。

4.13.2 包含層出土遺物 (Fig. 35)

出土遺物は古墳時代の土器、須恵器、土師器、土器、陶磁器が出土している。このうち、実測できるものは古墳時代の埴の口縁部と考えられる破片(125)、土師器2点(126・127)のみであった。

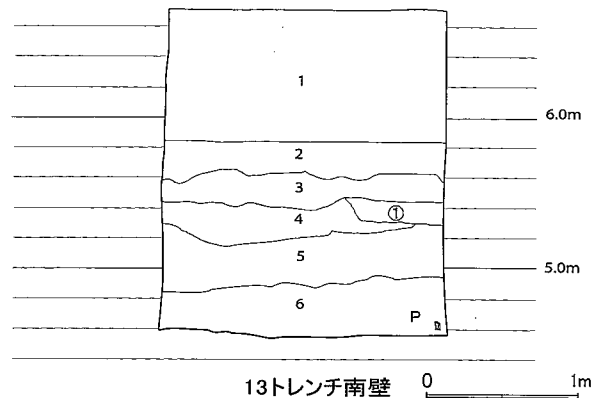
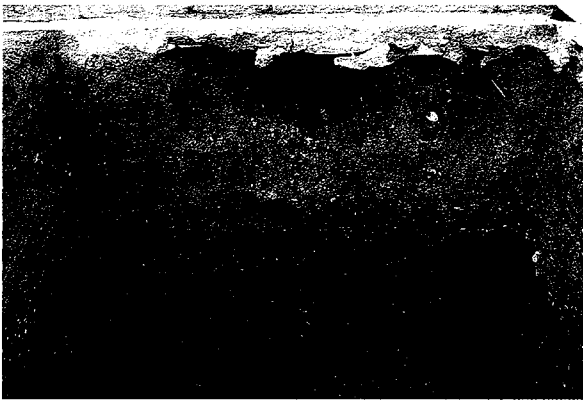


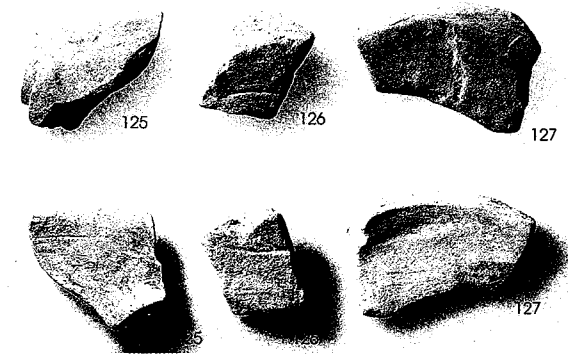
Fig. 34 13トレンチ南壁層位断面図 S=1/40



PL.38 13トレンチ西壁

Tab.40 13トレンチ層位

層名	色調・土質	備考
1	表土.	現代
2	2.5Y5/1, 黄灰色, 砂混じりシルト.	
3	10YR4/1褐灰色, 砂混じりシルトを基調とし, 5YR5/8, 明赤褐色の鉄分を含む. 0.5~2cm大の軽石を少し含む.	近世
4	10YR4/1褐灰色, 砂混じりシルト. 0.5~2cm大の軽石を少し含む.	
5	10YR3/1黒褐色, 砂混じりシルト. 0.5~2cm大の軽石を少し含む.	古代
6	2.5Y6/4黄色, 粗砂層.	
①		



PL.39 13トレンチ出土遺物

Tab.41 13トレンチ遺物出土状況

層	縄文	弥生	古墳	須恵器	土師器	土器	陶磁器	レンガ	ガラス類	石器	その他	計
1			2			1	4					7
2			2			5	4					11
3			1	1	3	7	1					13
4				2	2	3						7
計			5	3	10	15	5					38

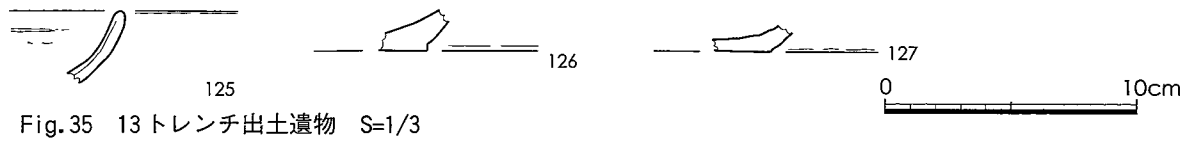


Fig.35 13トレンチ出土遺物 S=1/3

Tab.42 13トレンチ出土遺物観察表

No	層・遺構	種類	器種	部位	色調	調整	胎土						備考	
							R	W	B	Q	H	S		
125	4	古墳・土器	埴	口縁部	内外面: 浅黄橙~淡橙色7.5~5YR8/4. 器内: 淡赤橙色2.5YR7/4.	外面: ナデ. 内面: ハケのち横方向のナデ.	2	2	2					内湾気味の口縁部. 断面に接合痕が認められる. 摩滅している.
126	2	土師器	杯	底部	内外面: 灰白色2.5Y8/2.	内外面: 回転ナデ. 底面: 糸切り底.	2	2	2					平底で, 立ち上がり部が少し張り出す. 摩滅している.
127	4	土師器	杯	底部	外面: にぶい橙色7.5YR7/4. 内面: 浅黄橙色7.5YR8/3. 底面: にぶい橙色5YR7/4.	外面: 摩滅している. 内面: 回転ナデ.	2	2	2					平底. 摩滅している.

4.14 14トレンチ

球技場南東隅に位置する。南北2.5m, 東西4.5mの大きさである。

4.14.1 層位 (Fig.36)

基本層位として, 1~7層までを確認した。土層は攪拌されており, 4層以下は東側に傾斜している。遺物は1~3層までに含まれており, それ以下は無遺物層である。



PL.40 14トレンチ北壁

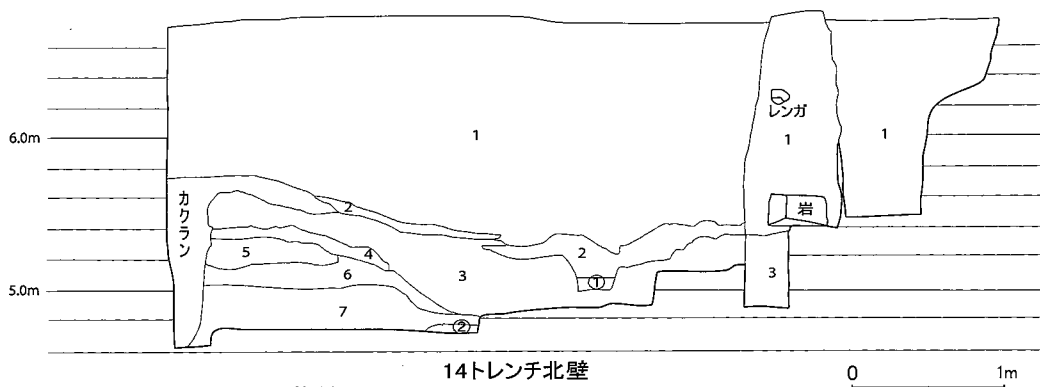


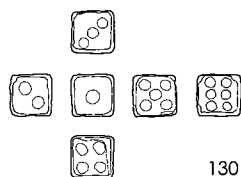
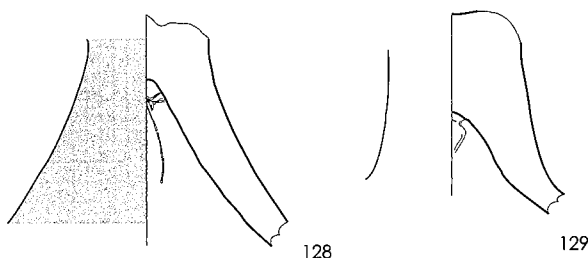
Fig. 36 14トレンチ北壁層位断面図 S=1/40

Tab. 43 14トレンチ層位

層名	色調・土質	備考
1	灰色Y1/5, 粗砂混じりシルト質砂. 軽石・礫を多く含む.	20トレンチ1層土部と同じ. 現代
2	オリーブ黄色5Y3/5, 粘質シルト. 2cm大の軽石を含む.	近代・近世
3	暗灰黄色2.5Y2/5, 細砂. 2cm大の軽石を含む.	古墳?
4	黄灰色2.5Y1/4, 砂混じりシルト. 2cm大の軽石を含む.	
5	褐灰色10YR1/4, 細砂. 2cm大の軽石を含む.	
6	暗灰黄色2.5Y2/4, 砂混じりシルト. 2cm大の軽石を含む.	
7	黒褐色2.5Y1/3, 砂混じりシルト. 2cm大の軽石を含む.	
①	灰色5Y1/5, 粗砂.	
②	灰色5Y1/4, シルト.	

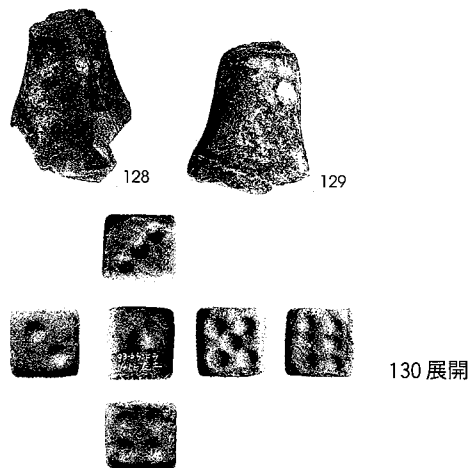
Tab. 44 14トレンチ遺物出土状況

層	縄文	弥生	古墳	須恵器	土師器	土器	陶磁器	レンガ	ガラス類	石器	その他	計
1			18	4	75	16		4		5		122
2			29	4	2	101	9			2	2	149
3						1						1
計			47	4	6	177	25	4	2	7		272



130 0 10cm

Fig. 37 14トレンチ出土遺物 S=1/3



PL. 41 14トレンチ出土遺物

Tab. 45 14トレンチ出土遺物観察表

No	層・遺構	種類	器種	部位	色調	調整	胎土						備考
							R	W	B	Q	H	S	
128	1	古墳・土器	高杯	脚部	外面：赤色10R4/8に類似, 赤色顔料. 内面：明赤褐色5YR5/6.	外面：横方向のミガキ. 内面：ハケ?のちナデ.	2	2	2	2	2	2	杯部との接合部で欠損している. 外面：赤色顔料付着. 磨滅している.
129	1	古墳・土器	高杯	脚部	内外面：にぶい橙色7.5YR7/4. 内肉：黄灰色2.5Y4.5/1.	内外面：鉄分付着のため不明.. 脚見込：ハケのちナデ.	5	2	2				杯部との接合部で欠損している. 磨滅している. 鉄分付着.
No	層・遺構	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石材						備考
130	1	サイコロ	1.8	1.8	1.8	9.3	大理石						一辺18mmのサイコロである. 目は, 細く浅く窪んでいる. 色は, 白である. 表面に着色などは認められない.

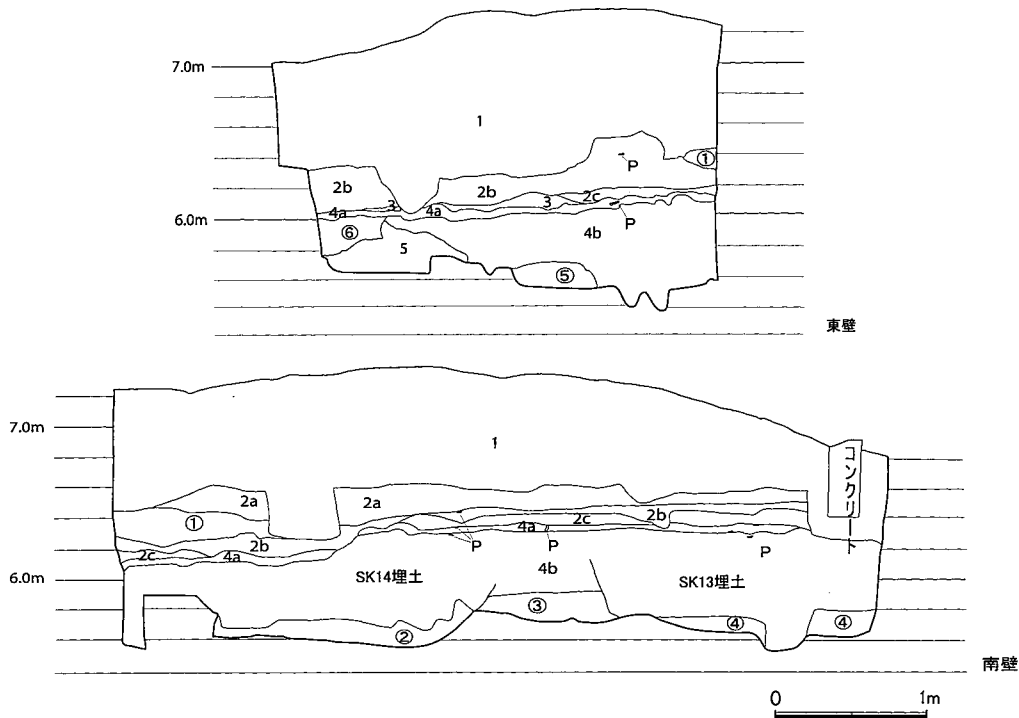
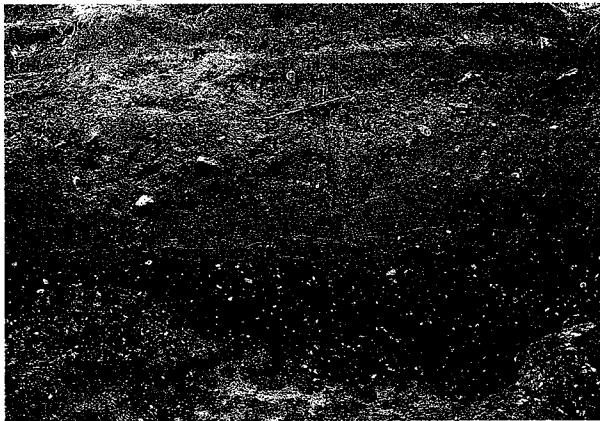


Fig. 38 15トレンチ層位断面図 S=1/40



PL.42 15トレンチ東壁

Tab.46 15トレンチ層位

層名	色調・土質	備考
1	表土	現代
2a	褐灰色7.5YR1/6, シルト質砂。1~2cm大の軽石を多く含む。	近代・近世
2b	にぶい褐色7.5YR3/6, シルト質砂。1~2cm大の軽石を多く含む。鉄分浸透。	近代・近世
2c	灰褐色7.5YR2/5, シルト質砂。1~2cm大の軽石を多く含む。鉄分浸透。	近代・近世
3	明黄褐色2.5Y6/6, 粗砂混じりシルト質砂。	古墳?
4a	暗赤褐色5YR6/3, シルト。2~3cm大の軽石を含む。鉄分が多く浸透。	古墳
4b	黒褐色5YR1/3, シルト。1~5cm大の軽石を多く含む。やわらかい。	古墳
①	2b層土と黄褐色10YR6/5シルト質砂との混土。4層土をブロックで含む。	
②	4b層と5層との混土。4b層土が多い。	SK14埋土
③	4b層と5層との混土。②より5層土が多い。	SK22埋土
④	4b層と5層との混土。	SK13埋土
⑤	4b層と5層との混土。半々ぐらいの混在。	SK14埋土
⑥	黒褐色7.5YR2/3砂混じりシルト。	SK24埋土

Tab.47 15トレンチ遺物出土状況

層	縄文	弥生	古墳	須恵器	土師器	土器	陶磁器	レンガ	ガラス	石器	その他	計
1			9	1		39	5	3				57
2			135	2	10	1035	44			2	2	1230
3			8			1						9
4	7		192	1	3	824	1			2		1030
SK13		1	15			102						118
SK14	11		69			218	1					299
SK21			6			43						49
P48			2									2
P50						1						1
P51						2						2
計	18	1	436	4	13	2265	51	3		4	2	2797

4.14.2 包含層出土遺物 (Fig.37)

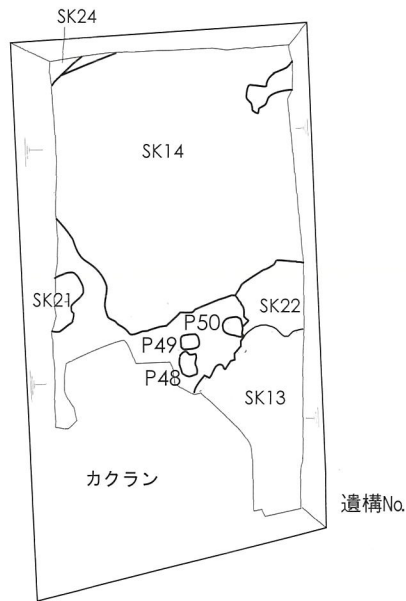
遺物は、土師器、須恵器、土器、陶磁器などが出土している。このうち、実測できるものは古墳時代の高杯(128・129)と大理石製のサイコロ(130)のみであった。

4.15 15トレンチ

附属中学校プールの北東隅に隣接する。南北3.2m, 東西6mの大きさである。

4.15.1 層位 (Fig.38)

基本層位として、1~4層までを確認した。い



Tab. 48 15 トレンチ遺構一覧

遺構名	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	埋土	備考
SK13	185.4+ α	114.48+ α		黒褐色5YR1/3, シルト と層位断面図④	—○SK22
SK14	297.6+ α	254.4+ α		黒褐色5YR1/3, シルト と層位断面図②⑤	—●SK24, —○SK22
SK21	61.08	31.62+ α	24	黒褐色5YR1/3, シル ト.	
SK22	84.12	74.52+ α		黒褐色5YR1/3, シルト と層位断面図③	—●SK13・14
SK24	45.6+ α	18.0+ α		層位断面図⑥	—○SK14
P48	19.44	13.8	22	黒褐色5YR1/3, シル ト.	
P49	21.54	19.92	45	黒褐色5YR1/3, シル ト.	
P50	20.16	19.68	21	黒褐色5YR1/3, シルト	

—○ 切る, —● 切られる

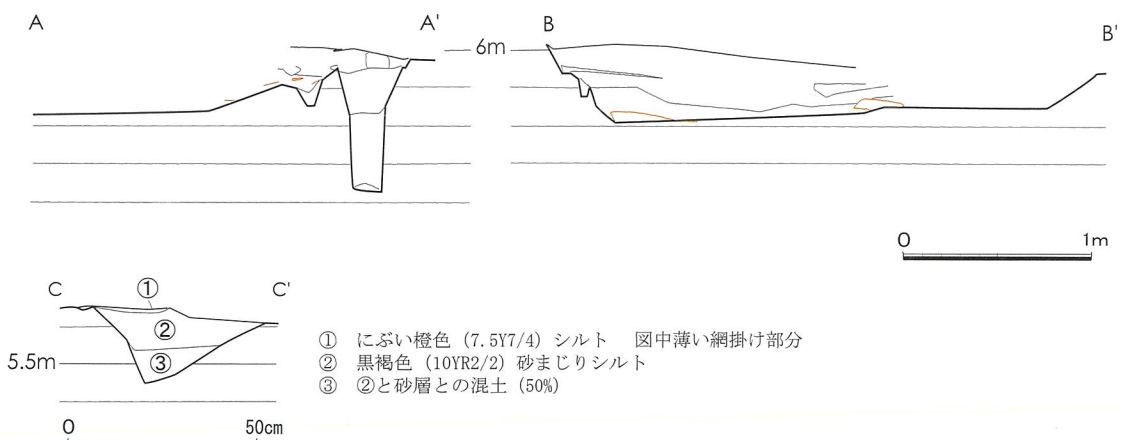
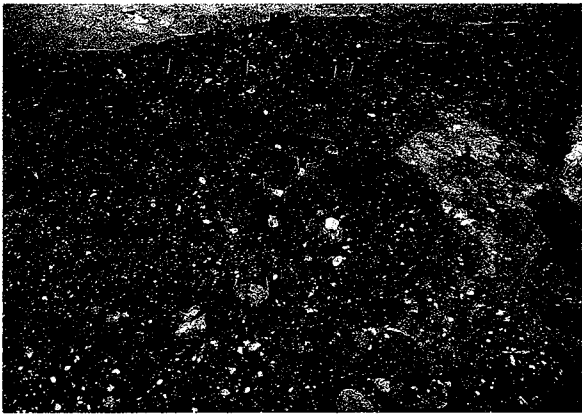
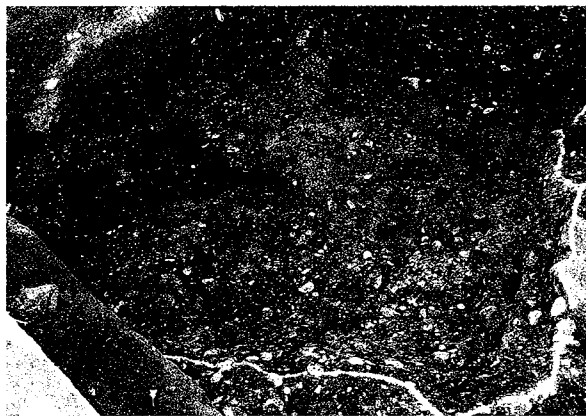


Fig. 39 15 トレンチ遺構図 S=1/40, 炉断面 S=1/20

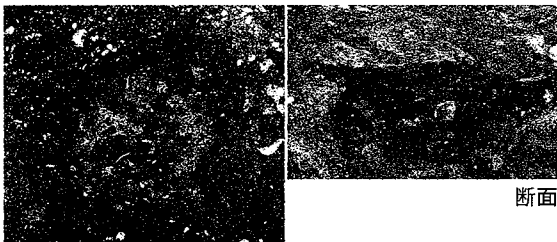
赤は、張床掘削後の底面. 青は、床面直上から出土した土器.
 濃い網掛けは炭散布範囲, 薄い網掛けは橙色のシルト.



PL.43 5層上面遺構検出状況



PL.44 SK14床面検出状況



PL.45 SK14炉

PL.46 SK14壁溝
西壁付近、黒褐色の埋
土が溝状に残る。幅約
5cm、深さ5~10cm.



PL.46 SK14床面出土土器
甕形土器。脚部以外、ほぼ完
形品だがほとんど内面が上向
きになっている。割って置か
れたものか？

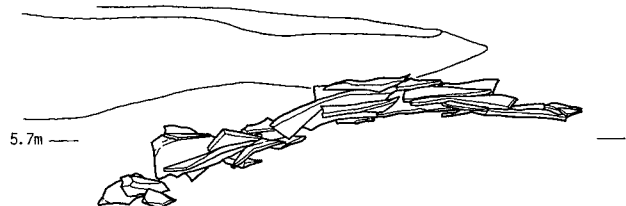
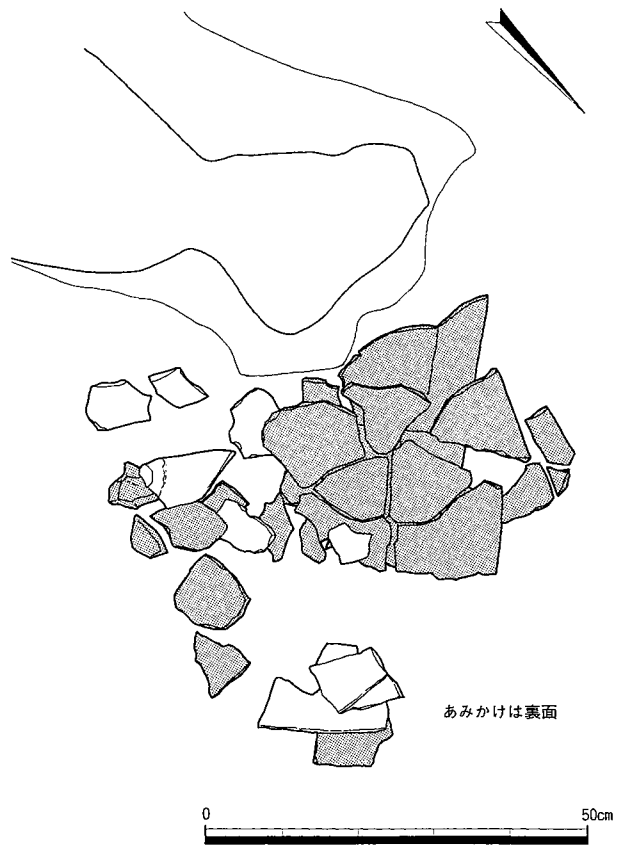


Fig.40 SK14床面遺物出土状況 S=1/10

れも水平に整合的に堆積している。1~4層まで遺物が多量に含まれていたが、4b層上面で遺構を検出した。

4.15.2 遺構と遺物

4b層上面から土壙状遺構を4基、ピット3基を検出した (Fig.39)。SK13・14・22は、住居跡と考えられる。

SK13

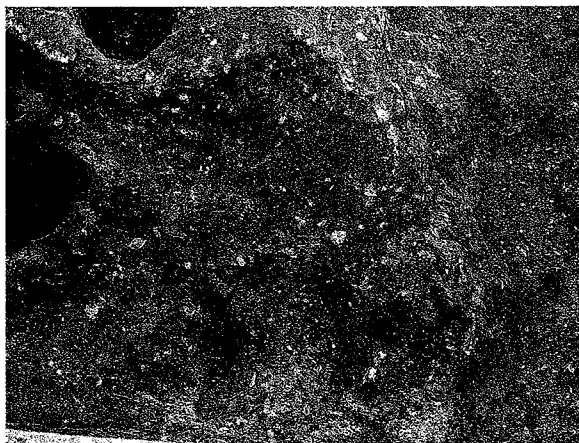
トレンチ北西部に位置する。遺構が調査区外に広がっていることと、現代の攪乱に切られていることから全形は不明だが、立ち上がり部に段を有することや、床面に張り床を有することから住居



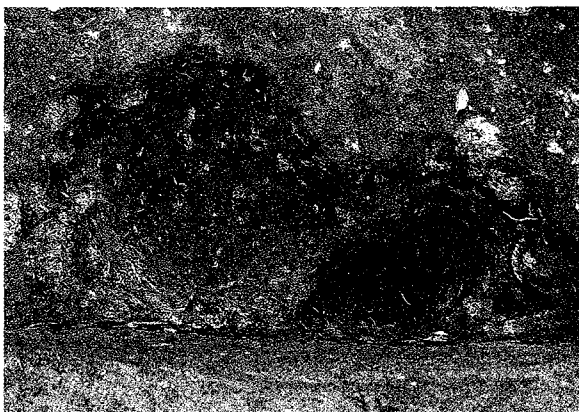
PL. 47 SK14 完掘状況



PL. 48 SK13 完掘



PL. 49 SK22 完掘



PL. 50 SK21 完掘

跡と判断した。壁際段部に、深さ約60cmのピットを1基持つ。張り床を除去した底面は緩やかに西側に傾斜し、住居の中央部に向かって深くなっている。北側にみられる小さなピット群は、張り床除去後に検出されたものである。

出土遺物 (Fig. 41-13 ~ 133)

遺物は、縄文土器と古墳時代の土器が出土している。いずれも埋土中出土である。縄文土器(131)は、SK14の張り床中から出土したものと同一曾畑式である。古墳時代の土器を含めて小片が多い。

SK14

トレンチ東側に位置する。平面形は一辺が約3mの方形の竪穴住居跡である。SK24に東端が切られ、SK22を切っている。張り床を有し、床面東壁際に炉が認められる。炉周辺には薄い炭の層が認められ(濃い網掛け部分)、炉中央部は土壌状を呈し、橙色の粘土が埋土となっていた(薄い網掛け部分)。北壁と西壁は段を有し、床面壁際には、板溝と思われる幅5cmほどの細い溝を検出した。張り床を除去すると、壁際の底面はさらになだらかに傾斜している。北側には、幅30cmほどの段を有する。また、この段を北側に延長した部分を境界として西側が、東側より一段低くなっているのが確認できた。しかし、床面はほぼ平坦であった。北側の段より東側部分は、床面とも若干低くなっており、その床面に密着して甕が出土した(Fig. 40)。床面検出遺物は、これが1点のみである。

甕は、東原式だが、脚部が接合面で外れていた。それ以外の欠損部分はほとんどない。残存率はよいが、ほとんどの破片が内面を上向きにおかれており、つぶれた状態というよりは、割れた破片を置いたものと考えられる。

出土遺物 (Fig. 41-134 ~ Fig. 42)

縄文土器と、古墳時代の土器、くぼみ石が出土している。ほとんどが埋土中と、張り床中から出土している。遺物は、曾畑式土器(134~143)、弥生土器の壺(144)、古墳時代前半の甕(145・148・149)、古墳時代後半期の甕(146・147・151~154)・古墳時代の壺(156・157)、古墳時代後半の高杯(158~159)などである。曾畑式土器については、埋土中や張り床中から出土しており、また、同じ型式がSK13からも出土していることから、住居跡に伴うものではなく、5層(砂層)に包含されたものが住居跡を掘削する際に混ざりこんだものと考

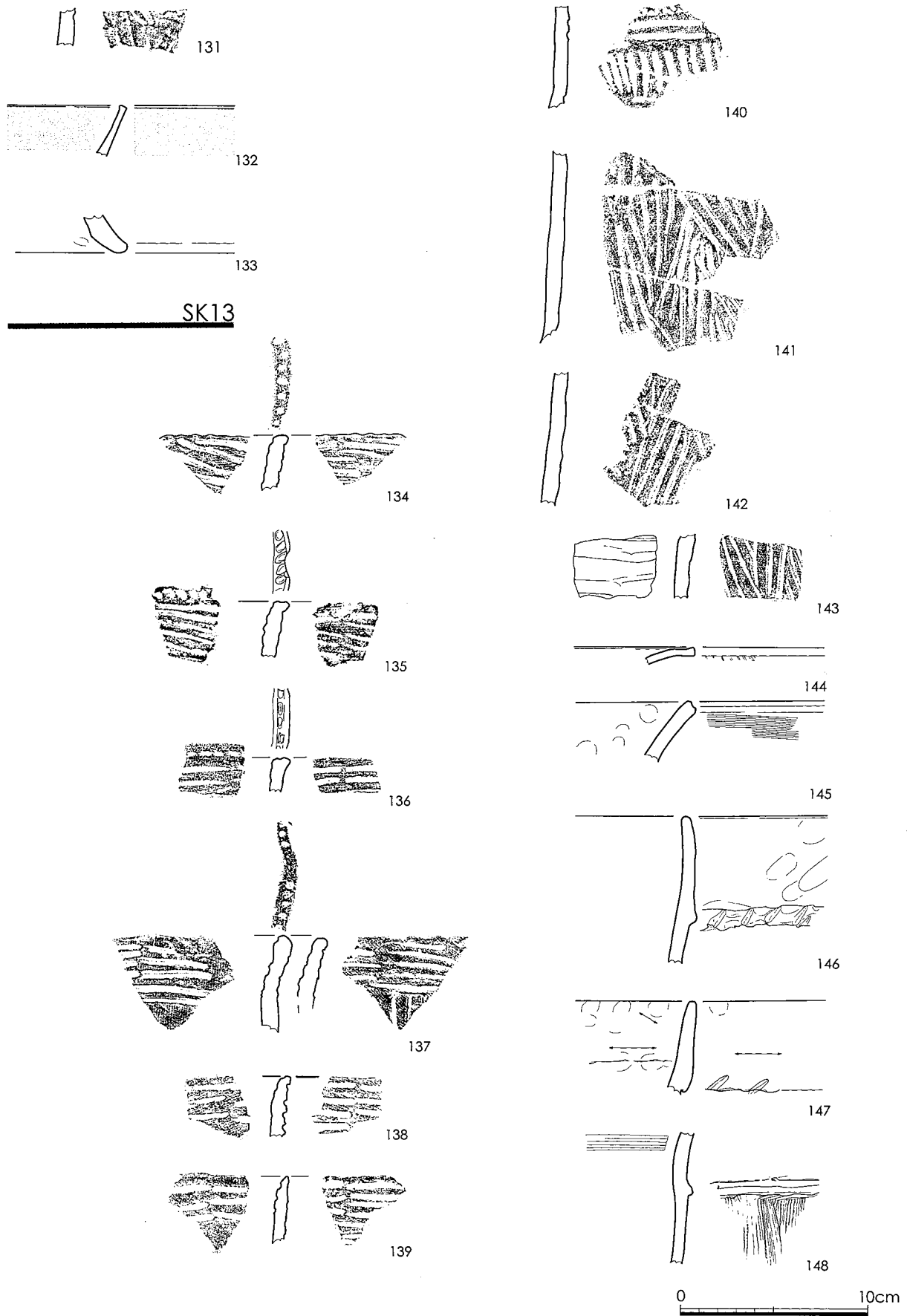


Fig. 41 15 トレンチ SK13・SK14 出土遺物 S=1/3

Tab. 49 15 トレンチ SK13・14 出土遺物観察表

No	層・遺構	種類	器種	部位	色調	調整	胎土					備考
							R	W	B	Q	S	
131	SK13	縄文土器	深鉢	胴部	内外面：黒褐色10YR3/2.	内外面：ナデ.	3	3	3	3	3	沈線文による施文. 施文した後には表面をなでている. 外面にスス付着.
132	SK13	弥生土器?	不明	口縁部	外面：橙～明赤褐色5YR6/6～5/6, 赤色顔料. 内面：橙色7.5YR6.5/6.	外面：ミガキ, 内面：ナデ.	3	3	3	3	3	口唇部が平坦で、器壁より若干厚く肥厚している. 内外面とも剥落しているが、丁寧な作りである.
133	SK13	古墳・土器	甕	脚部	外面：灰褐～黒褐色7.5YR4/2～3/2. 内面：赤褐色2.5YR4/8に類似.	内外面：ナデ.	5	3	3	3	3	端部は丸く、ふんばるような形状を呈する.
134	SK14は	縄文土器	深鉢	口縁部	外面：にぶい褐色7.5YR5/3に類似. 内面：褐灰色10YR4/1に類似.	内外面：ナデ.	3	3	3	3	3	内外面には沈線, 口縁部上面には刺突文による文様が施されている. 沈線文は、横位に施し、沈線内には1条のボジな条線が認められるものがあり、竹管状の工具を使用したものと考えられる. 摩滅している. 137・141・142・143・172・249と同一個体.
135	SK14	縄文土器	深鉢	口縁部	外面：にぶい黄褐色10YR7/4に類似. 内面：にぶい褐色7.5YR5/4に類似. 褐灰色7.5YR4/1に類似. 器肉：灰色N5/1に類似.	内外面：ナデ.	3	5	3	3	3	内外面には沈線, 口縁部上面には刺突文による文様が施されている. 沈線文は、横位に施し、沈線内には1条のボジな条線が認められるものがあり、竹管状の工具を使用したものと考えられる.
136	SK14は	縄文土器	深鉢	口縁部	内外面：赤褐～暗赤褐色5YR4/6～3/6.	内外面：ナデ.	3	3	3	3	3	内外面には沈線, 口縁部上面には刺突文による文様が施されている. 沈線文は、ヘラによって横位に施されている. 摩滅している.
137	SK14	縄文土器	深鉢	口縁部	外面：黒褐色7.5YR3/1に類似. 内面上部：にぶい褐色7.5YR6/4, 下部：黒褐色10YR3/1に類似.	内外面：ナデ.	3	3	3	3	3	内外面には沈線, 口縁部上面には刺突文による文様が施されている. 沈線文は、横位に施し、沈線内には1条のボジな条線が認められるものがあり、竹管状の工具を使用したものと考えられる. また、口縁部上面の左側5つの刺突文も竹管状を呈し、同じ工具によるものと考えられる. 右側の刺突文はヘラによる. 134・141・142・143・172・249と同一個体.
138	SK14	縄文土器	深鉢	口縁部	外面：にぶい黄色2.5Y6/3に類似. 黄灰色2.5Y4/1に類似. 内面：灰～暗灰色N4/～3/1に類似.	内外面：ナデ.	4	4	4	4	4	口唇部は少し外側に反り、端部が尖る形態を呈する. 内外面ともヘラによる横位の沈線文によって文様を施されている. 139と同一個体.
139	SK14	縄文土器	深鉢	口縁部	外面：黄灰色2.5Y5.5/1. 内面：灰黄色2.5Y6.5/2.	内外面：ナデ.	4	4	4	4	4	口唇部は少し外側に反り、端部が尖る形態を呈する. 内外面ともヘラによる横位の沈線文によって文様を施されている. 138と同一個体.
140	SK14, SK14は	縄文土器	深鉢	胴部	外面：浅黄橙～にぶい黄褐色10YR8/3～7/3. 内面：灰白色2.5Y8/2に類似.	内外面：ナデ.	4	4	4	4	4	ヘラによる沈線文. 2条の横位の沈線とその下に縦位の沈線が施されている. 横位の沈線の上にも縦位の沈線が施されているようだが、欠損している. 胎土に黒曜石を含む.
141	SK14, SK14は	縄文土器	深鉢	胴部	外面：にぶい橙～褐色7.5YR7/4～7/6. 内面：黄灰色2.5Y5.5/1, にぶい褐色7.5YR7/4に類似.	内外面：ナデ.	3	5	3	3	3	ヘラによる沈線文. 4, 5 状を一組として羽状の文様を左から右方向に施文している. 沈線内には1条のボジな条線が認められ、竹管状の工具を使用したものと推定できる. 134・137・141・142・143・172・249と同一個体.
142	SK14	縄文土器	深鉢	胴部	外面：にぶい橙～褐色7.5YR6/4～6/6. 内面：黒褐色10YR3/2に類似.	内外面：ナデ.	3	3	3	3	3	ヘラによる沈線文. 4, 5 状を一組として羽状の文様を左から右方向に施文している. 沈線内には1条のボジな条線が認められ、竹管状の工具を使用したものと推定できる. 134・137・141・143・172・249と同一個体. 摩滅している.
143	SK14	縄文土器	深鉢	胴部	外面：黒褐色7.5YR3/1に類似. 内面：鉄分付着, 黒褐色10YR3/2に類似?.	内外面：ナデ?.	3	3	3	3	3	外面に沈線文によって羽状の文様が施されている. 沈線内には1条のボジな条線が認められる. 134・137・141・142・172・249と同一個体.
144	SK14	弥生土器?	壺?	口縁部	外面：橙色7.5YR7/6. 内面：浅黄褐色7.5YR8/4に類似. 下部赤色顔料? 橙色5YR6/8.	外面：縦方向のハケのちヨコナデ. 内面：横方向のナデ.	3	3	3	3	3	器壁が薄く、シャープなつくりである.
145	SK14	古墳・土器	甕	口縁部	外面：黒褐色5YR3/1に類似. 内面：赤褐色2.5YR4/6に類似.	外面：横方向のハケ. 内面：ヨコナデ.	4	4	4	4	4	少し湾曲しながら開口縁部で、端部はヨコナデによって面を持ち、少しくぼんでいる. 外面にススが付着している.
146	SK14	古墳・土器	甕	口縁部	外面：浅黄橙～淡黄色10YR～2.5Y8/3, 浅黄橙～にぶい褐色7.5YR8/4～7/4. 内面：浅黄褐色10YR8/4に類似. 褐色7.5YR7/6に類似.	内外面：摩滅している, ユビオサエ, ナデ?.	4	4	4	4	4	少し内湾気味に直立する器形を呈する. 一条の刻み目突帯を有する. 表面は摩滅している.
147	SK14	古墳・土器	甕	口縁部	外面：黒褐色7.5YR3/1に類似. 内面：灰色5Y4/1に類似.	内外面：ユビオサエのちナデ. 内面には、粘土帯貼付の接合線が認められる.	3	3	3	3	3	笠貫式. 内湾気味に直立する口縁部で、外側に粘土帯を貼り付け肥厚させる. その段部に疎な刻み目を施している.
148	SK14	古墳・土器	甕	突帯	外面：黒色10YR1.7/1に類似. 内面：黒色2.5Y2/1に類似.	外面：ナデ. ハケ. 内面：ナデ.	3	3	3	3	3	ゆるやかに外反する1条突帯を持つ口縁部である. 突帯は、断面台形状を呈し、その下面は下部に施されたハケ工具によって押されている.

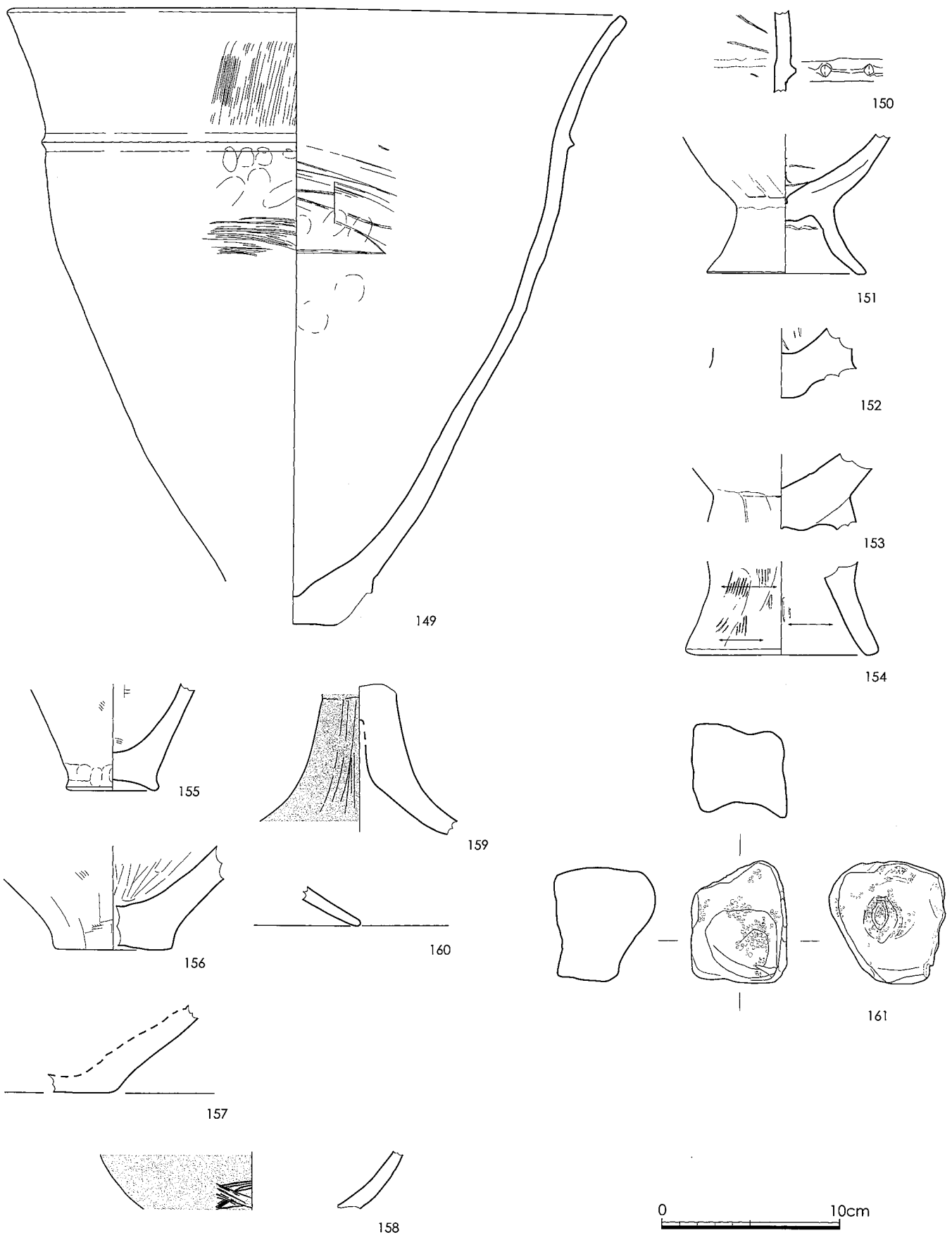
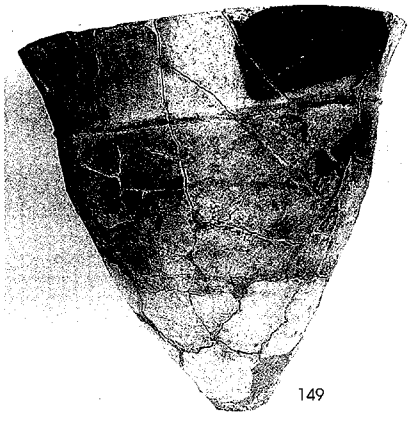
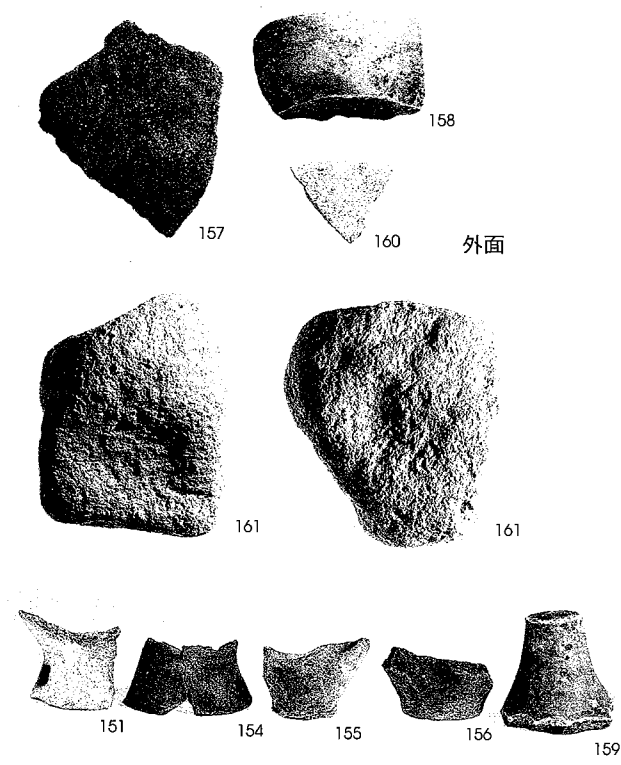
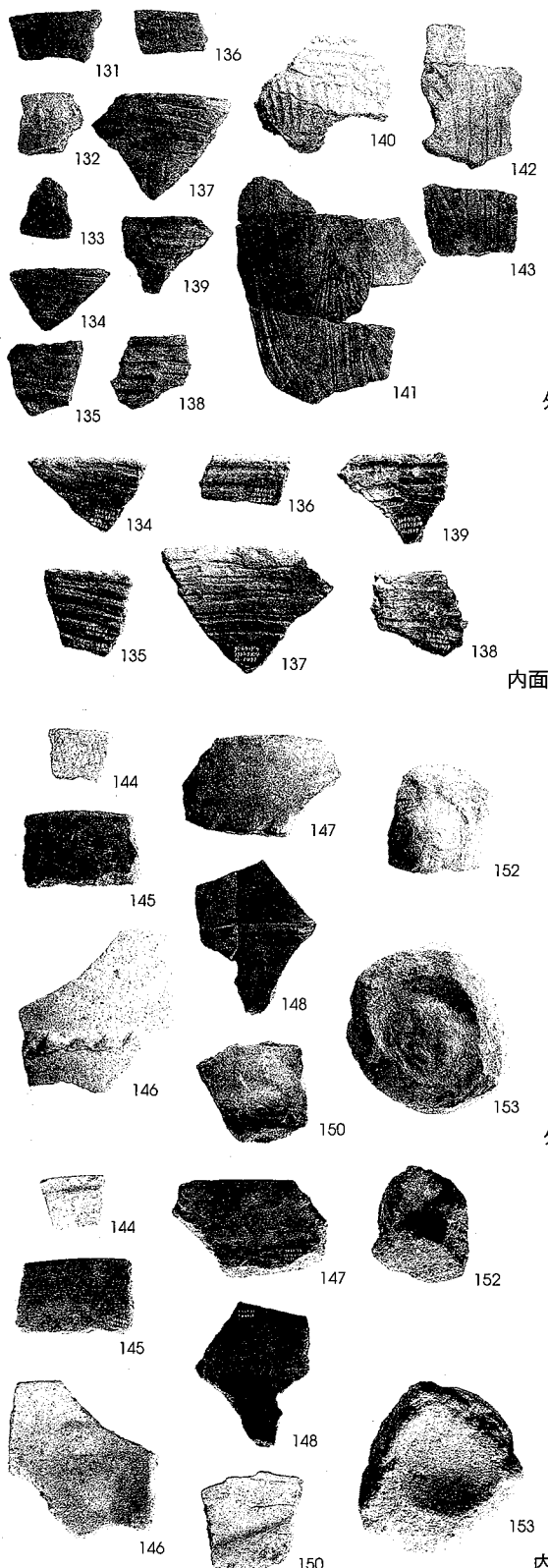


Fig. 42 15 トレンチ SK14 出土遺物 S=1/3



PL. 51 15 トレンチ SK13・14 出土遺物

149 口縁部付近の外
面調整拡大

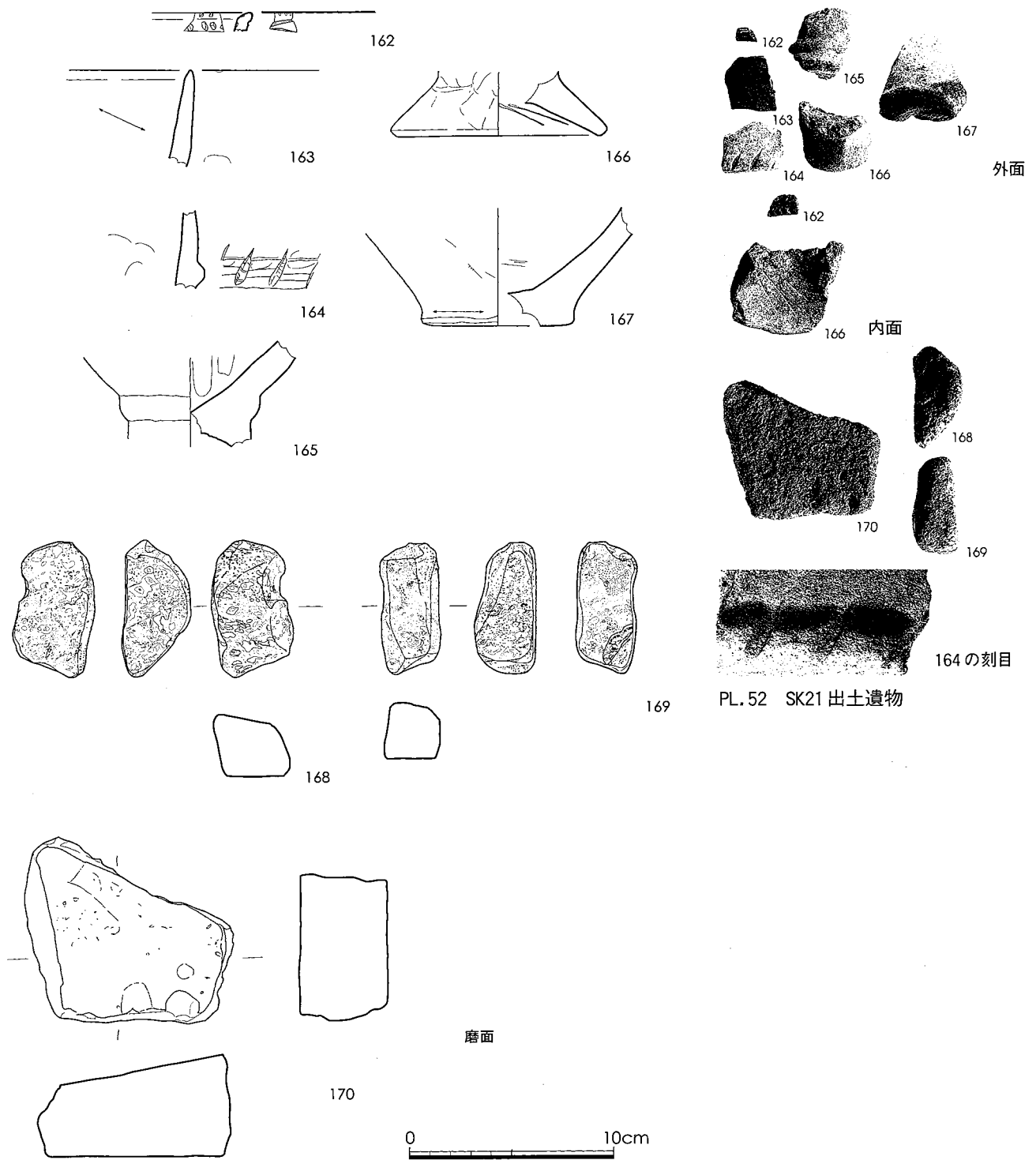


Fig.43 15 トレンチ SK21 出土遺物 S=1/3

Tab.50 15 トレンチ SK14・SK21 出土遺物観察表

No	層・遺構	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石材	備考
161	SK14	窪み石	6.9	5.4	6.5	315	安山岩	2面にくぼみがあり、くぼみを中心にだ痕が認められる。全形の成形は雑である。
168	SK21	軽石製品	6.8	4	3.35	17.9	軽石	側面に擦り面が認められる。面の方向などは一定していない。
169	SK21	軽石製品	6.55	2.95	3	11.4	軽石	側面に擦り面が認められる。
170	SK21	石皿	9.3	10.1	4.3	597	安山岩	表裏面に擦り面が認められる。特に表面は滑らかで平坦である。側面の成形は雑である。

Fig. 51 15 トレンチ SK14・21 出土遺物観察表

No	層・遺構	種類	器種	部位	色調	調整	胎土					備考	
							R	W	B	Q	S		
149	SK14	古墳・土甕器	甕	ほぼ完形(脚なし)	外面：にぶい黄橙色10YR7/4に類似、淡黄色2.5Y8/3に類似。内面：上部：にぶい橙色5~7.5YR7/4, 灰白色7.5YR8/2に類似, 下部；灰褐色7.5YR5/2に類似, 黒褐色7.5YR3/1に類似。接合痕：にぶい橙~橙色5YR6/4~6/6。黒斑：黒色N2/に類似。	内外面：ユビオサエ、ハケのちナデ。	3	5	3	3	3	5	口径33.3~34.8cm.
150	SK14	古墳・土甕器?	甕	突帯	外面：橙色7.5YR6/6に類似。突帯部分：黒色10YR2/1に類似。内面：橙色5~7.5YR7/6。	外面：ナデ。突帯部付近ヨコナデ。内面：ハケのちナデ。		3	3	3	3	3	突帯部以上が肥厚している。外面にはススが付着している。
151	SK14	古墳・土甕器	甕	底部	外面：浅黄橙色10YR8/4に類似、淡黄色2.5Y8/3に類似、暗灰色N3/に類似。内面：にぶい黄橙色10YR7/4。	内外面：ハケのちナデ。ナデは比較的丁寧だが、ハケ調整があまりく、打ち込み痕が顕著に残る。脚台内面：あらいナデ。	4	4	4	4	4	4	底径(8.85)cm。脚台内面：見込み部に脚部接合痕が顕著。体部にも粘土帯貼付痕が顕著。
152	SK14	古墳・土甕器	甕	底部	外面：赤褐色2.5YR4/8に類似。内面：暗赤褐色5YR3/4に類似。脚見込：にぶい赤褐色2.5YR4/4に類似、暗赤褐色2.5YR3/2。	内面：ハケのちナデ。その他：ナデ。	4	4	4	4	4	4	約1/2残存、反転復元。見込み部下方へ著しく突出する器形を呈する。
153	SK14	古墳・土甕器	甕	底部	外面：にぶい黄橙色10YR6/3に類似。内面：黒褐色5YR3/1に類似。脚見込：にぶい赤褐色5YR5/4に類似。	外面脚部：縦方向のハケのちナデ。他：ナデ。	4	4	4	4	4	4	約2/3残存、反転復元。断面に脚部の接合痕が認められる。
154	SK14	古墳・土甕器	甕	脚部	外面：明赤褐色5YR5/6に類似、黒褐色7.5YR3/2に類似。内面：赤褐色2.5YR4/6に類似、褐色7.5YR4/6。	ハケのち横方向のナデ。	5	3	5		3	3	約1/2残存、反転復元。底径(9.7)cm。体部との接合部で欠損している。内面上部は器表が剥落している。
155	SK14	古墳・土鉢器	鉢	底部	外面：浅黄橙~淡黄色10YR~2.5Y8/4, 黄灰色2.5Y5/1, 橙色5YR7/6, 灰白色2.5Y8/2。内面：橙色5YR7/6。底面：灰色5Y5/1, 黒色N2/に類似, 黒色N1.5/に類似。	ハケのちナデ。外面くびれ部：ユビオサエ痕顕著。	4	5	4	4	4	5	底径4.7~5.05cm。低い上げ底状の底部。低部外側が少し張り出す。
156	SK14	古墳・土壺器	壺	底部	外面：橙色5~7.5YR6/6。内面：黒色N2/に類似。器肉：黄灰色2.5Y4/1。	縦方向のハケのちナデ。底面：ナデ。外面のナデは丁寧。	5	3	3		5	5	約1/2残存、反転復元。底径(6.5)cm。比較的丁寧な作り。底部は厚く、底面は少し上げ底状を呈する。
157	SK14	古墳・土壺器	壺	底部	外面：褐灰~黒褐色7.5YR4/1~3/1に類似。内面：橙色5YR6/8に類似。	外面：ナデ?。内面：剥落のため不明。	4	4	4	4	4	4	平底で、底面はゆるやかに膨らんでいる。内面は器表が剥落している。
158	SK14	古墳・土高杯器	杯	杯部	外面：赤褐色5YR4/6に類似、赤色顔料。内面：灰白色5Y8/1, 黒褐色10YR3/1。	外面：ハケのちミガキ。内面：ユビオサエのちナデ。	2	2	2		2	2	約1/6残存、反転復元。碗状の器形を呈する杯部。杯底部との接合部で欠損している。外面に赤色顔料。
159	SK14	古墳・土高杯器	杯	脚部	外面：赤褐色2.5YR4/8, 赤色顔料。内面：灰~暗灰色N4/~3/に類似。	外面：縦方向のミガキ。内面：ナデ。	5	2	2		2	2	杯部との接合部で欠損。外面に赤色顔料。
160	SK14	古墳・土高杯器	杯	脚部	外面：浅黄橙~橙色7.5YR8/6~7/6。内面：橙色7.5YR7/6。端部：明赤褐色5YR5/8, 赤色顔料。	内外面：ヨコナデ。	3	3	3	3	3	3	わずかに赤色顔料が残存している。
162	SK21	縄文土器	深鉢	口縁部	内外面：にぶい赤褐色5YR4/3に類似。	内外面：ナデ?。	3	3	3		3	3	外面：横位の沈線2条。内面：列点文を2列施している。
163	SK21	古墳・土甕器	甕	口縁部	外面：黒褐色5YR3/1に類似。内面：にぶい橙色7.5YR6.5/4, 褐灰~黒褐色10YR4/1~3/1。	内外面：ナデ。	3	3	3	3	3	3	直立する肥厚口縁である。外面にはススが付着している。
164	SK21	古墳・土甕器?	甕	突帯	外面：淡黄~淡黄色2.5Y8/3~7/3。内面：灰白色2.5Y7/1に類似、灰色5Y5/1に類似。	内外面：ユビオサエのちナデ。	3	3	3		3	3	胴部で、断面蒲鋒状の刻み目突帯を有する。刻みは、ハケ工具によって施されている。
165	SK21	古墳・土甕器	甕	底部	外面：橙~明黄褐色7.5~10YR7/6。内面：灰白色2.5Y8/2に類似。脚見込：にぶい橙色2.5YR6/4に類似。器肉：灰色N5/に類似。	外面：ナデ。内面：ユビオサエ、ナデ。	4	4	4	4	4	4	約1/4残存、反転復元。脚台上部で、くびれ部に突帯を1条施している。外面は二次的加熱によって変色している。内面に比べて器表もあれている。
166	SK21	古墳・土甕器	甕	脚部	外面：灰黄褐色10YR5/2に類似。内面：赤褐~明赤褐色2.5YR4/6~5/6。	外面：ユビオサエ、ナデ。内面：ハケのちナデ。	3	3	3	3	3	3	約1/4残存、反転復元。底径(10.05)cm。低い脚台。甕として扱うが、鉢の脚台である可能性もある。
167	SK21	古墳・土壺器	壺	底部	外面：にぶい橙色7.5YR7/4, 浅黄橙~にぶい黄橙色10YR8/3~7/3, 黒色N2/に類似。内面：橙~明赤褐色5YR6/6~5/6。	ハケ?のちナデ。	4	4	4	4	4	4	約1/4残存、反転復元。底径(7.45)cm。平底で、立ち上がり部は張り出す器形を呈する。

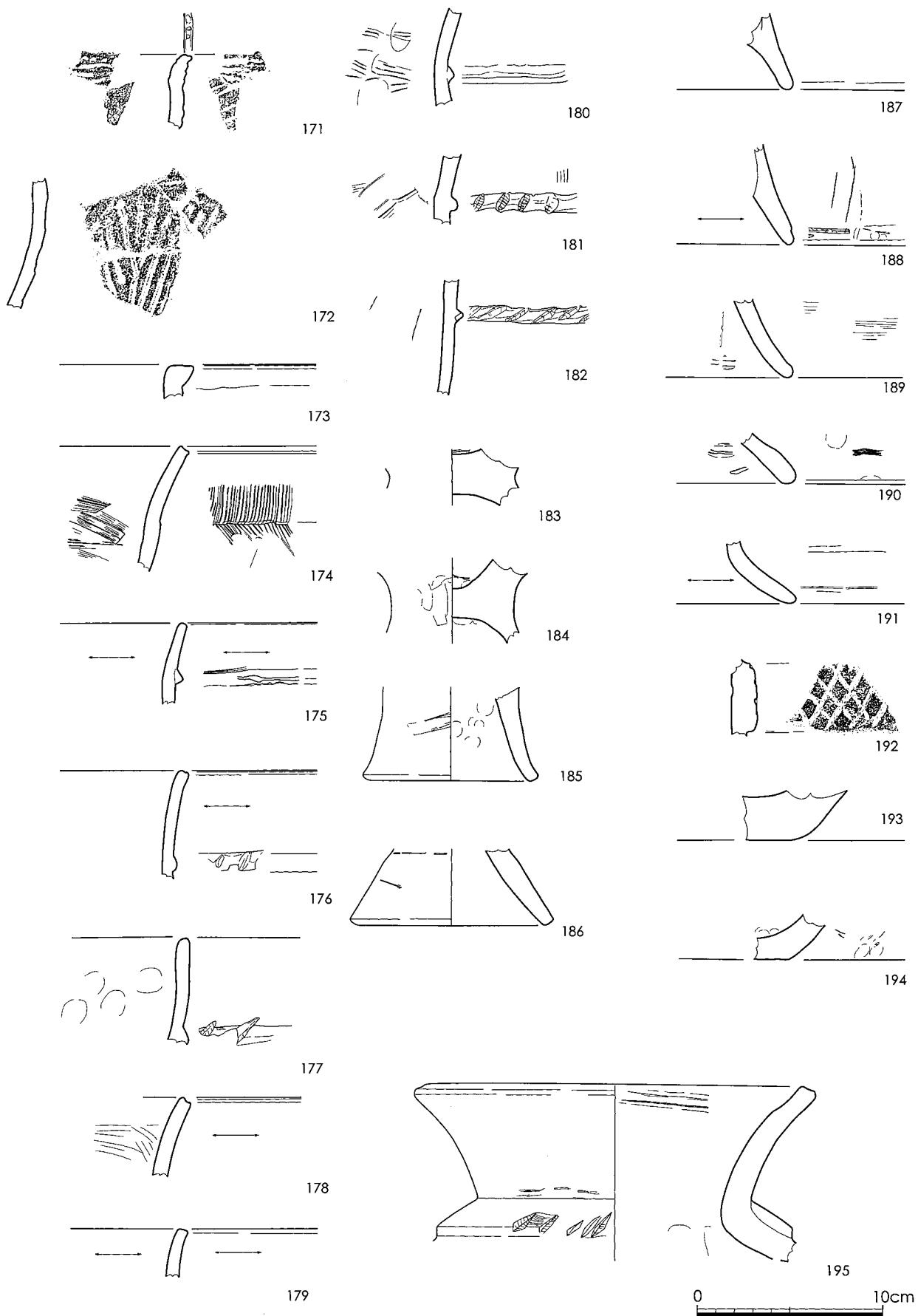


Fig.44 15トレンチ包含層出土遺物1 S=1/3

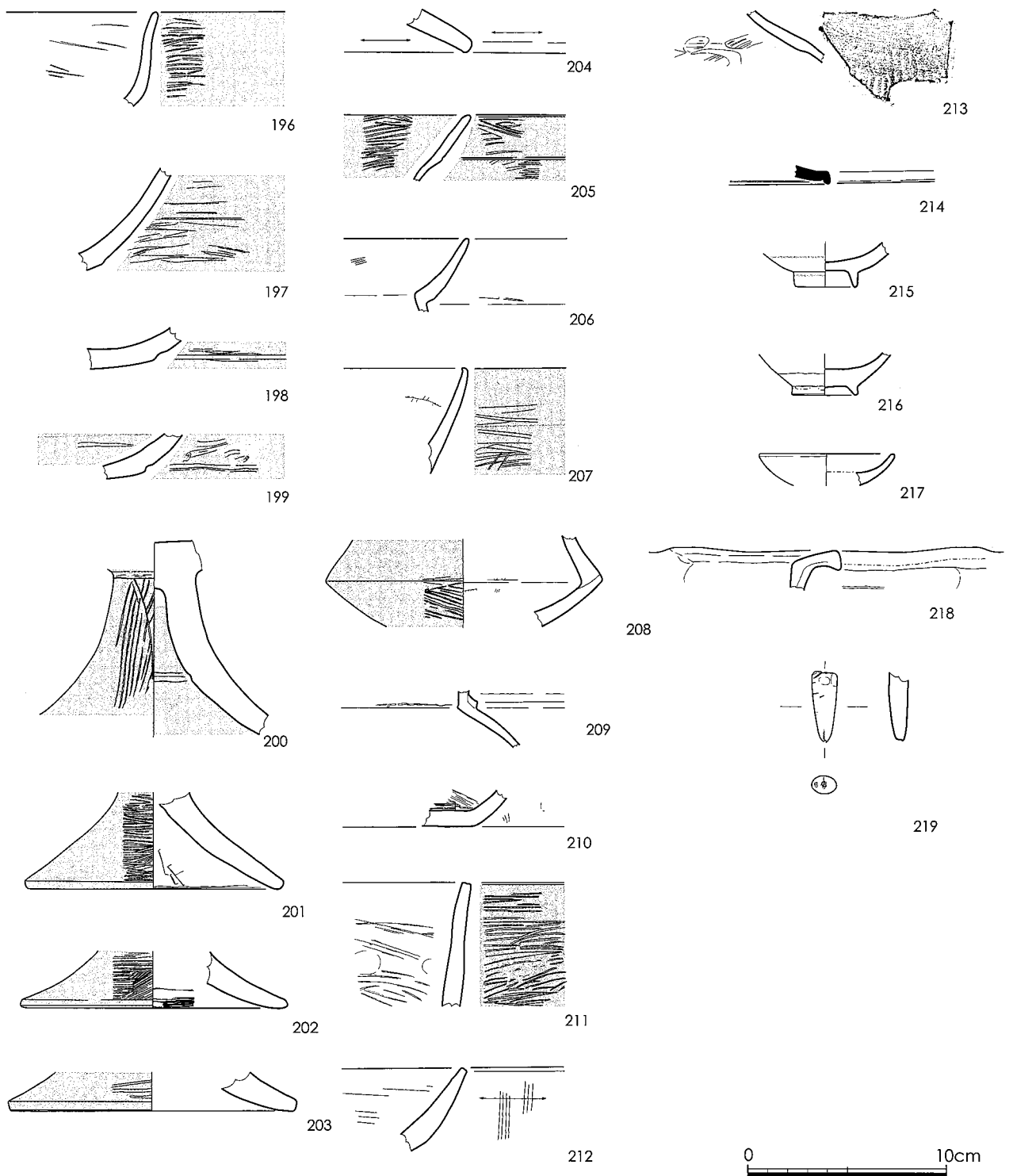


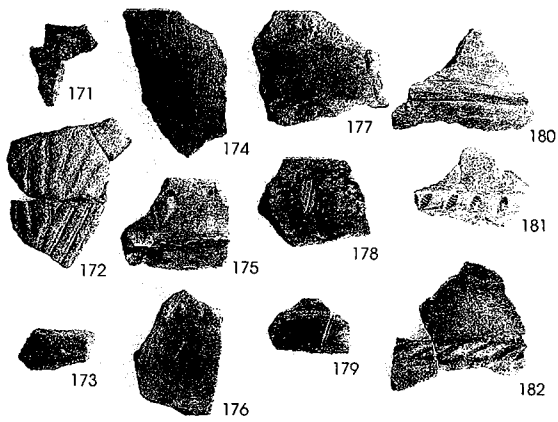
Fig. 45 15 トレンチ包含層出土遺物 2 S=1/3

Tab. 52 15 トレンチ包含層出土遺物観察表

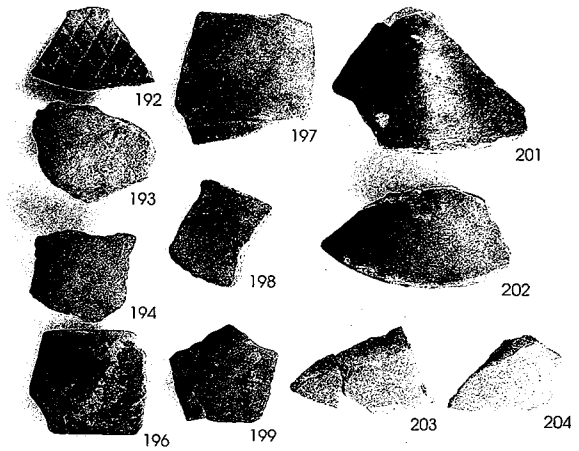
No	層・遺構	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石材	備考
219	4	不明	3.55+α	1.3	0.95	4	泥岩	棒状で、下端部が細く、端部に縦方向の刻みが認められる。

Fig.53 15 トレンチ包含層出土遺物観察表1

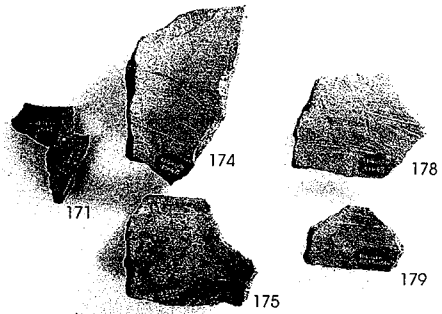
No	層・遺構	種類	器種	部位	色調	調整	胎土						備考		
							R	W	B	Q	H	S			
171	4	縄文土器	深鉢	口縁部	外面：暗赤褐色5YR3/3に類似。内面：ナデ。上部：黒褐色5YR3/1に類似。下部：橙色5YR6/6。	内外面：ナデ。	3	3	3	3	3	3	3	3	普通・式。沈線文と刺突文による施文。口縁部上面の刺突文は真上の方向から施され、内面上部の刺突文は左から右方向へ刺突している。
172	4	縄文土器	深鉢	胴部	外面上部：橙色5YR6/6。下部：にぶい褐色7.5YR5/3に類似。内面：にぶい黄色2.5Y6/3に類似。	内外面：ナデ。	3	3	3	3	3	3	3	3	ヘラによる沈線文によって羽状の文様を施文している。沈線内にボジな条線が1条見られ、竹管状の工具を使用したものと推定できる。摩滅している。134・137・141・142・143・249と同一個体。摩滅している。
173	表	弥生・土器	甕	口縁部	口縁上端部：にぶい黄褐色10YR6/3。外面：暗赤灰色10R3/1に類似。明赤褐色2.5YR5/6に類似。内面：にぶい黄褐色10YR5/3に類似。器内：暗灰色N3/1に類似。	内外面：ナデ？。	3	3	3	3	3	3	3	3	口縁部に三角突帯を貼り付けている。上面はほぼ水平。摩滅している。
174	4	古墳・土器	甕	口縁部	外面上部：橙色5YR6/6。下部：黒褐色10YR3/1に類似。内面：にぶい赤褐～明赤褐色5YR5/4～5/6。	内外面：ヨコナデ。内面下部：ハケ。	3	3	3	3	3	3	3	3	ゆるやかに外反する口縁部。屈曲部はいわゆるカキアゲによって稜線を成している。外面にスス付着。
175	4	古墳・土器	甕	口縁部	外面：灰褐色7.5YR5/2に類似。部分的に黒色。内面：にぶい褐色7.5YR6/4に類似。	内外面：ヨコナデ。	3	3	3	3	3	3	3	3	短く外反する口縁部。屈曲部に1条の三角突帯を施す。外面にはススが付着している。
176	2	古墳・土器	甕	口縁部	外面：鉄分付着。黒褐色10YR3/1?。内面：にぶい赤褐～明赤褐色5YR5/4～5/6。	内外面：ヨコナデ。	3	3	3	3	3	3	3	3	端部のみゆるく外反する器形。1条刻み目突帯を持ち、刻み目はハケ工具による。摩滅し、鉄分付着。
177	2	古墳・土器	甕	口縁部	外面：鉄分付着。黒色7.5YR2/1?。内面：赤褐色5YR4/6。黒褐色10YR3/2。	外面～内面上部：ヨコナデ。内面下部：ユビオサエのちナデ。	3	3	5	3	3	3	3	3	篋貫式。内湾気味の直立する口縁部。1条の刻み目突帯を施し、刻み目はハケ工具による。外面にはススと鉄分付着。
178	4	古墳・土器	甕	口縁部	外面：黒色7.5YR2/1に類似。内面：にぶい褐～褐色7.5YR5/4～4/4。	外面：ナデ。内面：ハケのちナデ。	3	3	3	3	3	3	3	3	ゆるやかに外反する口縁部。端部は面を持ち、ヨコナデによってくぼんでいる。外面鉄分スス付着。
179	4	古墳・土器	甕	口縁部	外面：黒色7.5YR2/1。にぶい褐色7.5YR5/4。内面：浅黄色2.5Y7/3に類似。黄灰色2.5Y5/1に類似。	内外面：横方向のナデ。	3	3	5	3	3	3	3	3	ゆるやかに外反する口縁部。端部は面を持ち、ヨコナデによってくぼんでいる。外面スス付着。
180	4	古墳・土器	突帯	突帯	外面：黒色N2/1に類似。内面：にぶい褐色7.5YR5/4。黒褐色10YR3/2に類似。	外面：ヨコナデ。内面：ユビオサエ、ハケのちナデ。	5	3	3	3	3	3	3	3	くの字状に屈曲する口縁部。屈曲部に1条の三角突帯を施す。外面はススが付着している。
181	2	古墳・土器	突帯	突帯	外面：黒色7.5YR2/1に類似。内面：橙色5YR6/6。	外面：ハケのちヨコナデ。内面：ハケのちナデ。	3	2	3	3	3	3	3	3	ゆるやかに外反する口縁部で、屈曲部に1条の刻み目突帯を有する。刻み目はハケ工具による。口縁端部は欠損している。外面にスス付着。
182	4	古墳・土器	突帯	突帯	外面：橙色5YR6/6。黒色7.5YR2/1に類似。内面：黒色N2/1に類似。浅黄橙～淡黄色10YR～2.5Y8/4。橙色7.5YR7/6。	外面：横方向のナデ。内面：ナデ。	5	3	3	3	5	3	3	3	頸部付近の突帯。刻み目はハケ工具によって施されている。外面スス付着。
183	4	古墳・土器	底部	底部	外面：灰黄色2.5Y6/2に類似。内面：灰黄褐色10YR5/2に類似。脚見込：浅黄色2.5Y7/3に類似。	外面：ヨコナデ。内面：ハケのちナデ。	4	4	4	4	4	4	4	4	
184	4	古墳・土器	底部	底部	外面：明赤褐色5YR5/6。暗灰～黒色N3/～2/。内面：明赤褐色5YR5/6に類似。	内外面：縦方向のハケのちナデ。脚見込：ユビオサエ、ナデ。	3	3	3	3	5	5	5	5	脚台上部。摩滅し、鉄分付着。
185	4	古墳・土器	脚部	脚部	外面：浅黄褐色10YR8/4に類似。内面：橙色2.5YR6/8に類似。	外面：ハケのちナデ。内面：ユビオサエのちナデ。	3	3	3	3	3	3	3	3	約1/5残存。反転復元。底径(8.75)cm。体部との接合部で欠損している。摩滅している。
186	4	古墳・土器	脚部	脚部	外面：黒褐～黒色7.5YR3/1～2/1。内面：黒褐色10YR3/2に類似。	外面：ハケのちナデ。内面：ナデ。	3	3	3	3	3	3	3	3	約1/6残存。反転復元。底径(10.15)cm。外面スス付着。
187	4	古墳・土器	脚部	脚部	内外面：鉄分付着。明赤褐色2.5YR5/7。	外面：ヨコナデ。内面：ナデ。	3	3	3	3	3	3	3	3	接合部で欠損している。鉄分付着。
188	4	古墳・土器	脚部	脚部	外面：にぶい黄褐色10YR6/4に類似。内面：橙色5YR6/6に類似。	外面：ハケのちナデ。内面：ヨコナデ。	3	3	3	3	3	3	3	3	接合部で欠損している。
189	1	古墳・土器	壺	口縁部	外面：にぶい黄褐色10YR7/4。内面：明赤褐色2.5YR5/8。	内外面：ナデ？。	3	3	3	3	3	3	3	3	摩滅している。
190	2b	古墳・土器	脚部	脚部	外面：明赤褐色2.5～5YR5/6。端部：黒色N1.5/1に類似。内面：にぶい赤褐色5YR5/4に類似。	繊維状の工具によるナデ。	3	3	5	3	3	3	3	3	低い脚で、端部の器壁が厚く丸い。
191	2	古墳・土器	壺	口縁部	外面：明赤褐色5YR5/6。内面：にぶい黄褐色10YR5/4に類似。	外面：縦方向のハケのちナデ。内面：横方向のナデ。	3	3	3	3	2	2	2	2	ゆるやかに屈曲して開く脚部。
192	2	古墳・土器	壺	突帯	外面上部：灰～暗灰色N4/～3/に類似。下部：灰白色2.5Y8/2に類似。内面：灰色5Y6/1に類似。	外面：ナデ?。内面：剥落のため不明。	3	3	5	3	3	3	3	3	大型の壺によく付けられる。幅広突帯。斜め格子文を施す。刻みの中には布目任痕が認められる。
193	2	古墳・土器	壺	底部	外面：摩滅している。にぶい黄色2.5Y6/3?。内面：にぶい褐色5YR7/4?。器内：暗赤灰色2.5YR3/1。	内外面：摩滅している。ナデ?。	3	3	3	3	3	3	3	3	平底だが底面がゆるやかに凸面をもつ。器壁が厚い。
194	2	古墳・土器	壺	底部	外面：明赤褐～赤褐色2.5YR5/6～4/6。内面：黒褐色10YR3/1。黒色N2/1に類似。	内外面：ユビオサエのちナデ?。	5	4	4	4	4	4	4	4	



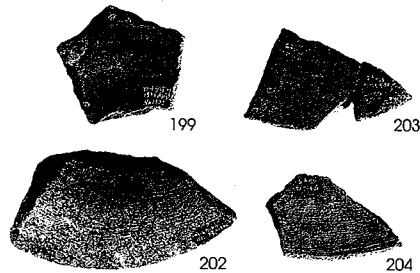
↑外面



↑外面



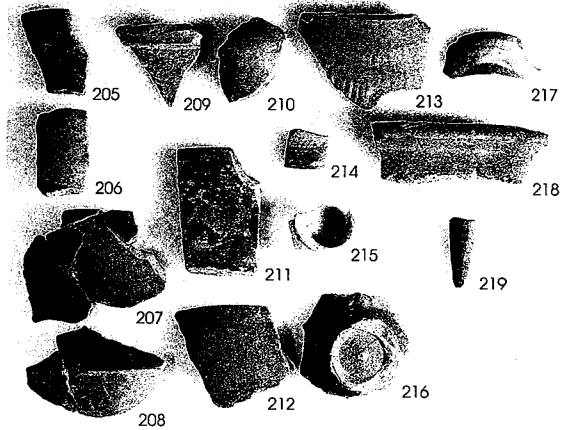
内面



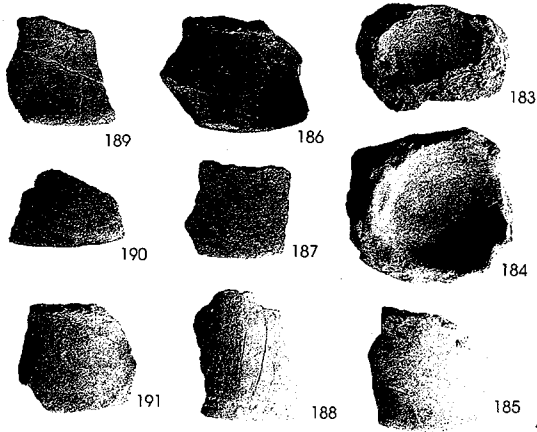
内面



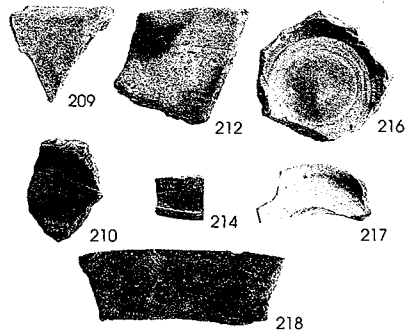
174の外面(左)内面(右)の調整



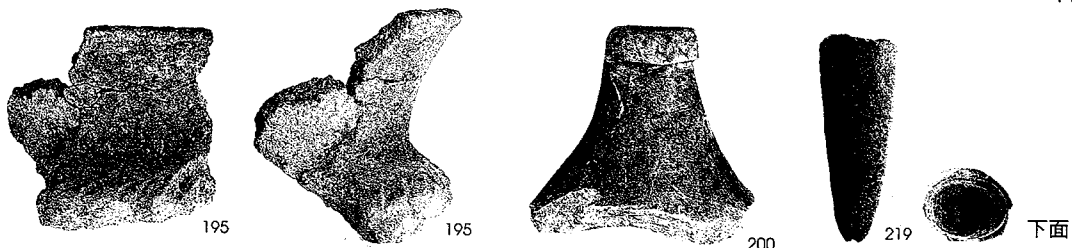
↑外面



外面



内面



PL.53 15トレンチ包含層出土遺物

えられる。古墳時代の遺物に関しては、前半期のものと後半期のものが出土している。149以外は、埋土中出土遺物であることから、住居跡の時期は古墳時代前期であると考えられる。

SK21

調査区北側に位置する。土壇状遺構としたが、ふたつのピットが重なったものである。ピットの新旧関係は不明である。埋土中より古墳時代の土器と石器が出土している。

出土遺物 (Fig. 43)

埋土中より、曾畑式土器 (162)、古墳時代後半の甕 (163～165)、古墳時代の甕 (166)、古墳時代の壺 (167)、軽石製品 (168・169)、石皿 (170) が出土した。

SK22

調査区南側に位置し、SK13とSK14に切られている。壁はなだらかに南側に傾斜しており、明確な下場のラインは確認できなかった。埋土中からも遺物は出土していない。

ピット (P48～P50)

SK13とSK14にはさまれた部分にピットを3基検出した。それぞれ、古墳時代と考えられる土器片が埋土中より出土しているが、実測できるものはなかった。このピットがどの遺構と関連があるのかは不明である。

包含層出土遺物 (Fig. 44・45)

包含層からは、特に2・4層中より遺物が多量に出土している。遺物は、曾畑式土器 (171・172)、入来I式の甕 (173)、古墳時代前半の甕 (174～176・178～181)、古墳時代後半の甕 (177)、古墳時代の甕 (182～191)、古墳時代後半の壺 (192・193・195)、古墳時代の壺 (194)、古墳時代後半の高杯 (196～204)、古墳時代後半の埴 (205・207・208)、古墳時代の埴または小形丸底壺 (206・209・210)、古墳時代の鉢 (211・212)、須恵器 (213)、古代の須恵器 (214)、染付け椀 (215)、陶器 (216～218)、石錘? (219) である。

4.16 16 トレンチ

球技場南西隅に位置する。南北3m、東西5.8mの大きさである。

4.16.1 層位 (Fig. 46)

基本層位として、1～5層までを確認した。3層まではほぼ水平に整合的に堆積している。遺物は、

1層から4層まで多量に出土している。また、4層上面から遺構が検出された。

4.16.2 遺構と遺物

4層上面より、住居跡6基 (SK15～19・20) と、土壇状遺構1基 (SK23)、ピット4基が検出された (Fig. 47)。

SK15

調査区東側に位置し、SK19に切られ、SK18を切っている。SK19との境界が検出面でははっきりしなかったため、C-C'の位置に幅20cmのテストトレンチを設置して5層まで掘削した。その結果、SK19に張り床を確認したことから、両者の埋土をSK15の床面まで掘り下げた。SK15の床面がSK19の埋土にきられていたことから、両遺構の新旧関係と範囲を認定した。その結果、SK19の北側の壁が西よりにかたよる形状を呈している。

SK15は平面形が一辺約3mの方形を呈する住居跡であると考えられる。南側のコーナー部には、壁に段を持つ。また、約10cmほどの厚さの張り床を持つ。中央部より少し南よりに炉を配し、炉の周りには炭が薄く広がっている (濃い網掛け部)。炉は少しくぼんでおり、橙色の粘土を基調とする埋土がつまっている。

出土遺物 (Fig. 48)

埋土中より、多くの遺物が出土している。実測可能なものの詳細をあげると、古墳時代前半の甕 (220・221・224・226)、古墳時代後半の甕 (222・223)、古墳時代の甕 (225～228)、古墳時代後半の壺 (229・230・231)、古墳時代後半の高杯 (232)、古墳時代後半の埴 (233・234)、古墳時代の埴 (235)、軽石製品 (236) である。

SK16

調査区西側に位置する、柄鏡型の住居跡である。



PL.54 16 トレンチ東壁

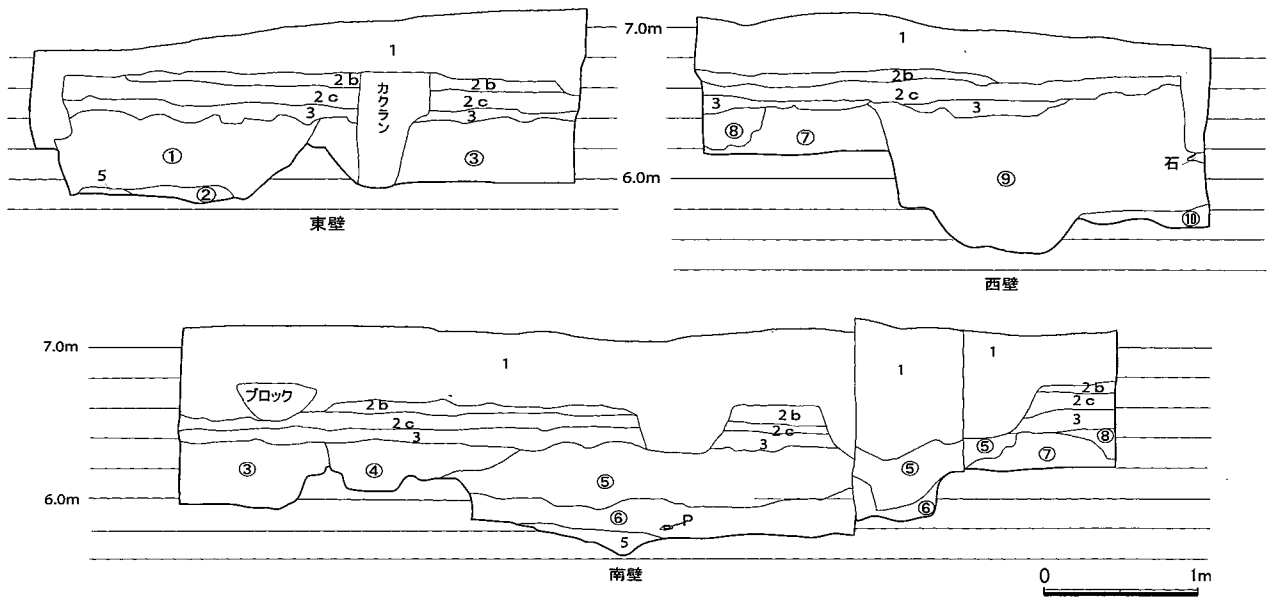


Fig. 46 16トレンチ層位断面図 S=1/40

Tab. 55 16トレンチ層位

層名	色調・土質	備考
1	表土	現代
2a	褐灰色7.5YR1/6, シルト質砂. 1~2cm大の軽石を多く含む.	
2b	におい褐色7.5YR3/6, シルト質砂. 1~2cm大の軽石を多く含む. 鉄分浸透.	
2c	灰褐色7.5YR2/5, シルト質砂. 1~2cm大の軽石を多く含む. 鉄分浸透.	古墳
3	明黄褐色2.5Y6/6, 粗砂混じりシルト質砂.	古墳
4	5YR1/3黒褐色, シルト. 1~5cm大の軽石を多く含む.	古墳
5	2.5Y3/6, におい黄色, 粗砂混じりシルト.	
①	黒褐色7.5YR2/3, 砂混じりシルト. 2~3cm大の軽石を含む, 5層土をブロックで含む.	SK15埋土
②	5層土と①との混土.	SK15埋土
③	黒褐色5YR1/3, シルト. 1~5cm大の軽石を多く含む. やわらかい.	SK17埋土
④	③と同じだが, 境界付近で③の方が若干褐色見を帯びる.	SK23埋土
⑤	③・④に類似, 若干色が薄い.	SK20埋土
⑥	黒褐色7.5YR1/3, 砂質シルト. 上部に粗砂のうすい層が認められる部分がある(床面). 上層より色が濃い. 5層土を2~3cm大のブロックで含んでいる.	SK20埋土
⑦	黒色1/1.7シルト.	
⑧	⑤に類似するが, ⑦をブロックで含む.	
⑨	黒褐色5YR1/2, 砂混じりシルト. 1~5cm大の軽石を多く含む. 炭を含む.	SK16埋土
⑩	⑨と5層土との混土.	SK16埋土

SK19に切られている。南東方向にのびる幅1mのスロープ状の張り出しを持ち、厚さ約10cmの張り床を呈する。張り床を除去した底面は、ゆるやかに中心部に向かって傾斜している。底面の北東部が浅いピット状の落ち込みがいくつか認められる

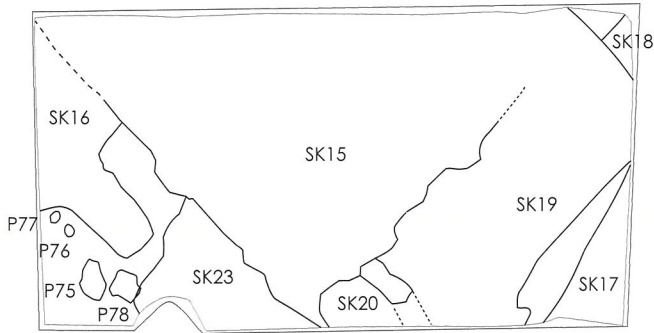
Tab. 56 16トレンチ遺構一覧

遺構名	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	埋土	備考
SK15	300+ α	172.8+ α		層位断面図①②	—●SK18・19
SK16	268.8+ α	147.6+ α		層位断面図⑨⑩	—●SK19
SK17	177.6+ α	74.4+ α		層位断面図③	
SK18	104.52+ α	51.6+ α		層位断面図①類似	—●SK15
SK19	304.8+ α	297.6+ α		黒褐色7.5YR2/3, 砂混じりシルト.	—○SK15・16・20
SK20	40.2	32.52		僧院断面図⑤・⑥	—●SK19
SK23	147.96+ α	129.72+ α		僧院断面図④	
P75	46.68	29.16	6.8	黒褐色5YR1/3, シルト	
P76	14.76	10.92	8.8	黒褐色5YR1/3, シルト	
P77	14.7	10.8	8.3	黒褐色5YR1/3, シルト	
P78	27.96+ α	27.96		黒褐色5YR1/3, シルト	

—○ 切る, —● 切られる

Tab. 57 16トレンチ遺物出土状況

層	縄文	弥生	古墳	須恵器	土師器	土器	陶磁器	レガラス類	ガラス	石器	その他	計
1		1	91		2	470	9	3	1		1	578
2			132	5	3	1498	9	1			1	1649
3		2	125	5	1	788	2					923
4			450	1		1403				2		1856
SK15	1		411			1625	1			9		2047
SK16			75			233				5		313
SK17			10			62						72
SK18			1									1
SK19	1	1	332			1246	1			12		1593
SK20			2									2
SK23		1	49			77				5		132
計	2	5	1678	11	6	7402	22	4	1	33	2	9166



PL. 55 16 トレンチ 4 層上面遺構検出状況

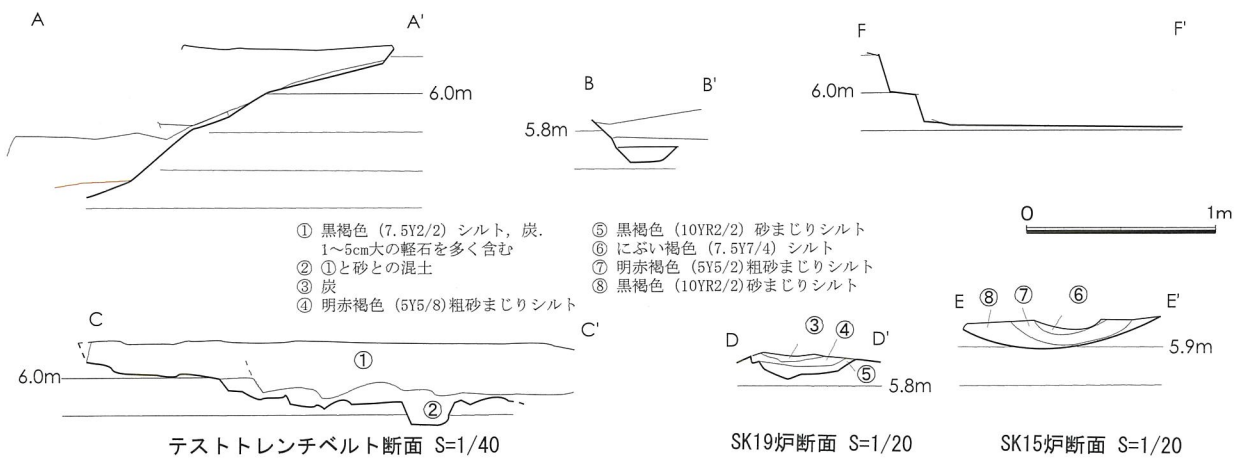
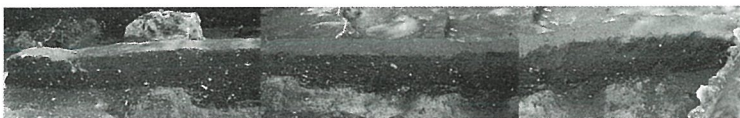


Fig. 47 16 トレンチ遺構図 S=1/40



PL. 56 テストトレンチベルト断面



PL. 57 SK19 出土紡錘車



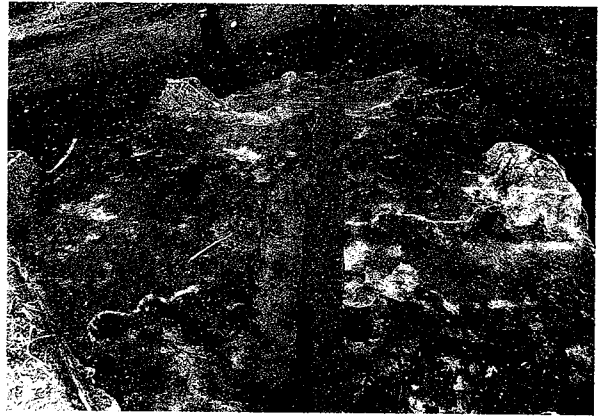
PL.58 SK15・19床面検出状況



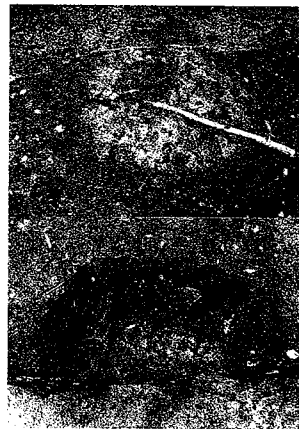
PL.61 SK19完掘



PL.59 SK15・19床面検出状況
埋土観察用ベルト除去後
手前がSK19



PL.62 SK15床面検出状況



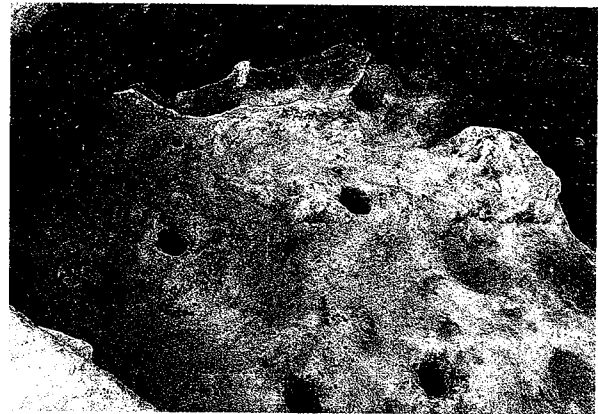
PL.63 SK15炉跡

←埋土除去後、↓断面



PL.60 SK19炉跡

←埋土除去後、↓断面



PL.64 SK15完掘



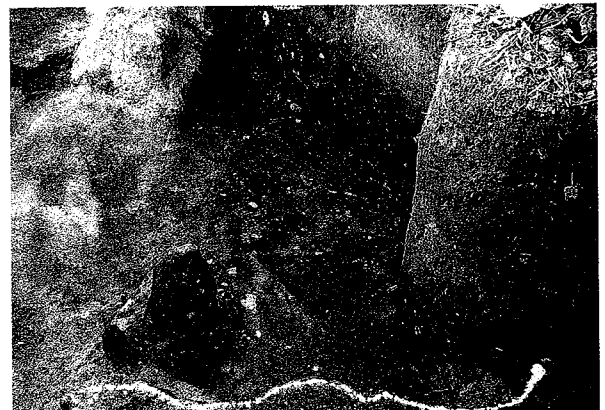
PL. 65 SK16埋土断面



PL. 69 SK16完掘



PL. 66 SK16床面検出状況



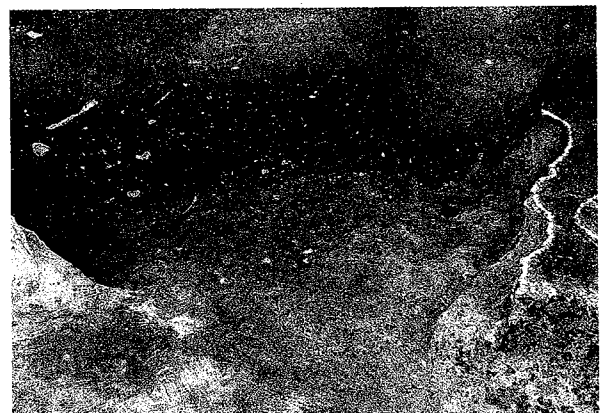
PL. 70 SK23床面検出状況



PL. 67 SK17



PL. 68 SK18壁溝



PL. 71 SK23完掘

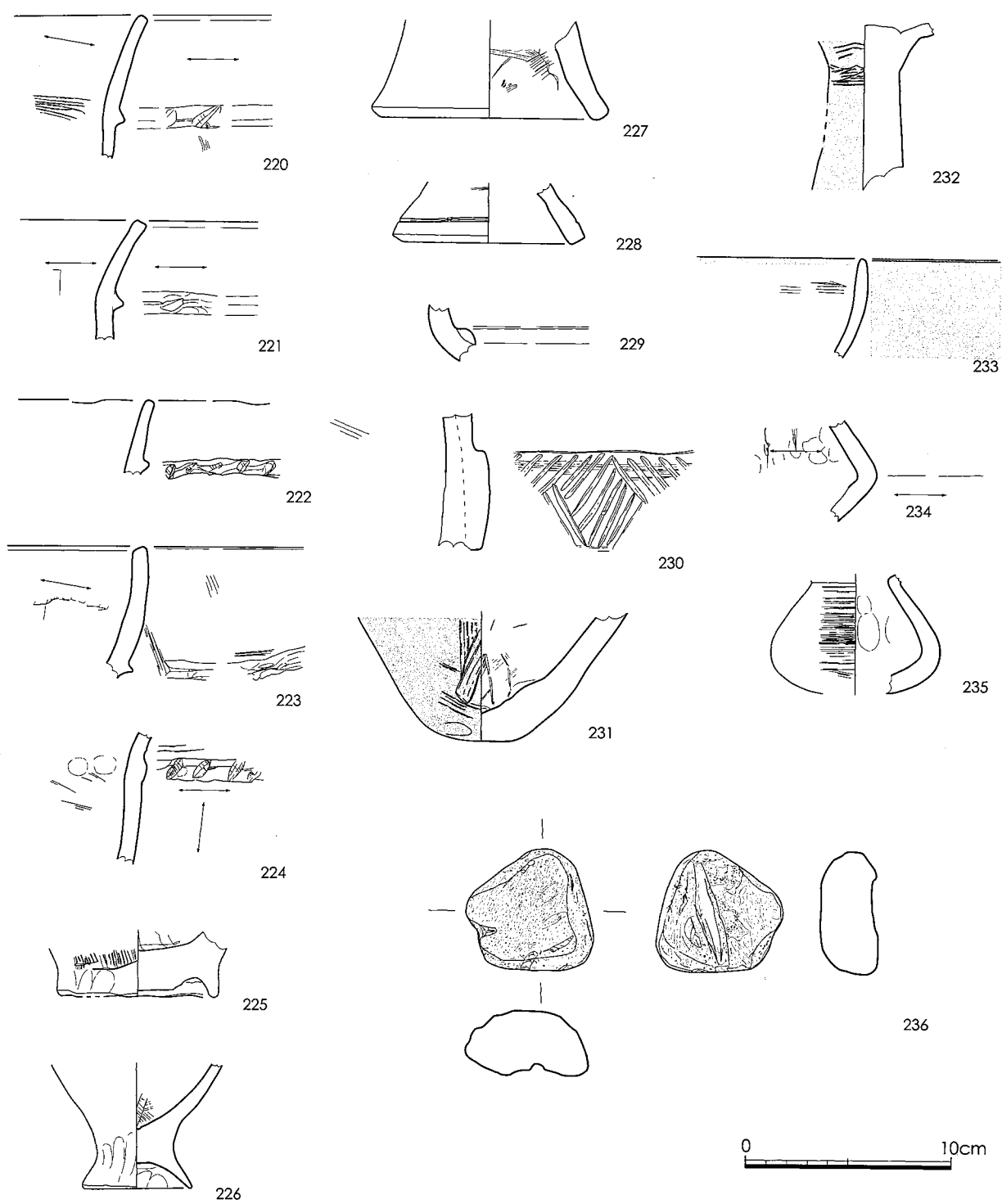
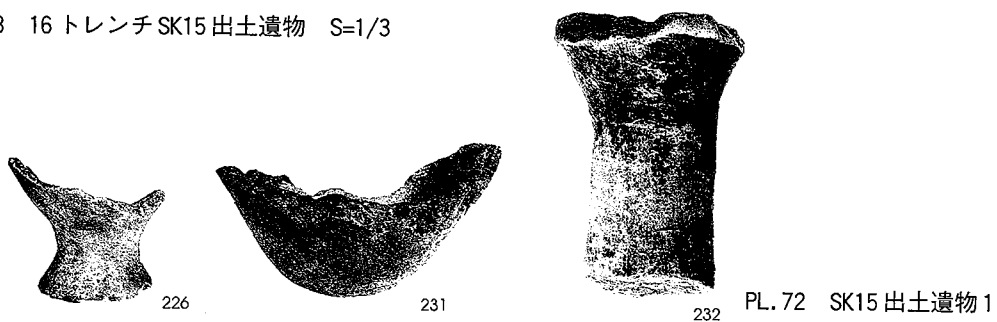
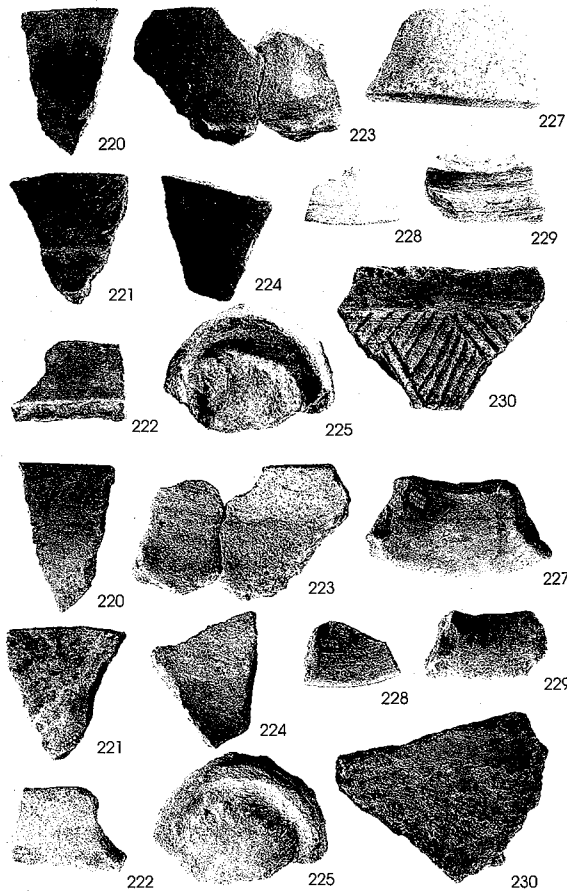


Fig. 48 16 トレンチ SK15 出土遺物 S=1/3





上 外面, 下 内面



220 刻目部分拡大



221刻目部分拡大,
布目圧痕

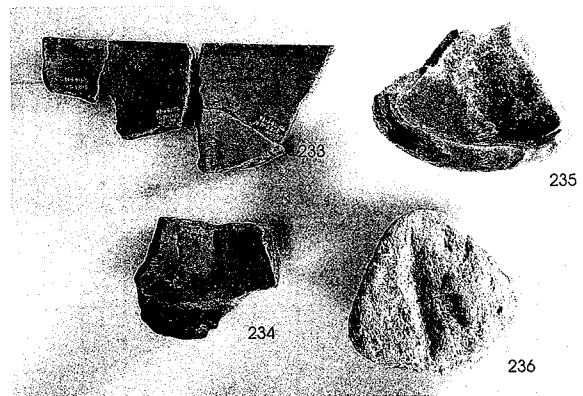
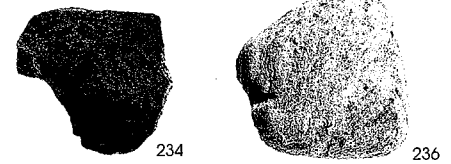
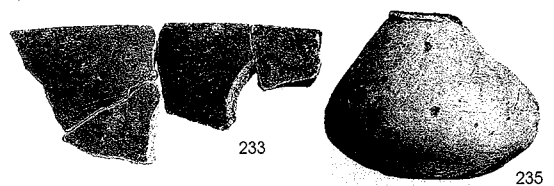


224 刻目
部分拡大,
布目圧
痕



PL. 73 SK15 出土遺物 2

233 口唇部内面, 赤色顔料が筆状の工具で施されているのがわかる。



上 外面, 下 内面

が、住居を製作する時についた掘具痕である可能性も高い。

出土遺物 (Fig. 49-217 ~ 244)

古墳時代の土器と石器が多量に出土している。実測できるものの詳細を見ると、古墳時代後半の甕 (237・238), 古墳時代の壺 (239), 古墳時代後半の埴 (240), 古墳時代の埴 (241), 軽石製品 (242 ~ 244) である。

SK17

調査区東側にSK15に隣接して位置する。壁の一部しか検出されていないが、他の住居跡と壁の方向が平行していることや、床面が平坦であることなどから、住居跡として捉えておきたい。

出土遺物 (Fig. 49-245 ~ 247)

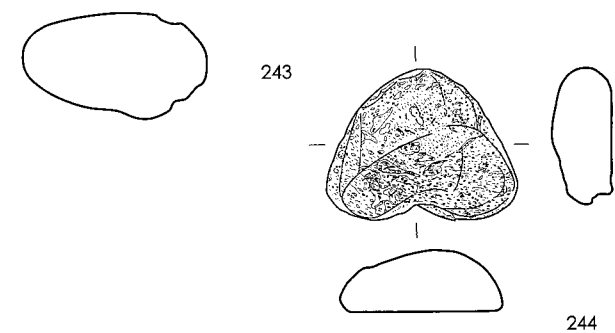
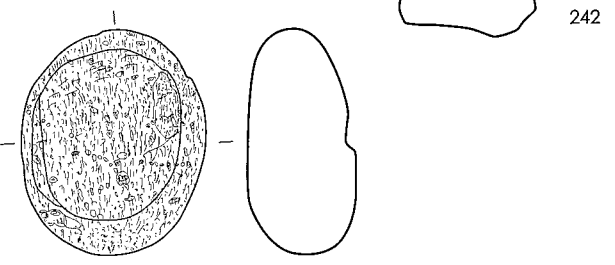
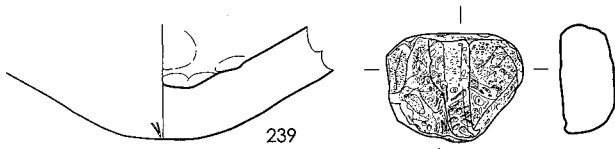
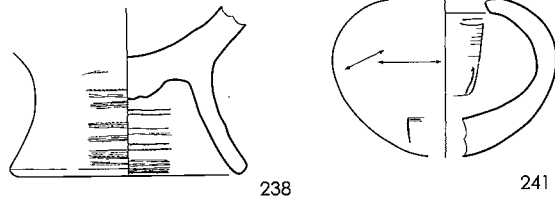
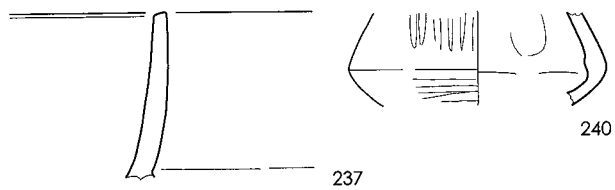
出土遺物は、古墳時代の土器が出土している。実測できるものは、古墳時代前半の甕と考えられるもの (245), 古墳時代後半の甕 (246・247) である。

SK18

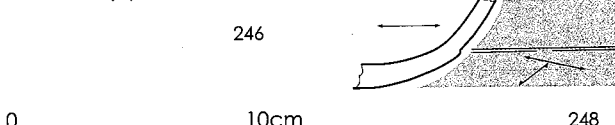
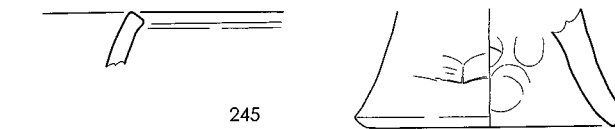
調査区北東すみに位置する。SK15に切られている。壁がごく一部分しか確認できなかったが、壁際に幅約5cmの溝が確認できた。板溝ではないか

Tab.58 16 トレンチ SK15 出土遺物観察表

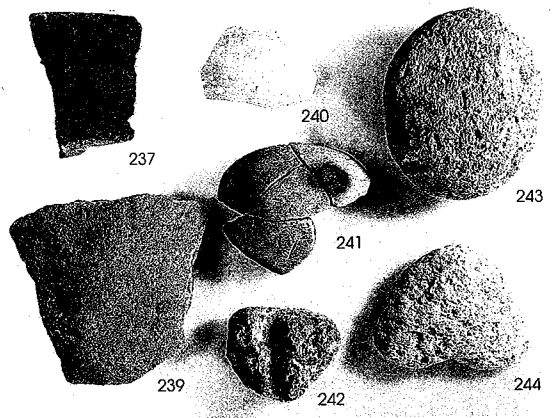
No	層・遺構	種類	器種	部位	色調	調整	胎土						備考
							R	W	B	Q	H	S	
220	SK15	古墳・土 甕器		口縁部	外面：にぶい黄褐色10YR6.5/4, 黒斑；黒色N2/に類似。内面：赤褐～暗赤褐色2.5YR4/6～3/6.	内外面：ハケのちナデ。上部はヨコナデ。	3	3	3	3	3	3	緩やかに外反する口縁部で、屈曲部に一条の刻み目突帯を持つ。口唇部は欠損している。刻みはハケ工具による。外面にスス付着。
221	SK15	古墳・土 甕器		口縁部	外面：黒褐色5YR3/1に類似。内面：明赤褐色2.5YR5/7・赤色顔料？。にぶい黄褐色10YR7/4に類似。黒斑：暗灰～黒色N3/～2/。	ヨコナデ。	3	3	3	3	3	3	くの字状に屈曲する口縁部。屈曲部以上が短め。屈曲部に一条の刻み目突帯を施す。外面にスス付着。
222	SK15	古墳・土 甕器		口縁部	外面：暗褐色7.5YR3/4に類似。内面：明赤褐色5YR5/6に類似。	内外面：ヨコナデ。	3	3	3	3	2	2	短い口縁部。一条の刻み目突帯を有する。刻みはハケ工具による。口縁端部が少しゆがんでいる。外面にスス付着。
223	4, SK15	古墳・土 甕器		口縁部	外面：褐灰～灰黄褐色10YR4/1～4/2。内面：にぶい黄褐色10YR7/4。	内外面：ハケのちナデ。	4	4	4	5	5	4	内湾気味に直立する口縁部。絡縄突帯を一条施す。外面にスス付着。
224	SK20	古墳・土 甕器		突帯	外面：黒褐色7.5YR2/2に類似。内面：にぶい橙～褐色7.5YR7/4～7/6, 灰褐色7.5YR4/2に類似。	外面：ナデ。内面：ハケのちナデ。	3	3	3	3	3	3	緩やかに外反する口縁部で、屈曲部に一条の刻み目突帯を持つ。口唇部は欠損している。刻みはハケ工具による。外面にスス付着。
225	SK15	古墳・土 鉢？器		底部	外面：橙色5YR6/7。内面：黒褐～黒色0YR3/1～2/1に類似。脚見込：にぶい黄褐色10YR7/4, 灰黄色2.5Y7/2に類似。	外面：ユビオサエ。縦方向のハケ。内面：ハケのちナデ。見込み部：あらいナデ。	3	3	5	3	3	3	約1/2残存。反転復元。底径() cm。粗雑な作り。
226	SK15	古墳・土 鉢器		底部	外面：にぶい橙色7.5YR6/4に類似。内面：橙～明赤褐色5YR6/6～5/6。脚見込：灰黄褐色10YR5/2に類似。	外面：ナデ。脚台くびれ付近ユビナデ。内面：ハケのちナデ。脚台内面：ナデ。	3	3	3	3	3	3	小型品。底径5.3cm。
227	SK15	古墳・土 甕器		脚部	外面：浅黄橙～にぶい黄褐色10YR8/4～7/4。内面：橙色5YR6/7に類似。	外面：ナデ。内面：ハケのちナデ。	3	3	3	3	3	3	約1/4残存。反転復元。底径(10.4) cm。接合部で欠損している。
228	SK15	古墳・土 甕？器		脚部	外面：橙色5YR6/6。内面：橙～明赤褐色5YR6/6～5/6。	内外面：ヨコナデ。	2	2	2	2	2	2	約1/6残存。反転復元。底径(8.05) cm。底部に面をもつ脚部。外面に一条の沈線を施す。
229	SK15	古墳・土 壺器		頸部	外面：灰色5Y5.5/1に類似。にぶい黄褐色10YR7/4, 明赤褐色5YR5/7。内面：浅黄褐色7.5YR8/6に類似。褐灰色10YR5/1に類似。	内外面：ナデ。	3	3	3	3	3	3	頸部に一条の突帯を施す。摩滅している。
230	SK15	古墳・土 壺器		胴部	外面：黒褐色10YR3/1に類似。灰黄色2.5Y7/2に類似。内面：橙色5YR6/7。	外面：ヨコナデ。内面：ナデ。ほとんど剥落。	4	4	4	4	4	4	大壺の胴部に施される幅広突帯。突帯には、平行沈線文による鋸歯文で、沈線内には布目圧痕が認められる。
231	SK15	古墳・土 壺器		底部	外面：赤褐色2.5YR4/7, 極暗赤褐色2.5YR2/2に類似。赤色顔料？。内面：橙～明赤褐色5YR6/6～5/6。	内外面：ハケのちナデ。	3	3	3	3	3	3	底径2.4cm。わずかに平底をとどめるが、底部は膨らんでいる。外面に赤色顔料付着。
232	SK15	古墳・土 高杯器		脚部	外面：赤色10R4/7, 赤色顔料。接合面：褐灰色10YR4/1に類似。	外面：横方向のミガキ。	2	2	2	2	2	2	脚部上部。杯部との接合部分で欠損している。外面に赤色顔料。表面は剥落している部分もあり。
233	SK15	古墳・土 埴？器		口縁部	外面～内面上部：赤色7.5～10R4/8, 赤色顔料。内面下部：にぶい橙～にぶい黄褐色7.5～10YR6/4。	外面・内面上部：横方向のミガキ。内面下部：ナデ。	2	2	2	2	2	2	椀状の器形を呈する。外面から内面口唇部にかけて赤色顔料が施されているが、内面はかすれたような部分があり、筆状の工具を使用したことがうかがえる。
234	SK15	古墳・土 埴器		胴部	外面上部：橙色7.5YR7/6, 黄灰色2.5Y5/1に類似。下部：青灰色5PB5/1に類似。内面：にぶい橙～褐色7.5YR6/4～6/6。	外面：ヨコナデ。内面：ユビオサエ。ヨコナデ。肩部にシボリ痕あり。	2	2	2	2	2	2	算盤珠状に屈曲する胴部。下部は接合部で欠損している。
235	SK15	古墳・土 埴器		胴部	外面：浅黄橙～にぶい黄褐色10YR8/4～7/4, 暗灰～黒色N3/～2/に類似。内面：淡黄色2.5Y8/3に類似。器肉：暗灰色N3/1に類似。	外面：横方向のハケ。内面：ユビオサエ。ナデ。	2	2	2	2	2	2	約1/4残存。反転復元。胴部最大径(8.3) cm。などで肩で下ふくらの胴部。丁寧な作り。
No	層・遺構	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石材	備考					
236	SK15	軽石製品	5.95	6.1	3.1	20.3	軽石	表裏面に擦った平坦面を持つ。裏面に、縦長のくぼみが認められるが、文様などを意識しているものかは不明である。					



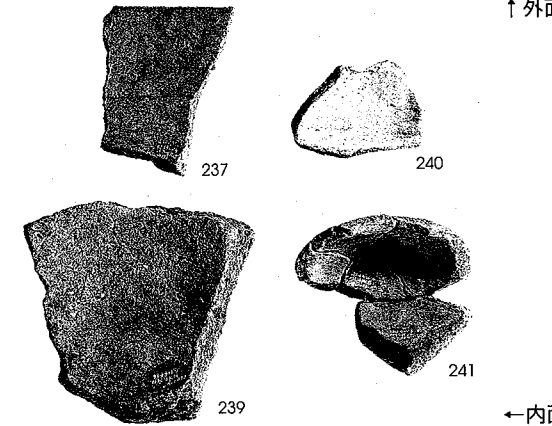
SK16



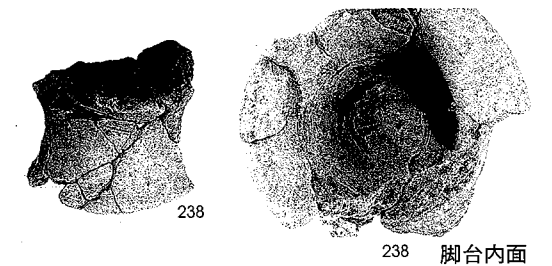
0 10cm



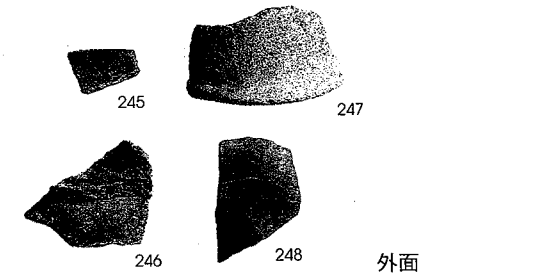
↑外面



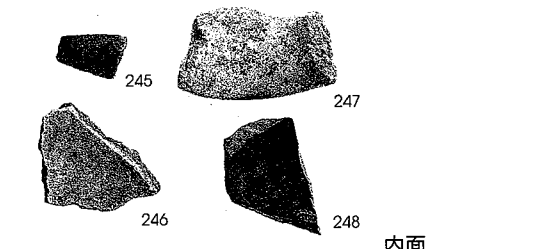
←内面



脚台内面



外面



内面

PL. 74 SK16・17・18 出土遺物

Fig. 49 SK16・17・18 出土遺物 S=1/3

Tab. 59 16 トレンチ SK15～18 出土遺物観察表

No	層・遺構	種類	器種	部位	色調	調整	胎土						備考
							R	W	B	Q	H	S	
237	SK15	古墳・土甕器	口縁部	外面：黒色5YR1.7/1に類似。内面：橙色5YR6/6.	ナデ.		3	3	3		3	内湾気味に直立する口縁部。突帯直上で欠損している。外面スス付着。	
238	4, SK16	古墳・土甕器	底部	外面：橙色7.5YR6/6に類似。内面：黒色7.5YR2/1に類似。	ハケのちナデ.		3	3	3	3	3	約1/2残存，反転復元。底径(8.75)cm。脚台見込み部は下方に張り出す。張り出しの周囲はナデによって窪められている。	
239	SK16	古墳・土甕器	底部	外面：橙色5YR6/6に類似。内面：ぶい赤褐～明赤褐色5YR5/4～5/6。器肉：灰色N4/1に類似。黒斑：暗灰～灰色N3/～4/1に類似。	外面：ナデ。内面：ユビオサエ，ナデ。		4	4	4	4	4	底径2.4cm。胎土に黒曜石を含む。少し尖り気味だが、広く開きながら立ち上がる器形を呈する。外面の器表があらわれている。	
240	SK16	古墳・土埴器	胴部	外面：灰白色2.5Y8/2に類似。内面：浅黄橙～淡黄色10YR～2.5Y8/3。器肉：灰色N5/1に類似。	外面肩部：縦方向のミガキ。屈曲部以下：横方向のミガキ。内面：ナデ。		2	2	2	2	2	約1/6残存，反転復元。胴部最大径()cm。算盤珠状を呈する胴部。	
241	SK16	古墳・土埴器	胴部	外面：ぶい黄褐色10YR7/4。内面上部：橙色7.5YR7/6に類似。下部：灰黄色2.5Y6/2。器肉：灰色N4.5/1に類似。	外面：ナデ。内面：ハケのちナデ。		3	3	3	3	3	約1/4残存，反転復元。胴部最大径()cm。球形を呈する胴部。底付近は分厚い。外面胴部最大径付近に黒斑あり。	
245	SK17	古墳・土甕器	口縁部	外面：暗灰黄色2.5Y5/2に類似。内面：ぶい黄褐色10YR5/4に類似。	内外面：ヨコナデ。		2	2	2		2	わずかに外反する口縁部の端部。端部に面を持ち、ヨコナデによって窪んでいる。	
246	SK17	古墳・土甕器	突帯	外面：ぶい黄褐色10YR6/3。褐灰色10YR4/1。内面：浅黄褐色10YR8/4。器肉：灰色N5/1に類似。	外面：ユビオサエ，ナデ。内面：ハケのちナデ。		3	2	3	5	5	内湾気味に直立する口縁部。端部を欠損している。1条の絡縄突帯を有する。胎土に軽石を含む。	
247	SK17	古墳・土甕器	脚部	外面：浅黄橙～黄褐色10YR8/4～8/6。内面：橙色7.5YR7/6。	外面：ハケのちナデ。内面：ユビオサエ，ナデ。		4	4	5	4	4	約1/4残存，反転復元。底径(9.8)cm。端部が湾曲する。外面屈曲部より上の器表が少しあらわれている。	
248	SK18	古墳・土高杯器	杯部	外面：ぶい褐色7.5YR5/3。ぶい赤褐色5YR4/3に類似。内面上部：ぶい褐色7.5YR5/4。下部：黒色N2/1に類似。	内外面：ナデ。		2	2	2			碗状を呈する杯部。立ち上がり部にゆるい段を持つ。外面は赤色顔料付着。	
No	層・遺構	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石材						備考
242	SK16	軽石製品	4.4	5.45	2.1	14.7	軽石						表面に縦長のくぼみを持つ。表面は平坦面を呈し、擦っているようである。
243	SK16	軽石製品	9.1	6.4	4.25	68.8	軽石						表面に平坦面を持つ。全体が扁平な楕円形を呈し、擦って成形している。
244	SK16	軽石製品	6.05	7.6	2.45	19.3	軽石						表面にはいくつかの擦り面を持ち、裏面は平坦な裏面である。

と考えられる。

出土遺物 (Fig. 49-248)

古墳時代後半の高杯(248)が埋土中より1点だけ出土した。

SK19

調査区中央部に位置する。平面形が一辺約3mの方形を呈すると考えられる。SK15・16・20を切っている。SK15で前述したとおり、SK15の床面が切られた部分でSK19との境界を判断したため、SK19の南側ラインが東側に入り込んでいるが、4層上面の検出面からこの平面形であったかは不明である。床面中央部より南よりに炉を配する。炉は土壌状を呈し、真中には炭が層をなしている。厚さ約10cmの張り床を有する。

出土遺物 (Fig. 50・51)

縄文土器、弥生土器、古墳時代の土器、石器の他、陶磁器が1点出土している。遺物は、いずれも埋土

中より出土している。陶磁器は、小片で、後世の混ざりこみであると考えたい。縄文土器は、15トレンチで出土したものと同一曾畑式で、やはり5層がその包含層で、住居製作時に掘削によって混在したものと考えられる。弥生土器も同様と考えたい。

実測できるものの詳細は、曾畑式土器(249)、古墳時代前半の甕(250・256)、古墳時代後半の甕(251～255)、古墳時代の甕(257・258)、古墳時代後半期の壺(259～261)、古墳時代の壺(262)、古墳時代後半の高杯(263～267)、古墳時代の埴(268)、古墳時代後半の埴(269)、古墳時代の鉢(270・271)、弥生時代の鉢？(272)、石製の紡錘車(273・274)・たたき石(275)・軽石製品(276)である。古墳時代後半期の遺物が破片が大きく、器種もそろっている。また、紡錘車は、断面形台形状を呈し274には表裏面に線刻が施されている。

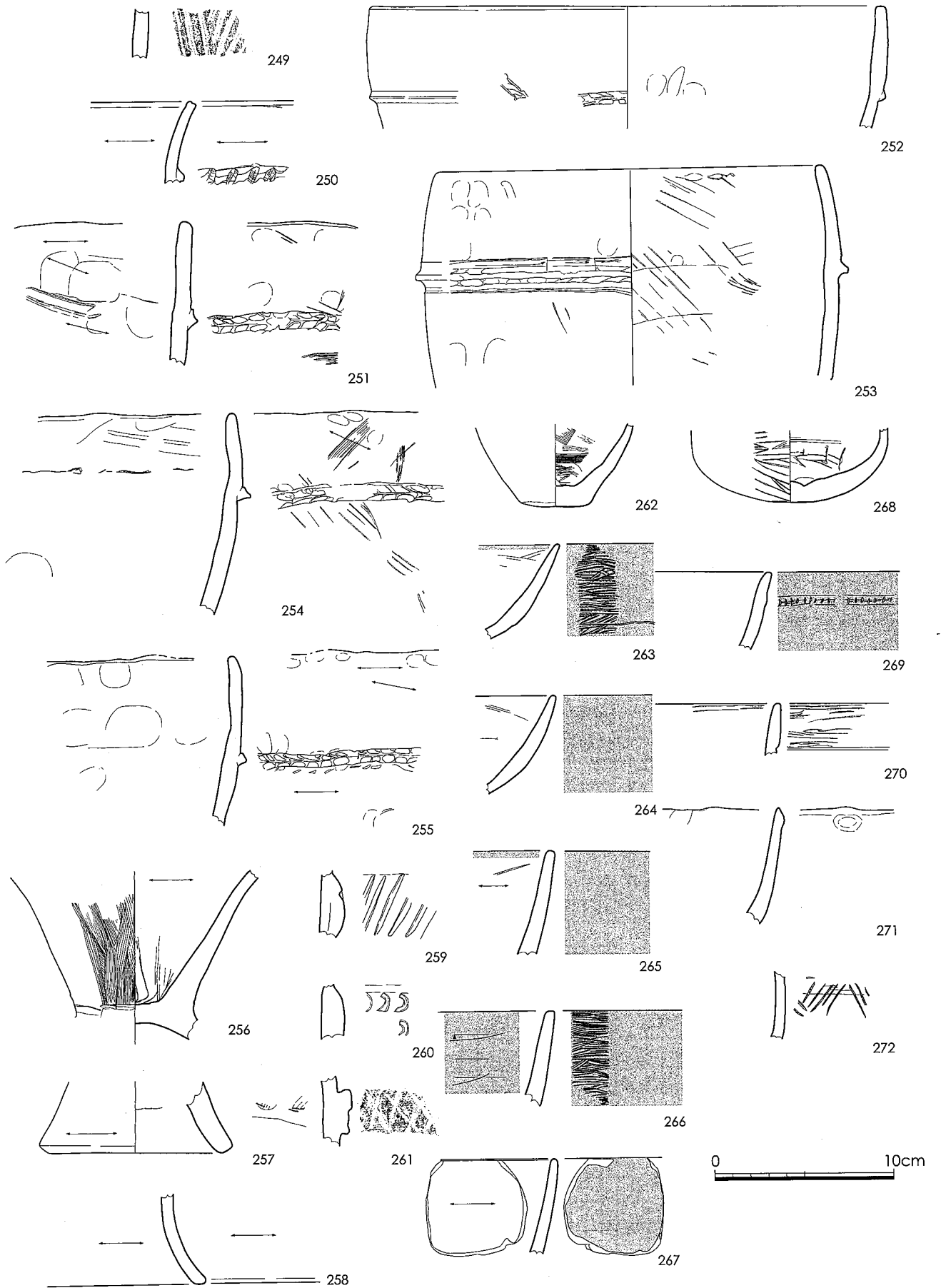


Fig.50 16 トレンチ SK19 出土遺物 S=1/3

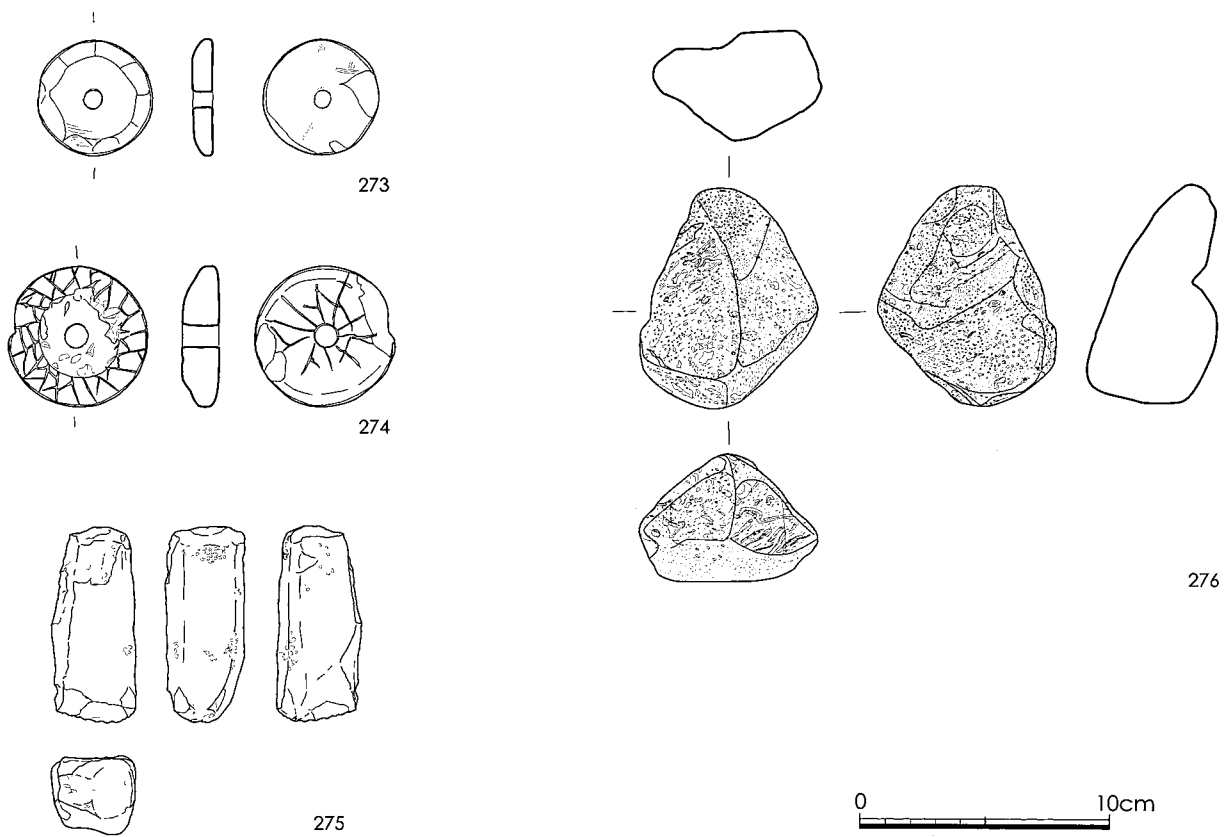
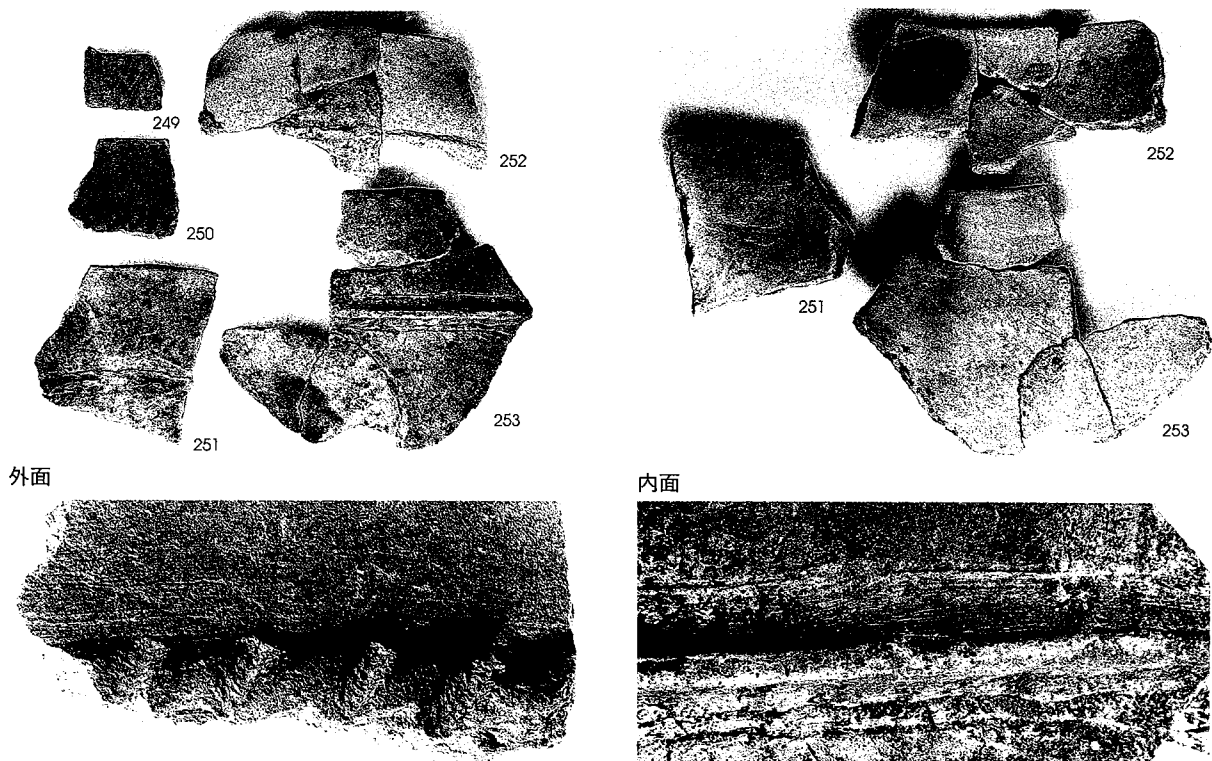
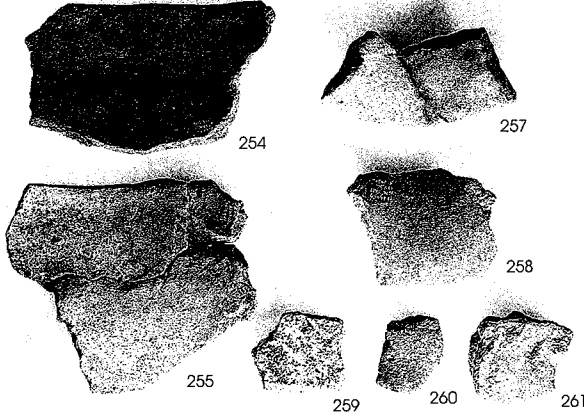
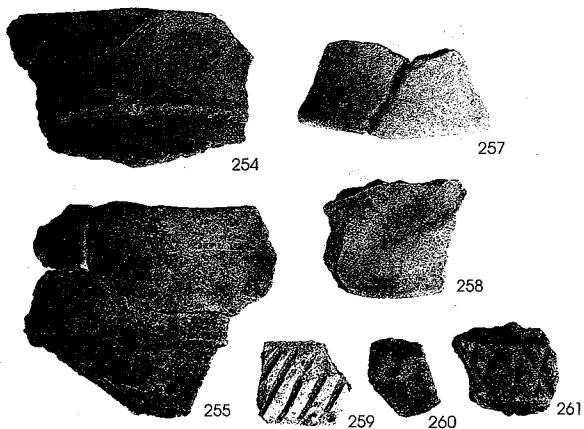


Fig. 51 16 トレンチ SK19 出土石器 S = 1/3

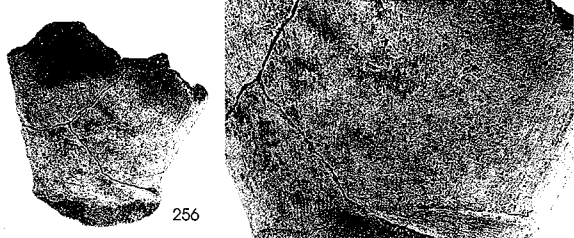


250 刻目部分拡大、ハケ工具による
PL. 75 SK19 出土遺物 1

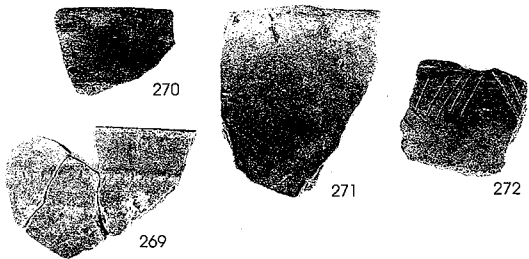
253 突帯部拡大



上 外面, 下 内面



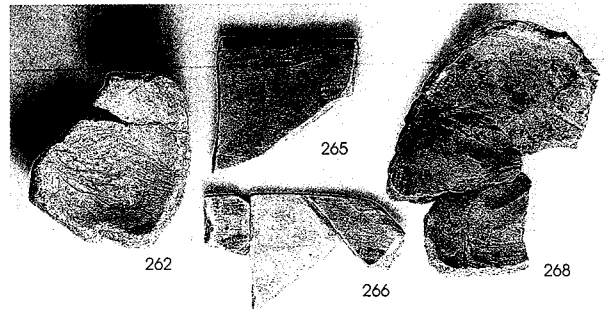
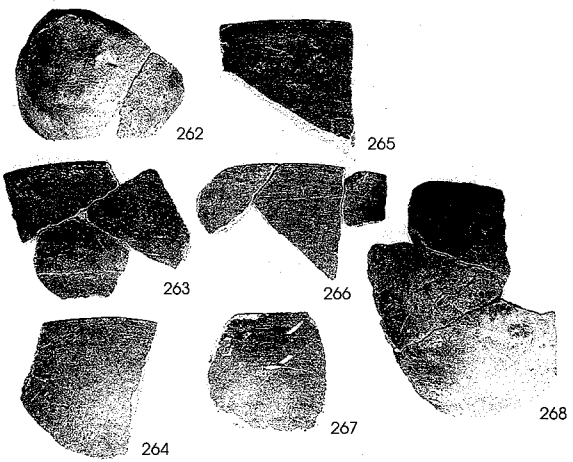
256 外面ハケメ



269 刻目拡大, 非常に細かい刻み.



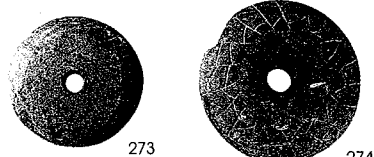
272 刻目拡大



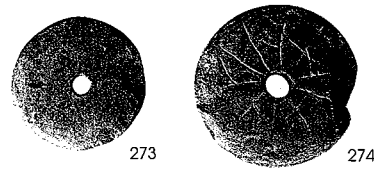
↑上 外面, 下 内面



265 外面口唇部拡大, 口唇部のみ赤色顔料が濃い.



表面



裏面



Tab.60 16 トレンチSK19 出土遺物観察表1

No	層・遺構	種類	器種	部位	色調	調整	胎土						備考
							R	W	B	Q	H	S	
249	SK19 炉内	縄文土器 (前期)	深鉢	胴部	外面：橙色7.5YR6/6に類似。内面：黄灰色2.5Y4/1に類似。	内外面：ナデ。	3	3	3	3	3	3	ヘラによる沈線文。羽状の文様を施文している。沈線内には1条のボジな条線が認められ、竹管状の工具を使用したものと推定できる。134・137・141・142・143・172と同一個体。摩滅している。
250	SK19	古墳・土器	壺	口縁部	内外面：黒褐～暗赤褐色5YR3/1～3/2。	外面～内面上部：ヨコナデ。内面下部：ナデ。	3	3	3			3	緩やかに外反する口縁部で、屈曲部にABCの刻み目突帯を持つ。端部は面を持ち、ヨコナデによって窪んでいる。刻みはハケ工具による。
251	SK19	古墳・土器	甕	口縁部	外面：浅黄橙色10YR8/3。黄灰色2.5Y6/1。内面：浅黄橙～ぶい黄橙色10YR8/3～7/3。	内外面：繊維状の工具によるナデのち丁寧なナデ。	3	3	3	3	3	3	直立しする口縁部で、一条の絡縄突帯を有する。口唇部は若干ゆがんでいる。摩滅している。
252	4, SK15	古墳・土器	甕	口縁部	外面：黄橙色10YR8/7。灰色N5.5/。灰白～浅黄橙色10YR8/2～8/3。内面：灰白～淡黄色2.5Y8/2～8/3。黒斑；黒色2.5Y2/1に類似。	内外面：ユビオサエ、ナデ。	4	4	4	4	4	4	約1/6残存、反転復元。口径(28.2)cm。内湾気味に直立する口縁部で、一条の絡縄突帯を有する。
253	4, SK15	古墳・土器	甕	口縁部	外面：ぶい黄橙色10YR7/2.5。橙色7.5YR7/6に類似、黒褐色10YR3/2に類似、黒斑；灰色N4/に類似。内面：浅黄～ぶい黄橙色2.5Y～10YR7/3。灰色N5/1に類似。ぶい黄橙色10YR7/4。灰白色2.5Y～10YR8/2。	外面：ハケ？のちナデ。突帯直上：約0.8cm幅の工具でなでている。突帯上部にもそれが及んでいることから、突帯を付着したのち行なっていることがわかる。細かい多条線痕が認められる。内面：ハケのちナデ。	3	3	3	3	3	3	約1/5残存、反転復元。口径(21.3)cm。内湾気味に直立する口縁部～胴部。外面スス・鉄分付着。
254	4, SK19	古墳・土器	甕	口縁部	外面：黄灰色2.5Y4/1に類似。内面：黒色N2/1に類似。	内外面：ハケのちナデ、ユビオサエ。	3	3	3	3	3	3	内湾気味の直立する口縁部で、一条の絡縄突帯を施す。突帯も口縁端部もゆがんでいる。内面には、粘土帯接合の後が残っている。
255	SK19	古墳・土器	甕	口縁部	外面：浅黄橙色10YR8/4に類似、黒色7.5YR2/1に類似、黄灰色2.5Y5/1に類似。内面：黄灰色2.5Y5/1、浅黄橙～淡黄色10YR～2.5Y8/3。	内外面：ユビオサエ、ナデ。突帯下部に爪痕あり。	4	4	4	4	4	4	内湾気味の直立する口縁部で、一条の絡縄突帯を施す。突帯も口縁端部もゆがんでいる。突帯直下に突帯をつまんで成形した際についたつめ痕が残っている。外面にスス付着。
256	4, SK19	古墳・土器	甕	底部	外面：橙色7.5YR6.5/6。灰色N4/に類似、暗灰色N3/に類似。内面：黒褐色10YR3/1に類似、ぶい黄橙色10YR6/3.5。褐灰色10YR4/1に類似。	外面：縦方向のハケ、内面：縦方向のハケのちナデ。	3	3	3	3	3	3	
257	SK19	古墳・土器	甕	脚部	外面：ぶい黄橙～浅黄色10YR～2.5Y7/4。内面：ぶい黄橙～ぶい黄橙色7.5～10YR7/4。	内外面：ナデ。	4	4	4	5	4	4	約1/4残存、反転復元。底径(9.6)cm。
258	SK19は	古墳・土器	壺	脚部	外面：橙色7.5YR7/6。浅黄橙色10YR8/4に類似、黄灰色2.5Y5/1に類似、暗灰色N3/に類似。内面：灰色N4/に類似。	内外面：ヨコナデ。	3	3	3	3	3	3	湾曲し、外に開く器形を呈する。
259	SK19	古墳・土器	壺	突帯	外面：浅黄橙色10YR8/4。灰白色10YR8/2。内面：浅黄橙色10YR8/4。	外面：ナデ。内面：摩滅しているため不明。	3	3	5	4	3	3	いわゆる幅広突帯。ヘラによる斜め平行文。幅広い工具で刻むように施文したと考えられる。沈線内の稜線はシャープである。断面に突帯接合痕が残っている。
260	SK19	古墳・土器	壺	突帯	外面：黒褐色5YR2.5/1。内面：ぶい褐色7.5YR5/4に類似。	外面：ナデ？。内面：摩滅しているため不明。	3	3	3	3	3	3	いわゆる幅広突帯。半截竹管文。断面に突帯接合痕が残存している。
261	SK19は	古墳・土器	壺	突帯	外面：暗灰～黒色N3/～2/。内面：橙～暗赤褐色5YR6/6～5/6。	ナデ。	3	3	3	3	3	3	幅広突帯。斜め格子文を施し、刻みの中には布目圧痕が明瞭に認められる。平織り..
262	SK19	古墳・土器	壺	底部	外面：褐灰色10YR4/1に類似、浅黄橙色10YR8/4に類似、黒色N2/1に類似。内面：浅黄橙～淡黄色10YR～2.5Y8/4。	外面：ナデ？。内面下部：繊維状の工具によるあらい調整。内面上部：ハケのちナデ。	3	3	3	5	3	3	底径3.9cm。胎土に赤い半透明粒を含む、緩やかに膨らむ底面を持つ平底。
263	SK15, 19	古墳・土器	高杯	口縁部	外面～内面上部：赤～暗赤色10R4/6～3/6。赤色顔料。内面下部：ぶい黄橙色10YR7/4に類似、暗灰～黒色N3/～2/。	外面～内面上部：横方向のミガキ。内面下部：ナデ。	2	2	2	2	2	2	椀状を呈する杯部。立ち上がり部にゆるい段を持つ。外面から内面口唇部には赤色顔料付着。
264	SK19	古墳・土器	高杯	口縁部	外面：赤色10R4/8に類似、赤色顔料。内面：橙色7.5YR7/6。	外面：横方向のミガキ。内面：ハケ？のちナデ。	5	2	2	2	2	2	椀状の器形を呈する。
265	SK19	古墳・土器	埴	口縁部	外面～内面上部：赤～赤褐色10R～2.5YR4/8。赤色顔料。内面下部：橙色7.5YR7/6。	外面～内面上部：横方向のミガキ。内面下部：ヨコナデ。	2	2	2	2	2	2	椀状の器形を呈する。外面から内面口唇部に赤色顔料が施されているが、外面口縁部付近は色が濃くなっており、重ね塗りしているようである。また、内面の赤色部分の境を見ると、筆状の工具を使用していることがわかる。
266	SK19	古墳・土器	埴	口縁部	外面～内面上部：赤色10R4/8。赤色顔料。内面下部：明赤褐色2.5～5YR5/8。うすく赤色顔料。	外面～内面上部：ミガキ。内面下部：ヨコナデ。	2	2	2	2	2	2	
267	SK19は	古墳・土器	高杯	口縁部	外面：黒色5YR1.7/1に類似、赤褐～暗赤褐色2.5YR4/6～3/6。赤色顔料。内面：黒色N2/1に類似。	外面：ミガキ。内面：ヨコナデ。	2	2	2			2	もとは高杯の口縁部であるが、破片の側面を擦っている..

Tab.61 16 トレンチ SK19 出土遺物観察表2

No	層・遺構	種類	器種	部位	色調	調整	胎土						備考
							R	W	B	Q	H	S	
268	SK15	古墳・土器	土 埴	底部	外面：橙色5~7.5YR6/6, 黒褐色7.5YR3/1.5. 内面：橙色5YR6/7, 褐灰色5YR4/1に類似.	外面：ハケのち横方向のミガキ. ミガキが丁寧ではなく、下地のハケが残っている.. 内面：ユビオサエ, ハケ. ハケ工具を底面中心部から放射状に打ち込んでハケを施している. 底面中心部は、窪んで無調整である.	3	3	3	3	3	3	底径2.4cm.
269	SK19	古墳・土器	高杯	口縁部	外面~内面上部：赤色10R4/8, 赤色顔料. 内面下部：灰黄褐色10YR5.5/2.	外面：横方向のミガキ. 内面：丁寧なナデ.	2	2	2	2	2	2	口縁端部を緩やかに外反させ、碗状を呈する. 1条の細く低い刻み目突帯を持つ. 刻みも非常に細かい. 内面口縁部から外面に赤色顔料が施されている.
270	SK15	古墳・土器	高杯	口縁部	外面：暗赤褐色2.5YR3/3, にぶい橙色7.5YR6/4に類似. 内面：暗赤褐色5YR3/2に類似.	内外面：横方向のミガキ.	3	3	3	3	3	3	口縁部外側を少し肥厚させ、外面に段を有する. 外面に赤色顔料付着.
271	SK15	古墳・土器	鉢?	口縁部	口唇部：浅黄褐色10YR8/3. その他：褐灰色10YR4.5/1.	内外面：ナデ.	2	2	2	2	2	2	碗状を呈するが、外面の口縁部直下に丸く低い突起がひとつ付着されている.
272	SK19	弥生土器?	甕	胴部	外面：にぶい褐色7.5YR5/4. 内面：黒褐~黒色7.5YR3/1~2/1.	ミガキ..	3	3	3	3	3	3	平行沈線による鋸し文を施している. 鋭く細い工具による..

No	層・遺構	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石材	備考
273	SK19	紡錘車	4.6	4.6	0.8	24.4	頁岩	裏面は一部欠損しているが、平坦で、表面は山形を呈する. 成形時の擦過痕がみとめられる.
274	SK19	紡錘車	5.6	5.6	1.5	58.9	細粒の砂岩	表裏面とも部分的な欠損あり. 細い光刻で鋸歯状の文様を施している.
275	SK19	たたき石	7.7	3.4	3.15	135	砂岩	細長い柱状を呈する. 下端面は若干丸い. 成形時の打痕が認められる.
276	SK19	軽石製品	8.8	7.05	5.1	74.6	軽石	擦り面がいくつも認められる.

SK20

調査区北側に位置する。SK19に切られている。住居西コーナー部分を検出した。壁際に段を有する。約20cmの厚さの張り床を持つ。

出土遺物 (Fig. 52-277)

古墳時代の土器が少し出土している。そのうち、実測できたのが277の手づくね土器である。コップ形だが、非常に粗雑な作りである。

SK23

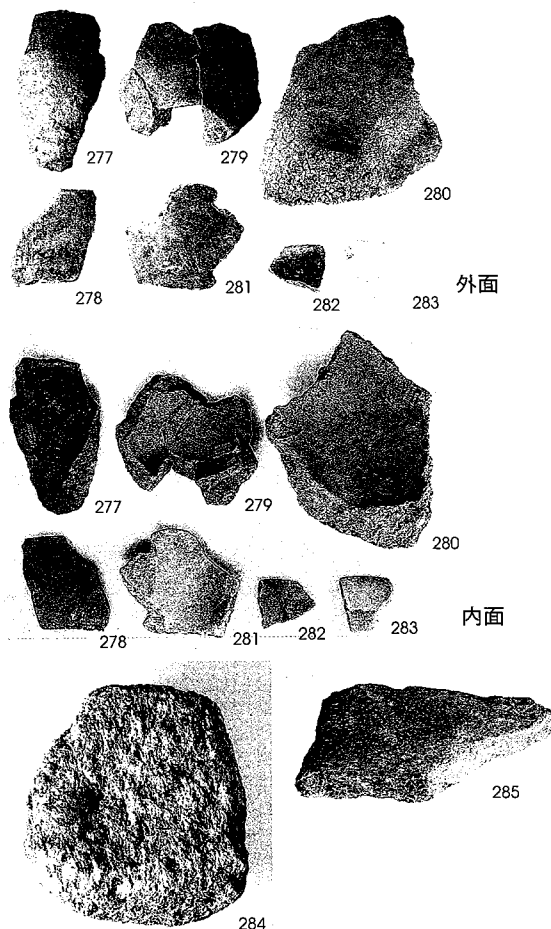
調査区北側中央部に位置する。SK15と19に隣接するが、検出時は切りあい関係は明確にできなかったが、北壁層位の観察から、SK20を切っていることが確認された(北壁④・⑤)。遺構の性格は不明である。

出土遺物 (Fig. 52-277 ~ 285)

弥生土器1点と、古墳時代の土器と石器が出土した。古墳時代の甕(278)、弥生後期の壺(279)、古墳時代の壺(280)、古墳時代後半の高杯(281)、古墳時代の鉢(282・283)、軽石製品(284)、擦り石(285)である。

ピット (P75 ~ P78)

SK16とSK20の間にピットを4基検出した。これらが、どの遺構に伴うのかは不明である。遺物などは出土しなかった。



PL.77 SK20・23 出土遺物

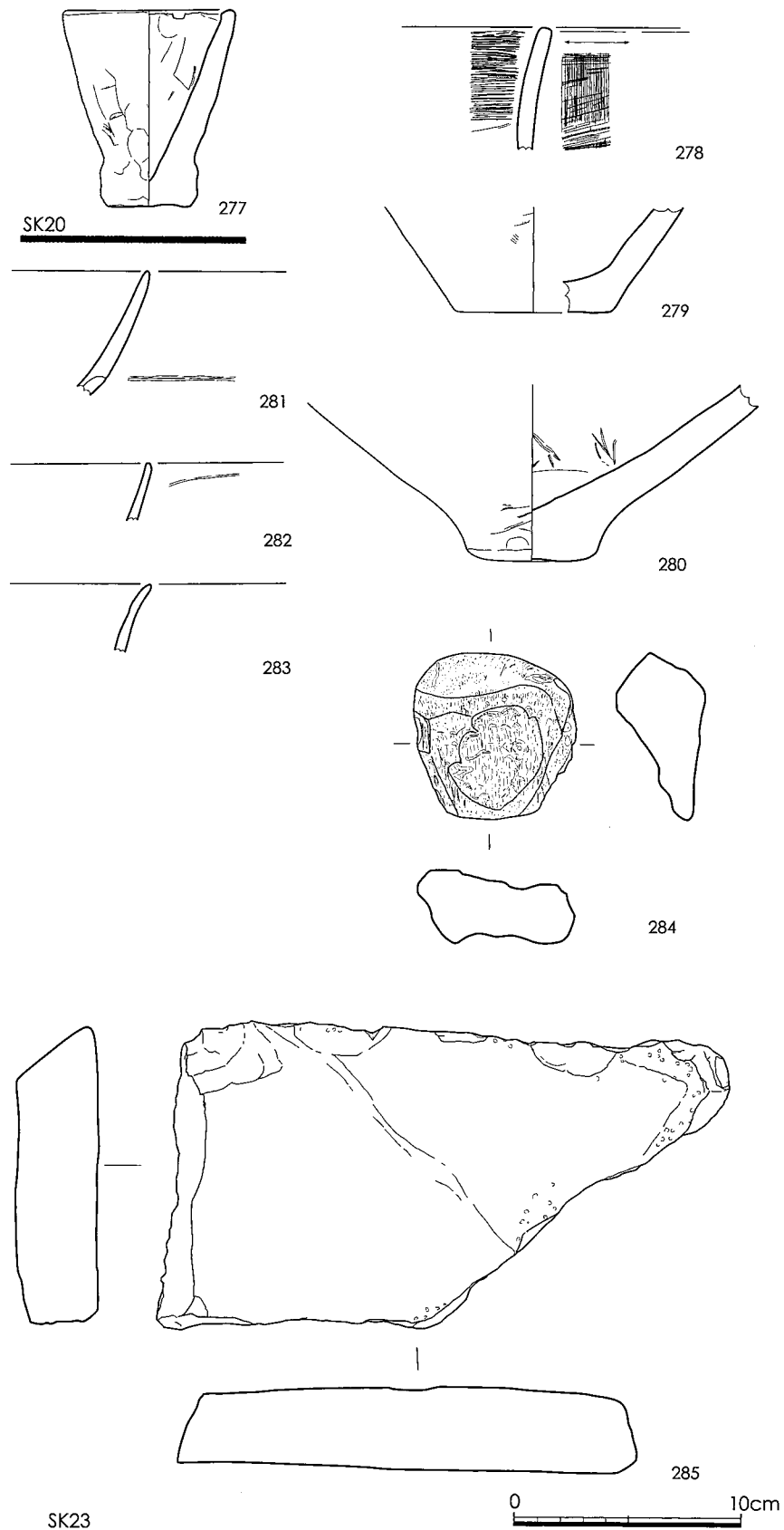
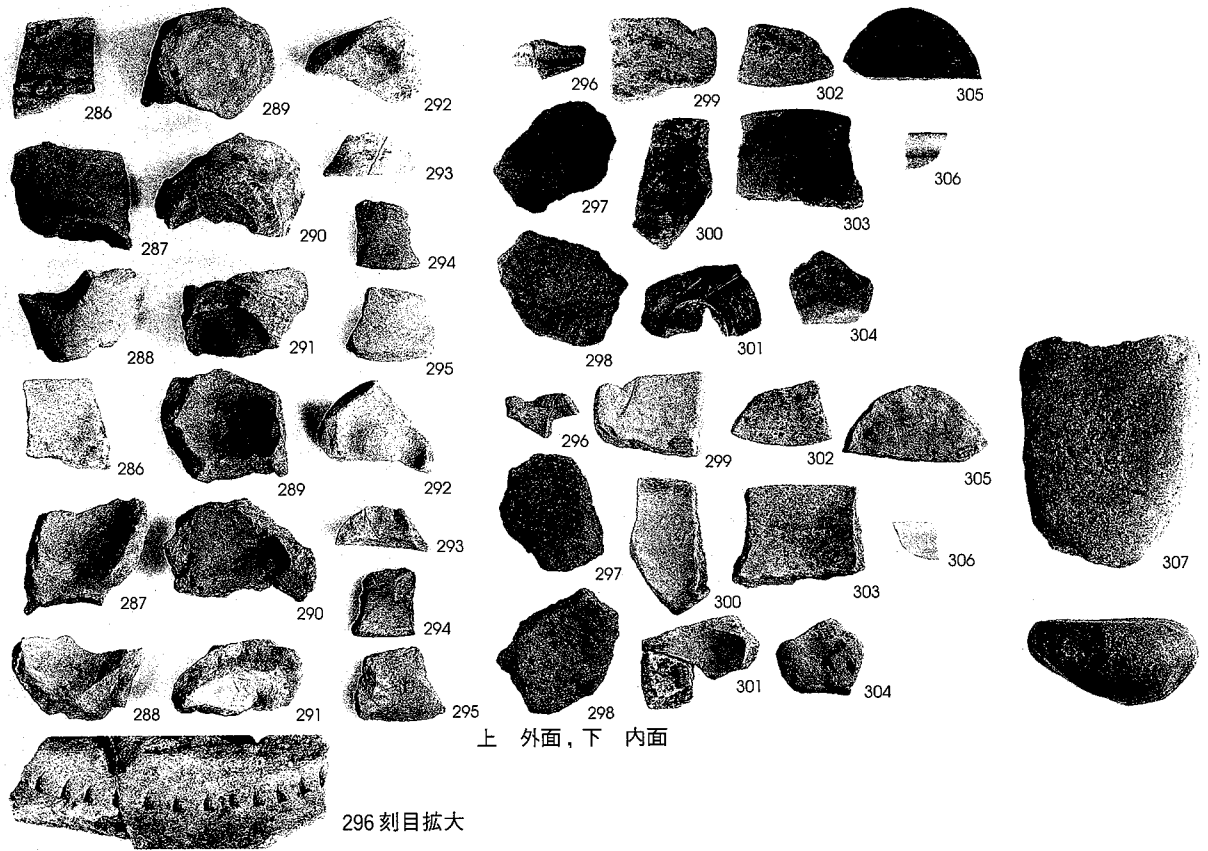


Fig.52 16 トレンチ SK20・23 出土遺物 S=1/3

Tab.62 16 トレンチ SK20・23 出土遺物観察表

No	層・遺構	種類	器種	部位	色調	調整	胎土						備考
							R	W	B	Q	H	S	
277	SK20	古墳・土器	小型鉢	完形	外面：黒色N1.5/に類似，明赤褐～赤褐色2.5YR5/6～4/6。内面：暗赤褐色2.5YR3/2，赤黒色2.5YR2/1に類似。	内外面：上方向のハケのちナデ。	3	3	3	3	3	3	約1/4残存，反転復元。口径(7.55)cm。底径(3.55)cm。器高8.6cm。コップ状の器形を呈するが，器壁が厚く，粗雑な作りである。特に外面下部の調整はあらく，器表の凹凸が目立つ。平底になるようだが，底面もゆがんでいる。
278	SK23	古墳・土器	甕	口縁部	外面：にぶい赤褐色5YR4/3に類似。内面：橙色7.5YR6/6に類似。	内外面：ハケ。口唇部付近：ヨコナデ。	3	3	3	3	3	3	緩やかに外反する器形を呈する。外面にはスス付着。
279	4, SK23	古墳・土器	壺	底部	外面：褐灰～黒褐色7.5YR4/1～3/1。内・底面：橙～明赤褐色5YR6/6～5/6。	外面：ハケ？のちナデ。内面：ナデ。	3	3	5	3	3	3	約1/4残存，反転復元。底径(6.55)cm。平底で，立ち上がりはシャープである。
280	SK23	弥生土器？	壺	底部	外面：にぶい橙色7.5YR6/4，にぶい赤褐～暗赤褐色5YR4/4～3/4。内面：明赤褐色5YR5/6。	外面：ハケ？のちナデ。内面：ハケのちナデ。	4	4	4	4	4	4	約1/2残存，反転復元。底径(5.75)cm。小さな分厚い底部で大きく外へ広がる器形を呈する。底面は，膨らんでおり，器表があらわている。
281	SK23	古墳・土器	高杯	口縁部	外面～内面上部：赤～暗赤色10R4/6～3/6，赤色顔料。内面下部：浅黄橙～にぶい黄橙色10YR8/4～7/4。	外面～内面上部：ミガキ。内面下部：ナデ。	3	3	3	3	3	3	碗状の器形を呈する。口縁部の外面段部が浅い沈線として残っている。この部分の断面に接合痕が認められる。内面口縁部から外面に赤色顔料が施されているが，内面は非常に摩滅している。300と同一個体か？
282	SK23	古墳・土器	鉢？	口縁部	外面：暗灰色N3/に類似。内面：にぶい黄橙色10YR7/3。	内外面：ヨコナデ。	3	3	3	3	3	3	少し内湾気味の器形を呈する。器壁が薄く，丁寧な作りである。
283	SK23	古墳・土器	埴？	口縁部	内外面：淡黄～浅黄色2.5YR8/4～7/4。	内外面：ヨコナデ。	2	2					わずかに外反する口縁部の端部。器壁が薄い。
No	層・遺構	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石材	備考					
284	SK23	軽石製品	7.4	7.15	3.9	49.2	軽石	擦って成形しており，表面にはくぼみを持つ。軽石もろいもので，作りは雑である。					
285	SK23	石皿	13.5	25.1	3.6	2000	安山岩	表面に平坦な擦り面を持つ。緩やかに少し窪んでいる。側面には，成形のための剥離面が認められる。					



PL.78 16 トレンチ包含層出土遺物

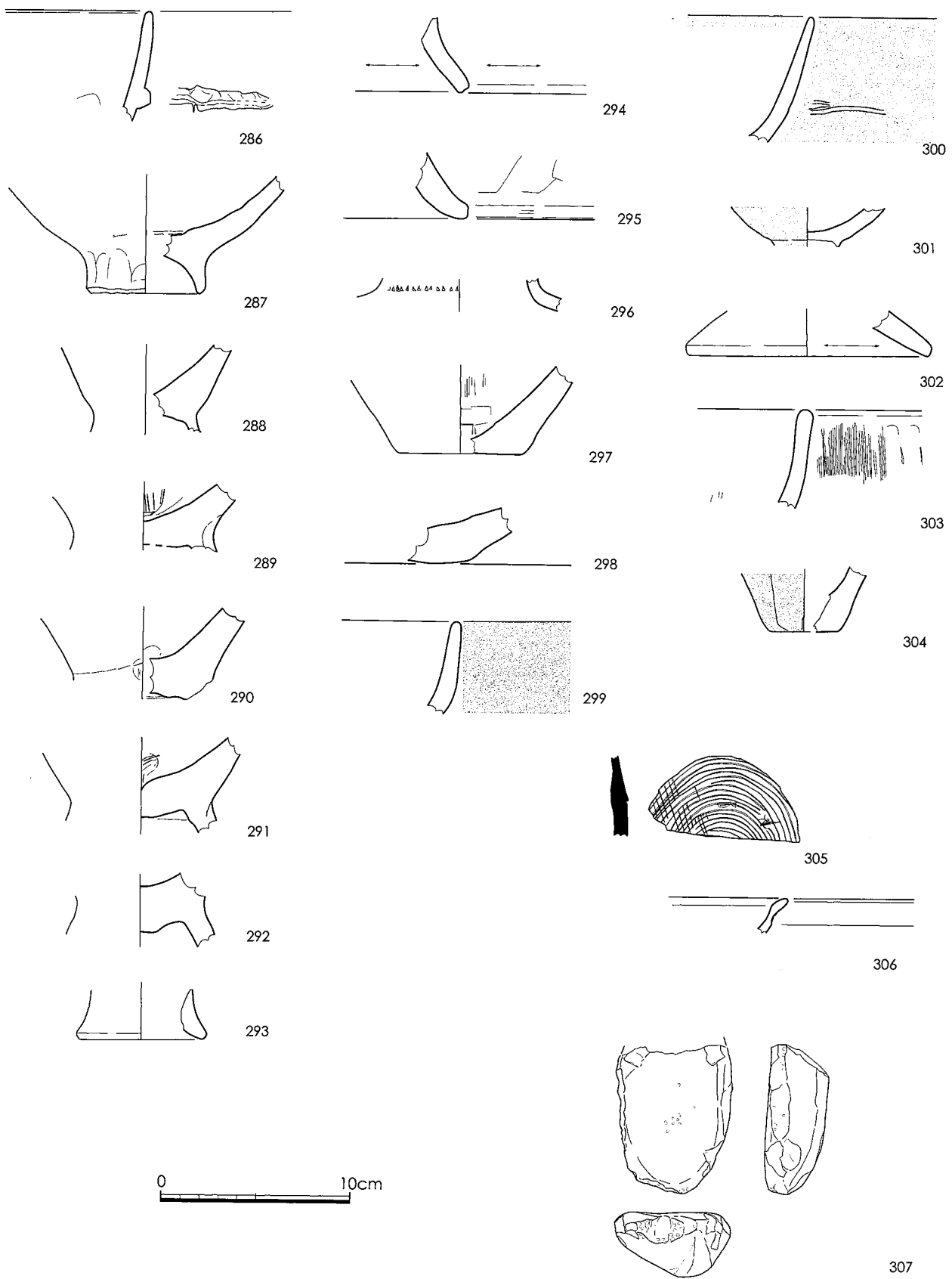


Fig. 53 16 トレンチ包含層出土遺物 S=1/3

Tab.63 16 トレンチ包含層出土遺物観察表1

No	層・遺構	種類	器種	部位	色調	調整	胎土						備考	
							R	W	B	Q	H	S		
286	3	古墳・土器	甕	口縁部	外面：黒褐色10YR3/2に類似。内面：にぶい黄褐色10YR6/3。	内外面：ナデ。		3	3	3	3	3	3	外面スス付着。少し内湾気味に直立する口縁部で、一条の絡縄突帯を持つ。外面は摩滅している。
287	3	古墳・土器	鉢	底部	外面：暗灰色N3/1に類似、灰白色2.5Y8/2に類似。内面：鉄分付着のため不明。脚見込：暗灰色N3/1に類似。	内外面：ユビオサエ、ナデ。		4	4	4	5	4	約1/6残存、反転復元。底径(5.7)cm。低い脚台を有する。端部はユビオサエによってゆがんでいる。外面の器表は少しあれている。内面：鉄分付着。	
288	2	古墳・土器	甕	底部	外面：明黄褐色10YR6/6?、鉄分付着。内面：鉄分付着のため不明。	内外面：鉄分付着のため不明。		3	3	3	3	3	約1/3残存、反転復元。鉄分付着、摩滅している。	
289	3	古墳・土器	甕	底部	外面：暗赤褐色5YR3/2に類似?、鉄分付着。内面：にぶい赤褐色2.5YR4/4に類似?、鉄分付着。脚見込：にぶい赤褐色5YR4/3。	内面：ハケのちナデ。他：ナデ。		4	4	5	5	4	約2/3残存、反転復元。断面に接合線が認められる。鉄分付着。	
290	4	古墳・土器	甕	底部	外面：橙色7.5YR6/6。内面：黒褐色10YR3/1に類似。脚見込：明赤褐色2.5YR5/7。	外面：縦方向のハケのちナデ。内面：ユビオサエ、ナデ。		3	3	3	3	3	約1/2残存、反転復元。脚部との接合部で欠損している。	
291	4	古墳・土器	甕	底部	外面：にぶい黄褐色10YR7/4に類似。内面：灰白～淡黄色2.5Y8/2～8/3。脚見込：橙色5YR6/6、黄灰～暗灰黄色2.5Y5/1～5/2。器内：灰色N6/1に類似、黒色N2/1に類似。	外面：摩滅のため不明。内面：中央部にシボリ痕あり。繊維状の工具によるナデ。		3	3	3	5	3	約1/2残存、反転復元。脚台見込み中央部が下方に張り出す形態を呈する。摩滅している。	
292	2	古墳・土器	甕	底部	外面：にぶい黄橙～明黄褐色10YR7/4～7/6。内面：黄灰色2.5Y4/1に類似。脚見込：浅黄褐色10YR8/4。	内外面：ナデ?、摩滅している。		3	3	3	5	3	約1/2残存、反転復元。脚台見込みの中央部が下方に張り出し、そのまわりはナデによって窪んでいる。非常に摩滅している。	
293	4	古墳・土器	鉢?	脚部	外面：浅黄褐色10YR8/4。内面：にぶい橙～にぶい黄褐色7.5～10YR7/4。器内：にぶい橙色2.5YR6/3に類似、赤灰色5R6/1に類似。	内外面：ナデ?、摩滅している。		2	2	2		2	約1/3残存、反転復元。底径(6.45)cm。脚端部が接合部で欠損したものである。摩滅している。	
294	3	古墳・土器	甕	脚部	外面：明赤褐色2.5YR5/8に類似。内面：にぶい赤褐色2.5YR4/4に類似、暗赤灰色2.5YR3/1に類似。	内外面：ヨコナデ。		3	3	3	3	3	接合部で欠損している。	
295	3	古墳・土器	甕	脚部	外面：灰褐～にぶい赤褐色5YR5/2～5/3。内面：赤褐色2.5YR4/6に類似。	外面：縦方向のハケのちナデ。内面：ナデ。		4	4	4	4	4	摩滅している。	
296	表	弥生土器	壺	頸部	内外面：にぶい黄褐色10YR7/4。	内外面：ナデ。		2	2	2	2	2	約1/6残存、反転復元。頸部に刺突連点文を施す。工具は先の鋭利なものである。	
297	4	古墳・土器	壺	底部	外面：にぶい赤褐色5YR4/3に類似。内面：暗灰～黒色N3/2に類似。	外面：ナデ。内面：縦方向のハケのちナデ。		5	4	4	4	4	約1/4残存、反転復元。底径(6.5)cm。平底で、立ち上がりは若干緩やか。	
298	2	古墳・土器	壺	底部	外面：黄褐色7.5YR7/8。内面：鉄分付着のため不明。	内外面：摩滅しているため不明。		4	4	4	4	4	分厚い平底だが、底面は膨らんでいる。立ち上がり部との境界もゆるやか。摩滅している。	
299	2	古墳・土器	高杯	口縁部	外面：暗赤色10R3/6に類似、赤色顔料。内面：浅黄褐色7.5～10YR8/4。	外面：横方向のミガキ。内面：摩滅のため不明。		2	2	2	2	2	椀状の杯部で、外面に赤色顔料を施している。摩滅している。	
300	4	古墳・土器	埴?	口縁部	外面～内面上部：赤色7.5～10R4/8、赤色顔料。内面：にぶい黄褐色10YR7/4に類似。	外面：ミガキ。内面：ナデ。		2	2	2	2	2	椀状の器形を呈する。胴部屈曲部がわずかなほみとして残っている。内面口縁部から外面に赤色顔料が施されている。281と同一個体か?	
301	4	古墳・土器	高杯	杯部	外面：赤色7.5～10R4/8、赤色顔料。内面：浅黄褐色10YR8/4に類似。接合痕：にぶい黄褐色10YR7/4に類似。	外面：横方向のミガキ。内面：ナデ。		2	2	2		2	約1/2残存、反転復元。椀状を呈すると考えられる杯下部。外面に赤色顔料を施す。脚部との接合部で欠損している。小型品か?	
302	4	古墳・土器	鉢	脚部	外面：にぶい黄褐色10YR7/4に類似。内面：橙色7.5YR7/6。器内：黄灰色2.5Y5/1に類似。	内外面：ヨコナデ。		3	3	3	5	3	約1/8残存、反転復元。底径(12.35)cm。低く、外へ広がる器形を呈する。外面は摩滅している。	
303	2	古墳・土器	鉢	口縁部	外面：褐灰色10YR4/1に類似、にぶい黄褐色10YR7/4、暗灰色N3/1に類似。内面：にぶい黄褐色10YR7/4、褐灰～黒褐色10YR4/1～3/1。	外面：ハケ、ナデ。内面：ナデ。		3	3	5	3	3	椀状を呈し、端部が丸く分厚い。内面の器表はあれている。	
304	表	古墳・土器	埴	底部	外面：赤～暗赤色10R4/6～3/6、赤色顔料。内面：橙色7.5YR6.5/6。	外面：ミガキ?、摩滅している。内面：ナデ。		2	2	2	2	2	約1/3残存、反転復元。底径(3.55)cm。平底。外面・底面に赤色顔料が施されている。底部は接合部で欠損している。摩滅が著しい。	
305	4	須恵器	横瓶?	胴部(側面)	内外面：青灰色5PB5.5/1。器内：暗赤灰色5R4/1。	タタキ。		2					外面にカキ目あり。内面はタタキの当て具痕が明瞭で、凹凸が著しい。	
306	3	白磁	碗	口縁部	灰白色7.5～10Y7/1に類似の半透明釉。磁胎：灰白色10Y8/1に類似。	全面施釉。		2	2				貫入あり。	

Tab. 64 16 トレンチ包含層出土遺物観察表 2

No	層・遺構	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石材	備考
307		たたき石	7.7	6.05	3.0	195	粗粒砂岩	表面はほぼ平坦である。中央部に少し打痕が認められる。下面はつぶれて、多くの打痕が認められる。上部は欠損している。側面の成形は雑である。

包含層出土遺物 (Fig. 53)

包含層中からは、古墳時代後半の甕 (286・289～292)、古墳時代の甕 (287・288・293～295)、弥生時代か古墳時代の壺 (296)、古墳時代の壺 (297・298)、古墳時代後半期の高杯 (299～302)、古墳時代の鉢 (303・304)、須恵器横瓶? (305)、白磁 (306)、たたき石 (307) が出土している。

4.17 17 トレンチ

競技場と球技場間の西側に位置する。南北3m、東西6.5mの大きさである。

4.17.1 層位 (Fig. 54)

基本層位として、1～5層までを確認した。ほぼ水平に整合的に堆積している。5層上面で遺構を確認した。遺物は、1～4層まで出土している。

4.17.2 遺構と遺物

5層上面で3基の土壙状遺構と、36基のピット群を検出した (Fig. 55)。

SK27 あさいくぼ地状の遺構である。中に、さらにピット状のおちこみがあるが、最深部で29cmである。

SK28 トレンチ南東角付近に位置し、東側におちこんでいる。調査区外に広がるため全形は不明だが、深さ70cmにおよび、住居跡の壁にあたるのではと推定できる。

SK29 不定形のあさいくぼ地状を呈する。

包含層出土遺物 (Fig. 56)

遺物は、古墳時代の土器、土師器、陶磁器などが出土している。このうち、実測できるものは古墳時代の甕 (308)、古墳時代の高杯形ミニチュア土

Tab. 65 17 トレンチ層位

層名	色調・土質	備考
1	シラスの二次堆積土。	現代
2	褐灰色7.5YR1/6, シルト質砂。1～2cm大の軽石を多く含む。	近世
3	明黄褐色2.5Y6/6, 粗砂混じりシルト質砂。	古墳?
4	黒色7.5YR1/2, シルト。3～4cm大の軽石を含む。	
5	2.5Y3/6, におい黄色, 粗砂混じりシルト。	
①	2層と4層の混土。	
②	黒褐色5YR1/3シルト, やわらかい。	SK28埋土

Tab. 66 17 トレンチ遺物出土状況

層	縄文	弥生	古墳	須恵器	土師器	土器	陶磁器	レンガ	ガラス類	石器	その他	計
1						1	10			1	1	13
2			10		1	65	5			1	1	83
3						2						2
P			4			7						11
計			14	1	75	15				2	2	109



PL.79 17 トレンチ南壁

器 (309)、青磁椀 (310) のみであった。

4.18 18 トレンチ

競技場と球技場の間の、ほぼ中央部に位置する。

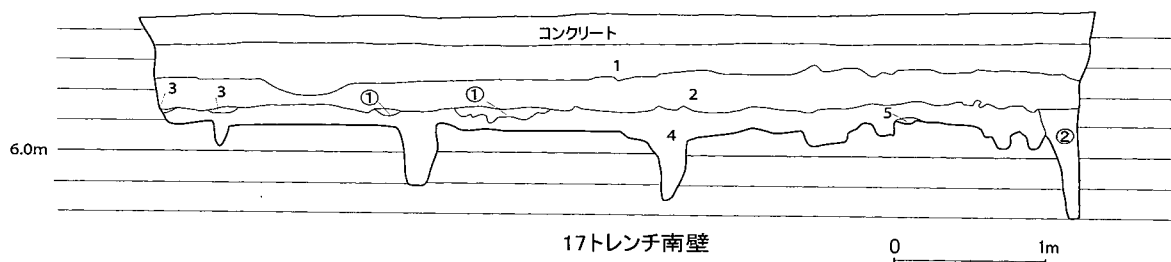
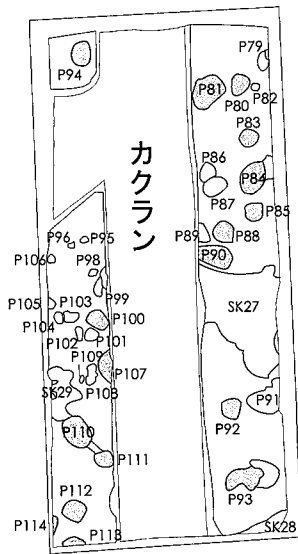


Fig. 54 17 トレンチ層位断面図 S=1/40



Tab.67 17トレンチ遺構一覧

遺構名	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	埋土
SK27	134.55	87.9+ α	29	黒色7.5YR1/2, シルト
SK28	18.85	2.47	60	黒色7.5YR1/3, シルト
SK29	64.74	34.0+ α	29	黒色7.5YR1/4, シルト
P79	26.78	11	6	黒色7.5YR1/5, シルト
P80	25.61	15.9	37	黒色7.5YR1/6, シルト
P81	42.51	24.1	53	黒色7.5YR1/7, シルト
P82	11.31	7.8	6	黒色7.5YR1/8, シルト
P83	22.75	16.9	25	黒色7.5YR1/9, シルト
P84	39.0+ α	28.2	43	黒色7.5YR1/10, シルト
P85	22.23	16	24	黒色7.5YR1/11, シルト
P86	23.79	13.8	14	黒色7.5YR1/12, シルト
P87	28.86	16.6		黒色7.5YR1/13, シルト
P88	26.52	17	31	黒色7.5YR1/14, シルト
P89	24.57	9.0+ α	19	黒色7.5YR1/15, シルト
P90	27.1+ α	26.65	29	黒色7.5YR1/16, シルト
P91	38.3+ α	38.35	15	黒色7.5YR1/17, シルト
P92	24.96	22.75	24	黒色7.5YR1/18, シルト
P93	45.63	19.76	35	黒色7.5YR1/19, シルト
P94	29.51	21.97	37	黒色7.5YR1/20, シルト
P95	8.58	7.15	1	黒色7.5YR1/21, シルト
P96	8.45	7.8	9	黒色7.5YR1/22, シルト
P97				黒色7.5YR1/23, シルト
P98	11.31	8.71	13	黒色7.5YR1/24, シルト
P99	20.8	9.75	3	黒色7.5YR1/25, シルト
P100	26.52	20.54	37	黒色7.5YR1/26, シルト
P101	16.64	14.3	6	黒色7.5YR1/27, シルト
P102	18.33	8.19	2	黒色7.5YR1/28, シルト
P103	16.12	12.87	12	黒色7.5YR1/29, シルト
P104	15.6	9.75	7	黒色7.5YR1/30, シルト
P105	11.96	4.5+ α	2	黒色7.5YR1/31, シルト
P106	11.7	8.45	2	黒色7.5YR1/32, シルト
P107	39.65	15.7+ α	32	黒色7.5YR1/33, シルト
P108	25.35	3.38	6	黒色7.5YR1/34, シルト
P109	10.4	7.085		黒色7.5YR1/35, シルト
P110	41.08	30.29	37	黒色7.5YR1/36, シルト
P111	22.1	18.72	42	黒色7.5YR1/37, シルト
P112	29.64	27.95	29	黒色7.5YR1/38, シルト
P113	26.91	11.0+ α	41	黒色7.5YR1/39, シルト
P114	23.4	6.4+ α	32	黒色7.5YR1/40, シルト

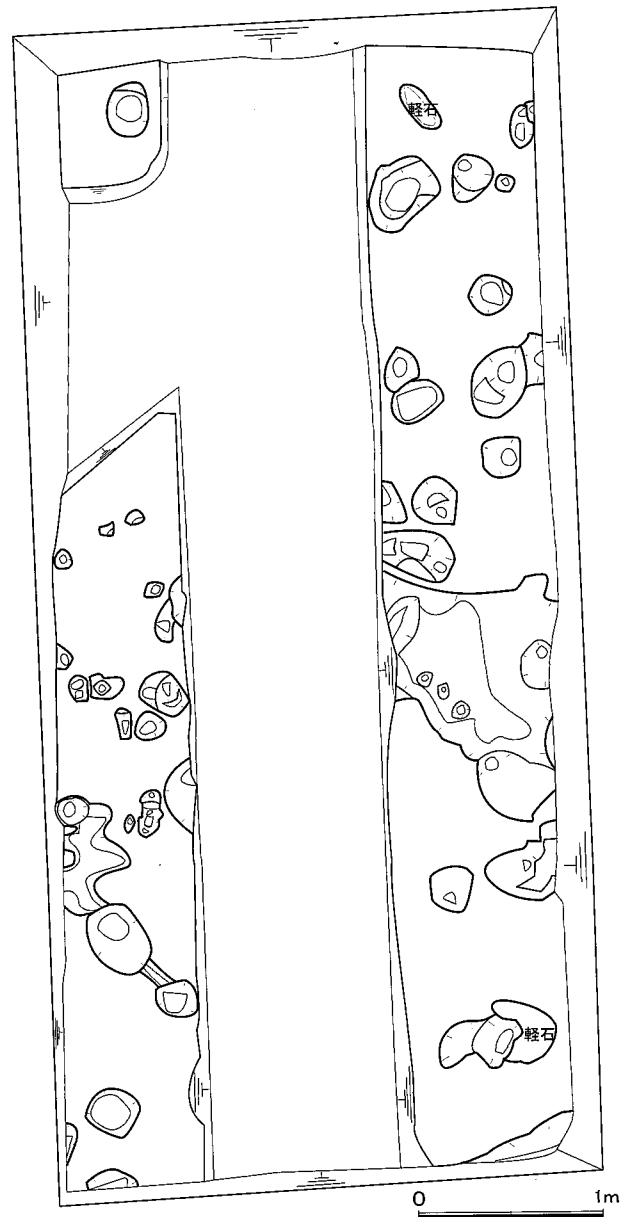


Fig.55 17トレンチ検出遺構 S=1/40

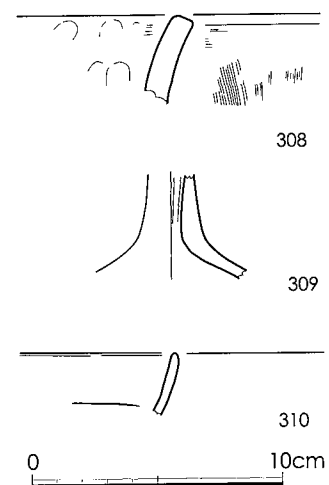


Fig.56 17トレンチ出土遺物 S=1/3

Tab.68 17 トレンチ出土遺物観察表

No	層・遺構	種類	器種	部位	色調	調整	胎土						備考
							R	W	B	Q	H	S	
308	ピット	古墳・土器	甕	口縁部	外面：橙～明赤褐色5YR6/6～5/6。内面：にぶい黄橙色10YR7/4。	口唇部～外面上部：ヨコナデ。外面下部：縦方向のナデ。内面：ユビオサエのちナデ。	3	3	3	5	3	3	わずかに外反する。外面：スス付着。
309	2	ミニチュア土器	高杯	脚部	外面：にぶい赤褐色5YR5/4、黒褐色10YR3/1。内面：橙色5YR6/6、にぶい黄橙色10YR7/3、褐灰色10YR5/1。	外面：横方向のナデ。内面：ナデ、筒部にはシボリ痕あり。	3	3	3	3	3	ABC	中程で屈曲して裾部が大きく開く器形を呈する。粗雑な作りで、サイズも小さいので実用品とは考えにくい。
310	2	青磁	碗?	口縁部	施釉部分：灰白色7.5Y7/2に類似の半透明釉。器肉：灰白色7.5Y7/1。	全面施釉。内面に1条の圏線あり。			1				D

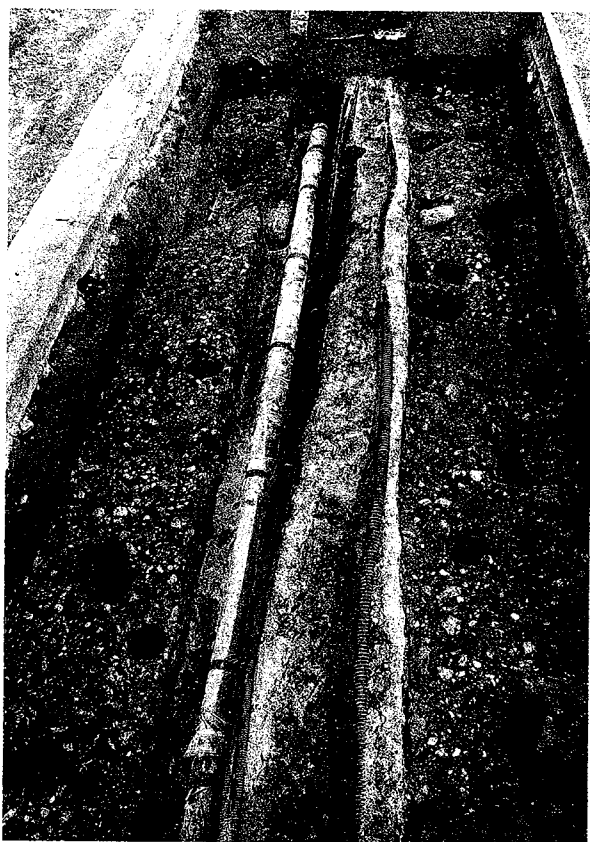
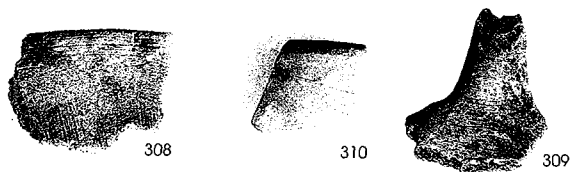


Fig.80 17 トレンチ遺構完掘状況



PL.81 17 トレンチ出土遺物

東西6m, 南北3mの大きさである。

4.18.1 層位 (Fig.57)

基本層位として、1～5層までを確認した。いずれもほぼ水平に整合的に堆積しているが、5層上面が西側に少し傾斜している。1・3～5層で遺物が出土している。

4.18.2 包含層出土遺物 (Fig.58)

遺物は、古墳時代の土器、須恵器、土師器、土器、陶磁器が出土しているが、いずれも小片である。実測できたのは、中津野式の甕(311)・青磁碗(312)、染付け(313)、陶器(314・315)である。

4.19 19 トレンチ

競技場と球技場の間で、福利厚生施設(EDUCA)の西側に位置する。東西方向に5m, 南西に3mの大きさである。

4.19.1 層位 (Fig.59)

基本層位として、1～9層までを確認した。いずれも水平に整合的に堆積している。遺物が含まれているのは1～4層までで、出土量も少ない。

4.19.2 包含層出土遺物 (Fig.60)

遺物は、弥生土器、古墳時代の土器、須恵器、土



PL.82 18 トレンチ

Tab.69 18 トレンチ層位

層名	色調・土質	備考
1	にぶい橙色7.5YR3/7, シラスの二次堆積。	現代
2	黄灰色2.5Y1/5, シルト。鉄分浸透。	近代・近世
3	灰色5Y1/6, 砂混じりシルト。鉄分浸透。	近世以降
4	暗灰黄色2.5Y2/4, 粗砂混じりシルト。鉄分浸透。	
5	褐灰色10YR1/4, 粗砂混じりシルト。鉄分浸透。	
①	灰黄褐色10YR2/5, 砂混じりシルト。	
②	浅黄色2.5Y3/7, 細砂。	

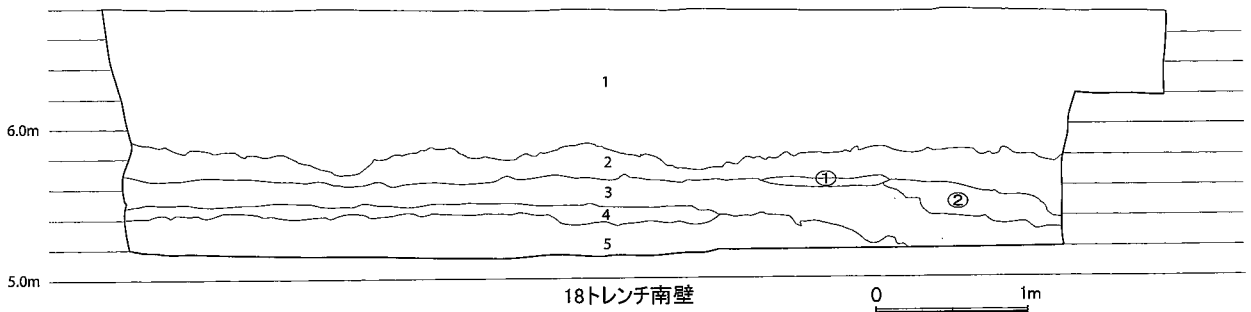
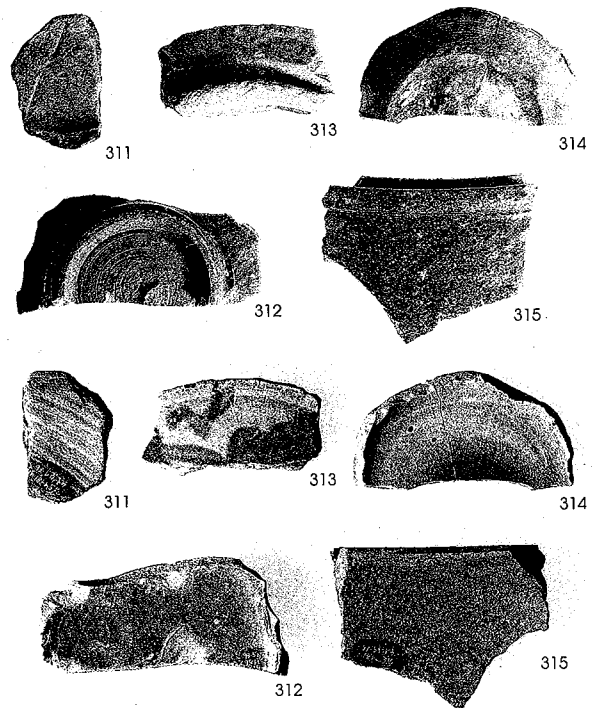


Fig. 57 18トレンチ層位断面図 S=1/40

Tab. 70 18トレンチ遺物出土状況

層	縄文	弥生	古墳	須恵器	土師器	土器	陶磁器	レンガ	ガラス類	石器	その他	計
1			4		2	68	7					81
3			4	1		61	8			1		75
4			6		1	102						109
5			4		3	48	3			1		59
計			18	1	6	279	18			2		324



PL.83 18トレンチ出土遺物 上：外面，下：内面

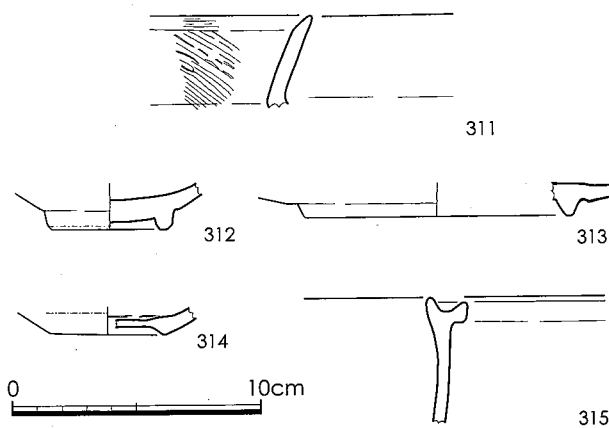


Fig. 58 18トレンチ出土遺物 S=1/3

Tab. 71 18トレンチ出土遺物観察表

No	層・遺構	種類	器種	部位	色調	調整	胎土						備考	
							R	W	B	Q	H	S		
311	5	古墳・土壘器	壘	口縁部	外面：灰白色2.5Y8/2。内面：灰白色2.5Y8/2，部分的にぶい褐色7.5YR5/4。器肉：黒色N1.5/0。	外面：ヨコナデ。内面：斜め方向のハケ。		3	3	3	3	3	3	くの字状に屈曲する口縁部。ハケが太い。摩滅してCD D ABC ABC ABC いる。
312	3	青磁	碗	底部	施釉部：オリブ灰色10Y5/2に類似。器肉：灰色N6/0に類似。	高台畳付け部～高台内無釉。	1							約1/2残存，反転復元。底径(4.6) cm。
313	表	染付	杯?	底部	施釉部：明緑灰色7.5GY7/1に類似。器肉：浅黄橙色7.5～10YR8/3。				2					約1/6残存，反転復元。底径(10.6) cm。底面にスス附着。
314	表	陶器	杯?	底部	外面：青灰色5PB5.5/1に類似。施釉部：暗オリブ色5Y4/3に類似。器肉：灰白色2.5Y8/2に類似。	施内外面：回転ナデ。外面底部付近無釉。	2	2						約1/2残存，反転復元。底径(4.55) cm。内面中心近く釉が厚い。
315	3	陶器	壺	口縁部	外面：オリブ黒色7.5Y2/2に類似。内面：灰色7.5Y6/1に類似。器肉：ぶい赤褐色2.5YR5/4。	口縁上面一部を除いて全面施釉。	2	2						

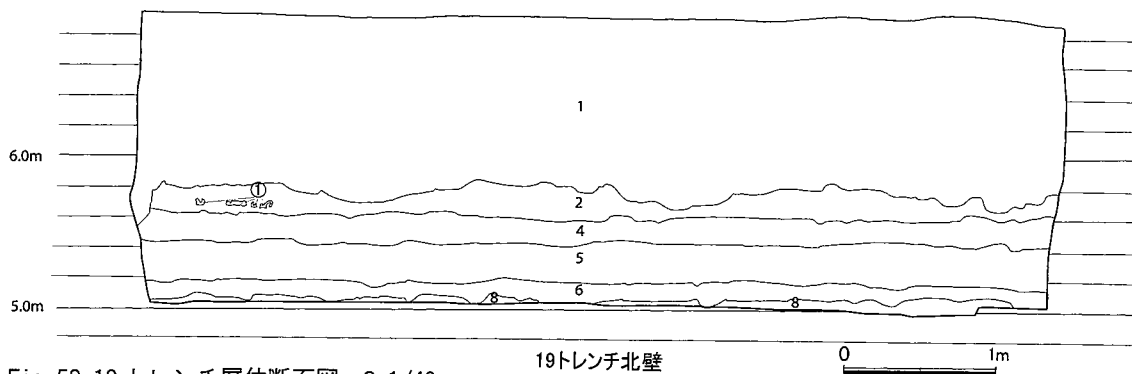


Fig. 59 19 トレンチ層位断面図 S=1/40

19トレンチ北壁

0 1m

Tab. 72 19 トレンチ層位

層名	色調・土質	備考
1	上部灰色5Y1/5, 粗砂混じりシルト質砂, 軽石・礫を多く含む。下部にぶい橙色5YR4/7, シルト質砂。シラスの二次堆積。	現代
2	黄灰色2.5Y5/1, 粗砂混じりシルト。鉄分浸透。軽石(最大径2cm)含む。	
3	暗黄灰色2.5YR2/5, 粗砂混じりシルト。鉄分浸透。軽石(最大径2cm)含む。	
4	暗黄灰色2.5Y2/4, 砂混じりシルト。鉄分浸透。軽石(最大径2cm)含む。	近世
5a	黒褐色2.5Y1/3, シルト。鉄分浸透。軽石(最大径2cm)含む。	
5b	黒褐色2.5Y1/3, シルト。鉄分浸透。軽石(最大径2cm)含む。	
6	黄灰色2.5Y1/4, 砂混じりシルト。鉄分浸透。軽石(最大径2cm)含む。	
7	ぶい黄色2.5Y3/6, 粗砂。軽石を多く含む。	
8	黒色10YR1/1.7, 泥炭層。鉄分浸透。	
9	灰黄色2.5Y2/6, 粗砂。	
①	黒褐色2.5Y1/3, シルト。鉄分浸透。	



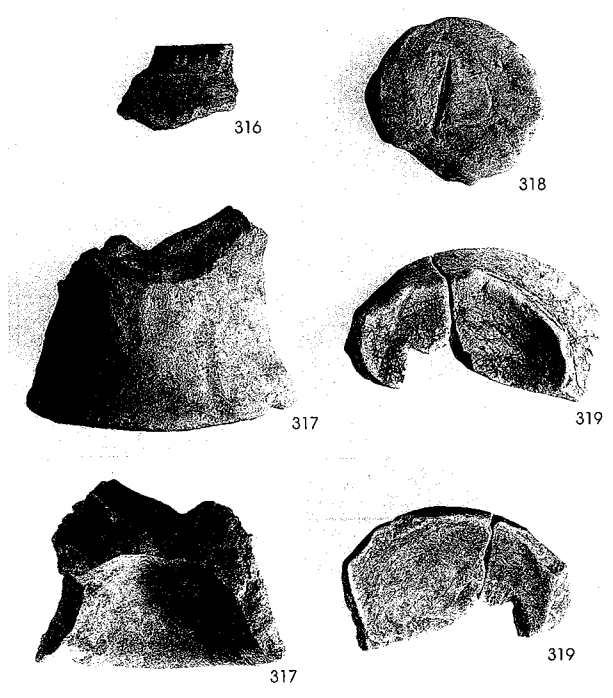
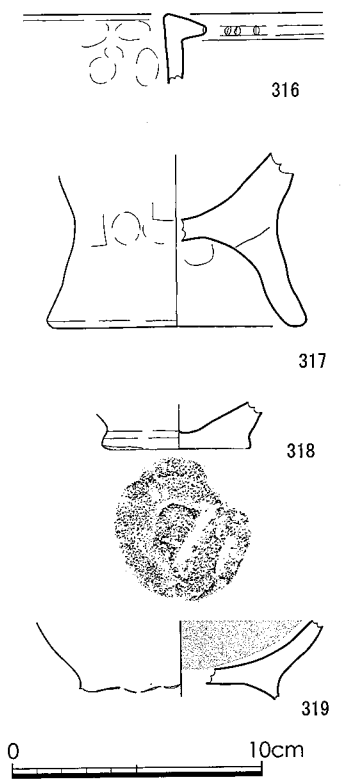
PL. 84 19 トレンチ

Tab. 73 19 トレンチ遺物出土状況

層	縄文	弥生	古墳	須恵器	土師器	土器	陶磁器	レンガ	ガラス	石器	その他	計
1			1		1	5	4					11
2			1			8						9
3			5		3	27	1					36
4		1	6	1	6	35	1				1	51
計		1	13	1	10	75	6				1	107

Tab. 74 19 トレンチ出土遺物観察表

No	層・遺構	種類	器種	部位	色調	調整	胎土						備考		
							R	W	B	Q	H	S			
316	4	弥生(中期)・土器	甕	口縁部	外面: 褐灰色10YR4/1に類似。内面: 黒褐色2.5Y3/1に類似。	外面: ヨコナデ?。内面: ユビオサエのちナデ。			3	3	3	3	3	3	入来I式。断面三角形を呈する口縁部を持ち, そのABCD端部には刻み目を施す。外面: 鉄分付着。
317	3	古墳・土器	甕	脚部	外面: 浅黄橙色7.5YR8/4。内面: 黒褐色7.5YR3/1。脚台内面: 灰褐色7.5YR6/2に類似。	外面: ハケのちナデ。脚台内面・内面: 鉄分付着のため不明。			3	3	3	3	3	3	約1/3残存, 反転復元。底径(9.85)cm。断面に脚部の接合痕が認められる。摩滅している。
318	4	土師器	杯	底部(完全形)	内外面: 橙色7.5YR7/6。	外面: ナデ。内面: 磨滅している。底面: ヘラ切り。			5	2	2	2			底径5.0, 5.3cm。厚い平底で, 立ち上がり部分は張り出す。底面形はゆがんでいる。摩滅している。
319	4	土師器	杯	底部	外面: 浅黄橙色10YR8/4。内面: 赤色10R4.5/8, 赤色顔料。	外面: 磨滅しているため不明。内面: 回転ナデ。			2	5	2	2			約1/3残存, 反転復元。底径(7.65)cm高台状の脚部をもつ杯の破片である。内面: 赤色顔料付着。非常に摩滅している。



PL. 85 19 トレンチ出土遺物

Fig. 60 19 トレンチ出土遺物 S=1/3

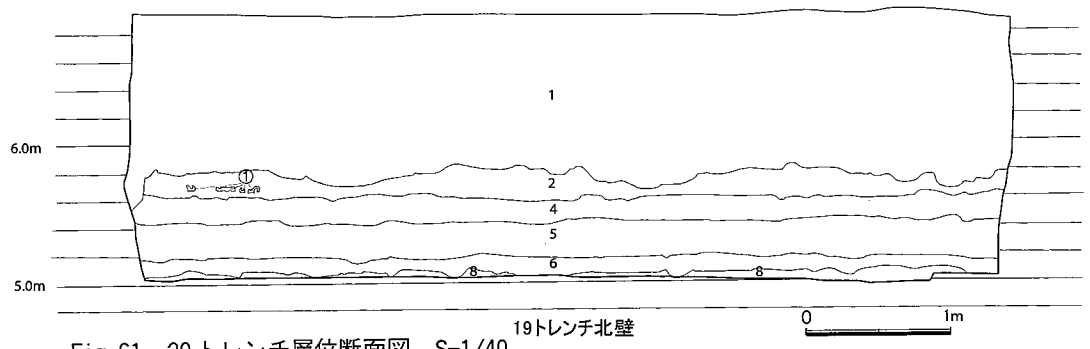
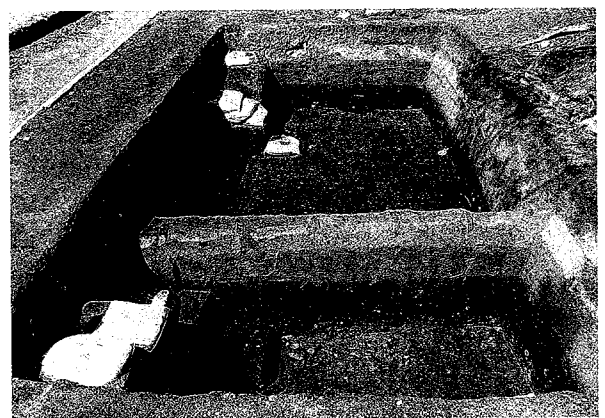


Fig. 61 20 トレンチ層位断面図 S=1/40 19 トレンチ北壁



PL. 86 20 トレンチ北壁



PL. 87 20 トレンチ完掘状況

Tab.75 20トレンチ層位

層名	色調・土質	備考
1	上部灰色Y1/5, 粗砂混じりシルト質砂. 軽石・現代礫を多く含む. 下部5YR4/7におい橙色, シルト質砂. シラスの二次堆積.	現代
2	黄褐色2.5Y3/5. 砂混じりシルト. パサパサしている. 鉄分浸透. 1~3cm大の軽石を含む.	
3a	におい黄褐色10YR3/5, シルト. 鉄分が細かい筋状に浸透. 上面が厚さ5mmの鉄分が覆っている. 1~3cm大の軽石を含む.	近世
3b	黄褐色10YR4/5, 砂混じりシルト. 鉄分が3a層より多く浸透. 1~3cm大の軽石を含む.	
4a	黄褐色10YR6/5, シルト. パサパサしている. 鉄分浸透. 1~3cm大の軽石を含む.	中世か古代
4b	褐色10YR6/4, シルト. パサパサしている. 1~3cm大の軽石を含む.	
5	黒色10YR1/1.7, シルト. 下部に5cm大の軽石を少量含む.	
6	暗褐色10YR3/3, 粗砂. 軽石を多く含む.	
①	褐灰色10YR1/4, シルト.	

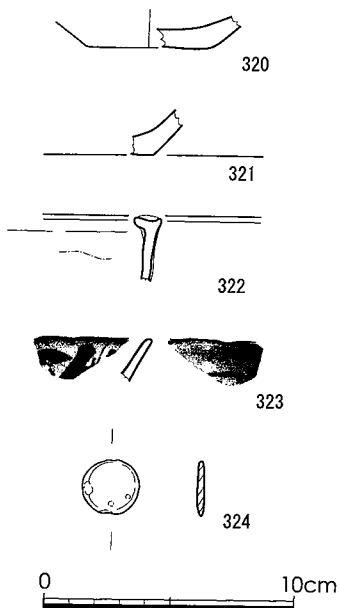


Fig. 62 20トレンチ出土遺物 S=1/3

Tab.76 20トレンチ遺物出土状況

層	縄文	弥生	古墳	須恵器	土師器	土磁器	陶磁器	ガラス類	石器	その他	計
3			3	1	1	9	15			1	30
4			4		5	14				1	24
SD4						1					1
計			7	1	6	24	15			2	55

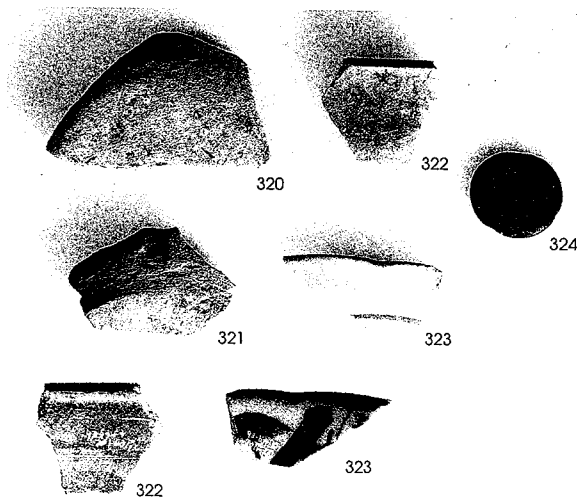
師器, 陶磁器などが出土している。実測可能な遺物は4点のみであった。入来I式の甕 (316), 古墳時代の甕 (317), 土師器 (318・319) である。

4.20 20トレンチ

競技場北の東側に位置する。東西4.5m, 南北3mの大きさである。

4.20.1 層位 (Fig.61)

基本層位として, 1~6層までを確認した。いずれも水平に整合的に堆積している。遺物が包含し



PL. 88 20トレンチ出土遺物

Tab.77 20トレンチ出土遺物観察表

No	層・遺構	種類	器種	部位	色調	調整	胎土					備考
							R	W	B	Q	H	
320	4	土師器	杯	底部	内外面: 浅黄橙色7.5YR8/5.	磨減のため不明.	2	2	2		2	約1/3残存, 反転復元. 底径 (4.65) cm. 平底. 非常に摩滅している.
321	4	土師器	杯	底部	内外面: 橙色5YR7/8.	内外面: 回転ナデ. 外面の調整が少しあらい.	2	2	2			平底.
322	3	青磁	碗?	口縁部	器肉: 灰白色NS/0に類似.	内面下部のみ無釉.		D	D	A		口縁上面は厚め.
323	3	染付	碗?	口縁部	器肉: 灰白色NS/0に類似.	全面施釉.						
No	層・遺構	種類	長径 (cm)	短径 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石材	備考				
324	4	基石?	2.2	2.15	0.25	2.44	頁岩	非常に扁平な丸い石である. 表裏面は平坦だが, 端部は細くなっている. 黒色である.				

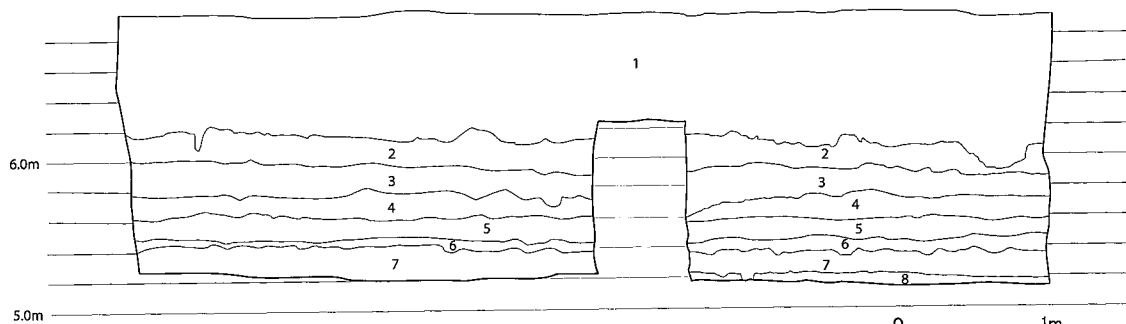


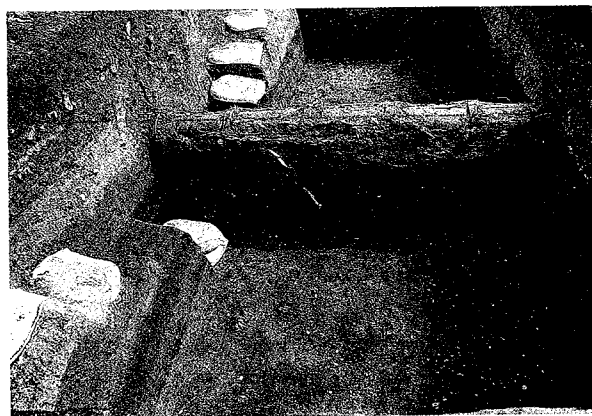
Fig. 63 22トレンチ層位断面図 S=1/40

21トレンチ南壁

0 1m

Tab. 78 21トレンチ層位

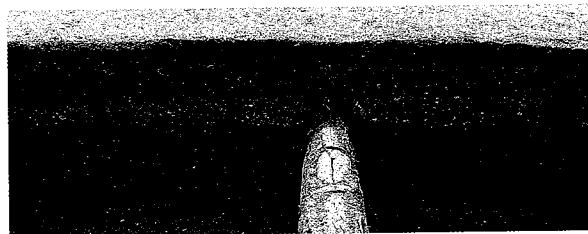
層名	色調・土質	備考
1	上部5YR6/6橙色, シルト質砂, 下部5YR4/7に ぶい橙色, シルト質砂, どちらも, シラスの二 次堆積.	現代
2	2.5Y2/5暗灰黄色, 砂混じりシルト, 鉄分浸 透, 1cm大の軽石を含む.	近代・近世
3	2.5Y2/5暗灰黄色, 粗砂混じりシルト, 鉄分浸 透, 1cm大の軽石を含む.	近世
4	5Y2/3オリーブ黒色, 粗砂混じりシルトを基調 とする, 鉄分浸透, 1cm大の軽石を含む.	中世
5	2.5Y1/4黄灰色, 砂混じりシルト, マンガン を含む, 1cm大の軽石を含む.	
6	10YR1/4褐灰色, シルト, バサバサしている, マンガン浸透, 1cm大の軽石を含む.	中世
7	2.5Y1/4黄灰色, 砂混じりシルト, マンガン浸 透, 1cm大の軽石を含む.	中世・古代?
8	2.5Y3/6にぶい黄色, 粗砂, 軽石を多く含む.	



PL. 90 21トレンチ完掘状況

Tab. 79 21トレンチ遺物出土状況

層	縄文	弥生	古墳	須恵器	土師器	土器	陶磁器	レガレンガ類	石器	その他	計
1						1				2	3
2		1	3		11	20	8				43
3		1	7		15	79	13		1	3	119
4			1		12	6			1		20
6			7		12	36					55
7			2	2	4	57	3			1	69
計	1	1	20	2	54	199	24		2	6	309



PL. 89 21トレンチ南壁

ているのは3・4層のみで, 出土量も少な区, 破片も小さい。

4.20.2 包含層出土遺物 (Fig. 62)

遺物は, 古墳時代の土器, 須恵器, 土師器, 土器, 陶磁器が3・4層より出土している。このうち, 実測できるものは4点のみであった。土師器杯 (320・321), 青磁香炉 (322), 染付け (323), 基石 (324) である。

4.21 21トレンチ

競技場北の中央部に位置する。東西4.5m, 南北3mの大きさである。

4.21.1 層位 (Fig. 63)

基本層位として, 1~8層までを確認した。いずれも水平に整合的に堆積している。遺物が含まれているのは1~7層までである。1層は現代, 2・3層は近世以降, 4~7層は中世の包含層であると考えられる。

4.21.2 包含層出土遺物 (Fig. 64)

遺物は, 縄文土器・弥生土器・古墳時代の土器・須恵器・土師器・陶磁器などが出土している。破片が小さく磨滅しているものが多いが, 中世の土師

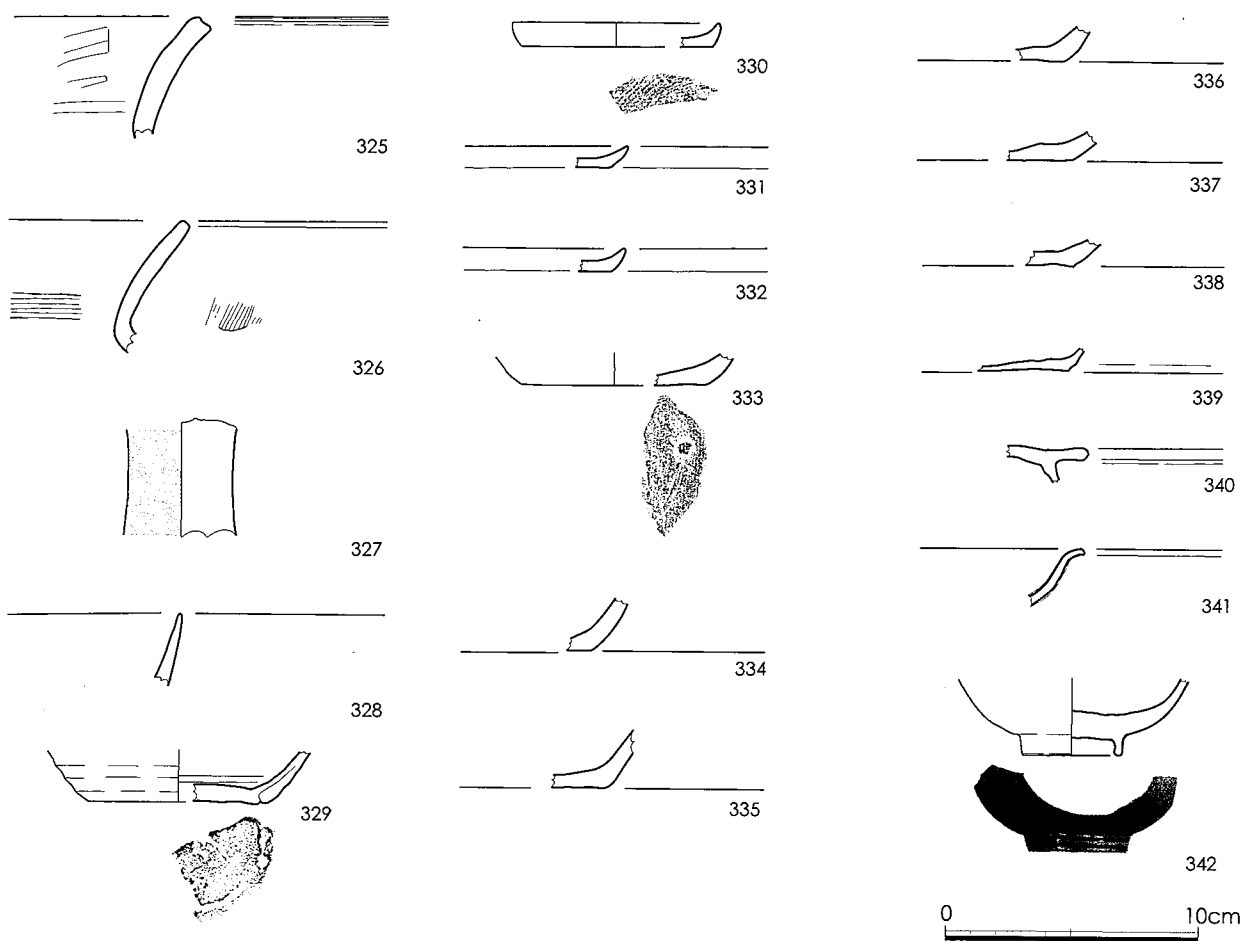
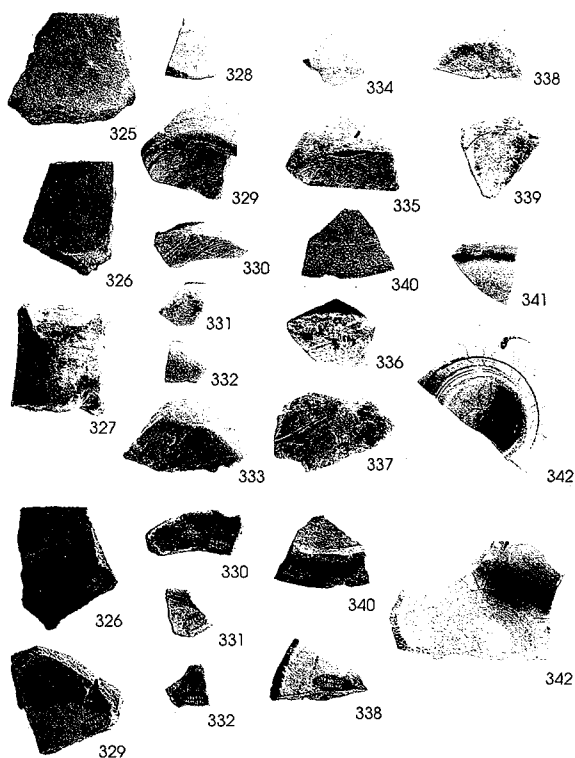


Fig. 64 21 トレンチ出土遺物 S=1/3



PL. 91 21 トレンチ出土遺物

器が他のトレンチに比べて比較的多いのが特徴である。4・6・7層で出土している。古墳時代前半の甕 (325・326), 古墳時代後半期の高杯 (327), 土師器杯 (328～339), 陶器蓋 (340), 青磁 (341), 染付け椀 (342) である。

4.22 22 トレンチ

競技場北の西側に位置する。東西4.5m, 南北2.6mの大きさである。

4.22.1 層位 (Fig. 65)

基本層位として, 1～8層までを確認した。1～3層は北へ傾斜しているが, 5層以下はほぼ水平に堆積している。6層以下は, 下層の8層土が混在している部分も見られる。なお, 東側に8層土に突き刺した木杭が検出された。2層土までに埋まっているが, 時期は不明である。2層から6層までは河川跡であることも考えられる。

遺物が包含しているのは1～7層までである。1層が現代, 2～6層が近代・近世, 7層が古代以降であると考えられる。

Tab. 80 21 トレンチ出土遺物観察表

No	層・遺構	種類	器種	部位	色調	調整	胎土					備考			
							R	W	B	Q	H		S		
325	2	古墳・土器	口縁部	口縁部	外面：にぶい黄褐色10YR6/4。内面：明黄褐色10YR7/6。器肉：黄灰色2.5Y4/1。	外面：ナデ。内面：横方向のハケのちナデ。	4	4	4	4	ABC	ABC	ABC	ABC	湾曲しながら外反する口縁部で、屈曲部付近で欠損している。端部はヨコナデによって面を持ち、くぼんでいる。
326	3	古墳・土器	口縁部	口縁部	口唇部：黒色N1.5/0。外面：黒褐色5YR3/1。内面：橙色5YR6/6。	外面：下部縦方向のハケ。外面上部：ナデ。内面：横方向のハケのちナデ。	2	2	2	C	D	D		中津野式。くの字に屈曲する口縁部。端部は平坦な面を持つ。外面にスス付着。鉄分も付着している。	
327	3	古墳・土器	高杯	脚部	赤褐色2.5YR4/6、赤色顔料。器肉：黄灰色2.5Y6/1。	横方向のミガキ。	2	2	CD	CD				上面は杯部との接合痕で欠損している。摩滅している。	
328	4	土師器	杯	口縁部	内外面：橙色5YR7/6。器肉：浅黄褐色7.5YR8/4。	内外面：回転ナデ。	2	2	2	C	D	D		内面に赤色顔料が付着しているかもしれない。摩滅して器表が擦れている所より赤っぽい色調を呈する。小片のため傾き不明。	
329	7	土師器	杯	底部	内外面：浅黄褐色7.5~10YR8/3。外底部付近：明褐色7.5YR7/2。	内外面：回転ナデ。底部：ヘラ切り。	2	2	D	D				約1/4残存。反転復元。底径(6.95)cm。底面周縁部に胴部との接合痕明瞭に残る。	
330	6	土師器	杯	完形	外面：浅黄褐色10YR8/3。内面：スス付着。黒褐色10YR3/1。	内外面：回転ナデ。底部：糸切り。	2	2	2	C	D	D		約1/6残存。反転復元。口径(8.2)cm。底径(7.45)cm。器高：0.95cm。	
331	6	土師器	杯	完形	内外面：橙色5~7.5YR7/6。赤色顔料?。器肉：灰白~浅黄褐色10YR8/2~8/3。	内外面：回転ナデ。底部：糸切り。	2	2	C	D				小片。摩滅している。	
332	6	土師器	杯	完形	外面：浅黄褐色10YR8/3。内面：灰黄褐色10YR4/2。スス付着。	内外面：回転ナデ。底面：糸切り。	2	2	2	C	D	D		小片。摩滅している。	
333	6	土師器	杯	底部	外面・器肉：灰白色10YR8/2。内面：にぶい黄褐色10YR7/3。	内外面：回転ナデ。底部：糸切り。	2	2	2	BC	D	D		約1/3残存。反転復元。底径(7.15)cm。※要拓本。	
334	4	土師器	杯	底部	外面：灰白色10YR8/2。内面：浅黄褐色10YR8/3。	内外面：回転ナデ。底部：糸切り。	2	2	2	C	D	D		平底。摩滅している。	
335	6	土師器	杯	底部	外面：橙色2.5YR6.5/6。部分的に黄灰色2.5Y5.5/1。内面：橙色2.5YR6.5/6。にぶい黄褐色10YR7/3。	内外面：回転ナデ。底部：糸切り。	2	2	2	C	D	D		平底。摩滅している。	
336	6	土師器	杯	底部	内外面：浅黄褐色10YR8/3。	外面：摩滅している。内面：回転ナデ。	2	2	C	D				平底。摩滅している。	
337	6	土師器	杯	底部	内外面：灰白色2.5Y8/2。	内外面：回転ナデ。底部：糸切り。	2	2	2	C	D	D		平底。摩滅している。	
338	4	土師器	杯	底部	内外面：橙色2.5YR7/8。器肉：浅黄褐色10YR8/3。	内外面：回転ナデ。底部：糸切り。	2	2	CD	D				平底だが、底面が少しゆがんでいる。摩滅している。	
339	4	土師器	杯	底部	内外面：灰白色2.5Y8/2。	内外面：回転ナデ。底部：糸切り。	2	2	ABC	D				平底。器壁が薄く、少しゆがんでいる。磨滅している。底面にはわずかに糸切り痕認められる。	
340	3	陶器	蓋		上面：灰黄褐色10YR4/2。オリブ黒色10Y3/2。外面：褐灰~黒褐色5YR4/1~3/1。内面：にぶい赤褐~明赤褐色5YR5/4~5/6。器肉：赤褐色2.5YR4/6。	回転ナデ。上面のみ施釉。	1	D						釉は風化して、少し白濁している。	
341	3	青磁	碗?	口縁部	灰白色10Y8/2。半透明釉。器肉：全面施釉。灰白色10Y8/1。		2	2	D	D					
342	3	染付	碗	底部	器肉：灰白色N8/0。	高台畳付け部以外施釉。内面見込みは蛇の目状に釉はぎ。	1	D						約1/2残存。反転復元。底径(3.85)cm。	

4.22.2 包含層出土遺物 (Fig.66)

遺物は、縄文土器、古墳時代の土器、須恵器、土師器、陶磁器が出土している。実測可能なものは21点で、その種類は古墳時代の甕(343~345)、中津野式の壺(346)、古墳時代の壺(347)、高杯(348)、古墳時代のミニチュア土器(349)、中世の土師器(350・351)、須恵器(352~354)、青磁(355・356)、陶器(357~361)、素焼きの香炉?(362)、七厘(363)がある。



PL.92 22 トレンチ西壁

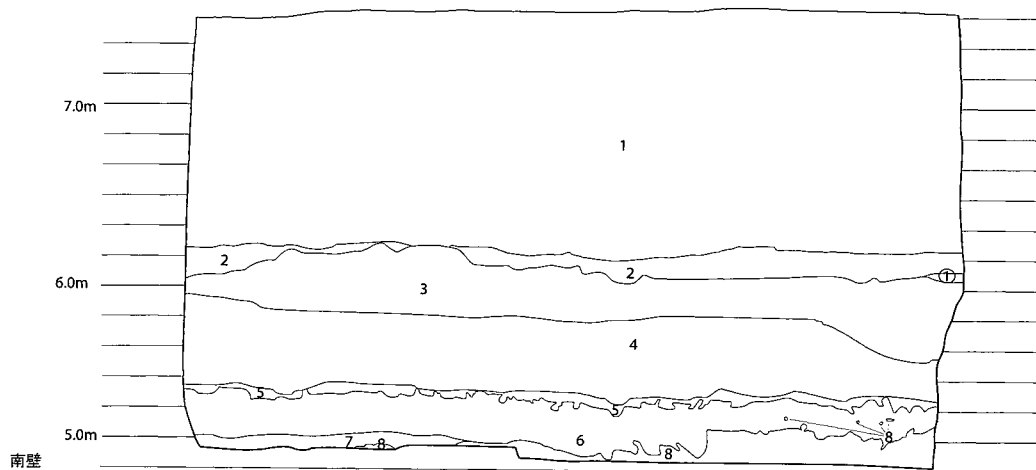
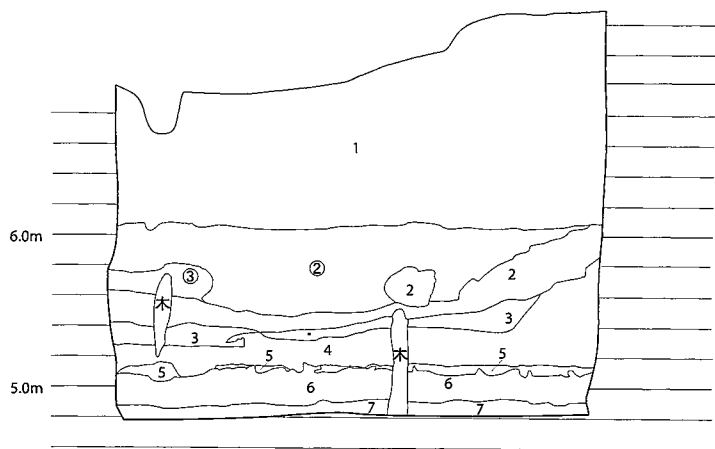


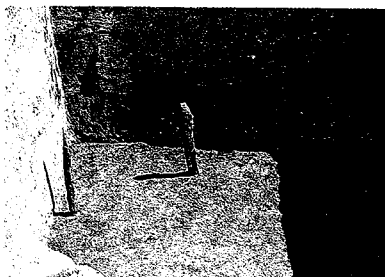
Fig.65 22トレンチ層位断面図 S=1/40

Tab.81 22トレンチ層位

層名	色調・土質	備考
1	上部浅黄色2.5Y4/7, シルト質砂。シラスの二次堆積。層厚約65cm。下部灰色5Y1/5, 粗砂混じりシルト質砂。軽石・礫を多く含む。	現代
2	褐灰色10YR1/4, 砂混じりシルト。鉄分を含む。	近代・近世
3	暗灰黄色2.5Y2/5, 砂混じり砂質シルト。筒状にかたまった鉄分付着。	近世
4	黄灰色2.5Y1/5, 砂混じり砂質シルト。上層より砂がやや粗い, 鉄分浸透。	
5	黒褐色2.5Y1/3, シルト。鉄分浸透。	近世
6	黄灰色2.5Y1/4, 砂混じりシルト。鉄分浸透。	近世
7	におい黄色2.5Y3/6, 粗砂。軽石を多く含む。	古代以降
8	黒色10YR1/1.7, 泥炭層。鉄分浸透。	
①	暗灰黄色10YR1/1.7, 細砂。	
②	褐灰色10YR, 細砂。鉄分浸透。	
②	上部橙色5YR6/6, 下部7.5YR3/9におい橙色, シルト質砂。	
③	灰黄褐色10YR2/5, 砂層。	

Fig.82 22トレンチ遺物出土状況

層	縄文	弥生	古墳	須恵器	土師器	土器	陶磁器	レンガ	ガラス類	石器	その他	計
1			1		3		8				1	13
2	1		12	5	5	90	36			1	4	154
3			4	2		17	11					34
5			9	3	14	67	1					94
6			5		1	20	1					27
7						3						3
計	1		31	10	23	197	57			1	5	325



PL.93 22トレンチ完掘状況

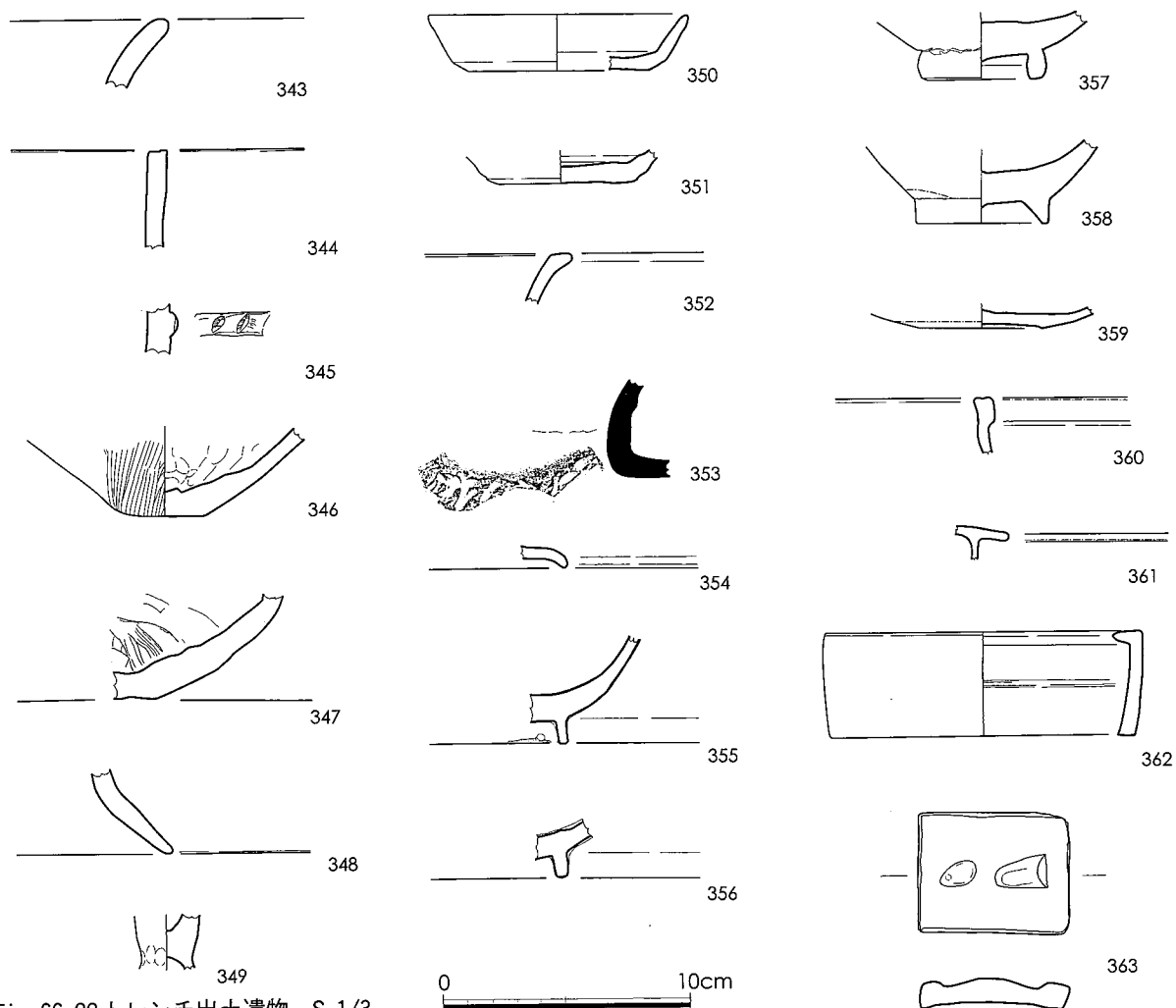
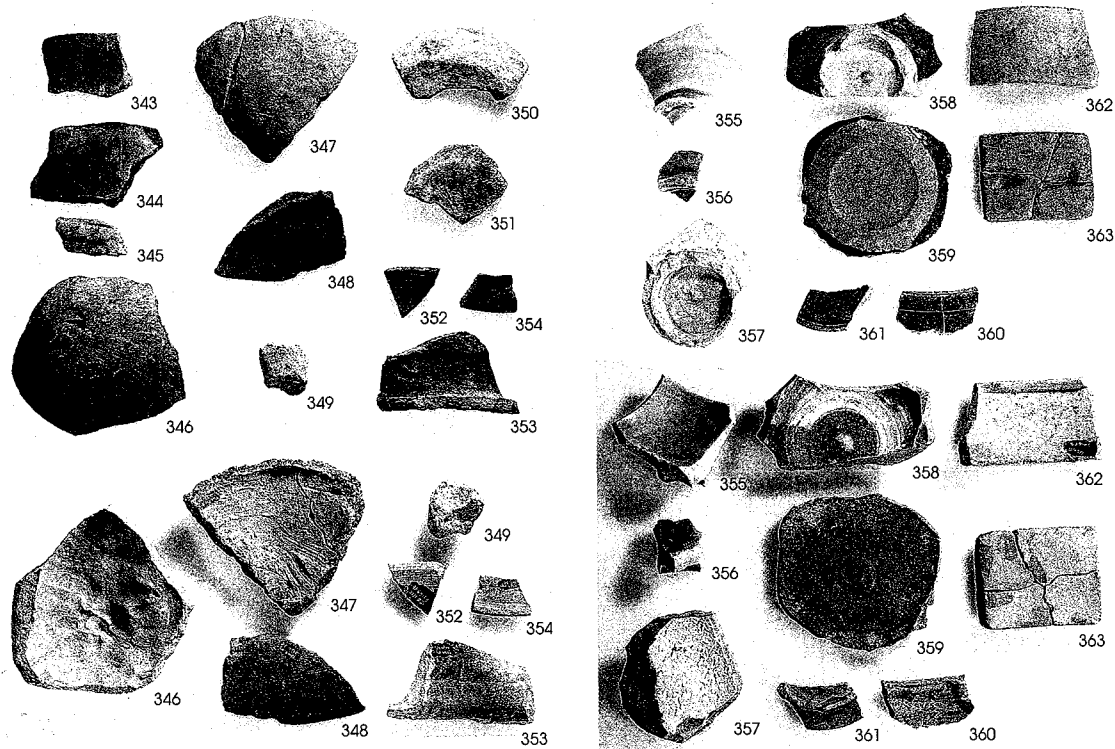


Fig. 66 22 トレンチ出土遺物 S=1/3



PL. 94 22 トレンチ出土遺物

Tab.83 22 トレンチ出土遺物観察表

No	層・遺構	種類	器種	部位	色調	調整	胎土						備考		
							R	W	B	Q	H	S			
343	5	古墳・土器	甕	口縁部	外面：にぶい橙色5YR6/3.5。内面：上部淡橙色5YR8/3，下部にぶい橙～橙色5YR6/4～6/6。	内外面：ヨコナデ。	3	3	3	3	3	3	3	3	少し湾曲して開く口縁部である。外面にススが少し付着している。
344	2	古墳・土器	甕	口縁部	外面：にぶい橙色7.5YR7/4。内面：浅黄橙～にぶい黄橙色10YR8/3～7/3。器肉：黒色N2/0。	内外面：ヨコナデ。	3	3	3	3	3	3	3	3	丁寧になでている。端部は平坦に仕上げられ、少し厚い。傾きは不明。
345	6	古墳・土器	壺?	胴部(突帯)	外面：にぶい黄橙色10YR6/3。内面：にぶい橙色7.5YR7/4。	内外面：ナデ?		4	4	4	4	4	4	4	断面蒲鉾状の突帯に、ハケ工具によると考えられる刻みを施している。突帯の形から壺の胴部と推定したが、甕の可能性もある。摩滅している。
346	1	古墳・土器	壺	底部	外面：褐色7.5YR4/4。内面：明赤褐色2.5YR5/7。	外面：縦方向のハケ。内面：ユビオサエ。		3	3	3					底径：3.05cm。小さな平底だが、底面は少し丸みを帯びている。外面にはハケ調整が顕著で、ハケの幅が広い。内面はユビオサエ痕が顕著で、器面の凹凸が目立つ。黒斑有り。
347	5	古墳・土器	壺	底部	外面：橙色5YR7/6に類似。内面：橙色2.5～5YR6/8。器肉：黒色N2/0に類似。	外面：ユビオサエのちナデ。内面：繊維状の工具によるナデ。	3	3	3	3	3	3	3	3	小さな平底を呈すると考えられる。内面の調整が非常にあらく、工具痕の凹凸が顕著である。外面の器表もあれている。
348	6	古墳・土器	高杯?	脚部	内外面：灰褐色7.5YR5.5/2。端部近く：黒褐色10YR3/1。外面部分的(端部)：橙色7.5YR7/6。	内外面：ヨコナデ。	3	5	3	5	3	3	3	3	屈曲して開く脚部。傾きや予想される径の大きさから高杯としたが、鉢の口縁部である可能性もある。
349	6	古墳・土器	甕	底部	内外面：淡黄～浅黄褐色2.5Y～10YR8/3。	内外面：ユビオサエ。	4	4	4	5	5	4	4	4	ミニチュア品。粗雑な作りである。
350	1	土師器	杯	完形	外面：浅黄褐色7.5YR8/4。内面：橙色5YR7/7。	内外面：回転ナデ?底部：未切り。	3	3	3	3	3	3	3	3	約1/4残存，反転復元。口径(10.4)cm。底径(7.15)cm。器高：2.3cm。平底で、胴部へはゆるやかに立ち上がる。摩滅している。
351	6	土師器	杯?	底部	内外面：浅黄褐色10YR8/4に類似。	鉄分付着のため不明。	2	2	2						約1/4残存，反転復元。底径(5.2)cm。平底で、立ち上がり部が少し張り出す。摩滅している。
352	2	須恵器	壺	口縁部	内外面：灰色N4.5/0。	内外面：回転ナデ。	2	2	2						内側の稜線は非常にシャープである。
353	2	須恵器	壺	頸部	外面：灰色N6/0，部分的に自然釉黒褐色2.5Y3/1に類似。内面：上部黄灰色2.5Y4/1，下部灰色5Y6/1に類似。	肩部以下：タタキ。頸部：回転ナデ。	2	2	2						外面の頸部付近から下部へ自然釉が付着している。摩滅している。
354	5	須恵器	蓋	口縁部	内外面：灰色N6/0に類似。	内外面：回転ナデ。	5	2							端部はわずかに下方へ屈曲する。
355	2	青磁	碗	底部	施釉部：明緑灰色10GY7/1に類似。器肉：灰白色N8/0。	高台皿付け部のみ無釉。	1								高台内面に砂など軸着。
356	2	青磁	碗	底部	器肉：灰白色N8/0に類似。高台見込み無釉部分：暗赤褐色2.5YR3/3に類似。	高台見込み部分はふき取り無釉。	1								釉が厚い。貫入有り。
357	2	陶器	碗?	底部	施釉部：灰白色5Y8/1に類似。無釉部：にぶい橙色5YR6/4に類似。	高台皿付け半分～高台内無釉。内面鮫肌?	2		2						底径4.25cm。釉が厚い。
358	2	陶器	碗?	底部	外面施釉部：暗褐色10YR3/4に類似。外面無釉部分：橙～明赤褐色5YR6/8～5/8。内面：オリーブ色5Y6/8に類似。部分的に暗褐色10YR3/4に類似。	内面：蛇の目状に釉が薄い。外面高台付け根～高台内無釉。回転ナデ。	2								約2/3残存。底径5.25cm。
359	表	陶器		底部	外面施釉部：黒色5YR1.7/1に類似。外面無釉部：にぶい赤褐色5YR4.5/4。内面：暗赤褐色2.5YR3/2.5。	外底面から外面下部無釉。	3	3	3						底径4.85cm。
360	3	陶器	甕	口縁部	施釉部分：暗オリーブ褐色2.5Y3/3に類似。無釉部分：褐色7.5YR4/3に類似。	内外面：回転ナデ。口縁上面のみ無釉。	2	2	2	2	2	2	2	2	
361	3	陶器	茶家	蓋	上面施釉部分：黒褐色2.5Y3/2に類似。外面：にぶい赤褐色5YR4/3。内面：にぶい赤褐色5YR5/4。	内外面：回転ナデ。上面のみ施釉。	5	2							
362	2	素焼き	器台	完形	外面～内面上部：にぶい橙色7.5YR7/3。内面：褐灰色7.5YR6/1に類似。	内外面：回転ナデ。	2	2	2						約1/6残存，反転復元。口径(12.6)cm。底径(12.15)cm。器高：4.25cm。
363	2	素焼き	七厘?	完形	内外面：にぶい橙～橙色5YR6/4～6/6。	型作りか?									上面に2箇所くぼみ有り。摩滅している。側面には1周する沈線が認められる。

5 まとめ

5.1 層位

調査が広範囲にわたったため、層位は各トレンチごとに層名を設定したが、層位A～層位Dまでの4つのグループに分類することができた。

層位A: 表土の下に、灰色を基調とする水田層と、その下に黒褐色基調とする層が砂層の直上に堆積し、黒褐色層の検出レベルが標高6m前後であ

る。トレンチ1, 7, 8, 15, 16, 17。黒褐色が古代から弥生時代終末期の遺物包含層となっている。

層位B: 層位Aに似るが、黒褐色層の検出レベルがAより低く、標高5.5m以下である。トレンチ11, 12, 13, 19, 20, 21。

層位C: 河川跡の堆積物であると考えられる砂層または氾濫時の堆積物が見られる。トレンチ6, 9,

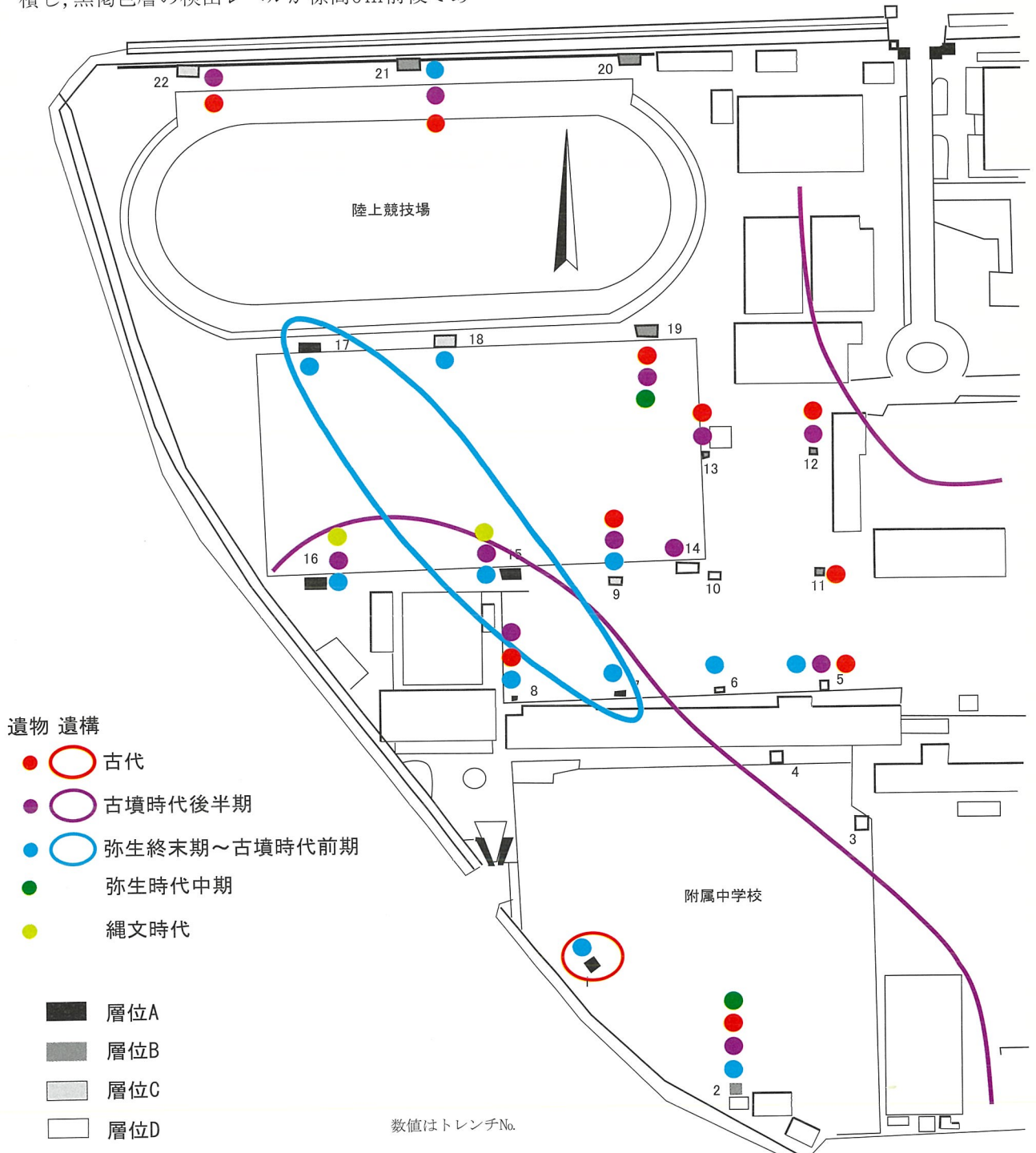


Fig. 67 層位と弥生時代終末期～古代の遺構・遺物分布

18, 22。

層位D:現代の遺構によって地山直上まで掘削されている。トレンチ3, 4, 5, 10, 14。

層位のグループと古墳時代前後の遺構との関係を見てみると (Fig. 67), 層位Aの場所に遺構が存在し, 調査区の北東方向から南西方向に斜めに配置されていることがわかる。層位Aはその時期の包含層が標高6mほどで検出し, 地山である砂層の検出レベルも高い部分である。縄文時代に形成された砂洲地形の高い部分に住居など構えていたと考えられる。また15・16トレンチでは, 曾畑式土器が出土した。住居張り床や埋土中出土であったが, これは縄文時代前期の遺物包含層を古墳時代の住居建設時に掘り返した結果混在したものと考えられ, 砂洲の形成と人間活動の開始時期を示唆していると考ええる。

層位Cのうち, 確実に河川跡の堆積物であると考えられるのは22トレンチのみであった。あとは, 氾濫や湿地の堆積物であると考えられる。層位Cは, 層位Aの位置に沿うように分布している。地山の砂層レベルも低い。その東側に, 層位Bが分布しており, 砂層レベルが層位Cよりは高くなっている。過去の調査成果をみると, さらに東側には, 弥生時代から古墳時代の遺構が確認されており, 層位Aと類似した層位が広がっている。

北西方向から南東方向に走る砂洲の起伏が, 東西方向に繰り返されていると推定でき, 先史時代の遺構の配置も, 旧地形によって規定されているものと思われる。

5.2 遺構

遺構が検出されたのは, 1トレンチ, 2トレンチ, 7トレンチ, 8トレンチ, 15トレンチ, 16トレンチ, 17トレンチで, 調査範囲の南西部にあたる。遺構の時期は, 大きく3つに分類することができる。弥生時代終末期～古墳時代前期:7, 15, 17トレンチ

古墳時代後半期:2, 8, 15, 16トレンチ

古代:1トレンチ

弥生時代終末期～古墳時代前期

遺構の種類は, ピット群と住居跡である。ピット群は7トレンチと17トレンチで確認されたが, いずれも, 配列は確認できなかった。不定形の土壙状のものも含まれることから, 住居跡の一部であ

る可能性も高い。7トレンチの土器はいずれも中津野式で, 弥生時代終末期であると考えられる。17トレンチからは, 少量の遺物しか出土していないが, 先史時代の遺物が, 弥生時代終末期から古墳時代前期の特徴を備えているため, 遺構もその範疇で捉えておきたい。

15トレンチからは, SK13・14がこの時期のものと考えられる。SK14床面には東壁際に炉があり, SK13とも住居跡であると考えられる。SK14は東原式の甕が出土していることから, 古墳時代前期である。いずれも住居跡の全形を知りうることはできないが, 平面形が方形を基調とし, 軸が北西-南東方向を向いている。SK14には南側に間仕切りのような段が認められる。両者とも, 張り床を持つ。**古墳時代後半期**

遺構の種類は, 住居跡とピットである。住居跡が確認できたのは8トレンチと16トレンチである。いずれも, 北西-南東方向を軸とする。SK16以外は, 平面は方形を基調とし, 張り床をもつ。SK16は壁の一部が突出する柄鏡形を呈する。これも, 張り床をもつ。15トレンチと同様, 住居跡が幾重にもきり合うが, このトレンチの住居跡はすべて笹貫式の時期である。住居跡出土遺物群のうち, 年代が推定できるものは須恵器を伴っているSK6のみである。これには, 笹貫式の土器群と, 須恵器の杯蓋, 短頸壺と考えられる肩部が出土しているが, 須恵器の杯蓋がTK10に比定できることから, SK6は6世紀中ごろの住居であると考えられる。他の住居跡に関しても, 出土遺物が笹貫式土器で, それらに特に時期差を認められないことから, 6世紀代を考えたい。

なお, SK16のような平面形が柄鏡形の住居跡は, 本遺跡においては, 中央図書館における発掘調査で検出され, 2例目である。この住居跡も, 笹貫式の時期で, 張り床を有していた。

古代

1トレンチでのみ遺構が検出された。平面形が円形や楕円形の土壙状遺構である。大きさは, 直径約50cmから140cmほどで多少ばらつきがある。最も大きいSK4の埋土中には, 多量の炭化物が混在していた。しかし, 土師器片のほか, 特徴的な遺物は出土しなかった。土師器から, 9世紀後半以降と考えられる。

5.3 遺物

本調査で出土した遺物の時期は現代から縄文時代にまで及んでいる。先史時代の遺物についてみると、縄文土器、弥生中期土器、弥生時代終末期～古墳時代の遺物、古代のものがある。中でも、遺構が存在する弥生時代終末期～古代の遺物が多い。

縄文時代

縄文時代前期の曾畑式土器が出土している。15点出土したが、15トレンチから出土したものがほとんどで、16トレンチから1点だけ出土している。いずれも共通した特徴がある。緩やかに屈曲する器形で、口縁部外面には棒状の施文具で施された横位の数条の沈線文や短沈線文を、さらに下には縦位または鋸歯文の沈線文が施されている。内面には、口縁部に横方向の短沈線文や沈線文を、口唇部上面には刺突文を施している。これらの特徴から、すべて曾畑2式であると考えられる⁴⁾。

弥生時代土器

弥生時代後期までの遺物は、全部で5点出土している。前期後半の甕(173)と、入来I式の甕(316)、入来II式の甕(26)、中期の甕(27)、後期の壺と考えられる口縁部(144)である⁵⁾。全体の遺物数に比べるとこの時期のものは非常に少なく、破片も小さい。周辺からの流れ込みであると考えられる。

弥生時代終末期～古墳時代前期の遺物

中津野式・東原式と呼称する土器が主体である(Fig. 68)⁶⁾。甕(149・174・96・220・221・256・56・226)は、くの字状に緩やかに屈曲する形態を呈し、突帯を持つものと持たないものがある。突帯には刻み目を施すものがあり、布目圧痕が認められるものもある。脚台は、体部との接合部が細く、脚台が三角形を呈する。脚端部は丸く仕上げることが多い。また、脚台内面天井部は、ドーム状に丸い。壺は少ないが、一条の刻み目突帯を胴部に有し、底部は、小さい平底である。少し太めのハケを施す。高杯は、外反しながら大きく外に開く口縁部と屈曲部が伸びてかろうじて弱い稜線のみを残す109がある。脚部は、中程で屈曲し、下半部は大きく広がる形態を呈する。屈曲部付近に穿孔を有するものもある。鉢は、小さな平底を有し、内湾気味の口縁部をもつもの(59)がある。口唇部をヨコナデによって細くシャープに尖らせている。外面下半部は、繊維状の工具によって磨

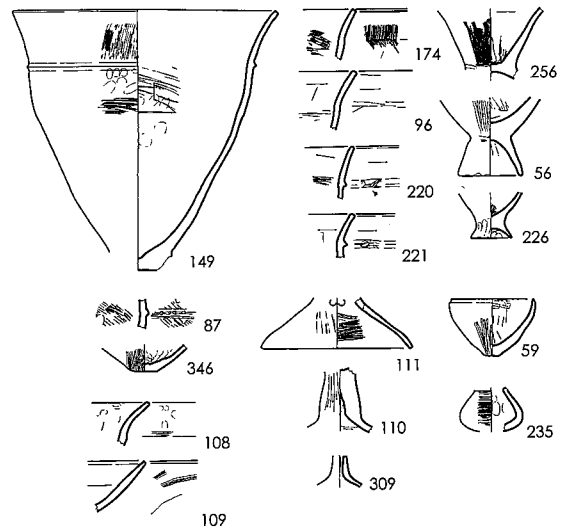


Fig. 68 弥生時代終末期～古墳時代前期土器 S=1/10

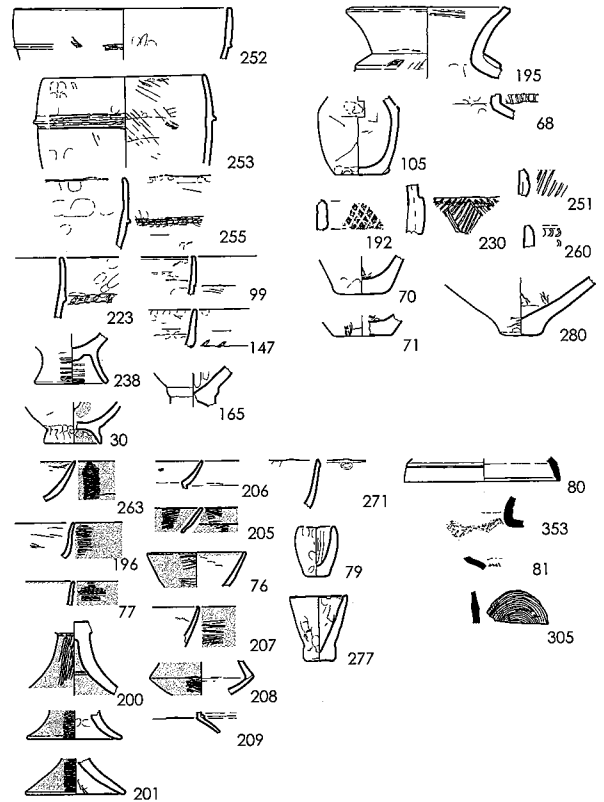


Fig. 69 古墳時代後半期の土器・須恵器 S=1/10

いている。小形丸底壺は、下膨らみの胴部を持つ235がある。底部は欠損しているが、丸底になると考えられる。

中津野式は、256・226・87・346・108・59、東原式は149・174・96・220・221・109・235で、残りはどちらの時期のものか判別できない。

7トレンチから、石戈ではないかと考えられる石

器が出土している(55)。このトレンチは、土壌状遺構とピット群が検出され、55はSK26から出土した。他のピット群や包含層の遺物から、中津野式に伴うものと考えられ、弥生時代終末期以前と捉えたい。現在のところ、石戈であると推定しているが、そうであれば、日本南端の出土品である。鏑がなく、厚みも薄いことから、下條信行による分類のC型式⁷⁾にあたと推定される。

古墳時代後半期の土器

古墳時代後半期の土器は、Fig. 69に示した。辻堂原式・笹貫式と呼称されるもの⁸⁾だが、両者の区別を甕以外でつけることが難しいため、一括した。ちなみに、甕だけで見ると、東原式と笹貫式の間形態である、辻堂原式は無い。甕の形態は、ゆるやかにくの字状に屈曲するものから、バケツ状に直立または内湾する口縁部にすぐに変化するものかもしれない。

甕には、絡縄突帯を1条有するものと、本来突帯が添付されている位置以上を肥厚させ、段の部分に刻み目を施すもの(147)とがある。突帯の中には、一巡させずに、端部をわざとずらしているもの(252)がある。脚台は、根元が太く、がっしりしている。脚台内面天井部は、体部の器形にあわせて飛び出している(238)。また、低脚で粗雑な作りのものがみられる(30)。165は、脚台と体部の接合部に突帯を一条付けるものである。笹貫式の甕にまれに見られるものである。

壺は、大型の壺(195・280・230)と中型(70・71)、小型のもの(105)がある。また、胴部や頸部に施す幅の広い突帯に、斜格子文、鋸歯文、斜線文、半裁竹管文を施している。底部は、分厚く、非常に重い。底面は緩やかに凹面をなす。

高杯は、赤色顔料を添付しているものがほとんどである。細かく磨いており、杯部は横方向、脚部の上部は縦方向、脚部下下部は横方向に磨くものが多い。杯部の形態は、椀状のものだが、わずかに口唇部を外反させるもの(196)や口縁部直下に細く細かい刻み目突帯を施すもの(77)がまれにみられる。脚部は、太く重い。柑は、内椀気味の口縁部に、算盤珠状に屈曲する胴部を持つ(208)。柑も赤色顔料が施されていることがほとんどだが、まれに着色されていないもの(206)もある。やはり、磨きを施すが、全面横方向の磨きが多い。

高杯や柑に施される赤色顔料は、内面全面に施

されることはあまり無く、内面口縁部付近で、着色されている部分とされていない部分の境がよく観察できる。この中には、顔料が飛び散ったようにについているものや、明らかに筆状の工具で液体状の顔料を添付したと判断できるものがある。

その他の器種で、鉢に含めたが、広口のもの(271)と、コップ状の小型品が見られる(79・277)。小型品は、いずれも粗雑な作りである。

古墳時代後半期の遺物として、須恵器も少量出土している。杯蓋、大甕、短頸壺(?), 横瓶の破片であるが、このうち、時期が判断できるのは、80の杯蓋のみであった。TK210⁹⁾と考えられる。

古墳時代の石器

古墳時代の住居跡から、石器が出土している(Fig. 70)。

161のくぼみ石は、SK14から出土しており、東原式に伴うものと考えたい。

他の石器は笹貫式の住居跡から供伴したものである。石包丁、紡錘車、叩き石、台石、軽石製品がある。これらは、いずれも住居埋土中から出土したものであるが、この時期に使用されていたと考えられるものである。特に、軽石製品の出土数が

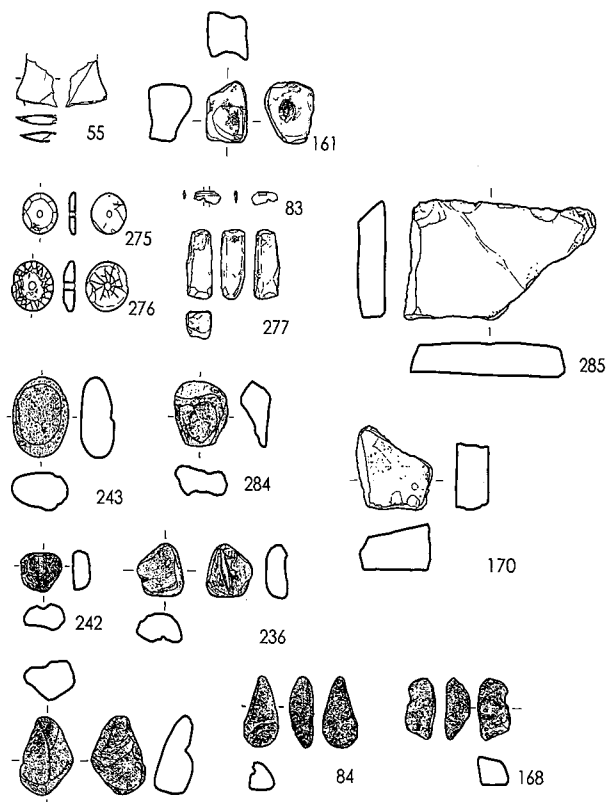


Fig. 70 弥生時代終末期～古墳時代の石器 S=1/10

多く、いくつかの種類化できる。A類：円形に整形しているもの (243), B類：くぼみもしくは太い刻みが施されているもの (284・242・236), C類：不規則な複数の面を持つもの (278・84・168・244・169) である。C類は、面が切りあっているように見え、角度を変えながら、表面を何かにこすりつけた結果残ったものであるように観察できる。

古代の遺物

古代の土師器が、1トレンチを中心に出土した。甕、杯、椀、杯蓋が出土している。甕は、口縁部のみ出土しているが、器形にばらつきがある。杯は完形品は無いが、底部からの立ち上がり直線的な平底 (18・6) と少し丸みを帯びる平底 (19) に分けられる。中村和美による分類のAa0にあたりと考えられる¹⁰⁾。椀は、充実した高台状の底部 (318), 高台 (319・21) がある。杯蓋は、須恵器模倣品である。杯や椀から、9世紀後半から10世紀前半のものと考えられる。

古代の須恵器も少量出土している。杯の口縁部 (36・37) と杯蓋 (214) である。小片で時期を確定するのは難しいが、蓋のかえりなどから、9世紀以降に位置付けられるだろう。

註

- 1) 河口貞則 (1987). 付編 I 教育学部附属中学校敷地内遺跡. 鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報Ⅱ. 鹿児島大学埋蔵文化財調査室.
- 2) 松永幸男・砂田光紀 (1989). 第4章 鹿児島大学

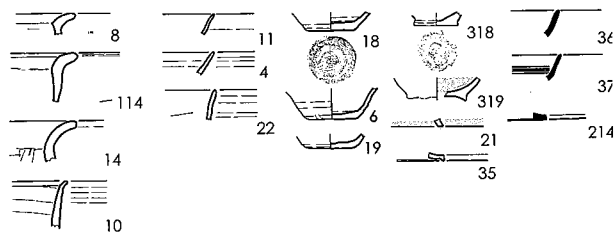


Fig.71 古代の遺物 S=1/10

郡元団地Q-9・10区における (附属中学校プール上屋取説に伴う) 発掘調査報告. 鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報Ⅴ. 鹿児島大学埋蔵文化財調査室.

- 3) 中村直子 (1991). 付編 I 鹿児島大学郡元団地S・T-6・7区 (教育学部附属小学校プール上屋建設地) における発掘調査報告. 鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報Ⅶ. 鹿児島大学埋蔵文化財調査室.
- 4) 中村愿 (1982). 曾畑式土器. 縄文文化の研究, 3. 雄山閣.
- 5) 中園聡 (1997). 九州南部地域弥生土器編年. 人類史研究, 9.
- 6) 中村直子 (1986). 成川式土器再考. 鹿大考古, 6.
- 7) 下條信行 (1976). 石戈論. 史淵, 113.
- 8) 6)に同じ.
- 9) 田辺昭三 (1981). 須恵器大成. 角川書店.
- 10) 中村和美 (1997). 鹿児島県における古代の在地土器. 鹿児島考古, 31.

SUMMARY

This is the report of the rescue excavations and surveys of the sites in the campuses of Kagoshima University in the 1999 fiscal year.

This report also includes the results of the excavations carried in 1944 in an appendix. Appendix reports the excavations of Area M~T-7~12 in Korimoto campus.

LOCATION AND HISTORICAL BACKGROUND

Kagoshima University is located in the center of Kagoshima city, south Kyushu Island. The western part of the city is highland and the eastern part is lowland. Active volcano Mt. Sakurajima is in the center of Kagoshima Bay.

This report includes the results of excavations and field surveys at Korimoto campus, Handicapped children's school attached to Faculty of Education. Korimoto campus and Handicapped children's school are located in the lowland.

The sites at Korimoto campus are registered to be those of late Kofun period at 500 to 700 AD., and near Handicapped children's school, the sites in the Yayoi and Kofun period are found.

OUTLINE OF EXCAVATIONS IN THE 1999 FISCAL YEAR

The center carried one excavation, one test excavation and six surveys. They were all rescue archaeological surveys. At the Code99-1 excavation, there are the troughs of a field of medieval period and a mound made of Kofun potteries. A lot of potteries of Kofun period were found. Excavation will be continued also to next year. We presume that the many pit houses in Kofun period exist.

APPENDIX : Area M~T-7~12 in Korimoto Campus

Archaeological Research Center made a rescue excavation from January 10 to April 19, 1994, before the construction of the lighting institution of the ground at Faculty of Education. We excavated twenty-two trial trenches and we found the layers contained remains of prehistoric age. At 8th, 15th and 16th trench, we found the pit houses of Kofun period. At First trench, the pits of ancient time were found. The diameter of the pits is 140cm from 50cm, and the depth is about 80cm from 50cm. But it is unknown for what these pits were used.

報告書抄録

ふりがな	かごしまだいがくまいぞうぶんかざいちょうさしつねんぼうじゅうご							
書名	鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報 15							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	中村直子・新里貴之							
編集機関	鹿児島大学埋蔵文化財調査室							
所在地	〒 890-8580 鹿児島県鹿児島市郡元一丁目 21 番 24 号 TEL 099-285-7270							
発行年月日	西暦 2001 年 3 月							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面 積 (m ²)	調査起因
		市町村	遺跡番号					
かごしまだいがくこうないせき 鹿児島大学構内遺跡 こおりもとだんち 郡元団地 J-10 区	かごしましこおりもと 鹿児島市郡元 いっちようめ 一丁目 21 番 35 号	4620		31 34 11	130 32 48	20000322 ~ 20000329	4	
かごしまだいがくこうないせき 鹿児島大学構内遺跡 こおりもとだんち 郡元団地 M~T-7~ 10 区	かごしましこおりもと 鹿児島市郡元 いっちようめ 一丁目 20 番 6 号	4620		31 34 11	130 32 48	19940110 ~ 19940419	10	照明灯 取設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
鹿児島大学構内遺跡 郡元団地 J-10 区		古墳		古墳時代の土器				
鹿児島大学構内遺跡 郡元団地 M~T-7~ 10 区		縄文 弥生 古墳 古代	住居跡 土壇状遺構	縄文土器 弥生土器, 石庖丁, 石戈? 土師器 軽石製品 石製紡錘車 砥石 須恵器, 青銅製品				

鹿兒島大学埋蔵文化財調査室年報 15

2001年3月発行

編集・発行 鹿兒島大学埋蔵文化財調査室

鹿兒島市郡元一丁目21番24号

TEL 099-285-7270

印刷 斯文堂株式会社

鹿兒島市新屋敷町14番16号

TEL 099-226-3747

Kagoshima University Research Center for Archaeology Report Vol.15

CONTENTS

Chapter

- | | | |
|---|---|---|
| 1 | Report of archaeological research In the fiscal year 1999 | 1 |
| 2 | The test excavation at Area J-10 in Korimoto Campus | 5 |
| 3 | Reports of rescue surveys | 8 |

Appendix

- | | | |
|--|--|----|
| | Report of excavation at Area M~T-7~10 in Korimoto Campus | 19 |
|--|--|----|

Published by
Kagoshima University Research Center for Archaeology
2001